

	俳句	年代	季	分類	季語	漢字表記
1	隅田の秋都へはこぶおきな哉	21	秋	時候	秋	
2	骸骨を見つけたくれや秋のたひ	23	秋	時候	秋	
3	兀然と秋に立つたり山の寺	23	秋	時候	秋	
4	風たけを秋と思へはましらかな	24	秋	時候	秋	
5	これ見たか秋に追はるゝうしろ影	24	秋	時候	秋	
6	瀧湧くや秋のはらわたちきれけん	24	秋	時候	秋	
7	ふつくりと七面鳥のたつや秋	24	秋	時候	秋	
8	松山や秋より高き天主閣	24	秋	時候	秋	
9	山こえていさ見にゆかんあきの秋	24	秋	時候	秋	
10	われきくに秋をつき出すたきの音	24	秋	時候	秋	
11	秋しらぬ旅や同行五十人	25	秋	時候	秋	
12	秋にさく心強さよ鬼あざみ	25	秋	時候	秋	
13	遊女一人ふえぬ日はなし京の秋	25	秋	時候	秋	
14	面白や秋のにしきをほとゝぎす	25	秋	時候	秋	
15	親にあふて一日秋を忘れけり	25	秋	時候	秋	
16	傘持は秋ともしらす揚屋入	25	秋	時候	秋	
17	酒のんで一日秋をわすれけり	25	秋	時候	秋	
18	七年の秋を達磨に尋ねはや	25	秋	時候	秋	
19	順禮に追ひこされけり秋の旅	25	秋	時候	秋	
20	半分は夜に入る秋の旅路哉	25	秋	時候	秋	
21	人の目の秋にうつるや嵐山	25	秋	時候	秋	
22	秋に痩せて恨みの筆のあと細し	26	秋	時候	秋	
23	江戸の秋に四國の夏の届きけり	26	秋	時候	秋	
24	象潟や秋はるはると帆掛船	26	秋	時候	秋	
25	しひられて餅くらひけりけふの秋	26	秋	時候	秋	
26	花一つなき野に鳴る秋深し	26	秋	時候	秋	
27	姫小松これにも秋を見せにけり	26	秋	時候	秋	
28	みちのくの秋ふりすてゝ歸り行	26	秋	時候	秋	
29	みちのくの秋ふりすてゝ歸り候	26	秋	時候	秋	
30	みちのくを出てにぎはしや江戸の秋	26	秋	時候	秋	
31	秋荒れて血の波さわぐ巖かな	27	秋	時候	秋	
32	秋凄し大きな星の空に飛ぶ	27	秋	時候	秋	
33	此秋に堪へでや人の身まかりぬ	27	秋	時候	秋	
34	何時くと秋の畠を一人打つ	27	秋	時候	秋	
35	人の秋こそ堪へられぬ鈴が森	27	秋	時候	秋	
36	人の秋こそ堪へられぬ鈴か森	27	秋	時候	秋	
37	晝顔や秋をものうき花の形	27	秋	時候	秋	
38	貧村の秋の山吹花咲きぬ	27	秋	時候	秋	
39	松杉や妙法の山に秋もなし	27	秋	時候	秋	
40	武藏野をいくつに分けて床の秋	27	秋	時候	秋	
41	秋三月馬鹿を盡して別れけり	28	秋	時候	秋	
42	うつくしき菓子贈られし須磨の秋	28	秋	時候	秋	
43	うつくしき菓子おくれぬすまの秋	28	秋	時候	秋	
44	汽船過ぎて波よる秋の小島かな	28	秋	時候	秋	
45	来て見れば風が吹くなり須磨の秋	28	秋	時候	秋	
46	雲やどる秋の山寺灯ともれり	28	秋	時候	秋	
47	くわらくわらと何に火を焚く秋の村	28	秋	時候	秋	
48	さては秋名所の風を引いたげな	28	秋	時候	秋	
49	三條小橋柳秋なり人稀なり	28	秋	時候	秋	
50	七月十三日てんかと書きし人も秋	28	秋	時候	秋	
51	禪寺やさぼてん青き庭の秋	28	秋	時候	秋	
52	旅人の盗人に逢ひぬ須磨の秋	28	秋	時候	秋	
53	旅人や寒がりに来る奈良の秋	28	秋	時候	秋	

54	奈良淋し萬葉の秋を見付けたり	28	秋	時候	秋	
55	奈良の秋の唐招提寺西大寺	28	秋	時候	秋	
56	西東山にかたよる奈良の秋	28	秋	時候	秋	
57	鈍くなりて猶憎き秋の毛蟲哉	28	秋	時候	秋	
58	花細し秋にわづらふ野撫子	28	秋	時候	秋	
59	花瘦せぬ秋にわづらふ野撫子	28	秋	時候	秋	
60	人去つてすがすがしきよ須磨の秋	28	秋	時候	秋	
61	人もなし杉谷町の藪の秋	28	秋	時候	秋	
62	故郷の淋しき秋を忘るゝな	28	秋	時候	秋	
63	古里や秋に瘦せたる小傾城	28	秋	時候	秋	
64	湖の細り細りて瀬田の秋	28	秋	時候	秋	
65	めづらしや僧來て秋の運坐哉	28	秋	時候	秋	
66	山遠く湖はるかなり三井の秋	28	秋	時候	秋	
67	病起杖に倚れば千山萬嶽の秋	28	秋	時候	秋	
68	山本や寺は黄蘗杉は秋	28	秋	時候	秋	
69	槍持やひとりおくれて橋の杖	28	秋	時候	秋	
70	行く我にとゞまる汝に秋二つ	28	秋	時候	秋	
71	夕榮や漁村の秋の静かなり	28	秋	時候	秋	
72	碌堂といひける秋の男かな	28	秋	時候	秋	
73	画をかきし僧今あらず寺の秋	28	秋	時候	秋	
74	秋吹くや鬚と拂子と天蓋と	29	秋	時候	秋	
75	いのちありて今年の秋も涙かな	29	秋	時候	秋	
76	詩人会す上野の秋の三宜亭	29	秋	時候	秋	
77	白き馬にめしたるとのご見えず秋	29	秋	時候	秋	
78	すがすがとして唯一の宮の秋	29	秋	時候	秋	
79	はらはらと動くや秋の根笹原	29	秋	時候	秋	
80	一里の秋の静かにして灯少し	29	秋	時候	秋	
81	ひとへ物松島の秋に驚くな	29	秋	時候	秋	
82	古郷の秋の白魚御覽ぜよ	29	秋	時候	秋	
83	枕にす俳句分類の秋の集	29	秋	時候	秋	
84	都かな悲しき秋を大水見	29	秋	時候	秋	
85	物もなしわれに秋さへなかりけり	29	秋	時候	秋	
86	われ宗祇に似たらん秋の旅寐哉	29	秋	時候	秋	
87	瘧落ちてひとり拂子に對す秋	30	秋	時候	秋	
88	芝の秋の鐘か聞えて淋しかる	30	秋	時候	秋	
89	須磨の秋金持らしき家見ゆる	30	秋	時候	秋	
90	蛸干して鳥追ふ蟹や須磨の秋	30	秋	時候	秋	
91	秋昔三十年の團子店	31	秋	時候	秋	
92	家主が植ゑてくれたる松の秋	31	秋	時候	秋	
93	鶯ペンさすインキの壺や秋の薔薇	31	秋	時候	秋	
94	鶯ペン立てしインキの壺や秋の薔薇	31	秋	時候	秋	
95	汽車の窓に首出す人や瀬田の秋	31	秋	時候	秋	
96	僧の書あり瓶に活けたる秋の花	31	秋	時候	秋	
97	門閉ちて人起きて居る夜半の秋	31	秋	時候	秋	
98	病癒えて雲見る秋の端居哉	31	秋	時候	秋	
99	夜道して瘧ふるひ返す旅の秋	31	秋	時候	秋	
100	家主の植てくれたる松の秋	32	秋	時候	秋	
101	蛸干して鳥追蟹や須磨の秋	32	秋	時候	秋	
102	水海の秋の小魚を奉る	32	秋	時候	秋	
103	幾久しき秋の契りや堅魚節	33	秋	時候	秋	
104	家五百秋の芝居の太鼓鳴る	33	秋	時候	秋	
105	誰が家の戸叩く音ぞ夜半の秋	33	秋	時候	秋	
106	秋一室拂子ノ髻ノ動キケリ	34	秋	時候	秋	
107	秋モハヤ塩煎餅ニ澁茶哉	34	秋	時候	秋	

108	ウスモノ、秋二勝へザル姿カナ	34	秋	時候	秋	
109	氷嚙ンデ毛穴ニ秋ヲ覺エケリ	34	秋	時候	秋	
110	奈良漬ノ秋ヲ忘レヌ誠カナ	34	秋	時候	秋	
111	病間アリ秋ノ小庭ノ記ヲ作ル	34	秋	時候	秋	
112	此袖や秋を定めて一千年	35	秋	時候	秋	
113	けさりと体のしまりや秋の立つ	20	秋	時候	立秋	
114	秋たつや雨晴れて出る月の冴	21	秋	時候	立秋	
115	秋たつや雨晴れに出る月の冴	21	秋	時候	立秋	
116	秋立つや納涼月見と化る舟	21	秋	時候	立秋	
117	秋立つや納涼の舟も月見ふね	21	秋	時候	立秋	
118	ひゝやりとすきまの風や秋のたつ	21	秋	時候	立秋	
119	秋たつや風のなき日を海の音	24	秋	時候	立秋	
120	鶴一つ立つたる秋の姿哉	24	秋	時候	立秋	
121	秋たつや鶉の聲の一ニ寸	25	秋	時候	立秋	
122	秋たつやけふより不二は庵の物	25	秋	時候	立秋	
123	秋立つや芒穂に出る蛇たまり	25	秋	時候	立秋	
124	あら駒の足落ちついて秋の立つ	25	秋	時候	立秋	
125	秋立つと知らずや人の水鏡	26	秋	時候	立秋	
126	秋立つや出羽商人のもやひ船	26	秋	時候	立秋	
127	衣釵に袖腕に秋の立ちにけり	26	秋	時候	立秋	
128	禪寺に秋立つ壁の破れ哉	26	秋	時候	立秋	
129	旅の秋立つや最上の船の中	26	秋	時候	立秋	
130	旅人や秋立つ船の最上川	26	秋	時候	立秋	
131	風鈴のちろちろと秋の立にけり	26	秋	時候	立秋	
132	見て居れば見えて秋来る二本杉	26	秋	時候	立秋	
133	むく起や身ふるひ一つ今朝の秋	26	秋	時候	立秋	
134	秋立つや達磨の尻のくさりより	27	秋	時候	立秋	
135	秋來ぬと柱の拂子動きけり	28	秋	時候	立秋	
136	秋立つとさやかに人の目ざめけり	28	秋	時候	立秋	
137	秋立つと何を雀の早合點	28	秋	時候	立秋	
138	秋立つやどちらを見ても人の國	28	秋	時候	立秋	
139	秋立つやほろりと落ちし蟬の殻	28	秋	時候	立秋	
140	秋立つや昔に近き須磨の浦	28	秋	時候	立秋	
141	秋立てば淋し立ねばあつくるし	28	秋	時候	立秋	
142	秋立てば淋したゝねはあつくるし	28	秋	時候	立秋	
143	來る秋や昔に近き須磨の浦	28	秋	時候	立秋	
144	白雲に秋立つてまだ地は暑し	28	秋	時候	立秋	
145	秋立つかやゝ撫子のしどろなる	29	秋	時候	立秋	
146	秋立つとそよや嵐が吹いて來る	29	秋	時候	立秋	
147	秋立つと夏ぎらひの人申しけり	29	秋	時候	立秋	
148	秋立つと人の申しぬ笹の音	29	秋	時候	立秋	
149	秋立つとひとり上野の森に對す	29	秋	時候	立秋	
150	秋立つ日烏に魚を取られけり	29	秋	時候	立秋	
151	秋立つや隣にはまだ赤き花	29	秋	時候	立秋	
152	秋立つや隣にはまだ赤い花	29	秋	時候	立秋	
153	秋立つや隣の絲瓜庵の萩	29	秋	時候	立秋	
154	秋なんど立たずもがもな草の庵	29	秋	時候	立秋	
155	秋の立つ朝や種竹を庵の客	29	秋	時候	立秋	
156	今日の秋をあら何ともなの蟬の鳴きやうや	29	秋	時候	立秋	
157	砂濱や波さらさらと秋立ちぬ	29	秋	時候	立秋	
158	見てあれど何から秋が立つぞとも	29	秋	時候	立秋	
159	見てあれど何から秋のたつぞとも	29	秋	時候	立秋	
160	夜明から秋立つことかそのことか	29	秋	時候	立秋	
161	秋立つや瓜も茄子も老の數	30	秋	時候	立秋	

162	あて人の留守に秋来る都かな	32	秋	時候	立秋	
163	白き花赤き花秋立にけり	33	秋	時候	立秋	
164	草花を畫く日課や秋に入る	35	秋	時候	立秋	
165	初秋の月ほのかなり清見潟	25	秋	時候	初秋	
166	初秋を京にて見たり三日の月	25	秋	時候	初秋	
167	初秋に大事がらるゝ宿り哉	26	秋	時候	初秋	
168	初秋の馬洗ひけり最上河	26	秋	時候	初秋	
169	初秋の空から出たり帆掛船	26	秋	時候	初秋	
170	初秋の空より出たり帆掛船	26	秋	時候	初秋	
171	初秋の膝叩きたる嘶かな	26	秋	時候	初秋	
172	初秋の一日さひしき暑さ哉	26	秋	時候	初秋	
173	初秋や梢に語る松づくり	26	秋	時候	初秋	
174	初秋や背戸を流るゝ最上河	26	秋	時候	初秋	
175	初秋や出羽商人の最合船	26	秋	時候	初秋	
176	初秋の石壇高し杉木立	27	秋	時候	初秋	
177	初秋の房州の雑魚くふて來よ	27	秋	時候	初秋	
178	初秋の柳が末の湯島かな	27	秋	時候	初秋	
179	初秋や三人つれだちてそこらあたり	27	秋	時候	初秋	
180	初秋の枕小き旅寝かな	28	秋	時候	初秋	
181	初秋の枕小さき旅籠かな	28	秋	時候	初秋	
182	初秋の簾に動く日あし哉	28	秋	時候	初秋	
183	初秋の日脚はひこむ朝寐かな	28	秋	時候	初秋	
184	初秋の枕小さき宿屋かな	28	秋	時候	初秋	
185	きのふけふはや初秋となりにけり	29	秋	時候	初秋	
186	初秋の蛸あはれなり須磨の浦	29	秋	時候	初秋	
187	初秋の筑波は隠すものもなし	29	秋	時候	初秋	
188	初秋の富士に雪なし和歌の嘘	29	秋	時候	初秋	
189	初秋や合歡の葉ごしの流れ星	29	秋	時候	初秋	
190	文月や神祇釋教戀無常	25	秋	時候	文月	
191	文月のものよ五色の絲素麵	26	秋	時候	文月	
192	文月や硯にうつす星の影	26	秋	時候	文月	
193	八月の筍あさる垣根かな	27	秋	時候	八月	
194	八月の蝶飛ぶ木曾の木立哉	27	秋	時候	八月	
195	八月や人無き茶屋の青楓	27	秋	時候	八月	
196	八月や晝だけ晴れて晝の月	27	秋	時候	八月	
197	八月や松嶋へ行く人問はん	27	秋	時候	八月	
198	八月や樓下に満つる汐の音	28	秋	時候	八月	
199	八月を風に淡路の船がゝり	28	秋	時候	八月	
200	八月の太白低し海の上	29	秋	時候	八月	
201	うつくしき旭哉八月十五日	30	秋	時候	八月	
202	七夕に團扇をかさん残暑哉	22	秋	時候	残暑	
203	相撲取に風のとゝかぬ残暑哉	25	秋	時候	残暑	
204	乗合の馬車酒くさき残暑かな	25	秋	時候	残暑	
205	家の向き西日に残る暑さかな	26	秋	時候	残暑	
206	學校の此頃やすむ残暑哉	26	秋	時候	残暑	
207	蚊の勢を又立て直す残暑哉	26	秋	時候	残暑	
208	松風の價をねぎる残暑哉	26	秋	時候	残暑	
209	蕙帆の風に暑さの残りけり	26	秋	時候	残暑	
210	晝過の町や残暑の肴賣	27	秋	時候	残暑	
211	裏窓に夕日さしこむ残暑哉	28	秋	時候	残暑	
212	草山に残る暑さやまだらはげ	28	秋	時候	残暑	
213	砂濱や残る暑さをほのめかす	28	秋	時候	残暑	
214	餞別に汗衫をもらふ残暑哉	28	秋	時候	残暑	
215	岩寒し残暑の空へ五十丈	29	秋	時候	残暑	

216	居風呂に残暑の垢のたまりけり	29	秋	時候	残暑	
217	日の神の御病氣とやらこの残暑	29	秋	時候	残暑	
218	日の神も御病氣とやら此残暑	29	秋	時候	残暑	
219	残暑の龜夜寒の鮭と相知らず	30	秋	時候	残暑	
220	蝉鳴て残暑の頭裂くる思ひ	30	秋	時候	残暑	
221	晝門を鎖す残暑の裸かな	30	秋	時候	残暑	
222	紅さした鯛に蠅飛ぶ残暑哉	30	秋	時候	残暑	
223	瀧の音残る暑さもなかりけり	31	秋	時候	残暑	
224	温泉に三度残る暑さも晝の内	31	秋	時候	残暑	
225	残暑燉如紫陽花の花腐りけり	33	秋	時候	残暑	
226	紫茉莉の花に残暑の日影かな	34	秋	時候	残暑	
227	神鳴ノ鳴レトモ秋ノ暑サカナ	34	秋	時候	残暑	
228	病人二八十五度ノ残暑カナ	34	秋	時候	残暑	
229	腹中にのこる暑さや二萬巻	35	秋	時候	残暑	
230	八朔や朝日静かに稻の波	26	秋	時候	八朔	
231	八朔やあしのは軽し古鎧	26	秋	時候	八朔	
232	八朔や義理に顔出す梅の花	26	秋	時候	八朔	
233	浪人の尺八淋し田面の日	26	秋	時候	八朔	
234	草も木も竹も動くやけさの秋	24	秋	時候	今朝の秋	
235	傘持のひんと立たりけさの秋	25	秋	時候	今朝の秋	
236	けさの秋硯に筆のすべり哉	25	秋	時候	今朝の秋	
237	棕櫚の葉の手をひろけたりけさの秋	25	秋	時候	今朝の秋	
238	ふみつけた蟹の死骸やけさの秋	25	秋	時候	今朝の秋	
239	八重葎そよぐと見しやけさの秋	25	秋	時候	今朝の秋	
240	秋やけさ身ふるひしたるむら雀	26	秋	時候	今朝の秋	
241	骸骨に何やらひゞく今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
242	桐の葉を叩き落さん今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
243	今朝の秋扇のかなめ外れたり	26	秋	時候	今朝の秋	
244	劍賣て牛買ふ人や今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
245	どこやらに星の笑ひや今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
246	西吹くと水土のいふ也けさの秋	26	秋	時候	今朝の秋	
247	湖のひつそりとして今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
248	餅船のうしろ淋しやけさの秋	26	秋	時候	今朝の秋	
249	老僧が拂子動かず今朝の秋	26	秋	時候	今朝の秋	
250	今朝の秋腫物はものゝこそはゆき	27	秋	時候	今朝の秋	
251	酢をつくる僧はなひるよけさの秋	27	秋	時候	今朝の秋	
252	けさの秋きのふの物を取られけり	28	秋	時候	今朝の秋	
253	のゝしりし人静まりてけさの秋	28	秋	時候	今朝の秋	
254	箱庭の橋落ちこみぬけさの秋	28	秋	時候	今朝の秋	
255	刻みあげし佛に對す今朝の秋	29	秋	時候	今朝の秋	
256	塀ごしに腕出す松や朝の秋	26	秋	時候	朝の秋	
257	大砲の山行く秋の朝日かな	27	秋	時候	朝の秋	
258	砂の如き雲流れ行く朝の秋	29	秋	時候	朝の秋	
259	甲板に水流す秋の朝日哉	30	秋	時候	朝の秋	
260	裸体画ノ鏡ニ映ル朝ノ秋	34	秋	時候	朝の秋	
261	きさ瀉の姿を見れば秋なりける	26	秋	時候	秋の姿	
262	八郎の姿を見れば秋なりける	26	秋	時候	秋の姿	
263	松一木根岸の秋の姿かな	27	秋	時候	秋の姿	
264	観念の耳の底なり秋の聲	24	秋	時候	秋の声	
265	破れ鐘や敲けども秋の聲ならず	28	秋	時候	秋の声	
266	われ鐘や敲けども秋の聲ならず	28	秋	時候	秋の声	
267	虚子に俗なし隣の三味に秋の聲	30	秋	時候	秋の声	
268	叩く時は叩かぬ時は秋の聲	30	秋	時候	秋の声	
269	初夜すぎし根岸の町や秋の聲	31	秋	時候	秋の声	

270	初夜過る根岸の町や秋の聲	31	秋	時候	秋の聲	
271	撥音や上野をめぐる秋の聲	31	秋	時候	秋の聲	
272	秋澄みたり魚中に浮て底の影	28	秋	時候	秋澄む	
273	秋澄むや貝鐘響く峰の雲	29	秋	時候	秋澄む	
274	秋高う入海晴れて鶴一羽	26	秋	時候	秋高し	
275	秋高う象かた晴れて鶴一羽	26	秋	時候	秋高し	
276	秋高し雲より上を鳥かける	26	秋	時候	秋高し	
277	秋高し鳶飛んで天に到るべう	26	秋	時候	秋高し	
278	秋高く魯西亞の馬の寒げなり	27	秋	時候	秋高し	
279	凱歌一曲馬嘶いて秋高し	27	秋	時候	秋高し	
280	帆柱や秋高く日の旗翻る	27	秋	時候	秋高し	
281	秋高し鳶舞ひ沈む城の上	28	秋	時候	秋高し	
282	秋高き椎の梢に日蝕せり	29	秋	時候	秋高し	
283	秋高き椎の木末に日蝕す	29	秋	時候	秋高し	
284	秋高き天文臺のともしかな	29	秋	時候	秋高し	
285	秋高く馬肥えにけり佐野の里	29	秋	時候	秋高し	
286	秋高く花車空に竝ぶ城の北	30	秋	時候	秋高し	
287	水仙の生えそるふたる九月哉	27	秋	時候	九月	
288	花もなし實もなし枇杷の九月哉	27	秋	時候	九月	
289	乗懸に九月盡きたり宇都の山	27	秋	時候	九月尽	
290	晝中や石に蟲鳴く九月盡	27	秋	時候	九月尽	
291	易を點し兌の卦に到り九月盡	28	秋	時候	九月尽	
292	易を點して兌の卦に到り九月盡	28	秋	時候	九月尽	
293	長月は十六夜といはで哀れなり	25	秋	時候	長月	
294	十月の櫻咲くなり幼稚園	27	秋	時候	十月	
295	十月の鶴見つけたり田子の浦	27	秋	時候	十月	
296	十月の畠に赤し蕎麥の莖	27	秋	時候	十月	
297	十月のやもめになりし蠶かな	27	秋	時候	十月	
298	十月や鳶舞ひかゝる晝の月	27	秋	時候	十月	
299	十月の海は凧いだり蜜柑船	28	秋	時候	十月	
300	十月の海は帆勝に舟勝に	28	秋	時候	十月	
301	十月の雀飛びこむほこら哉	28	秋	時候	十月	
302	十月の鳶も鳥も出でにけり	28	秋	時候	十月	
303	十月の日和に掛けし晩稻哉	28	秋	時候	十月	
304	十月や鳩米ひろふ藏の前	28	秋	時候	十月	
305	十月や畑は梨の返り花	28	秋	時候	十月	
306	雀ともばけぬ御代なり大蛤	25	秋	時候	雀蛤となる	
307	蛤になるか雀の聲かなし	26	秋	時候	雀蛤となる	
308	舌切られて雀蛤とならん思ひ	30	秋	時候	雀蛤となる	
309	成佛の蛤となる雀かな	30	秋	時候	雀蛤となる	
310	雀海に入り藤太龍宮より歸る	30	秋	時候	雀蛤となる	
311	雀蛤となりぬ此夕屋氣樓	30	秋	時候	雀蛤となる	
312	鳥さしの蛤賣に問ひけらく	30	秋	時候	雀蛤となる	
313	鳥さしの蛤賣になりもせで	30	秋	時候	雀蛤となる	
314	糊なめて蛤になる雀哉	30	秋	時候	雀蛤となる	
315	蛤殻に前の世を鳴く友雀	30	秋	時候	雀蛤となる	
316	蛤になりすまして居る雀哉	30	秋	時候	雀蛤となる	
317	蛤になりそこねてや稻雀	30	秋	時候	雀蛤となる	
318	君が代も二百十日は荒れにけり	25	秋	時候	二百十日	
319	我背戸に二百十日の茄子哉	26	秋	時候	二百十日	
320	内海や二百十日の釣小舟	28	秋	時候	二百十日	
321	大佛に二百十日もなかりけり	28	秋	時候	二百十日	
322	足柄や二百十日の雲歸る	29	秋	時候	二百十日	
323	有明や二百十日の二十日月	29	秋	時候	二百十日	

324	籠の虫二百十日も知らずして	29	秋	時候	二百十日	
325	雲走り雲追ひ二百十日哉	29	秋	時候	二百十日	
326	こけもせで二百十日の鶏頭哉	29	秋	時候	二百十日	
327	薄の穂二百十日も過ぎにけり	29	秋	時候	二百十日	
328	地震さへまじりて二百十日哉	29	秋	時候	二百十日	
329	とにかくに残暑も二百十日哉	29	秋	時候	二百十日	
330	二百十日異國の船のはいりけり	29	秋	時候	二百十日	
331	端居して二百十日のながめかな	29	秋	時候	二百十日	
332	日の照りて風吹く二百十日哉	29	秋	時候	二百十日	
333	前あれのつづきに二百十日哉	29	秋	時候	二百十日	
334	休暇盡きて二百十日の船出かな	32	秋	時候	二百十日	
335	朝寒き背中吹かるゝ野風哉	23	秋	時候	朝寒	
336	朝寒の背中吹かるゝ野風哉	23	秋	時候	朝寒	
337	朝寒やちゝみあがりし衣の皺	25	秋	時候	朝寒	
338	朝寒や青菜ちらばる市の跡	26	秋	時候	朝寒	
339	朝寒や看板残る氷店	26	秋	時候	朝寒	
340	朝寒し汁粉くふべき人の顔	27	秋	時候	朝寒	
341	朝寒や嵐に向ふこそ走り	27	秋	時候	朝寒	
342	朝寒や警報かけし村役場	27	秋	時候	朝寒	
343	朝寒や筑波を見んと立ち出る	27	秋	時候	朝寒	
344	朝寒や苫舟何を焚く煙	27	秋	時候	朝寒	
345	朝寒や走りぬけたる寺の庭	27	秋	時候	朝寒	
346	獸の鼾聞ゆる朝寒ミ	27	秋	時候	朝寒	
347	朝寒の風が吹くなり雪の不二	28	秋	時候	朝寒	
348	朝寒の雀啼くなり忍竹	28	秋	時候	朝寒	
349	朝寒のはらりはらりと根笹かな	28	秋	時候	朝寒	
350	朝寒の旭を待つ人や舟のへり	28	秋	時候	朝寒	
351	朝寒や起て廊下を徘徊す	28	秋	時候	朝寒	
352	朝寒や今日の天気を啼く雀	28	秋	時候	朝寒	
353	朝寒や蘇鐵見に行く妙國寺	28	秋	時候	朝寒	
354	朝寒や起つて廊下を徘徊す	28	秋	時候	朝寒	
355	朝寒やたのもとひゞく内玄關	28	秋	時候	朝寒	
356	朝寒やひとり墓前にうづくまる	28	秋	時候	朝寒	
357	朝寒を日に照らさるゝ首途哉	28	秋	時候	朝寒	
358	昇る日や朝寒の松に雀鳴く	28	秋	時候	朝寒	
359	藪陰に石切る音の朝寒し	28	秋	時候	朝寒	
360	朝寒の笹原走る兔かな	29	秋	時候	朝寒	
361	朝寒の空青々とうつりけり	29	秋	時候	朝寒	
362	朝寒の竹と芭蕉と蘇鐵哉	29	秋	時候	朝寒	
363	朝寒の日に光りたる小松哉	29	秋	時候	朝寒	
364	朝寒のわれさきがけしあら湯哉	29	秋	時候	朝寒	
365	朝寒み抜刃にさはる塵もなし	29	秋	時候	朝寒	
366	朝寒や雨戸あくれば日の光	29	秋	時候	朝寒	
367	朝寒や上野の森に旭のあたる	29	秋	時候	朝寒	
368	朝寒や虚空に楔打つ響	29	秋	時候	朝寒	
369	朝寒や小僧ほがらかに經を讀む	29	秋	時候	朝寒	
370	朝寒や地を離れたる駒の足	29	秋	時候	朝寒	
371	朝寒や禰宜のさゝぐる白和幣	29	秋	時候	朝寒	
372	朝寒や箒取りたる心もち	29	秋	時候	朝寒	
373	朝寒や紫の雲消えて行く	29	秋	時候	朝寒	
374	朝寒の撃劍はやる城下哉	30	秋	時候	朝寒	
375	朝寒や木曾に脚絆の旅心	30	秋	時候	朝寒	
376	朝寒や脚絆に木曾の旅心	30	秋	時候	朝寒	
377	朝寒や大魚動かず淵の底	30	秋	時候	朝寒	

378	朝寒や緑透いて見ゆ障子窓	30	秋	時候	朝寒	
379	朝寒や木魚打ちやんで履の音	30	秋	時候	朝寒	
380	水瓶に茶碗落すや朝寒み	32	秋	時候	朝寒	
381	朝寒や鼻血オサヘシ旅ノ人	34	秋	時候	朝寒	
382	干瓢ノ肌ヘウツクシ朝寒ミ	34	秋	時候	朝寒	
383	瘦骨ヲサスル朝寒夜寒カナ	34	秋	時候	朝寒	
384	秋寒し蝙蝠傘は杖につく	25	秋	時候	秋寒	
385	秋寒し眼の光る鬼女の面	26	秋	時候	秋寒	
386	雨晴れてうれしき秋の寒さ哉	26	秋	時候	秋寒	
387	澁柿は澁にとられて秋寒し	27	秋	時候	秋寒	
388	澁柿や澁に取られて秋寒し	27	秋	時候	秋寒	
389	じゞんこのあたりに秋の寒さかな	29	秋	時候	秋寒	
390	秋寒し佛にそゞげ般若湯	31	秋	時候	秋寒	
391	肌寒や馬のいなゞく屋根の上	25	秋	時候	肌寒	
392	肌寒やふじをまきこむ波の音	25	秋	時候	肌寒	
393	お守りの辨天賣て肌寒し	26	秋	時候	肌寒	
394	肌寒み寐ぬよすがらや温泉の匂ひ	26	秋	時候	肌寒	
395	肌寒や抱籠はなすきのふけふ	26	秋	時候	肌寒	
396	牙は折れ毛は兀げて象の肌寒し	27	秋	時候	肌寒	
397	肌寒み紅さむる襦袢哉	27	秋	時候	肌寒	
398	肌寒み三十棒をくらひけり	27	秋	時候	肌寒	
399	肌寒や子の可愛さを抱きしめる	27	秋	時候	肌寒	
400	風引くな肌寒頃の臍の穴	28	秋	時候	肌寒	
401	砂川や淺瀬に魚の肌寒し	28	秋	時候	肌寒	
402	肌寒や弓引き習ふ小殿原	28	秋	時候	肌寒	
403	おぼこ氣の肌寒やともいひがてに	29	秋	時候	肌寒	
404	經を講ず肌寒きこと五十年	29	秋	時候	肌寒	
405	肌寒や人劍を抜いて吾に逼る	29	秋	時候	肌寒	
406	肌寒や湯ぬるうして人こぞる	29	秋	時候	肌寒	
407	肌寒み白根見に出る町はづれ	30	秋	時候	肌寒	
408	肌寒や白根見に出る町はづれ	30	秋	時候	肌寒	
409	色はげし土人形の肌寒し	33	秋	時候	肌寒	
410	胡粉兀し人形や土の肌寒み	25	秋	時候	肌寒	
411	肌寒や石屋の門の石佛	25	秋	時候	肌寒	
412	蚤蟲へつて浪人のうそ寒し	25	秋	時候	うそ寒	
413	ひらりしやらり一ツ葉ゆれてうそ寒し	25	秋	時候	うそ寒	
414	きぬきぬや柳の風のうそ寒し	26	秋	時候	うそ寒	
415	うそ寒の誠を泣くや小傾城	27	秋	時候	うそ寒	
416	うそ寒や樵夫下り來る手向山	28	秋	時候	うそ寒	
417	うそ寒や綿入着たる小大名	28	秋	時候	うそ寒	
418	うそ寒き暗夜美人に逢着す	29	秋	時候	うそ寒	
419	うそ寒み顔知らぬ人と相對す	29	秋	時候	うそ寒	
420	やゞ寒み驚の身振ひ羽振ひ	27	秋	時候	漸寒	
421	やゞ寒み襟を正して坐りけり	28	秋	時候	漸寒	
422	やゞ寒み机に向ふ背くゞまり	28	秋	時候	漸寒	
423	やゞ寒や机に向ふ背のかゞみ	28	秋	時候	漸寒	
424	やゞ寒み朝顔の花小くなる	29	秋	時候	漸寒	
425	やゞ寒みちりけ打たする温泉哉	29	秋	時候	漸寒	
426	やゞ寒み灯による虫もなかりけり	29	秋	時候	漸寒	
427	調練の大鼓聞ゆる稍寒み	31	秋	時候	漸寒	
428	やゞ寒み文彦先生髯まだら	31	秋	時候	漸寒	
429	牛一つおくるゞ秋の夕哉	26	秋	時候	秋の夕	
430	號外を賣り行く秋の夕哉	27	秋	時候	秋の夕	
431	水流れ雲行く秋の夕かな	28	秋	時候	秋の夕	

432	野ざらしに鳥立つ秋の夕かな	29	秋	時候	秋の夕	
433	婆々が来て灯ともす秋の夕かな	29	秋	時候	秋の夕	
434	灯ともして秋の夕を淋しがる	29	秋	時候	秋の夕	
435	まゝ事の相手をしたり秋の夕	29	秋	時候	秋の夕	
436	道ばたの佛も秋の夕かな	29	秋	時候	秋の夕	
437	夕榮の中にきらきら秋の城	29	秋	時候	秋の夕	
438	夕飯の灯をともしけり寺の秋	29	秋	時候	秋の夕	
439	秋夕柱鳴る庵に事あらん	30	秋	時候	秋の夕	
440	羽織著る秋の夕のくさめ哉	31	秋	時候	秋の夕	
441	萩刈りて芒に秋の夕哉	31	秋	時候	秋の夕	
442	鶯も鴨の巢にすむ秋の暮	22	秋	時候	秋の暮	
443	鳴たちて澤に人なし秋のくれ	22	秋	時候	秋の暮	
444	遊ぶ子のひとり歸るや秋のくれ	23	秋	時候	秋の暮	
445	僧一人薄の中や秋のくれ	23	秋	時候	秋の暮	
446	その鐘をわれに撞かせよ秋の暮	23	秋	時候	秋の暮	
447	たち魚ややゝさびまさる秋の暮	23	秋	時候	秋の暮	
448	秋のくれ壁見るのでもなかりけり	24	秋	時候	秋の暮	
449	秋のくれ鱸を釣れば面白し	24	秋	時候	秋の暮	
450	稻妻のかほをはしるや秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
451	思ひきつて見れば見るほと秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
452	案山子ものいはゞ猶さびしいそ秋の暮	24	秋	時候	秋の暮	
453	案山子物言て猶淋しぞ秋の暮	24	秋	時候	秋の暮	
454	傾城にまことありけり秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
455	さびしさや一人にあまる秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
456	さびしさを鳴子にひくや秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
457	さびしさを林にひくや秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
458	猿曳は妻も子もなし秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
459	猿ひきを猿のなぶるや秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
460	順禮の御詠歌たうと秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
461	順禮八花の臺と歌ひけり秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
462	床の間の達磨にらむや秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
463	何とせん我のみならねはあきのくれ	24	秋	時候	秋の暮	
464	何と見たぬしの心ぞあきのくれ	24	秋	時候	秋の暮	
465	鶏のゆかへ上りぬ秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
466	福祿の頭さひしやあきのくれ	24	秋	時候	秋の暮	
467	古里や都見てきて秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
468	山里やみやこ見て来て秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
469	よそながら浮世もしらず秋のくれ	24	秋	時候	秋の暮	
470	秋のくれかゞしにかゝる鳴子繩	25	秋	時候	秋の暮	
471	秋のくれ見ゆる迄見るふしの山	25	秋	時候	秋の暮	
472	秋のくれ畫にかいてさへ人もなし	25	秋	時候	秋の暮	
473	一日は何をしたやら秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
474	押しかけて餘所でめしくふ秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
475	鳥来て鳥居つゝくや秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
476	桑の葉は蟲もくはずに秋くれぬ	25	秋	時候	秋の暮	
477	傾城に電話をかけん秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
478	此頃はどうかやら悲し秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
479	金堂の鐘のうなりや秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
480	西行のふじにもいふ秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
481	酒なしに肉くふ人や秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
482	猿一ツ笠きて行くや秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
483	三人が笑ふて秋のくれにけり	25	秋	時候	秋の暮	
484	杉の木のによつきと高し秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
485	鱒置いたやうな山あり秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	

486	達磨殿踊り出したたり秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
487	東京に人のへったり秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
488	泥棒の達磨に似たり秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
489	何としたわれの命ぞ秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
490	鶏の埒にすくむや秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
491	鶏の埒に小さし秋のくれ	25	秋	時候	秋の暮	
492	灯ともせば灯に力なし秋の暮	25	秋	時候	秋の暮	
493	秋のくれ哀れはとかく金にあり	26	秋	時候	秋の暮	
494	秋のくれまぎらかさんと出て歩行	26	秋	時候	秋の暮	
495	秋のくれ屋根に烏の評議哉	26	秋	時候	秋の暮	
496	秋のくれ我身の上に風ぞ吹く	26	秋	時候	秋の暮	
497	秋のくれ女を見れば猶淋し	26	秋	時候	秋の暮	
498	あどけなく笑ふ顔さへ秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
499	いたづらな子は寐入り秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
500	絲引て人躍らすや秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
501	命には何事もなし秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
502	牛引て歸る女や秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
503	うつくしう淋しき虹や秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
504	海ひたす入日淋しや秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
505	かゝりうどの飯時寒し秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
506	顔瘦せて脈のかすかに秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
507	顔瘦せて脈もかすかに秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
508	金屏風傾城こもる秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
509	栗飯の月見は淋し秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
510	聲高き人まじりけり秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
511	澁柿の澁まだぬけず秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
512	狸ぬれて葎に歸る秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
513	亡き兄のまぼろし悲し秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
514	なき人のあらば尋ねん秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
515	髭のびて剃刀さびぬ秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
516	ひとり行く宮本無三四秋の暮	26	秋	時候	秋の暮	
517	無住寺の門叩きけり秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
518	宿とつて見れば淋しや秋のくれ	26	秋	時候	秋の暮	
519	馬も居らず駕にもあはず秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
520	大寺や談義も過ぎて秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
521	大村や祭は過ぎて秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
522	影法師のそれよりはかな秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
523	鐘も撞かず大鼓も鳴らず秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
524	蛙蛙何をつぶやく秋の暮	27	秋	時候	秋の暮	
525	山茶花の一輪咲て秋暮れぬ	27	秋	時候	秋の暮	
526	炮烙の大豆にも逢はず秋暮れぬ	27	秋	時候	秋の暮	
527	秋の暮大船はかりかゝりけり	28	秋	時候	秋の暮	
528	秋の暮れ狸をつれて歸りけり	28	秋	時候	秋の暮	
529	秋の暮われよと許り鐘を撞く	28	秋	時候	秋の暮	
530	いさましく別れてのちの秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
531	牛行くや毘沙門阪の秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
532	馬鳴いて秋の日暮るゝ別れ哉	28	秋	時候	秋の暮	
533	海晴れて小富士に秋の日くれたり	28	秋	時候	秋の暮	
534	蜘蛛の巣の獲物も無しに秋暮るゝ	28	秋	時候	秋の暮	
535	棺通る四條の橋や秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
536	此頃は辻君見えず秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
537	酒あり飯あり十有一人秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
538	淋しさや氣車猶急ぐ秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
539	淋しさやどの顔見ても秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	

540	十一人一人になりて秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
541	大佛をまはれば淋し秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
542	大佛に戸帳垂れたり秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
543	誰人ぞ睨んで通る秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
544	ちかづきの仲居も居らず秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
545	罪もなき配所に秋の暮かゝり	28	秋	時候	秋の暮	
546	日蓮の死んだ山あり秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
547	琵琶やめて何が聞こゆる秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
548	琵琶やめて何聞くふりぞ秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
549	本陣や下手な掛畫も秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
550	めづらしや海に帆の無い秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
551	藪寺に磬打つ音や秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
552	山本の一むら杉や秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
553	老僧に棒加へけり秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
554	驢に騎りて山陰いそぐ秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
555	驢に乗りて山陰急ぐ秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
556	尾の道の便船もなし秋の暮	28	秋	時候	秋の暮	
557	秋の暮餘りに近く鐘が鳴る	29	秋	時候	秋の暮	
558	秋の暮東照宮に鳴く鴉	29	秋	時候	秋の暮	
559	秋の暮尾上の上を鴉鳴く	29	秋	時候	秋の暮	
560	鬼事やはては泣き出す秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
561	看經や鉦はやめたる秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
562	さまざまに烟分れて秋のくれ	29	秋	時候	秋の暮	
563	山門をぎいと鎖すや秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
564	捨馬に鴉鳴くなり秋のくれ	29	秋	時候	秋の暮	
565	大佛を見て鹿を見て秋暮るゝ	29	秋	時候	秋の暮	
566	讀書聲絶えて何やら敲く秋のくれ	29	秋	時候	秋の暮	
567	鳥は皆西へ歸りぬ秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
568	猫飼うて猫を恐るゝ秋のくれ	29	秋	時候	秋の暮	
569	猫を飼ふて猫を恐るゝ秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
570	不器用な佛の顔も秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
571	朴の木に鴉鳴くなり秋の暮	29	秋	時候	秋の暮	
572	まゝ事の相手に秋の日暮れたり	29	秋	時候	秋の暮	
573	思ひよらず大砲ひゞく秋の暮	30	秋	時候	秋の暮	
574	遊び居る子呼び返す秋の暮	31	秋	時候	秋の暮	
575	流れよる舟に人なし秋のくれ	31	秋	時候	秋の暮	
576	旅籠屋にひとり酒のむ秋の暮	31	秋	時候	秋の暮	
577	灯をともす向ひの山や秋の暮	31	秋	時候	秋の暮	
578	向きあふて淋しき顔や秋の暮	31	秋	時候	秋の暮	
579	女郎買をやめて此頃秋の暮	33	秋	時候	秋の暮	
580	秋の夜や廝に籠る鼯あり	25	秋	時候	秋の夜	
581	風吹て簫聞く夜の秋遠し	26	秋	時候	秋の夜	
582	猿蓑の秋の季あけて讀む夜哉	28	秋	時候	秋の夜	
583	猿蓑の秋の部あけて讀む夜哉	28	秋	時候	秋の夜	
584	秋の夜の書齋を照すらんが哉	29	秋	時候	秋の夜	
585	静かさに曇りし秋の夜空哉	29	秋	時候	秋の夜	
586	秋の夜や枕刀に上る蜘蛛	30	秋	時候	秋の夜	
587	秋の夜を蜘蛛のはひよる刀哉	30	秋	時候	秋の夜	
588	秋の夜の夢に詩を得し寐覺哉	32	秋	時候	秋の夜	
589	はん鐘の音する夜の寒さかな	20	秋	時候	夜寒	
590	狼の聲も聞こゆる夜寒かな	21	秋	時候	夜寒	
591	破れ壁笠おしあてゝ夜寒哉	23	秋	時候	夜寒	
592	狼の人くひに出る夜寒哉	24	秋	時候	夜寒	
593	兄弟のざこね正しき夜寒哉	24	秋	時候	夜寒	

594	兒二人竝んで寐たる夜寒哉	24	秋	時候	夜寒	
595	山もとのともし火動く夜寒哉	24	秋	時候	夜寒	
596	扇見てふし思ひ出す夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
597	合宿の齒ぎしりひゞく夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
598	小火鉢の灰やはらげる夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
599	菅笠の紐引きしめる夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
600	だまされてわるい宿とる夜寒かな	25	秋	時候	夜寒	
601	箒星障子にひかる夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
602	鼻たれの兄とよばるゝ夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
603	一つづゝ波音ふくる夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
604	一人旅一人つくつく夜寒哉	25	秋	時候	夜寒	
605	壁一重牛の息聞く夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
606	壁やれてともし火もるゝ夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
607	竈の火くわらくわらもえる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
608	傾城の海を背にする夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
609	傾城のぬげがらに寐る夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
610	小比丘尼のほころびつゝる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
611	墨染に泪のあとの夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
612	銭湯に端唄のはやる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
613	僧一人竝が岡の夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
614	大海を前にひかへて夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
615	挑灯の厠へ通ふ夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
616	晝中の殘暑にかはる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
617	封切て灯をかきたてる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
618	文机にもたれ心の夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
619	平家聞く小姓の顔の夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
620	向ひ地のともし消え行く夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
621	檜の穂の番所に光る夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
622	夕月の落ちて灯を吹く夜寒かな	26	秋	時候	夜寒	
623	夜寒さに樽天王の勢哉	26	秋	時候	夜寒	
624	夜寒さの樽天王の勢ひ哉	26	秋	時候	夜寒	
625	夜寒さや身をちゞむれば眠く成	26	秋	時候	夜寒	
626	老僧の南朝かたる夜寒哉	26	秋	時候	夜寒	
627	大床に鼠のさわぐ夜寒哉	27	秋	時候	夜寒	
628	小坊主のひとり鐘撞く夜寒哉	27	秋	時候	夜寒	
629	待てば來ず雨の夜寒の薄蒲團	27	秋	時候	夜寒	
630	廊下から海ながめたる夜寒哉	27	秋	時候	夜寒	
631	いさり火を横にながめたる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
632	大家の静まりかへる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
633	大寺に一人宿借る夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
634	おもてから見ゆや夜寒の最合風呂	28	秋	時候	夜寒	
635	片里に盗人はやる夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
636	首途の用意して寐る夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
637	門附の下町通る夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
638	獺を狸のおくる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
639	木曾川に向くや夜寒の門構へ	28	秋	時候	夜寒	
640	蜘蛛殺すあとの淋しき夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
641	傾城に袖引かれたる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
642	さし向ふ夫婦の膳の夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
643	不忍の池をめぐりて夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
644	十八人女とりまく夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
645	白波のきはに火を焚く夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
646	白波のきはに火を焼く夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
647	知らぬ女と背中合せの夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	

648	須磨寺の門を過ぎ行く夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
649	蕎麥はあれど夜寒の饅頭きこしめせ	28	秋	時候	夜寒	
650	大佛の足もとに寝る夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
651	黙りけり夜寒の男五六人	28	秋	時候	夜寒	
652	丁々と暮を打つ家の夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
653	次の間の灯も消えて夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
654	辻駕籠に盗人載せる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
655	通夜堂にまだき夜寒を覚えける	28	秋	時候	夜寒	
656	釣橋に提灯わたる夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
657	出女の油をこぼす夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
658	灯ふけて書讀む窓の夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
659	鼠追へば三匹逃げる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
660	鼠追へば四五匹逃げる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
661	鼠狩れば鼠の笑ふ夜寒かな	28	秋	時候	夜寒	
662	旅籠屋の居風呂ぬるき夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
663	人住まぬ戸に灯のうつる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
664	灯ともさぬ村家つゞきの夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
665	灯をともす家奥深き夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
666	佛壇のともし火消ゆる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
667	船に寐て岡の灯のへる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
668	妙法の太鼓聞こゆる夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
669	藪村に旅籠屋もなき夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
670	夜寒さや家なき原に灯のともる	28	秋	時候	夜寒	
671	夜寒さや人静まりて海の音	28	秋	時候	夜寒	
672	男十八人女とりまく夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
673	男十八人女一人の夜寒哉	28	秋	時候	夜寒	
674	大寺のともし少き夜寒哉	29	秋	時候	夜寒	
675	勤行のすんで灯を消す夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
676	三厘の風呂で風邪引く夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
677	銭湯で下駄換へらるゝ夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
678	村會のともし火暗き夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
679	松明に落武者探す夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
680	出女が風邪引聲の夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
681	隣村の鍛冶の火見ゆる夜寒哉	29	秋	時候	夜寒	
682	盗人や夜寒の眼灯のうつる	29	秋	時候	夜寒	
683	刃物置いて盗人防ぐ夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
684	腹に響く夜寒の鐘や法隆寺	29	秋	時候	夜寒	
685	牧師一人信者四五人の夜寒かな	29	秋	時候	夜寒	
686	松杉や夜寒の空の星ばかり	29	秋	時候	夜寒	
687	夜を寒み脊骨のいたき机かな	29	秋	時候	夜寒	
688	夜を寒み俳書の山の中に坐す	29	秋	時候	夜寒	
689	油さしに禿時問ふ夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
690	犬が来て水のむ音の夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
691	蝦夷にある子に手紙書く夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
692	軍談に寝る人起す夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
693	新宅の柱巻きある夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
694	小便に行けば月出る夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
695	松明に人話し行く夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
696	地震して温泉涸れし町の夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
697	提灯の小道へ這入る夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
698	提灯の小路へ曲る夜寒かな	30	秋	時候	夜寒	
699	泣きながら子の寐入たる夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
700	盗人の足跡に燭す夜寒かな	30	秋	時候	夜寒	
701	旅籠屋の浄手場遠き夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	

702	廣き間にひとり書讀む夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
703	湯上りのうたゝ寐さめて夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
704	横町で巡查に出逢ふ夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
705	吉原の太鼓聞ゆる夜寒哉	30	秋	時候	夜寒	
706	夜を寒み猫呼びありく隣家の女	30	秋	時候	夜寒	
707	夜を寒み猫呼ひてあるく鄰家の女	30	秋	時候	夜寒	
708	わりなしや夜寒を眠る通夜の人	30	秋	時候	夜寒	
709	貴人をとめて飯焚く夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
710	犬を追ふ夜寒の門や按摩呼ぶ	31	秋	時候	夜寒	
711	汽車にねて須磨の風ひく夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
712	汽車の音の近く聞ゆる夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
713	狐鳴く聲と聞くからに夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
714	喧嘩せし子の寐入りたる夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
715	暮の音の林に響く夜寒かな	31	秋	時候	夜寒	
716	大名を藁屋にとめる夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
717	ともし火をあてに舟よぶ夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
718	庭の灯に人顔映る夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
719	化けさうな行燈に寺の夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
720	船に寐て行李を枕の夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
721	蓑笠をかけて夜寒の書齋かな	31	秋	時候	夜寒	
722	御佛と襖隔つる夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
723	吉原の踊過ぎたる夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
724	吉原のにわか過ぎたる夜寒かな	31	秋	時候	夜寒	
725	頼朝も那須の與一も夜寒哉	31	秋	時候	夜寒	
726	縁日の古著屋多き夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
727	交番の交代時の夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
728	柿店の前を過行く夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
729	檜の木の中に灯ともる夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
730	膺筆をかけて灯ともす夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
731	きんつはの行燈暗き夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
732	暗やみに我門敲く夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
733	車引のお歸りと呼ぶ夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
734	三階の灯を消しに行く夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
735	電気燈明るき山の夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
736	舟歌のやんで物いふ夜寒かな	32	秋	時候	夜寒	
737	星飛んで懐に入る夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
738	見下せば灯の無き町の夜寒哉	32	秋	時候	夜寒	
739	炭出しに行くや夜寒の燭を乗り	33	秋	時候	夜寒	
740	蚊帳ツラデ畫美人見ユル夜寒カナ	34	秋	時候	夜寒	
741	母ト二人イモウトヲ待ツ夜寒カナ	34	秋	時候	夜寒	
742	虫ノ音ノ少クナリシ夜寒カナ	34	秋	時候	夜寒	
743	破垣ニ灯見ユル家ノ夜寒カナ	34	秋	時候	夜寒	
744	二人ては咄のたらぬ夜長かな	22	秋	時候	夜長	
745	次の間に唄ひ女の泣く夜長哉	24	秋	時候	夜長	
746	明日の旅路見つゝ行く夜の長さ哉	25	秋	時候	夜長	
747	首途の支度にふかす夜長哉	25	秋	時候	夜長	
748	木枕に惟然泣く夜の長さ哉	25	秋	時候	夜長	
749	傾城の咄ときるゝ夜長かな	25	秋	時候	夜長	
750	一ツづゝ波音ふくる夜長哉	25	秋	時候	夜長	
751	辨慶の道具しらべる夜長哉	25	秋	時候	夜長	
752	妹に軍書讀まする夜長哉	26	秋	時候	夜長	
753	叡山へ提灯通ふ夜長哉	26	秋	時候	夜長	
754	瀬田こえて三井の鐘さく夜長哉	26	秋	時候	夜長	
755	大黒の夷をなぶる夜長哉	26	秋	時候	夜長	

756	瀧の音いろいろになる夜長哉	26	秋	時候	夜長	
757	長生を思へば遠き夜長哉	26	秋	時候	夜長	
758	長き夜の寐物語りや蝦夷千嶋	26	秋	時候	夜長	
759	長き夜や頻りにはぢく桶の箍	26	秋	時候	夜長	
760	長き夜や誰がうつり香の薄蒲団	26	秋	時候	夜長	
761	長き夜を誰がうつり香の薄蒲団	26	秋	時候	夜長	
762	長き夜や鼠のかざる古烏帽子	26	秋	時候	夜長	
763	長き夜や姫の御伽の繪巻物	26	秋	時候	夜長	
764	桃太郎の咄もたえて夜長哉	26	秋	時候	夜長	
765	驛古りて夜長の鶏のまばら也	27	秋	時候	夜長	
766	火事消えて人さどむ夜の長さ哉	27	秋	時候	夜長	
767	小坊主や何を夜長の物思ひ	27	秋	時候	夜長	
768	誰が謡ふ旅の夜長のつれつれに	27	秋	時候	夜長	
769	長き夜の山門へ通ふ鼠かな	27	秋	時候	夜長	
770	長き夜の大同江を涉りけり	27	秋	時候	夜長	
771	長き夜や誰がきぬきぬの鶏が鳴く	27	秋	時候	夜長	
772	長き夜をたるまず廓の大鼓哉	27	秋	時候	夜長	
773	何笑ふ聲そ夜長の臺所	27	秋	時候	夜長	
774	山里に月もなき夜の長さかな	27	秋	時候	夜長	
775	山里は月もなき夜の長さかな	27	秋	時候	夜長	
776	明けぐれに立ていそけば夜ぞ長き	28	秋	時候	夜長	
777	足音の隣へはいる夜長かな	28	秋	時候	夜長	
778	大家の静まりかへる夜長哉	28	秋	時候	夜長	
779	大村の静まり返る夜長かな	28	秋	時候	夜長	
780	神戸出て夜の長さよ紀州灘	28	秋	時候	夜長	
781	大鼓やみ鼓やみ三味の夜そ長き	28	秋	時候	夜長	
782	契りおかで待つや夜長の空たのため	28	秋	時候	夜長	
783	長き夜の面白きかな水滸傳	28	秋	時候	夜長	
784	長き夜の硯にうつるともし哉	28	秋	時候	夜長	
785	長き夜の月の雨のと更けて行く	28	秋	時候	夜長	
786	長き夜の鶏や太鼓や喇叭哉	28	秋	時候	夜長	
787	長き夜の物音きくや白拍子	28	秋	時候	夜長	
788	長き夜の夢の浮橋絶えてけり	28	秋	時候	夜長	
789	長き夜の連歌に更けて朝寐哉	28	秋	時候	夜長	
790	長き夜や木の間に細き常夜燈	28	秋	時候	夜長	
791	長き夜や初夜の鐘つく東大寺	28	秋	時候	夜長	
792	長き夜や提灯わたる大井河	28	秋	時候	夜長	
793	長き夜や人灯を取つて庭を行く	28	秋	時候	夜長	
794	長き夜や古傾城のささめ言	28	秋	時候	夜長	
795	長き夜や夢にひろひし二貫文	28	秋	時候	夜長	
796	長き夜や隣樓の三絃引きやみぬ	28	秋	時候	夜長	
797	長き夜を月取る猿の思案哉	28	秋	時候	夜長	
798	長き夜を何に更かずぞ岡の家	28	秋	時候	夜長	
799	長き夜を寐足らぬ人の尊さよ	28	秋	時候	夜長	
800	寐られぬよ長き夜頃の物の本	28	秋	時候	夜長	
801	夜の長さ船で測れば八十里	28	秋	時候	夜長	
802	蠟燭の燃えきれんとして夜ぞ長き	28	秋	時候	夜長	
803	歌よまぬ身は待ちかねし夜長哉	29	秋	時候	夜長	
804	汽車過ぐるあとを根岸の夜ぞ長き	29	秋	時候	夜長	
805	椎の樹に月傾きて夜ぞ長き	29	秋	時候	夜長	
806	長き夜の移り香とめて別れけり	29	秋	時候	夜長	
807	長き夜の白髪を生える思ひあり	29	秋	時候	夜長	
808	長き夜の灯なし早寐の家つゞき	29	秋	時候	夜長	
809	長き夜の水は流れてしまひけり	29	秋	時候	夜長	

810	長き夜や思ひ出す時風が吹く	29	秋	時候	夜長	
811	長き夜や孔明死する三國志	29	秋	時候	夜長	
812	長き夜や千年の後を考へる	29	秋	時候	夜長	
813	長き夜や念佛の聲豆の音	29	秋	時候	夜長	
814	長き夜や堀河落つる汐の音	29	秋	時候	夜長	
815	長き夜や闇に落ちかゝる瀧の音	29	秋	時候	夜長	
816	長き夜を白髪を生える思ひあり	29	秋	時候	夜長	
817	古妻や背中合せの夜は長き	29	秋	時候	夜長	
818	物に倦みて時計見る夜の長さ哉	29	秋	時候	夜長	
819	寄席はねて上野の鐘の夜長哉	29	秋	時候	夜長	
820	思ひ出せばゆふべの夜も長かりし	30	秋	時候	夜長	
821	角海老の時計數へる夜長哉	30	秋	時候	夜長	
822	咳にくるしむ夜長の灯豆の如し	30	秋	時候	夜長	
823	戸の音に物を疑ふ夜長哉	30	秋	時候	夜長	
824	長き夜の悪夢驚きて鼠落つ	30	秋	時候	夜長	
825	長き夜や隅の柱のわれる音	30	秋	時候	夜長	
826	長き夜や更けて柱のひゞく音	30	秋	時候	夜長	
827	長き夜を汝が吠ゆる聲も聞ざりき	30	秋	時候	夜長	
828	病人のうまいして居る夜長哉	30	秋	時候	夜長	
829	行燈の消えなんとする夜長哉	31	秋	時候	夜長	
830	いろいろの變化出て来る夜長哉	31	秋	時候	夜長	
831	劫に負けてせめあひになる夜長かな	31	秋	時候	夜長	
832	書讀まぬ男は寐たる夜長哉	31	秋	時候	夜長	
833	小絃はお鍋さゝやく夜長哉	31	秋	時候	夜長	
834	長き夜や障子の外をともし行く	31	秋	時候	夜長	
835	長き夜や枕刀を置き直す	31	秋	時候	夜長	
836	病人のうなされて居る夜長哉	31	秋	時候	夜長	
837	長き夜や夫は善く寐て子守唄	32	秋	時候	夜長	
838	犬の聲靴の音長き夜なりけり	33	秋	時候	夜長	
839	鐘の音の輪をなして来る夜長哉	33	秋	時候	夜長	
840	文を書く横顔見えて夜長哉	33	秋	時候	夜長	
841	秋淋し毛蟲はひ行く石畳	26	秋	時候	秋淋し	
842	酒のんで秋淋しがる一人哉	26	秋	時候	秋淋し	
843	ねだる子や秋淋しがる親の顔	26	秋	時候	秋淋し	
844	青々と猶淋しさよ須磨の秋	28	秋	時候	秋淋し	
845	淋しさや盗人はやる須磨の秋	28	秋	時候	秋淋し	
846	杉木立淋しき秋の鳥居哉	28	秋	時候	秋淋し	
847	杉木立淋しき秋の宮居哉	28	秋	時候	秋淋し	
848	櫻桃の葉黄ばみて庭の秋淋し	33	秋	時候	秋淋し	
849	樓に上れば洞庭開いて秋遠し	26	秋	時候	秋遠し	
850	秋や寂さびや秋知る雨一日	22	秋	時候	秋さぶ	
851	秋さびた石なら木なら二百年	24	秋	時候	秋さぶ	
852	大宮に秋さびけらし醫者の顔	24	秋	時候	秋さぶ	
853	神さびて秋さびて上野さびにけり	24	秋	時候	秋さぶ	
854	秋さびて太雅の木にも似たる哉	25	秋	時候	秋さぶ	
855	俳諧の秋さびてより二百年	26	秋	時候	秋さぶ	
856	つくつくと身に入む月の一人哉	26	秋	時候	身に入む	
857	俳諧の咄身にしむ二人哉	26	秋	時候	身に入む	
858	古戦場と聞けば身に入む夕哉	27	秋	時候	身に入む	
859	身に入むや臺破るゝ蓮の風	27	秋	時候	身に入む	
860	身に入むや誰が石塔を刻む音	27	秋	時候	身に入む	
861	學ぶ夜の更けて身に入む昔哉	28	秋	時候	身に入む	
862	ゝむや森深く夜氣肌に入む	31	秋	時候	身に入む	
863	行く秋にしがみついたる木の葉哉	21	秋	時候	行く秋	

864	朝顔のひるまでさいて秋の行	24	秋	時候	行く秋	
865	行く秋にしがみついたり蔦紅葉	24	秋	時候	行く秋	
866	松二本竝んで秋の老にけり	25	秋	時候	行く秋	
867	松二本竝んで秋の老にけり	25	秋	時候	行く秋	
868	行く秋の軽うなりたる木實哉	25	秋	時候	行く秋	
869	行く秋や壁の穴見る藪にらみ	25	秋	時候	行く秋	
870	行く秋や刀豆一ツあらはるゝ	25	秋	時候	行く秋	
871	行く秋やぼんやりしたる影法師	25	秋	時候	行く秋	
872	行く秋やまばらに見ゆる竹の藪	25	秋	時候	行く秋	
873	秋行くや大根二股にわれそめて	26	秋	時候	行く秋	
874	行く秋に大佛殿の嵐哉	26	秋	時候	行く秋	
875	行く秋の一日秋を盡しけり	26	秋	時候	行く秋	
876	行く秋の淋しく成し田面哉	26	秋	時候	行く秋	
877	行く秋や油かわきし枕紙	26	秋	時候	行く秋	
878	行く秋や水の中にも風の音	26	秋	時候	行く秋	
879	行く秋をさらに妙義の山めぐり	26	秋	時候	行く秋	
880	行く秋に梨ならべたる在所哉	27	秋	時候	行く秋	
881	行く秋にならびて君か舟出哉	27	秋	時候	行く秋	
882	行く秋の石打てばかんと響きける	27	秋	時候	行く秋	
883	行く秋の黽死居る木部屋哉	27	秋	時候	行く秋	
884	行く秋の鴉鳴くなり羅生門	27	秋	時候	行く秋	
885	行く秋の小舟淋しき湊かな	27	秋	時候	行く秋	
886	行く秋の鹿淋しがる戸口哉	27	秋	時候	行く秋	
887	行く秋の梨ならべたる在所かな	27	秋	時候	行く秋	
888	行く秋や何を烟らす一軒家	27	秋	時候	行く秋	
889	行く秋や松の木の間の南禅寺	27	秋	時候	行く秋	
890	行く秋や松の古葉を振り落し	27	秋	時候	行く秋	
891	行く秋を大海原のたゞ廣し	27	秋	時候	行く秋	
892	行く秋を大めし食ふ男かな	27	秋	時候	行く秋	
893	行く秋を佛手柑の只一つ哉	27	秋	時候	行く秋	
894	行く秋を松にかたよる海邊哉	27	秋	時候	行く秋	
895	秋行くと砂糖木畠の荒れにけり	28	秋	時候	行く秋	
896	尼寺や寂莫として秋の行く	28	秋	時候	行く秋	
897	市中やにわかにか秋の行く夕	28	秋	時候	行く秋	
898	賣れ残る木魚一つに秋の行く	28	秋	時候	行く秋	
899	枯松葉青松葉秋の行く小庭	28	秋	時候	行く秋	
900	此君にわれに秋行く四疊半	28	秋	時候	行く秋	
901	須磨に更けて奈良に行く秋あら淋し	28	秋	時候	行く秋	
902	行く秋の鳥も飛んでしまひけり	28	秋	時候	行く秋	
903	行く秋の腰骨いたむ旅寐哉	28	秋	時候	行く秋	
904	行く秋のしぐれかけたり法隆寺	28	秋	時候	行く秋	
905	行く秋の死にそこなひが歸りけり	28	秋	時候	行く秋	
906	行く秋の月夜を雨にしてしまひ	28	秋	時候	行く秋	
907	行く秋の敵國近し劍の霜	28	秋	時候	行く秋	
908	行く秋の涙もなしにあはれなり	28	秋	時候	行く秋	
909	行く秋の野菊白くも咲きけらし	28	秋	時候	行く秋	
910	行く秋の橋杭ばかり残りけり	28	秋	時候	行く秋	
911	行秋のふしづしいたむ旅寐哉	28	秋	時候	行く秋	
912	行く秋のまた旅人と呼ばれけり	28	秋	時候	行く秋	
913	行く秋の眼を塞ぎたる一人哉	28	秋	時候	行く秋	
914	行く秋の我に神無し佛無し	28	秋	時候	行く秋	
915	行く秋や一千年の佛だち	28	秋	時候	行く秋	
916	行く秋や菴の菊見る五六日	28	秋	時候	行く秋	
917	行く秋や庵の夕を鴉鳴く	28	秋	時候	行く秋	

918	行く秋や梅若寺の葎簀茶屋	28	秋	時候	行く秋	
919	行く秋や手を引きあひし松二木	28	秋	時候	行く秋	
920	行く秋や奈良の小寺の鐘を撞く	28	秋	時候	行く秋	
921	行く秋や奈良の小店の古佛	28	秋	時候	行く秋	
922	行く秋や奈良は古寺古佛	28	秋	時候	行く秋	
923	行く秋や店に兀げたる春日盆	28	秋	時候	行く秋	
924	行く秋や我に神なし佛なし	28	秋	時候	行く秋	
925	行く秋を雨に氣車待つ野茶屋哉	28	秋	時候	行く秋	
926	行く秋を生きて歸りし都哉	28	秋	時候	行く秋	
927	行く秋をしぐれかけたり法隆寺	28	秋	時候	行く秋	
928	世の中の秋か行くそよ都人	28	秋	時候	行く秋	
929	秋を愛す其秋將に行かんとす	29	秋	時候	行く秋	
930	悪句百首病中の秋の名残かな	29	秋	時候	行く秋	
931	菊を剪つて行く秋惜む主かな	29	秋	時候	行く秋	
932	短檠や秋盡きんとして楚辭を讀む	29	秋	時候	行く秋	
933	月青く雨紅に秋ぞ行く	29	秋	時候	行く秋	
934	月も露もしらけて秋の行かんとす	29	秋	時候	行く秋	
935	鳶が舞ふけるりと秋の行くことよ	29	秋	時候	行く秋	
936	満月となりて秋行く吉野かな	29	秋	時候	行く秋	
937	みちのくを出て来て江戸に行く秋や	29	秋	時候	行く秋	
938	森の中や秋行く庵の人一人	29	秋	時候	行く秋	
939	行く秋の鐘つき料を取りに来る	29	秋	時候	行く秋	
940	行く秋の一卷キ残る芭蕉かな	29	秋	時候	行く秋	
941	行く秋の晝飯くへば寒くなる	29	秋	時候	行く秋	
942	行く秋や杉寂として赤き宮	29	秋	時候	行く秋	
943	行く秋や大根畠に鳴く雀	29	秋	時候	行く秋	
944	行く秋を追ひつめて須磨で取り逃す	29	秋	時候	行く秋	
945	行く秋を法華經寫す手もとゞめず	29	秋	時候	行く秋	
946	いく秋の酒のほまれや日本號	31	秋	時候	行く秋	
947	はてしなき世界の秋の行へ哉	26	秋	時候	秋の行方	
948	はてもなき秋の行へや外が濱	26	秋	時候	秋の行方	
949	生き残る蠅ならなくに秋惜む	29	秋	時候	秋惜しむ	
950	惜むかな妻うしなひし此秋を	29	秋	時候	秋惜しむ	
951	月の秋菊の秋それらも過ぎて暮の秋	24	秋	時候	暮の秋	
952	案山子老て秋は鳴子に暮にけり	25	秋	時候	暮の秋	
953	月の秋菊の秋過てくれの秋	25	秋	時候	暮の秋	
954	月の秋過てつれなくくれの秋	25	秋	時候	暮の秋	
955	月の秋次八是非なくくれの秋	25	秋	時候	暮の秋	
956	月細り細り盡して秋くれぬ	25	秋	時候	暮の秋	
957	繩簾蛇にもならず秋くれぬ	25	秋	時候	暮の秋	
958	月ながら暮れ行く秋そうとましき	27	秋	時候	暮の秋	
959	冠の塵もはらはず秋暮ぬ	28	秋	時候	暮の秋	
960	月もあり黄菊白菊暮るゝ秋	28	秋	時候	暮の秋	
961	篝木の篝にもならず秋くれぬ	28	秋	時候	暮の秋	
962	馬醫者や馬の脉見る暮の秋	29	秋	時候	暮の秋	
963	釣鐘の奉加集まらず秋暮るゝ	29	秋	時候	暮の秋	
964	みちのくや馬も雇はで暮るゝ秋	29	秋	時候	暮の秋	
965	取りに来る鐘つき料や暮の秋	32	秋	時候	暮の秋	
966	飛んで来る餘所の落葉や暮るゝ秋	33	秋	時候	暮の秋	
967	冬待つや寂然として四疊半	28	秋	時候	冬近し	
968	我庵は蚊帳に別れて冬近し	28	秋	時候	冬近し	
969	冬待ちつやゝ黄ばむ庭の蜜柑哉	30	秋	時候	冬近し	
970	冬近き嵐に折れし鶏頭哉	33	秋	時候	冬近し	
971	冬近く今年は鬚を蓄へし	33	秋	時候	冬近し	

972	冬近し今年は鬚を蓄へし	33	秋	時候	冬近し	
973	冬待つやつはものどもの皮衣	33	秋	時候	冬近し	
974	冬を待ついくさの後の舎營哉	33	秋	時候	冬近し	
975	冬を待つ用意かこし四疊半	33	秋	時候	冬近し	
976	すさましや身よりもふとき袋ぐも	25	秋	時候	冷まじ	
977	水飯の色すさましき白さ哉	26	秋	時候	冷まじ	
978	すさましや戀にあつさをしらぬ夜半	26	秋	時候	冷まじ	
979	すさましや花ちる下の水車	26	秋	時候	冷まじ	
980	すさましや眞晝の鐘をつく時は	26	秋	時候	冷まじ	
981	すさましや此山奥の石佛	27	秋	時候	冷まじ	
982	凄しや彈丸波に沈む音	27	秋	時候	冷まじ	
983	檻古りぬ熊の眼のすさましく	27	秋	時候	冷まじ	
984	すさまじや蠟燭走る風の中	28	秋	時候	冷まじ	
985	蠟燭にすさまじき夜の嵐哉	28	秋	時候	冷まじ	
986	尻の跡のもう冷かに古畳	28	秋	時候	冷やか	
987	冷かな寐覺や山の雲深き	28	秋	時候	冷やか	
988	冷かに蚕の背中の入日かな	28	秋	時候	冷やか	
989	ひやひやと朝日さしけり松の中	29	秋	時候	冷やか	
990	ひやゝかな赤い朝日がぼつかりと	29	秋	時候	冷やか	
991	ひやゝかや喰はれ残りの日の光	29	秋	時候	冷やか	
992	家康の魂ひやゝかに杉木立	30	秋	時候	冷やか	
993	杉をもる日ひやゝかに曾我の墓	30	秋	時候	冷やか	
994	ひやひやと朝日うつりて松青し	30	秋	時候	冷やか	
995	冷かや佛燈青く暮の響	30	秋	時候	冷やか	
996	曉のひやゝかな雲流れけり	32	秋	時候	冷やか	
997	戸のすきをつめたき風をいとふべし	32	秋	時候	冷やか	
998	秋の日や鐘よりさきにくれかゝる	22	秋	時候	秋の日	
999	鯛にもたれて秋の日はくれぬ	24	秋	時候	秋の日	
1000	雨晴れて虫飛ぶ秋の日中哉	27	秋	時候	秋の日	
1001	秋の日の傾きてわれ家もなし	28	秋	時候	秋の日	
1002	秋の日の木の間落ちて塔高し	28	秋	時候	秋の日	
1003	秋の日の高石懸に落ちにけり	28	秋	時候	秋の日	
1004	秋の日の野路の小川に光りけり	28	秋	時候	秋の日	
1005	秋の日の一人に暮るゝ野道哉	28	秋	時候	秋の日	
1006	護摩堂にさしこむ秋の日あし哉	28	秋	時候	秋の日	
1007	大根の二葉に秋の日さし哉	28	秋	時候	秋の日	
1008	山に倚れば秋の日落つるあら野哉	28	秋	時候	秋の日	
1009	秋の日の薄雲がくれ蝕すなり	29	秋	時候	秋の日	
1010	樾の木の竝んで秋の入日かな	29	秋	時候	秋の日	
1011	鷄頭を伐るべく秋の日短し	29	秋	時候	秋の日	
1012	皂莢に秋の日落つる小窓かな	29	秋	時候	秋の日	
1013	竹藪のうしろに秋の入日かな	29	秋	時候	秋の日	
1014	ところどころ秋の日さすや杉木立	29	秋	時候	秋の日	
1015	にこらいの會堂に秋の日赫たり	29	秋	時候	秋の日	
1016	秋の日の谷中にせまる蝉の聲	30	秋	時候	秋の日	
1017	鳥一羽飛んで秋の日落ちにけり	30	秋	時候	秋の日	
1018	塵の中にくれ行く秋の夕日かな	25	秋	時候	秋の夕日	
1019	鷄頭に暮れ行く秋の夕日哉	26	秋	時候	秋の夕日	
1020	杉暗く井垣に秋の夕日哉	26	秋	時候	秋の夕日	
1021	谷深く舟漕ぐ秋の夕日哉	26	秋	時候	秋の夕日	
1022	山行くや秋の夕日の影法師	26	秋	時候	秋の夕日	
1023	裏町や秋の夕日の蚊粒飛ぶ	27	秋	時候	秋の夕日	
1024	烟捲いて秋の夕日の海黄なり	27	秋	時候	秋の夕日	
1025	杉高く秋の夕日の茶店哉	27	秋	時候	秋の夕日	

1026	見え透くや秋の夕日のくの木原	27	秋	時候	秋の夕日	
1027	物干にかげろふ秋の夕日哉	27	秋	時候	秋の夕日	
1028	家もなし秋の夕日の傾きぬ	28	秋	時候	秋の夕日	
1029	鎌倉や秋の夕日の旅法師	28	秋	時候	秋の夕日	
1030	旅鳥一羽に秋の入日かな	28	秋	時候	秋の夕日	
1031	八口を見る秋の夕日や八郎湖	33	秋	時候	秋の夕日	
1032	秋晴て故人の来る夕哉	26	秋	時候	秋晴	
1033	秋晴てふじのうしろに入日哉	26	秋	時候	秋晴	
1034	秋晴て物見に近し秋の不二	26	秋	時候	秋晴	
1035	秋晴れて塔にはさはるものもなし	27	秋	時候	秋晴	
1036	秋晴れて兩國橋の往来かな	27	秋	時候	秋晴	
1037	秋晴れて見かくれぬべき山もなし	28	秋	時候	秋晴	
1038	秋晴れぬ空の限りの蒸氣船	28	秋	時候	秋晴	
1039	秋晴れて敷浪雲の平なり	29	秋	時候	秋晴	
1040	秋晴れてものゝ煙の空に入る	29	秋	時候	秋晴	
1041	秋晴たり上總の烟安房の鳶	30	秋	時候	秋晴	
1042	秋晴れて青く小さき筑波かな	30	秋	時候	秋晴	
1043	秋晴れて鎌の光りの山に来る	30	秋	時候	秋晴	
1044	秋晴れてほこりのやうな虫が飛ぶ	30	秋	時候	秋晴	
1045	秋晴れて凌雲閣の人小し	30	秋	時候	秋晴	
1046	秋晴れて遠足の人蟻の如し	30	秋	時候	秋晴	
1047	秋晴れぬ千住曇りぬ西新井	30	秋	時候	秋晴	
1048	きのふ晴れてけふ晴て秋も二三日	30	秋	時候	秋晴	
1049	病人の駕で遊ぶや秋の晴	30	秋	時候	秋晴	
1050	秋晴るゝ松の梢の鷺一つ	31	秋	時候	秋晴	
1051	秋晴るゝ松の梢や鷺白し	31	秋	時候	秋晴	
1052	鳥海にかたまる雲や秋日和	26	秋	時候	秋日和	
1053	かしましう鳥啼く秋の日和哉	27	秋	時候	秋日和	
1054	鳶舞ふや本郷臺の秋日和	27	秋	時候	秋日和	
1055	賑かに都の秋の日和哉	27	秋	時候	秋日和	
1056	山遠しばつた高く飛ぶ秋日和	31	秋	時候	秋日和	
1057	磯山や鯛干したる秋日和	32	秋	時候	秋日和	
1058	軍艦を見に行く舟や秋日和	32	秋	時候	秋日和	
1059	病床上に上野を見るや秋日和	32	秋	時候	秋日和	
1060	鶏頭の四五本秋の日和哉	33	秋	時候	秋日和	
1061	龍田姫ふしは女人の禁制そ	25	秋	天文	竜田姫	
1062	佐保姫は娘、龍田姫は後家也けり	26	秋	天文	竜田姫	
1063	山鳥の戀に狂ふや龍田姫	26	秋	天文	竜田姫	
1064	我笠に龍田姫の裾かゝる也	26	秋	天文	竜田姫	
1065	龍田姫四十越えぬと申しけり	28	秋	天文	竜田姫	
1066	秋風の姿すゝきになかめけり	23	秋	天文	秋風	
1067	秋風や迷子探すかねのこへ	23	秋	天文	秋風	
1068	秋風をそへてすゝきをうりにけり	23	秋	天文	秋風	
1069	散りやすきものから吹くや秋の風	23	秋	天文	秋風	
1070	秋風やいさみ立たる蠻むし	23~25	秋	天文	秋風	
1071	ならんたる鐘や木魚や秋の風	23~25	秋	天文	秋風	
1072	秋風や伊豫へ流るゝ汐の音	24	秋	天文	秋風	
1073	秋風やはりこの龜のぶらんぶらん	24	秋	天文	秋風	
1074	秋風や窓の戸うごくさよ砧	24	秋	天文	秋風	
1075	送火や灰空に舞ふ秋の風	24	秋	天文	秋風	
1076	面白う砧をゆるや秋の風	24	秋	天文	秋風	
1077	風を秋と聞く時ありて犬の骨	24	秋	天文	秋風	
1078	傾城に問へども知らず秋の風	24	秋	天文	秋風	
1079	さる程に秋とはなりぬ風の音	24	秋	天文	秋風	

1080	すつこめる龜の首にも秋の風	24	秋	天文	秋風	
1081	何といふ發句つくるふぞ秋の風	24	秋	天文	秋風	
1082	齒のぬけて經よむ聲も秋の風	24	秋	天文	秋風	
1083	火ちらちら足もとはしる秋の風	24	秋	天文	秋風	
1084	都には何事もなし秋の風	24	秋	天文	秋風	
1085	瘦せたりや二十五年の秋の風	24	秋	天文	秋風	
1086	山本の灯ゆるゝや秋のかげ	24	秋	天文	秋風	
1087	ゆりけすや下手のうたひを秋の風	24	秋	天文	秋風	
1088	秋風に油もぬけぬ鯉魚哉	25	秋	天文	秋風	
1089	秋風にふりたて行くや鹿の角	25	秋	天文	秋風	
1090	秋風に目をさましけり合歡の花	25	秋	天文	秋風	
1091	秋風の相手に熟柿一ツ哉	25	秋	天文	秋風	
1092	秋風の一昨日何を釣る人そ	25	秋	天文	秋風	
1093	秋風の蜘蛛にふくやしかの角	25	秋	天文	秋風	
1094	秋風のふけは倒るゝそとはかな	25	秋	天文	秋風	
1095	秋風や覺束なくもほとゝぎす	25	秋	天文	秋風	
1096	秋風や京の大路の朱傘	25	秋	天文	秋風	
1097	秋風や京の町には朱傘	25	秋	天文	秋風	
1098	秋風や崩れたつたる雲のみね	25	秋	天文	秋風	
1099	秋風や水月にまがふ僧の鬚	25	秋	天文	秋風	
1100	秋風や杉の葉くさる石のあひ	25	秋	天文	秋風	
1101	秋風やちびて短き旅の杖	25	秋	天文	秋風	
1102	秋風やつるりとしたる不盡の山	25	秋	天文	秋風	
1103	秋風や鳥飛び盡す筑波山	25	秋	天文	秋風	
1104	秋風や都にすんでなく夜あり	25	秋	天文	秋風	
1105	秋風や都にすんでなく夜哉	25	秋	天文	秋風	
1106	秋風やらんふの笠も破れたり	25	秋	天文	秋風	
1107	秋風や小野の小町の笑ひ聲	25	秋	天文	秋風	
1108	秋風をいのちにはしてざくろかな	25	秋	天文	秋風	
1109	秋の風帽子の角を吹きへらす	25	秋	天文	秋風	
1110	いつしかに桑の葉黒し秋の風	25	秋	天文	秋風	
1111	海原や波にもつかす秋の風	25	秋	天文	秋風	
1112	海原やものにもつかす秋の風	25	秋	天文	秋風	
1113	親が鳴き子猿が鳴いて秋の風	25	秋	天文	秋風	
1114	聞きにゆけ須磨の隣の秋の風	25	秋	天文	秋風	
1115	蛇の舌まだ赤し秋の風	25	秋	天文	秋風	
1116	蜘蛛の巣に蜘蛛の留守也秋の風	25	秋	天文	秋風	
1117	蜘蛛の巣に蜘蛛は留守也秋の風	25	秋	天文	秋風	
1118	此頃は蓴菜かたし秋の風	25	秋	天文	秋風	
1119	旅の旅その又旅の秋の風	25	秋	天文	秋風	
1120	旅の旅又その旅の秋の風	25	秋	天文	秋風	
1121	月を見る背中に吹くや秋の風	25	秋	天文	秋風	
1122	ていれぎの下葉淺黄に秋の風	25	秋	天文	秋風	
1123	天狗泣き天狗笑ふや秋の風	25	秋	天文	秋風	
1124	撫し子のまた細りけり秋の風	25	秋	天文	秋風	
1125	一ツ家のともしめくりて秋の風	25	秋	天文	秋風	
1126	筆の穂のさゝけ出したり秋の風	25	秋	天文	秋風	
1127	古鍋に豚の油や秋の風	25	秋	天文	秋風	
1128	秋風に生れてさすが男哉	26	秋	天文	秋風	
1129	秋風に兀ても昔女かな	26	秋	天文	秋風	
1130	秋風のおもてに立てり筑波山	26	秋	天文	秋風	
1131	秋風の吹きひろげけり川の幅	26	秋	天文	秋風	
1132	秋風やあはれ氣もなき俳諧師	26	秋	天文	秋風	
1133	秋風やいくさの夢も二十年	26	秋	天文	秋風	

1134	秋風や片手に富士の川とめん	26	秋	天文	秋風	
1135	秋風や通ひなれたる箱根山	26	秋	天文	秋風	
1136	秋風や下駄流したる最上川	26	秋	天文	秋風	
1137	秋風やけふだけの飯もたいてある	26	秋	天文	秋風	
1138	秋風や子牛引きこむ家二軒	26	秋	天文	秋風	
1139	秋風や胡蝶もなじむ牛の角	26	秋	天文	秋風	
1140	秋風や坐禅し居れば劔鳴る	26	秋	天文	秋風	
1141	秋風や淋しくなりし子守唄	26	秋	天文	秋風	
1142	秋風や鱸を釣らんとぞ思ふ	26	秋	天文	秋風	
1143	秋風や旅の浮世のはてしらず	26	秋	天文	秋風	
1144	秋風や脳味噌くさる芥子坊主	26	秋	天文	秋風	
1145	秋風や泪つもりて五十日	26	秋	天文	秋風	
1146	秋風や人あらはなる山の宿	26	秋	天文	秋風	
1147	秋風や人に聞けとの大躰	26	秋	天文	秋風	
1148	秋風や平たくなりし力瘤	26	秋	天文	秋風	
1149	秋風や故郷さして歸る人	26	秋	天文	秋風	
1150	秋風や牡丹の夢もなかりけり	26	秋	天文	秋風	
1151	秋風や巫ふり亂す髪のとけ	26	秋	天文	秋風	
1152	秋風や道に横たふ蛇のから	26	秋	天文	秋風	
1153	秋風や妙義の岩に雲はしる	26	秋	天文	秋風	
1154	秋風や屋根に淋しき金の鳳	26	秋	天文	秋風	
1155	秋風やわれは可もなく不可もなし	26	秋	天文	秋風	
1156	秋風よ命ばかりは吹きのごせ	26	秋	天文	秋風	
1157	秋の風牡丹の夢もなかりけり	26	秋	天文	秋風	
1158	秋の風われを相手に吹きにけり	26	秋	天文	秋風	
1159	うしろ向けば我にも吹くや秋の風	26	秋	天文	秋風	
1160	賣物の大名屋敷秋の風	26	秋	天文	秋風	
1161	面白や草鞋はく日の秋の風	26	秋	天文	秋風	
1162	骸骨と我には見えて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1163	笠の端に山かさなりて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1164	片腕の位牌になりぬ秋の風	26	秋	天文	秋風	
1165	金藏の多い處よ秋の風	26	秋	天文	秋風	
1166	象潟の海にかはりて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1167	肥肉の目には見ゆれど秋の風	26	秋	天文	秋風	
1168	此頃の露ののがさよ秋の風	26	秋	天文	秋風	
1169	品川は海をひかへて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1170	白河や二度こゆる時秋の風	26	秋	天文	秋風	
1171	背に吹くや五十四郡の秋の風	26	秋	天文	秋風	
1172	そよそよと秋風吹きぬ單衣	26	秋	天文	秋風	
1173	はや一つ命へらしぬ秋の風	26	秋	天文	秋風	
1174	又一つ命へらしぬ秋の風	26	秋	天文	秋風	
1175	露の葉のやぶるゝ音や秋の風	26	秋	天文	秋風	
1176	古井戸の名はわすられて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1177	都から一里はなれて秋の風	26	秋	天文	秋風	
1178	秋風の上野の出茶屋人もなし	27	秋	天文	秋風	
1179	秋風の韓山敵の影もなし	27	秋	天文	秋風	
1180	秋風の渤海灣口船もなし	27	秋	天文	秋風	
1181	秋風や雲吹きわたる出羽の海	27	秋	天文	秋風	
1182	秋風や傾城町の晝下り	27	秋	天文	秋風	
1183	秋風や天竺牡丹花細し	27	秋	天文	秋風	
1184	秋風や馬場の草むら犬走る	27	秋	天文	秋風	
1185	秋風や薔薇の花びらまとまらず	27	秋	天文	秋風	
1186	秋風や紫薄き燕子花	27	秋	天文	秋風	
1187	秋風や森を出でゝ川横はる	27	秋	天文	秋風	

1188	秋風や大蛇野道に横はる	27	秋	天文	秋風	
1189	金持の板塀高し秋の風	27	秋	天文	秋風	
1190	此頃や河豚小さき秋の風	27	秋	天文	秋風	
1191	仕置場や地藏の胴の秋の風	27	秋	天文	秋風	
1192	染物のはなだになりぬ秋の風	27	秋	天文	秋風	
1193	地藏古りて錫杖折れぬ秋の風	27	秋	天文	秋風	
1194	何とせん母瘦せたまふ秋の風	27	秋	天文	秋風	
1195	墓原の提灯白し秋の風	27	秋	天文	秋風	
1196	蕤帆や吹き破られて秋の風	27	秋	天文	秋風	
1197	藪川や緑青浮む秋の風	27	秋	天文	秋風	
1198	秋風に吹かれたやうな仁王哉	28	秋	天文	秋風	
1199	秋風のそなたと許り思へとよ	28	秋	天文	秋風	
1200	秋風や生きてあひ見る汝と我	28	秋	天文	秋風	
1201	秋風や馬嘶いて幕の音	28	秋	天文	秋風	
1202	秋風や馬合点して北の方	28	秋	天文	秋風	
1203	秋風や海を限りし伊豫の鼻	28	秋	天文	秋風	
1204	秋風や圍ひもなしに興福寺	28	秋	天文	秋風	
1205	秋風や雲吹き起る山のかひ	28	秋	天文	秋風	
1206	秋風や侍町の塀ばかり	28	秋	天文	秋風	
1207	秋風や侍町は塀ばかり	28	秋	天文	秋風	
1208	秋風や高井のていれぎ三津の鯛	28	秋	天文	秋風	
1209	秋風や何堂彼堂彌勒堂	28	秋	天文	秋風	
1210	秋風や奈良の佛に札がつく	28	秋	天文	秋風	
1211	秋風や白雲迷ふ親不知	28	秋	天文	秋風	
1212	秋風や平家吊ふ經の聲	28	秋	天文	秋風	
1213	秋風やほろりと落し蟬の殻	28	秋	天文	秋風	
1214	秋風やほろりともけし蟬の殻	28	秋	天文	秋風	
1215	秋風や皆千年の物ばかり	28	秋	天文	秋風	
1216	秋風や焼場のあとの卵塔場	28	秋	天文	秋風	
1217	秋風や吾は奈良の病人なり	28	秋	天文	秋風	
1218	淺草や猿飼ふ店の秋の風	28	秋	天文	秋風	
1219	色里や十歩はなれて秋の風	28	秋	天文	秋風	
1220	右京左京中は畑なり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1221	馬下りて川の名問へば秋の風	28	秋	天文	秋風	
1222	送られて一人行くなり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1223	棧や下をのぞけば秋の風	28	秋	天文	秋風	
1224	来て見ればこゝにも吹くや秋の風	28	秋	天文	秋風	
1225	黒崎や汐早うして秋の風	28	秋	天文	秋風	
1226	淋しさやどの顔見ても秋の風	28	秋	天文	秋風	
1227	三十の阪見あぐれば秋の風	28	秋	天文	秋風	
1228	絶壁の草動きけり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1229	瀬戸二町中を秋風吹いて来る	28	秋	天文	秋風	
1230	せまり吹くや音頭が瀬戸の秋の風	28	秋	天文	秋風	
1231	大佛の大きき知れず秋の風	28	秋	天文	秋風	
1232	大佛の尻より吹きぬ秋の風	28	秋	天文	秋風	
1233	狸死に狐留守なり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1234	とにかくに一人は失せぬ秋の風	28	秋	天文	秋風	
1235	吊へばわれに吹きけり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1236	ともし火を見れば吹きけり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1237	中空に秋の風吹く峠かな	28	秋	天文	秋風	
1238	中空に秋の風吹く尾上哉	28	秋	天文	秋風	
1239	泣く母も笑ふ其子も秋の風	28	秋	天文	秋風	
1240	名所に秋風吹きぬ歌よまん	28	秋	天文	秋風	
1241	奈良阪や石切る家の秋の風	28	秋	天文	秋風	

1242	兀山を越えて吹きけり秋の風	28	秋	天文	秋風	
1243	晴れきつて秋風荒るゝ朝日哉	28	秋	天文	秋風	
1244	般若寺の釣鐘細し秋の風	28	秋	天文	秋風	
1245	人も居らずほこりも立たず秋の風	28	秋	天文	秋風	
1246	晝の灯や本堂暗く秋の風	28	秋	天文	秋風	
1247	船ゆれる音頭が瀬戸や秋の風	28	秋	天文	秋風	
1248	船よする築嶋寺や秋の風	28	秋	天文	秋風	
1249	古里や小寺もありて秋の風	28	秋	天文	秋風	
1250	ほし店の鬼灯吹くや秋の風	28	秋	天文	秋風	
1251	陵をめぐりて吹きぬ秋の風	28	秋	天文	秋風	
1252	水草の花まだ白し秋の風	28	秋	天文	秋風	
1253	身の上や御鬮を引けば秋の風	28	秋	天文	秋風	
1254	やぶ入もせぬ迄老いぬ秋の風	28	秋	天文	秋風	
1255	藪寺の釣鐘もなし秋の風	28	秋	天文	秋風	
1256	山陰や寺吹き暮るゝ秋の風	28	秋	天文	秋風	
1257	我死なで君生きもせて秋の風	28	秋	天文	秋風	
1258	我死なで汝生きもせて秋の風	28	秋	天文	秋風	
1259	秋風が吹くと申すぞ吹かねども	29	秋	天文	秋風	
1260	秋風に櫻咲くなり法華經寺	29	秋	天文	秋風	
1261	秋風にすこしかなめの赤芽哉	29	秋	天文	秋風	
1262	秋風に吹かれて来たか白い鳥	29	秋	天文	秋風	
1263	秋風や下界の雲をかきまぜる	29	秋	天文	秋風	
1264	秋風や餘所の煙を吹いて来る	29	秋	天文	秋風	
1265	生き残る藪蚊するどし秋の風	29	秋	天文	秋風	
1266	歌は古し詩で白河の秋の風	29	秋	天文	秋風	
1267	魚市のあとに犬よる秋の風	29	秋	天文	秋風	
1268	奥の秋の風に吹かれしも昔なり	29	秋	天文	秋風	
1269	お日様を蟲が喰ひけり秋の風	29	秋	天文	秋風	
1270	草の戸やけふ吹きそむる秋の風	29	秋	天文	秋風	
1271	草踏めば秋風起る那須の原	29	秋	天文	秋風	
1272	首出せば秋風吹くや鼻のさき	29	秋	天文	秋風	
1273	黒門や丸の穴より秋の風	29	秋	天文	秋風	
1274	五年目に國へ歸れば秋の風	29	秋	天文	秋風	
1275	索麵に秋風ふくや小豆嶋	29	秋	天文	秋風	
1276	淋しさや嵐のあとの秋の風	29	秋	天文	秋風	
1277	椎の樹や力を入れる秋の風	29	秋	天文	秋風	
1278	そよそよと入日の面を秋の風	29	秋	天文	秋風	
1279	大佛の腹をのぞけば秋の風	29	秋	天文	秋風	
1280	誰やらが睨んでござる秋の風	29	秋	天文	秋風	
1281	庭十歩秋風吹かぬ隈もなし	29	秋	天文	秋風	
1282	人間の肩に吹きけり秋の風	29	秋	天文	秋風	
1283	引き裂いた雲のあとなり秋の風	29	秋	天文	秋風	
1284	湖の空を吹きけり秋の風	29	秋	天文	秋風	
1285	無著天親其外の佛秋の風	29	秋	天文	秋風	
1286	山里に大鳥飛ぶや秋の風	29	秋	天文	秋風	
1287	讀み返す文の中より秋の風	29	秋	天文	秋風	
1288	料理屋の白川侯の秋の風	29	秋	天文	秋風	
1289	秋風に撫子白き桔梗哉	30	秋	天文	秋風	
1290	秋の風きのふ行脚に出られたり	30	秋	天文	秋風	
1291	虚子に俗なし鄰の三味に秋の風	30	秋	天文	秋風	
1292	さらばよ君明日はいづこの秋の風	30	秋	天文	秋風	
1293	松明に秋風起る洞の闇	30	秋	天文	秋風	
1294	旭に向いて空に棹さす秋の風	30	秋	天文	秋風	
1295	秋風や通りかゝりし一の谷	31	秋	天文	秋風	

1296	秋の風再び薔薇の蕾かな	31	秋	天文	秋風	
1297	桐や棕櫚や迫りし庭の秋の風	31	秋	天文	秋風	
1298	雲見れば秋の初風吹くさうな	31	秋	天文	秋風	
1299	三十六坊一坊残る秋の風	31	秋	天文	秋風	
1300	白川や秋の初風旅の歌	31	秋	天文	秋風	
1301	引き残す松葉牡丹や秋の風	31	秋	天文	秋風	
1302	人寐ねて秋の初風吹出しぬ	31	秋	天文	秋風	
1303	都まだ秋の初の風暑し	31	秋	天文	秋風	
1304	虫干の残りを吹くや秋の風	31	秋	天文	秋風	
1305	秋風や絲瓜ノ花ヲ吹キ落ス	34	秋	天文	秋風	
1306	馬の尾に佛性ありや秋の風	34	秋	天文	秋風	
1307	人間ハゞマダ生キテ居ル秋ノ風	34	秋	天文	秋風	
1308	町川ニボラ釣ル人ヤ秋ノ風	34	秋	天文	秋風	
1309	夕顔ノ太リ過ギタリ秋ノ風	34	秋	天文	秋風	
1310	鶴一つのして入りけり秋の雲	24	秋	天文	秋の雲	
1311	鶴一羽のして入りけり秋のくも	24	秋	天文	秋の雲	
1312	頭上の岩をめぐるや秋の雲	24	秋	天文	秋の雲	
1313	山の秋の雲往來す不動尊	24	秋	天文	秋の雲	
1314	秋の雲いよいよ高く登りけり	25	秋	天文	秋の雲	
1315	秋の雲太平洋を走りけり	25	秋	天文	秋の雲	
1316	秋の雲瀧をはなれて山の上	25	秋	天文	秋の雲	
1317	足もとや眼ちらつく秋の雲	25	秋	天文	秋の雲	
1318	秋の雲鳴門の空を渡りけり	27	秋	天文	秋の雲	
1319	低く迷ふ廣野の果の秋の雲	27	秋	天文	秋の雲	
1320	秋の雲湖水の上を渡りけり	28	秋	天文	秋の雲	
1321	秋の雲湖水の空を渡りけり	28	秋	天文	秋の雲	
1322	秋の雲地獄の底へ吹き落す	28	秋	天文	秋の雲	
1323	岩山の木もなし秋の雲もなし	28	秋	天文	秋の雲	
1324	秋の雲湖水の底を渡りけり	28	秋	天文	秋の雲	
1325	朝風や鳥飛び盡す秋の雲	29	秋	天文	秋の雲	
1326	眼下頭上只秋の空秋の雲	29	秋	天文	秋の雲	
1327	夕焼けて日和になりぬ秋の雲	31	秋	天文	秋の雲	
1328	秋さめや薄のやすむ日もありて	24	秋	天文	秋雨	
1329	月ぬいてさびを見せけり秋の雨	24	秋	天文	秋雨	
1330	婆々いはく鼻なけば秋の雨	24	秋	天文	秋雨	
1331	松風をおさへてふるや秋の雨	24	秋	天文	秋雨	
1332	折々はあかりもさして秋の雨	24	秋	天文	秋雨	
1333	秋雨や大人子供の話し聲	25	秋	天文	秋雨	
1334	秋雨や顔につめたき頬冠り	25	秋	天文	秋雨	
1335	秋の雨兩天傘をなぶりけり	25	秋	天文	秋雨	
1336	ひもじさに紙屑かむや秋の雨	25	秋	天文	秋雨	
1337	ひるまでも灯のともりけり秋の雨	25	秋	天文	秋雨	
1338	又一人類かふり行く秋の雨	25	秋	天文	秋雨	
1339	眞晝まで日のともりけり秋の雨	25	秋	天文	秋雨	
1340	眞晝まで燈の残りけり秋の雨	25	秋	天文	秋雨	
1341	犬瘦せて山門淋し秋の雨	26	秋	天文	秋雨	
1342	子鴉人を恐れず秋の雨	26	秋	天文	秋雨	
1343	杉暗く鴉なくなり秋の雨	26	秋	天文	秋雨	
1344	古沼に鷺も動かず秋の雨	26	秋	天文	秋雨	
1345	みちのくのはてゞあひけり秋の雨	26	秋	天文	秋雨	
1346	秋の雨月になる夜のおもしろや	27	秋	天文	秋雨	
1347	秋の雨闇になる夜の面白や	27	秋	天文	秋雨	
1348	紫陽花や青にきまりし秋の雨	27	秋	天文	秋雨	
1349	紫陽花や緑にきまる秋の雨	27	秋	天文	秋雨	

1350	大木の中を人行く秋の雨	27	秋	天文	秋雨	
1351	掃溜に鴉鳴くなり秋の雨	27	秋	天文	秋雨	
1352	老僧の八百屋尋ぬる秋の雨	27	秋	天文	秋雨	
1353	秋の雨松をいたゞく小山哉	28	秋	天文	秋雨	
1354	秋雨や色のさめたる緋の袴	29	秋	天文	秋雨	
1355	秋の雨香爐の烟つひに絶えぬ	29	秋	天文	秋雨	
1356	秋雨や糠味噌臭ふ佛の間	30	秋	天文	秋雨	
1357	秋の雨荷物ぬらすな風引くな	30	秋	天文	秋雨	
1358	西に行きて秋雨多し奈良の京	30	秋	天文	秋雨	
1359	ひつこめて国旗立てたる秋の雨	30	秋	天文	秋雨	
1360	秋雨や二人汽車待つ停車場	31	秋	天文	秋雨	
1361	三島迄駕を雇ひぬ秋の雨	31	秋	天文	秋雨	
1362	秋雨や鏡は曇る青和幣	32	秋	天文	秋雨	
1363	秋雨や御鏡曇る青和幣	32	秋	天文	秋雨	
1364	秋雨や水さびのたまる庭の池	32	秋	天文	秋雨	
1365	色さめし秋海棠や秋の雨	32	秋	天文	秋雨	
1366	柴又の茶店出づれば秋の雨	32	秋	天文	秋雨	
1367	柴又の寺を出つれば秋の雨	32	秋	天文	秋雨	
1368	追込の小鳥静まる秋の雨	33	秋	天文	秋雨	
1369	江漫漫白露星に映ず空明り	30	秋	天文	星	
1370	さゝやきや折々星の笑ひ聲	30	秋	天文	星	
1371	星に貸す赤禪もなかりけり	31	秋	天文	星	
1372	白露や原一ぱいの星月夜	22	秋	天文	星月夜	
1373	月蝕のけふにこそ見れ星月夜	25	秋	天文	星月夜	
1374	行く秋の闇にもならず星月夜	25	秋	天文	星月夜	
1375	鎌倉は井あり梅あり星月夜	26	秋	天文	星月夜	
1376	洪水の勢ひや空は星月夜	26	秋	天文	星月夜	
1377	押しあふてこぼるゝ空や星月夜	27	秋	天文	星月夜	
1378	此頃や櫂の梢の星月夜	27	秋	天文	星月夜	
1379	禪寺の門を出づれば星月夜	27	秋	天文	星月夜	
1380	苦一重外は渺々として星月夜	27	秋	天文	星月夜	
1381	近江路や瀬田迄來ても星月夜	28	秋	天文	星月夜	
1382	大佛か眞黒なるは星月夜	28	秋	天文	星月夜	
1383	ちよぼちよぼと黒きは村か星月夜	28	秋	天文	星月夜	
1384	戸口迄送つて出れば星月夜	28	秋	天文	星月夜	
1385	星月夜原の一本杉高し	28	秋	天文	星月夜	
1386	三井寺や湖水の上の星月夜	28	秋	天文	星月夜	
1387	赤き灯の高く見えけり星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1388	犬吠ゆる里は麓に星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1389	犬吠ゆる麓は低し星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1390	木に倚れば枝葉まばらに星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1391	木に倚れば木の葉まばらに星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1392	首出すや夜舟の窓の星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1393	三尺の庭へ出て見つ星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1394	青樓のともし火赤し星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1395	寺高し窓をあくれば星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1396	ともし火の一つも見えず星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1397	何もなき畠をありく星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1398	古庭に白菊白し星月夜	29	秋	天文	星月夜	
1399	星月夜一つも星の飛ばぬかな	29	秋	天文	星月夜	
1400	星月夜ひとり五階に寝る夜哉	29	秋	天文	星月夜	
1401	星月夜ひとり五階の上に寝る	29	秋	天文	星月夜	
1402	星月夜星を見に行く岡の茶屋	29	秋	天文	星月夜	
1403	萬燈の過ぎ行くあとを星月夜	30	秋	天文	星月夜	

1404	横町や萬燈は過ぎて星月夜	30	秋	天文	星月夜	
1405	舟過る水の光や星月夜	31	秋	天文	星月夜	
1406	柁取に海の名問ふや星月夜	32	秋	天文	星月夜	
1407	大佛の眼光るや星月夜	33	秋	天文	星月夜	
1408	鶴の羽をこほるゝ露や星月夜	33	秋	天文	星月夜	
1409	片端八山から出るや天の河	21	秋	天文	天の川	
1410	片端は山にかゝるや天の川	21	秋	天文	天の川	
1411	片端八山にすゑるや天の河	21	秋	天文	天の川	
1412	片端八山にやすめて天の河	21	秋	天文	天の川	
1413	原中や野菊に暮れて天の川	24	秋	天文	天の川	
1414	天の川淺瀬と見ゆる處もあり	25	秋	天文	天の川	
1415	天の川よしきの上を流れけり	25	秋	天文	天の川	
1416	天の川凌雲閣にもたれけり	25	秋	天文	天の川	
1417	伊豆までは落ちず消へけり天の河	25	秋	天文	天の川	
1418	後家夜更けて烟草吹きつける天の川	25	秋	天文	天の川	
1419	鐵橋や横すぢかひに天の川	25	秋	天文	天の川	
1420	ふしの根に行あたりたる天の川	25	秋	天文	天の川	
1421	天の川高燈籠にかゝりけり	26	秋	天文	天の川	
1422	家もなし水滔々として天の川	26	秋	天文	天の川	
1423	桑名から宮や三里の天の川	26	秋	天文	天の川	
1424	桑名から宮や七里の天の河	26	秋	天文	天の川	
1425	すゝしさや臍の眞上の天の川	26	秋	天文	天の川	
1426	七夕や犬も見あぐる天の川	26	秋	天文	天の川	
1427	ぢりぢりとねぢれて近し天の河	26	秋	天文	天の川	
1428	目をくばる空の廣さよ天の河	26	秋	天文	天の川	
1429	宿もなき旅の夜更けぬ天の川	26	秋	天文	天の川	
1430	山こすや左にうけて天の河	26	秋	天文	天の川	
1431	山の温泉や裸の上の天の川	26	秋	天文	天の川	
1432	天の川落ちて消えけり海の果	27	秋	天文	天の川	
1433	天の川敵陣下に見ゆる哉	27	秋	天文	天の川	
1434	天の川野牛の角にかゝりけり	27	秋	天文	天の川	
1435	ところどころ野營張るなり天の川	27	秋	天文	天の川	
1436	船に寐て我に竝ぶや天の川	27	秋	天文	天の川	
1437	天の川海の南へ流れけり	28	秋	天文	天の川	
1438	天の川濱名の橋の十文字	28	秋	天文	天の川	
1439	天の川渡らば二匹牛と牛	28	秋	天文	天の川	
1440	楫を絶えて舟に見る夜の天の川	28	秋	天文	天の川	
1441	白露や芋の葉末の天の川	28	秋	天文	天の川	
1442	白露や芋の畠の天の川	28	秋	天文	天の川	
1443	絶頂や銀河さゝへる劍岳	28	秋	天文	天の川	
1444	峠より平らに落ちぬ天の川	28	秋	天文	天の川	
1445	竹藪や簀子に落つる天の川	28	秋	天文	天の川	
1446	七夕の足なと見えよ天の川	28	秋	天文	天の川	
1447	晴れたとて此大水の天の川	28	秋	天文	天の川	
1448	仰向けにわれ嘯けば天の川	29	秋	天文	天の川	
1449	天の川天の橋立ほのほのや	29	秋	天文	天の川	
1450	天の川すこしねぢれて星が飛ぶ	29	秋	天文	天の川	
1451	天の川山なき國の眞上かな	29	秋	天文	天の川	
1452	海原や空を離るゝ天の川	29	秋	天文	天の川	
1453	川上は東と見えて天の川	29	秋	天文	天の川	
1454	北國の庇は長し天の川	29	秋	天文	天の川	
1455	三尺の幅とこそ見れ天の川	29	秋	天文	天の川	
1456	膳所越えて湖水に落ちぬ天の川	29	秋	天文	天の川	
1457	立てかけし杉の丸太や天の川	29	秋	天文	天の川	

1458	菜畑や小村にかゝる天の川	29	秋	天文	天の川	
1459	野の空やものを離れて天の川	29	秋	天文	天の川	
1460	一里の灯消えて天の川	29	秋	天文	天の川	
1461	星の座やゆふべのまゝの天の川	29	秋	天文	天の川	
1462	巻き落す浪のかしらの天の川	29	秋	天文	天の川	
1463	巻き落す浪のかしらや天の川	29	秋	天文	天の川	
1464	見あぐるや竹の中より天の川	29	秋	天文	天の川	
1465	行き行きて左になりぬ天の川	29	秋	天文	天の川	
1466	夜半過ぎて銀河傾く庭の竹	29	秋	天文	天の川	
1467	あくびする口に落ちけり天の川	30	秋	天文	天の川	
1468	天の川一本杉をはつれけり	30	秋	天文	天の川	
1469	天の川二條の空の夜寒しや	30	秋	天文	天の川	
1470	桐の葉の露はらはらと天の川	30	秋	天文	天の川	
1471	壇を築き物祭る灯や天の川	30	秋	天文	天の川	
1472	野の中や道曲りたる天の川	30	秋	天文	天の川	
1473	野の道の曲りたるを行天の川	30	秋	天文	天の川	
1474	複道や銀河に近き灯の通ひ	30	秋	天文	天の川	
1475	薄曇る空の濁りや天の川	31	秋	天文	天の川	
1476	糠星の飛びも盡さず天の川	32	秋	天文	天の川	
1477	夜涼如水天ノ川邊ノ星一ツ	34	秋	天文	天の川	
1478	虚無僧の深あみ笠や盆の月	25	秋	天文	盆の月	
1479	盆の月團子の數も見えてけり	26	秋	天文	盆の月	
1480	盆の月亡者の歸る鉦の音	26	秋	天文	盆の月	
1481	盆の月亡者の歸る軒端哉	26	秋	天文	盆の月	
1482	禰宜殿や門を出れば盆の月	28	秋	天文	盆の月	
1483	盆の月佛くさくもなかりけり	29	秋	天文	盆の月	
1484	あの枝に見しこの枝に松の月	23	秋	天文	月	
1485	浮き世いかに人に戀やみ花に月	23	秋	天文	月	
1486	浮世より外のうき世や水と月	23	秋	天文	月	
1487	木の間もる月青し杉十五丈	23	秋	天文	月	
1488	くたけては海一めんや月の影	23	秋	天文	月	
1489	此波は須磨へつゞくか三津の月	23	秋	天文	月	
1490	捨てられて見たし浮世の外の月	23	秋	天文	月	
1491	月影の湖に舟なし風の音	23	秋	天文	月	
1492	月高く湖廣し窓の中	23	秋	天文	月	
1493	月高し窓より下に近江富士	23	秋	天文	月	
1494	月の影湖一面に碎けたり	23	秋	天文	月	
1495	月一つ湖水に塵もなかりけり	23	秋	天文	月	
1496	月一つ瀬田から膳所へ流れけり	23	秋	天文	月	
1497	見あぐるや湖水の上の月一つ	23	秋	天文	月	
1498	湖やともし火消えて月一ツ	23	秋	天文	月	
1499	水に月舟動くと見えざりき	23	秋	天文	月	
1500	むすぶ手にひやりとしむや水の月	23	秋	天文	月	
1501	むすぶ手やひやりひやりと水の月	23	秋	天文	月	
1502	秋もはや七日の月のたのもしき	24	秋	天文	月	
1503	うたたねに月のさしこむ軒哉	24	秋	天文	月	
1504	十五夜の月ふり出すや馬の首	24	秋	天文	月	
1505	旅寐九年故郷の月ぞあり難き	24	秋	天文	月	
1506	舟一ツ通るや月を碎く音	24	秋	天文	月	
1507	待つ夜半や月は障子の三段目	24	秋	天文	月	
1508	窓の繪や月の画がいたる萩すゝき	24	秋	天文	月	
1509	夜の月や坐禪の膝を松の影	24	秋	天文	月	
1510	足元をすくふて行くや月の汐	25	秋	天文	月	
1511	蟹か家や月に戸をさす清見湯	25	秋	天文	月	

1512	いくつより覺えた名やら月と花	25	秋	天文	月	
1513	いさり火や月を離れし沖の隅	25	秋	天文	月	
1514	芋の葉に月のころがる夜露哉	25	秋	天文	月	
1515	色々の形となるや雲の月	25	秋	天文	月	
1516	海原や思ひきつたる月の色	25	秋	天文	月	
1517	骸骨の浮み出るや水の月	25	秋	天文	月	
1518	かさの露動けは月のこぼれけり	25	秋	天文	月	
1519	雲に月わざわざはいるにくさ哉	25	秋	天文	月	
1520	くらからばたゝ暗からで雲の月	25	秋	天文	月	
1521	月蝕や笠きて出たる白拍子	25	秋	天文	月	
1522	塩汲の道々月をこぼしけり	25	秋	天文	月	
1523	尻を出し頭を出ずや雲の月	25	秋	天文	月	
1524	沙濱に打廣げけり月の汐	25	秋	天文	月	
1525	その日までどこをかけらん月の旅	25	秋	天文	月	
1526	月影や小窓の外の唐からし	25	秋	天文	月	
1527	月澄て空に聞ゆるをしかゝな	25	秋	天文	月	
1528	月と不盡一目一目のこよひ哉	25	秋	天文	月	
1529	月の蘆薄のなかにそよぎけり	25	秋	天文	月	
1530	月の影一寸法師も憎からず	25	秋	天文	月	
1531	月の露吸ふて蟲なく夕哉	25	秋	天文	月	
1532	月の日やそろそろ暗き空模様	25	秋	天文	月	
1533	月よりも空うつくしきこよひ哉	25	秋	天文	月	
1534	出かければ頭押へつ月の雲	25	秋	天文	月	
1535	時は秋月にや老を契られし	25	秋	天文	月	
1536	墓へ来て見ればさえけり杉の月	25	秋	天文	月	
1537	箱根路やぬれぬれしたる晝の月	25	秋	天文	月	
1538	花の都切又月の田舎哉	25	秋	天文	月	
1539	晴れ過ぎて月に哀はなかりけり	25	秋	天文	月	
1540	踏み出ては月に鳴く也萩の鹿	25	秋	天文	月	
1541	干網の風なまくさし浦の月	25	秋	天文	月	
1542	松風をはなれて高し秋の月	25	秋	天文	月	
1543	松原を横にはひ行く月も哉	25	秋	天文	月	
1544	目にさわるものなし月の隅田河	25	秋	天文	月	
1545	養老の月を李白にのませはや	25	秋	天文	月	
1546	破れ笠月にさわりはなかりけり	25	秋	天文	月	
1547	よひよひに月みちたらぬ思ひ哉	25	秋	天文	月	
1548	雨少し月はれて山すさましき	26	秋	天文	月	
1549	石山や駒のりすてし月の門	26	秋	天文	月	
1550	海原や松にもつかず秋の月	26	秋	天文	月	
1551	風吹て月冴わたる木立哉	26	秋	天文	月	
1552	桂男うぶ聲高し月の秋	26	秋	天文	月	
1553	雲の間にほのめく月や嶋一つ	26	秋	天文	月	
1554	廓の月奥の二階のさわぎ哉	26	秋	天文	月	
1555	黒雲の晴れて見たれば月もなし	26	秋	天文	月	
1556	この國は日も善い月も善い處	26	秋	天文	月	
1557	鯉はねて月のさゝ波つくりけり	26	秋	天文	月	
1558	三人の一人は月をせがひかな	26	秋	天文	月	
1559	塩汲は去て人なし桶の月	26	秋	天文	月	
1560	素麵の瀧に李白の月見せよ	26	秋	天文	月	
1561	月青しくれ行く山の杉木立	26	秋	天文	月	
1562	月青し杉の木の間の閻魔堂	26	秋	天文	月	
1563	月暗し河岸は闇路の小提灯	26	秋	天文	月	
1564	月こぼす水のはしりや竹筵	26	秋	天文	月	
1565	月さすや留守になつたる燕の巢	26	秋	天文	月	

1566	月高し秋は八百二の都城	26	秋	天文	月	
1567	月に閉ぢて窓や書讀む影法師	26	秋	天文	月	
1568	月満ちて小豆の飯に芋一串	26	秋	天文	月	
1569	爪びきの一人更けたり窓の月	26	秋	天文	月	
1570	罪なくて配所の月とうたひけり	26	秋	天文	月	
1571	杖を投げて橋となさばや水の月	26	秋	天文	月	
1572	日西に晴れ月は東に曇りけり	26	秋	天文	月	
1573	琵琶冴て蟬丸月を聞く夜哉	26	秋	天文	月	
1574	鼻の眼玉も見えず杉の月	26	秋	天文	月	
1575	葡萄の美酒夜光の杯や唐の月	26	秋	天文	月	
1576	ふたまたに月の流るゝ野川哉	26	秋	天文	月	
1577	書よむや燈にとぞす月の窓	26	秋	天文	月	
1578	松風や月の障子に法の影	26	秋	天文	月	
1579	水の月杖ふりあげて打たんとす	26	秋	天文	月	
1580	山高く月小にして人舟にあり	26	秋	天文	月	
1581	樂書の佛と見えぬ法の月	26	秋	天文	月	
1582	犬吠えて月傾きぬ天王寺	27	秋	天文	月	
1583	芋阪も團子も月のゆかりかな	27	秋	天文	月	
1584	薄月も更けぬ御格子参らせよ	27	秋	天文	月	
1585	大海原月眞丸に浮ひけり	27	秋	天文	月	
1586	祇王寺の月に何泣く經罷めて	27	秋	天文	月	
1587	城跡や月に黒きは何の糞	27	秋	天文	月	
1588	杉暗し月にこぼるゝ井戸の水	27	秋	天文	月	
1589	月千里馬上に小手をかざしけり	27	秋	天文	月	
1590	月高く樹にあり下は水の音	27	秋	天文	月	
1591	月の根岸闇の谷中や別れ道	27	秋	天文	月	
1592	月の舟鋸山の齒の上に	27	秋	天文	月	
1593	月更けてさゝ波つくる魚もなし	27	秋	天文	月	
1594	月更けて東坡の舟の流れけり	27	秋	天文	月	
1595	月や今かゝれり松の第三枝	27	秋	天文	月	
1596	野に山に進むや月の三萬騎	27	秋	天文	月	
1597	砲やんで月腥し山の上	27	秋	天文	月	
1598	橋に倚れば月に流るゝ舟一つ	27	秋	天文	月	
1599	船沈みてあら波月を碎くかな	27	秋	天文	月	
1600	星もなし月は長月十四日	27	秋	天文	月	
1601	山姥や月戀ふ山の山めぐり	27	秋	天文	月	
1602	空城や人なき月に汐の音	28	秋	天文	月	
1603	藍色の海の上なり須磨の月	28	秋	天文	月	
1604	家孤なり月落ちかゝる草の上	28	秋	天文	月	
1605	觀念の月晴れにけり我一人	28	秋	天文	月	
1606	更科や月に落合ふ僧二人	28	秋	天文	月	
1607	精進のこよひに落ちて月の客	28	秋	天文	月	
1608	社壇百級秋の月へと上る人	28	秋	天文	月	
1609	月暗し一筋白き海の上	28	秋	天文	月	
1610	月芒拂子線香禪坊主	28	秋	天文	月	
1611	月高し登りつめたる山の上	28	秋	天文	月	
1612	月に問へ東坡いづくにか去りしと	28	秋	天文	月	
1613	月の座や人さまさまの影法師	28	秋	天文	月	
1614	月眞丸船のへさきに上りけり	28	秋	天文	月	
1615	鶴鳴いて月の都を思ふかな	28	秋	天文	月	
1616	橋の月誰人柱泣く夜かな	28	秋	天文	月	
1617	はつきりと月現れぬ寺の上	28	秋	天文	月	
1618	日と月の睨みあひけり西東	28	秋	天文	月	
1619	笛の音に月落ちかゝる岩哉	28	秋	天文	月	

1620	渺々と沙漠のはてや月一つ	28	秋	天文	月	
1621	武藏野や大きく出たる晝の月	28	秋	天文	月	
1622	武藏野や大きく残る晝の月	28	秋	天文	月	
1623	山既に月吐くべきけしき哉	28	秋	天文	月	
1624	夕榮やだまつて出たる峰の月	28	秋	天文	月	
1625	荒和布くふてつれつれを泣く嶋の月	29	秋	天文	月	
1626	青空やひろひろとして月一つ	29	秋	天文	月	
1627	うかうかと藪陰行けば月の露	29	秋	天文	月	
1628	雨氣濛濛月薄く森静かなり	29	秋	天文	月	
1629	雨後の月するとき雲のかすめけり	29	秋	天文	月	
1630	薄雲は月のうしろを通りけり	29	秋	天文	月	
1631	薄月や人の影さす遣戸口	29	秋	天文	月	
1632	鐘を撞く坊主見えけり杉の月	29	秋	天文	月	
1633	歸り路は話に更けて月もなし	29	秋	天文	月	
1634	甲板に異國の月ともなかりけり	29	秋	天文	月	
1635	君が來る月の小道を見てやらん	29	秋	天文	月	
1636	洪水多き年を二夜の月晴れたり	29	秋	天文	月	
1637	慕僧慕を打ち詩僧詩を吟ず月	29	秋	天文	月	
1638	山河古りていくさの跡の月凄し	29	秋	天文	月	
1639	村會に月のさしこむ役場哉	29	秋	天文	月	
1640	瀧の月散るや毛穴に風起る	29	秋	天文	月	
1641	立ち聞くや琵琶の祕曲を門の月	29	秋	天文	月	
1642	立てかけし杉の丸太や市の月	29	秋	天文	月	
1643	月ある夜鋸山に登りけり	29	秋	天文	月	
1644	月落つる阜頭場の外の果もなし	29	秋	天文	月	
1645	月さすや几帳の上の眉許り	29	秋	天文	月	
1646	月に來よと只さりげなく書き送る	29	秋	天文	月	
1647	月一つ我舟ゆらりゆらり行く	29	秋	天文	月	
1648	月満円軒絶えてこゝに二百年	29	秋	天文	月	
1649	日蝕に朔日の月そ見られける	29	秋	天文	月	
1650	日蝕に満月の裏ぞ見られける	29	秋	天文	月	
1651	墓原や月に詩うたふ聲聞ゆ	29	秋	天文	月	
1652	引網や渚の月に雑魚分つ	29	秋	天文	月	
1653	日と月とかさなりあふて晝暗し	29	秋	天文	月	
1654	病牀に八日の月を見得たり	29	秋	天文	月	
1655	貧に誇る我に月の如き寶珠あり	29	秋	天文	月	
1656	武藏野や月大空のたゞ中に	29	秋	天文	月	
1657	山陰や月さす水の底暗し	29	秋	天文	月	
1658	山の池月取る猿も來ざりけり	29	秋	天文	月	
1659	吾に爵位なし月中の桂手折るべく	29	秋	天文	月	
1660	岡の邊や鳥飛んで月見えかゝる	29	秋	天文	月	
1661	岩崎のうしろを通る堀の月	30	秋	天文	月	
1662	岩崎の横町淋しき堀の月	30	秋	天文	月	
1663	かしの月誠がましき契哉	30	秋	天文	月	
1664	過去の月は没し未來の月は出でず	30	秋	天文	月	
1665	檄を舂し終りて月の江に嘯く	30	秋	天文	月	
1666	鮭と鯡と故郷語る武庫の月	30	秋	天文	月	
1667	更科や旅人見ゆる十日月	30	秋	天文	月	
1668	酒保閉て灯戸を漏る城の月	30	秋	天文	月	
1669	書に見ゆる長者が跡や草の月	30	秋	天文	月	
1670	書に見ゆる長者の跡や草の月	30	秋	天文	月	
1671	翠帳にさしたる月や畑の上	30	秋	天文	月	
1672	誰やらの後姿や廓の月	30	秋	天文	月	
1673	月一輪星無數空緑なり	30	秋	天文	月	

1674	月天心笛吹て阪を上りけり	30	秋	天文	月	
1675	手のものを取落しけり水の月	30	秋	天文	月	
1676	半月に狼吼えて雲けはし	30	秋	天文	月	
1677	半月や狼吼えて雲かゝる	30	秋	天文	月	
1678	半月や狼吼えて雲けはし	30	秋	天文	月	
1679	人の庭のものとはなりぬ月の松	30	秋	天文	月	
1680	目の下に月の唐崎堅田かな	30	秋	天文	月	
1681	淀にそゝぐ發句のあまり月の鯉	30	秋	天文	月	
1682	女窓に泣き夫馬上に思ふ月	30	秋	天文	月	
1683	崖上る月の歩みや夜は静	31	秋	天文	月	
1684	鎌倉や畠の上の月一つ	31	秋	天文	月	
1685	汽車に馴れて濱名の月を眠りけり	31	秋	天文	月	
1686	木の蔭に酒飲んで居る月の人	31	秋	天文	月	
1687	酒載せて月にたゝよふ小舟哉	31	秋	天文	月	
1688	山すだまに木魅答へて杉の月	31	秋	天文	月	すだま<鬼+肖>
1689	石塔に月漏る杉の小道哉	31	秋	天文	月	
1690	たはれ男の琴の音すなり門の月	31	秋	天文	月	
1691	月さすや暮を打つ人のうしろ迄	31	秋	天文	月	
1692	月の雲木の葉動かぬ雨氣哉	31	秋	天文	月	
1693	月の琵琶壁のやもりも出でゝ聴け	31	秋	天文	月	
1694	月更くる庭の小草や酒の露	31	秋	天文	月	
1695	月見ゆる瀧見ゆる宿をえらびけり	31	秋	天文	月	
1696	ところどころ月漏る森の小道哉	31	秋	天文	月	
1697	長刀の影も更けたり橋の月	31	秋	天文	月	
1698	野の中や只一本の杉の月	31	秋	天文	月	
1699	乗物を舁きこむ月の野寺哉	31	秋	天文	月	
1700	葉隠れの月の光や粉碎す	31	秋	天文	月	
1701	人しばし月に餘念もなかりけり	31	秋	天文	月	
1702	琵琶一曲月は鴨居に隠れけり	31	秋	天文	月	
1703	琵琶冴ゆや桂の花の散る匂ひ	31	秋	天文	月	
1704	笛の音や遠くに見ゆる月の人	31	秋	天文	月	
1705	船を出て月に散歩す遊女町	31	秋	天文	月	
1706	松陰や月待つ人の話聲	31	秋	天文	月	
1707	見送るや酔のさめたる舟の月	31	秋	天文	月	
1708	名物や月の根岸の串團子	31	秋	天文	月	
1709	森にそふて葉隠れ月の小道哉	31	秋	天文	月	
1710	山寺や松ばかりなる庭の月	31	秋	天文	月	
1711	闇百里ぼつちり赤き月の端	31	秋	天文	月	
1712	雨雲の月をかすめし踊哉	32	秋	天文	月	
1713	禪堂や月さし入るゝ鶯	32	秋	天文	月	
1714	俳諧の西の奉行や月の秋	32	秋	天文	月	
1715	笛賣の笛吹く月の夜店哉	32	秋	天文	月	
1716	月の秋興津の借家尋ねけり	33	秋	天文	月	
1717	籠となり虎となり月の雲一片	33	秋	天文	月	
1718	イモウトノ歸り遅サヨ五日月	34	秋	天文	月	
1719	海原や何の苦もなく上る月	21	秋	天文	月の出	
1720	月か出て先は落つくゝろかな	21	秋	天文	月の出	
1721	月の出で先は落ちつくゝろかな	21	秋	天文	月の出	
1722	木の枝を傳ふてはやし出る月	22	秋	天文	月の出	
1723	月の出やまだ坂下は眞のやみ	22	秋	天文	月の出	
1724	我宿にはいりさう也昇る月	23	秋	天文	月の出	
1725	我宿の欄干に月上りけり	23	秋	天文	月の出	
1726	月出んとして鳴り立つる海の音	25	秋	天文	月の出	
1727	月の出にもはや間もなし入日影	25	秋	天文	月の出	

1728	月の出を取りに往かうよ東山	26	秋	天文	月の出	
1729	月の出を松の雲に聞けとこそ	26	秋	天文	月の出	
1730	やすやすと生るゝ月や九十九里	26	秋	天文	月の出	
1731	進め進め角一聲月上りけり	27	秋	天文	月の出	
1732	小式部が月今出でぬと咎しけり	28	秋	天文	月の出	
1733	するすると月昇りけり海の上	28	秋	天文	月の出	
1734	月出でゝ波静まりぬ伊豆の海	28	秋	天文	月の出	
1735	月出るや紀伊と和泉の堺より	28	秋	天文	月の出	
1736	月昇る紀伊と和泉の堺より	28	秋	天文	月の出	
1737	月上る大佛殿の足場かな	28	秋	天文	月の出	
1738	廿日過の月は出でけり松の北	28	秋	天文	月の出	
1739	廿日過の月は出でたり松の北	28	秋	天文	月の出	
1740	山既に月を吐くべきけしき哉	28	秋	天文	月の出	
1741	山丸く大きな月の出でにけり	28	秋	天文	月の出	
1742	讀みさして月が出るなり須磨の巻	28	秋	天文	月の出	
1743	うしろより月升起りけり庭の竹	29	秋	天文	月の出	
1744	嘯けば月あらはるゝ山の上	29	秋	天文	月の出	
1745	旅人や月出て急ぐ瀬田の橋	29	秋	天文	月の出	
1746	月出んとしてさらさらと竹の音	29	秋	天文	月の出	
1747	月森を出るや上野の九時の鐘	29	秋	天文	月の出	
1748	橋杭に大きな月の出たりけり	29	秋	天文	月の出	
1749	もの凄き月上りけり背戸の山	29	秋	天文	月の出	
1750	崖上に鹿立ち崖下に月升る	30	秋	天文	月の出	
1751	琴取つて弾ずれば月山を出づ	30	秋	天文	月の出	
1752	琴を取つて弾ずれば月山を出づ	30	秋	天文	月の出	
1753	月上る焼野に物の黒き立つ	30	秋	天文	月の出	
1754	月白も無くて月出る野未哉	31	秋	天文	月の出	
1755	月の出を斯う見よと坊は建てたらん	31	秋	天文	月の出	
1756	月の出をのゝしる聲や岡の上	31	秋	天文	月の出	
1757	月の出をのゝしる聲や崖の人	31	秋	天文	月の出	
1758	静かさや月白上る森の上	29	秋	天文	月白	
1759	月白や四五本竝ぶ岡の松	29	秋	天文	月白	
1760	月白や闇ちらちらと波がしら	29	秋	天文	月白	
1761	紅葉から二町はなれて夕月夜	23	秋	天文	夕月	
1762	夕月のやゝふくれけり七八日	24	秋	天文	夕月	
1763	夕月に萩ある門を叩きけり	25	秋	天文	夕月	
1764	夕月や笠きて歸る渡し守	25	秋	天文	夕月	
1765	夕月や何やら跳る海の面	25	秋	天文	夕月	
1766	夕月夜萩ある門を叩きけり	25	秋	天文	夕月	
1767	宵月やふすまにならぶ影法師	25	秋	天文	夕月	
1768	淋しさや雁も渡らぬ夕月夜	26	秋	天文	夕月	
1769	馬子遅し兒待つ門の夕月夜	26	秋	天文	夕月	
1770	夕月に深田の蛙聲悲し	26	秋	天文	夕月	
1771	夕月は餘りに長し瀬田の橋	26	秋	天文	夕月	
1772	夕月は落ちて灯を吹く夜風哉	26	秋	天文	夕月	
1773	夕月や車のりこむ大曲り	26	秋	天文	夕月	
1774	夕月やけふる港のかゝり船	26	秋	天文	夕月	
1775	竹椽にこほろぎ飛ぶや夕月夜	27	秋	天文	夕月	こほろぎ<虫+車>
1776	夕月をうしろに入れて杉の森	27	秋	天文	夕月	
1777	夕月や上に城ある崖の下	28	秋	天文	夕月	
1778	夕月や松影落つる坐禪堂	28	秋	天文	夕月	
1779	夕月や怒濤岩をうつつ女立つ	29	秋	天文	夕月	
1780	夕月や又此宿も酒わるし	29	秋	天文	夕月	
1781	夕月や蜈蚣這ひ出る庵の壁	29	秋	天文	夕月	

1782	夕月や蜈蚣這ひ居る庵の壁	29	秋	天文	夕月	
1783	夕月や藻に腹かへす桶の鮒	29	秋	天文	夕月	
1784	夕月や内陣に人の籠る音	30	秋	天文	夕月	
1785	宵月夜狐は化る支度哉	31	秋	天文	夕月	
1786	瓜小屋にひとり肌ぬぐ月夜哉	23	秋	天文	月夜	
1787	月の夜やくしやみあくびで歸る客	23	秋	天文	月夜	
1788	ある月夜路通惟然に語るらく	25	秋	天文	月夜	
1789	ある月夜惟然路通に語るらく	25	秋	天文	月夜	
1790	飼ひ鶴の行きつ戻りつ月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1791	くる蟲のみな鳴きたつる月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1792	子をつれて犬の出あるく月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1793	白茨の風にからめく月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1794	石菖に雫の白し初月夜	25	秋	天文	月夜	
1795	誰やらがかなしといひし月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1796	とりまいて鹿なき立つる月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1797	花姫の白をころがす月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1798	閉門の御簾吹きかへす月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1799	松一ツツ影もつ月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1800	舞ふふくべ躍るふくべや薄月夜	25	秋	天文	月夜	
1801	眞帆片帆瀬戸に重なる月夜哉	25	秋	天文	月夜	
1802	見直せは富士ひとり白し初月夜	25	秋	天文	月夜	
1803	ある夜月あきらかに龍の躍りかな	26	秋	天文	月夜	
1804	稻妻の雲をはなれぬ月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1805	牛歸る田中の杜の月夜かな	26	秋	天文	月夜	
1806	覺束な卯の花垣の薄月夜	26	秋	天文	月夜	
1807	大門を出でて隅田の月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1808	風吹てさゝ波ひかる月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1809	琴の音のなくて淋しき月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1810	行きくれて大根畑の月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1811	鎧着て衆徒のならばし月夜哉	26	秋	天文	月夜	
1812	一行に画かきもまじる月夜かな	27	秋	天文	月夜	
1813	海更けて九日頃の月夜かな	27	秋	天文	月夜	
1814	大船のどこに中鳴く月夜哉	27	秋	天文	月夜	
1815	から駕の岨道戻る月夜かな	27	秋	天文	月夜	
1816	松影の障子這ひ行く月夜哉	27	秋	天文	月夜	
1817	礎を尋ねてまはる月夜哉	28	秋	天文	月夜	
1818	下駄の音外は月夜と覺えたり	28	秋	天文	月夜	
1819	鯉はねて池の面暗き月夜哉	28	秋	天文	月夜	
1820	須磨の海の西に流れて月夜哉	28	秋	天文	月夜	
1821	寺々に秋行く奈良の月夜かな	28	秋	天文	月夜	
1822	本陣の門靜かなる薄月夜	28	秋	天文	月夜	
1823	溝川の泥鰌泡ふく月夜哉	28	秋	天文	月夜	
1824	藁葺の家に宿借る月夜哉	28	秋	天文	月夜	
1825	裏山の茶畠ありく月夜かな	29	秋	天文	月夜	
1826	妙法も阿彌陀も照せ南無月夜	29	秋	天文	月夜	
1827	川上は花火にうとき月夜哉	30	秋	天文	月夜	
1828	莊院に棒を教ふる月夜哉	30	秋	天文	月夜	
1829	千本の帆柱動く月夜かな	30	秋	天文	月夜	
1830	千本の帆柱ゆれる月夜哉	30	秋	天文	月夜	
1831	海樓に別を惜む月夜哉	31	秋	天文	月夜	
1832	汽車の窓にさしこむ須磨の月夜哉	31	秋	天文	月夜	
1833	暮にまけて厠に行けば月夜哉	31	秋	天文	月夜	
1834	棧橋に別を惜む月夜哉	31	秋	天文	月夜	
1835	稻妻の遠くに光る月夜かな	32	秋	天文	月夜	

1836	莊院に棒つかひ居る月夜かな	33	秋	天文	月夜	
1837	薄より萱より細し二日月	24	秋	天文	二日月	
1838	あら波や二日の月を捲いて去る	28	秋	天文	二日月	
1839	月ならば二日の月とあきらめよ	28	秋	天文	二日月	
1840	武藏野や鳥啼いて二日月細し	28	秋	天文	二日月	
1841	行燈のとゞかぬ松や三日の月	24	秋	天文	三日月	
1842	空あひのはつきり暮れて三日の月	24	秋	天文	三日月	
1843	竝松はまばらまばらや三日の月	24	秋	天文	三日月	
1844	はつとちる千鳥にあとや三日の月	24	秋	天文	三日月	
1845	はつとちる千鳥は遠し三日の月	24	秋	天文	三日月	
1846	はつとちる千鳥は見えず三日の月	24	秋	天文	三日月	
1847	ふじ一つくれ残りけり三日の月	24	秋	天文	三日月	
1848	三日月はたゞ明月のつぼみ哉	24	秋	天文	三日月	
1849	むら千鳥二ツにわれて三日の月	24	秋	天文	三日月	
1850	傘の端に三日月かゝる晴間哉	25	秋	天文	三日月	
1851	かはほりや三日月つゞく竿の先	25	秋	天文	三日月	
1852	見あげたる蝙蝠消て三日の月	25	秋	天文	三日月	
1853	三日月の悲しく消る不盡の山	25	秋	天文	三日月	
1854	象潟や山低うして三日の月	26	秋	天文	三日月	
1855	はたごやの思はぬ窓よ三日の月	26	秋	天文	三日月	
1856	吹き入れて尾花に暗し三日の月	26	秋	天文	三日月	
1857	三日月やはつれはつれの水車	26	秋	天文	三日月	
1858	むさしのや細く涼しき三日の月	26	秋	天文	三日月	
1859	妙義峨々と聳えて三日の月細し	26	秋	天文	三日月	
1860	大波を打ちかぶせけり三日の月	27	秋	天文	三日月	
1861	烏寐て木の間に細し三日の月	27	秋	天文	三日月	
1862	大木の低き枝なし三日の月	27	秋	天文	三日月	
1863	猪牙舟の忽ち遠し三日の月	27	秋	天文	三日月	
1864	波のほの三日月消ゆる嵐かな	27	秋	天文	三日月	
1865	夕虹やきらりきらりと三日の月	27	秋	天文	三日月	
1866	夕栄やきらりきらりと三日の月	27	秋	天文	三日月	
1867	夕焼やきらりきらりと三日の月	27	秋	天文	三日月	
1868	山寺や足下雲晴れて三日の月	28	秋	天文	三日月	
1869	大船の帆を落しけり三日の月	29	秋	天文	三日月	
1870	小娘の萩に隠れて三日の月	29	秋	天文	三日月	
1871	城壁の崩れしところ三日の月	29	秋	天文	三日月	
1872	所化二人鐘撞きならふ三日の月	29	秋	天文	三日月	
1873	空晴れて三日月寒し櫂の上	29	秋	天文	三日月	
1874	日蝕の三日月程に残りけり	29	秋	天文	三日月	
1875	三日月にちらりと物の落ちにけり	29	秋	天文	三日月	
1876	夕風や三日月見ゆる船の窓	29	秋	天文	三日月	
1877	どの松にかけてながめんあすの月	25	秋	天文	明日の月	
1878	かげることなき世に見るやけふの月	23	秋	天文	今日の月	
1879	日は西におしこまれけりけふの月	24	秋	天文	今日の月	
1880	雨に寐て夢にはれけり今日の月	25	秋	天文	今日の月	
1881	雨に寐て夢にはれたりけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1882	海原にどこ行く雁そけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1883	江の嶋八龜になりけりけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1884	江の嶋は龜になれなれけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1885	恐ろしき灘から出たりけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1886	大空の眞ツたゞ中やけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1887	傘張の願ひも同じけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1888	鎌倉に波のよる見ゆけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1889	北窓へさゝぬばかりそけふの月	25	秋	天文	今日の月	

1890	黒雲やわれめわれめのけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1891	傾城に歌よむはなしけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1892	けふの月人を寐かして晴れにけり	25	秋	天文	今日の月	
1893	けふの月三日月にして二つ出よ	25	秋	天文	今日の月	
1894	西行はどこで歌よむけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1895	玉になる石もあるらんけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1896	陣笠に鶴の紋ありけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1897	とうつとうつと静まれ雲よけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1898	どの松にかけてながめんけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1899	松を隅に一天晴れたりけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1900	琉球も蝦夷もはれたりけふの月	25	秋	天文	今日の月	
1901	あすの月きのふの月の中にけふ	26	秋	天文	今日の月	
1902	ありく丈の庭は持ちけりけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1903	ありく程の庭は持ちけりけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1904	いが栗のはぢける音やけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1905	一寸の草に影ありけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1906	麩する門叩かばや今日の月	26	秋	天文	今日の月	
1907	芋女團子男をけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1908	浮草に泥鰌も浮きぬけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1909	鐘つかば唐へひゞかんけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1910	けふの月見るや箱根に腰かけて	26	秋	天文	今日の月	
1911	更科の人家は寐たりけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1912	月こよひ脊は三五五文	26	秋	天文	今日の月	
1913	月こよひ山より海をながめけり	26	秋	天文	今日の月	
1914	なまじひに降りも出ださぬ今宵哉	26	秋	天文	今日の月	
1915	はたごやのすゝけ行燈やけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1916	花よめの恥かしがるやけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1917	晩鐘の聲の上よりけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1918	賓頭留の目鼻もなしにけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1919	梟は果報な鳥よけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1920	松嶋を目に浮べ見んけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1921	都にはともしの山やけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1922	病む人の思ひをくもるけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1923	雪の富士花の芳野もけふの月	26	秋	天文	今日の月	
1924	我戀は闇を尋ぬるこよひ哉	26	秋	天文	今日の月	
1925	韓に見よ日本を出づる今日の月	27	秋	天文	今日の月	
1926	今日の月きのひの月となかめけり	27	秋	天文	今日の月	
1927	今日の月櫻が下に餅を煮る	27	秋	天文	今日の月	
1928	薪賣て干魚にかへん今日の月	27	秋	天文	今日の月	
1929	新立や橋の下よりけふの月	28	秋	天文	今日の月	
1930	空に満つる露の中よりけふの月	28	秋	天文	今日の月	
1931	漫々たる海のはてよりけふの月	28	秋	天文	今日の月	
1932	芋阪の團子屋寐たりけふの月	30	秋	天文	今日の月	
1933	總門は錠のさゝれて今日の月	32	秋	天文	今日の月	
1934	名月の出るやゆらめく花薄	20	秋	天文	名月	
1935	明月や山から見れば三千里	22	秋	天文	名月	
1936	明月は瀬田から膳所へ流れけり	23	秋	天文	名月	
1937	明月や勢田から膳所へ流れ行く	23	秋	天文	名月	
1938	名月や湖水の中に舟一つ	23	秋	天文	名月	
1939	名月や角田川原に吾一人	23	秋	天文	名月	
1940	名月やともし火白く犬黒し	23	秋	天文	名月	
1941	名月や美人の顔の片あかり	23	秋	天文	名月	
1942	名月や我舟一ツ湖の中	23	秋	天文	名月	
1943	名月に三平殿の齒糞哉	24	秋	天文	名月	

1944	明月はこよひなりけりくもるとも	24	秋	天文	名月	
1945	名月や白魚店のあとやこゝ	24	秋	天文	名月	
1946	名月や叩かば散らん萩の門	24	秋	天文	名月	
1947	名月や松に音ある一軒家	24	秋	天文	名月	
1948	名月に後むいたるかゝしかな	25	秋	天文	名月	
1949	名月にうなつきあふや稲の花	25	秋	天文	名月	
1950	明月に波の音見るゑくぼ哉	25	秋	天文	名月	
1951	名月に白砂玉とも見ゆるかな	25	秋	天文	名月	
1952	名月に鑢錢ひろふ小供かな	25	秋	天文	名月	
1953	名月に馬子と漁師の出合哉	25	秋	天文	名月	
1954	名月のうしろに高し箱根山	25	秋	天文	名月	
1955	明月の思ひきつたる光かな	25	秋	天文	名月	
1956	名月のこよひに死ぬる秋の蚊か	25	秋	天文	名月	
1957	名月の空に江嶋の琵琶聞ん	25	秋	天文	名月	
1958	明月の露にぬれたり淡路嶋	25	秋	天文	名月	
1959	明月の中に何やら踊りけり	25	秋	天文	名月	
1960	名月の一夜に肥ゆる鱸哉	25	秋	天文	名月	
1961	名月の一夜に萩の老にけり	25	秋	天文	名月	
1962	名月の道に茶碗のかけ白し	25	秋	天文	名月	
1963	名月はどこでながめん草枕	25	秋	天文	名月	
1964	名月へかゝれば遅し雲の脚	25	秋	天文	名月	
1965	名月も心盡しの雲間哉	25	秋	天文	名月	
1966	名月や芋ぬすませる罪深し	25	秋	天文	名月	
1967	名月や伊豫の松山一萬戸	25	秋	天文	名月	
1968	名月や鯛もうかぶ海の上	25	秋	天文	名月	
1969	名月やうしろへまはる風の聲	25	秋	天文	名月	
1970	名月やうしろむいたる石佛	25	秋	天文	名月	
1971	名月や生れ落ちての薦被り	25	秋	天文	名月	
1972	名月や大海原は塵もなし	25	秋	天文	名月	
1973	明月や面白さうな波の音	25	秋	天文	名月	
1974	明月や思ふところに捨小舟	25	秋	天文	名月	
1975	名月や菊の御紋の丸瓦	25	秋	天文	名月	
1976	名月や小磯は砂のよい處	25	秋	天文	名月	
1977	名月や小牛のやうな沖の岩	25	秋	天文	名月	
1978	名月や汐に追はるゝ磯傳ひ	25	秋	天文	名月	
1979	名月や知らずにはいる人の背戸	25	秋	天文	名月	
1980	名月やすたすたありく芋畑	25	秋	天文	名月	
1981	明月やすつでのことで寐る處	25	秋	天文	名月	
1982	明月や背中合せの松のあひ	25	秋	天文	名月	
1983	名月やそらに雲のすきもなし	25	秋	天文	名月	
1984	名月やそりやこそ雲の大かたまり	25	秋	天文	名月	
1985	名月や竹も光明かくや姫	25	秋	天文	名月	
1986	名月や田毎に月の五六十	25	秋	天文	名月	
1987	名月や谷の底なる話し聲	25	秋	天文	名月	
1988	名月や誰やらありく浪の際	25	秋	天文	名月	
1989	名月や露こしらへる芋の上	25	秋	天文	名月	
1990	名月や鶴ののつたる捨小船	25	秋	天文	名月	
1991	名月やどちらを見ても松許り	25	秋	天文	名月	
1992	名月やどの松見ても松見ても	25	秋	天文	名月	
1993	明月やとびはなれたる星一ツ	25	秋	天文	名月	
1994	名月や何やらうたふ海士か家	25	秋	天文	名月	
1995	名月や何やら踊る海の面	25	秋	天文	名月	
1996	名月や何をせむしの物思ひ	25	秋	天文	名月	
1997	名月や彷彿としてつくは山	25	秋	天文	名月	

1998	名月や人の命の五十年	25	秋	天文	名月	
1999	名月や晝より廣き相模灘	25	秋	天文	名月	
2000	名月や不二を目かけて鳥一羽	25	秋	天文	名月	
2001	名月や不二をめぐつて虫の聲	25	秋	天文	名月	
2002	名月や松にわるいといふはなし	25	秋	天文	名月	
2003	名月や松を離れて風の聲	25	秋	天文	名月	
2004	名月や眞向に立ちし鹿の形	25	秋	天文	名月	
2005	名月や雌浪雄浪の打ち合せ	25	秋	天文	名月	
2006	名月や雌松雄松の間より	25	秋	天文	名月	
2007	名月やもう一いきで雲の外	25	秋	天文	名月	
2008	明月や山かけのぼる白うさぎ	25	秋	天文	名月	
2009	名月や闇をだきこむ松一ツ	25	秋	天文	名月	
2010	名月や闇をはひ出る虫の聲	25	秋	天文	名月	
2011	名月や横へいざらば雲もなし	25	秋	天文	名月	
2012	明月や雄浪雌浪の打ち合せ	25	秋	天文	名月	
2013	名月や雄波雌波の打ちがひ	25	秋	天文	名月	
2014	明月を邪魔せぬ松のくねり哉	25	秋	天文	名月	
2015	名月を山でやほめん野でや見ん	25	秋	天文	名月	
2016	我宿の名月芋の露にあり	25	秋	天文	名月	
2017	酒も汁も膳は名月だらけ哉	26	秋	天文	名月	
2018	年とはゞ名月の數をこたへばや	26	秋	天文	名月	
2019	はたごやの名月雨戸しめられぬ	26	秋	天文	名月	
2020	名月に行燈の影のうつりけり	26	秋	天文	名月	
2021	名月に思ふことあり我一人	26	秋	天文	名月	
2022	名月に茶を飲む家を尋ねばや	26	秋	天文	名月	
2023	名月に貧女がつゞれのふしま哉	26	秋	天文	名月	
2024	名月の雨に酒のむ一人かな	26	秋	天文	名月	
2025	名月のきのふになりて晴れにけり	26	秋	天文	名月	
2026	名月の小雨となつてしまひけり	26	秋	天文	名月	
2027	名月の障子をとほす光哉	26	秋	天文	名月	
2028	名月の絶えずこぼるゝ筧哉	26	秋	天文	名月	
2029	名月のふけて外行く小唄哉	26	秋	天文	名月	
2030	名月の闇や都の電氣燈	26	秋	天文	名月	
2031	名月は晴れて眠たきさかり哉	26	秋	天文	名月	
2032	名月はまだ山寺の蚊遣哉	26	秋	天文	名月	
2033	名月も共に抱きこむ萩の花	26	秋	天文	名月	
2034	名月やあからさまなる局口	26	秋	天文	名月	
2035	名月やあはれ一こゑの杜宇	26	秋	天文	名月	
2036	名月や雨戸のすきの面白き	26	秋	天文	名月	
2037	名月や牛一匹を闇にして	26	秋	天文	名月	
2038	名月や上野は庵の歸り道	26	秋	天文	名月	
2039	名月や大路小路の京の人	26	秋	天文	名月	
2040	お名月や雲かくるべき隈もなし	26	秋	天文	名月	
2041	名月や櫻の影はものいやし	26	秋	天文	名月	
2042	名月や仙人掌上の玉芙蓉	26	秋	天文	名月	
2043	名月や菘の煙立ち並ぶ	26	秋	天文	名月	
2044	名月や納屋のうしろに人の影	26	秋	天文	名月	
2045	名月や馬子唄歸る松繩手	26	秋	天文	名月	
2046	名月や都大路の馬車	26	秋	天文	名月	
2047	名月や山を下り来るから車	26	秋	天文	名月	
2048	名月や闇のかた行く醫者の駕	26	秋	天文	名月	
2049	名月や連判状の血のにじみ	26	秋	天文	名月	
2050	名月やわれは根岸の四疊半	26	秋	天文	名月	
2051	名月をこぼす雫や車井戸	26	秋	天文	名月	

2052	名月に白粉くさき伽藍かな	27	秋	天文	名月	
2053	名月の大きく出たり海の上	27	秋	天文	名月	
2054	名月の大きく出たり屋根の上	27	秋	天文	名月	
2055	名月のこよひに迫る曇り哉	27	秋	天文	名月	
2056	名月の汐に流され淡路まで	27	秋	天文	名月	
2057	名月の波に浮ぶや大八洲	27	秋	天文	名月	
2058	名月やうかれ出でたる捨小舟	27	秋	天文	名月	
2059	名月や海遠く舟空に在り	27	秋	天文	名月	
2060	名月や白き鳥飛ぶ海の上	27	秋	天文	名月	
2061	名月や小便すべき隈もなし	27	秋	天文	名月	
2062	名月や大佛の影山の如し	27	秋	天文	名月	
2063	名月や人うづくまる石の上	27	秋	天文	名月	
2064	名月や廻りて見する風車	27	秋	天文	名月	
2065	名月や廻りて見せる水車	27	秋	天文	名月	
2066	名月や藪の中行く人の影	27	秋	天文	名月	
2067	名月やわれにどぶろく五合あり	27	秋	天文	名月	
2068	歸るさや此名月に烏啼く	28	秋	天文	名月	
2069	無雑作に名月出たる畠かな	28	秋	天文	名月	
2070	名月の山をはなれて山もなし	28	秋	天文	名月	
2071	名月や雲一ちぎれ二ちぎれ	28	秋	天文	名月	
2072	名月や簀子に竝ふ僧の影	28	秋	天文	名月	
2073	名月や千石船の人ばかり	28	秋	天文	名月	
2074	名月や寺の二階の瓦頭口	28	秋	天文	名月	
2075	名月や鶏鳴いて静かなり	28	秋	天文	名月	
2076	名月や半分出かゝる海の上	28	秋	天文	名月	
2077	名月や半分出たる海の上	28	秋	天文	名月	
2078	名月や半分出たる屋根の上	28	秋	天文	名月	
2079	名月や山にのばれば山の雲	28	秋	天文	名月	
2080	名月や夜明の鐘をつく時は	28	秋	天文	名月	
2081	これ程の名月見たるばかりにて	29	秋	天文	名月	
2082	月見にと門を出づれば月既に	29	秋	天文	名月	
2083	天上に名月ならぬ夜もあらし	29	秋	天文	名月	
2084	明月と我との中を風が吹く	29	秋	天文	名月	
2085	名月の傾かんともせざりけり	29	秋	天文	名月	
2086	名月のこよひ聞かばや鉢叩	29	秋	天文	名月	
2087	名月の心中と世にうたはれん	29	秋	天文	名月	
2088	名月の芒の穂迄上りけり	29	秋	天文	名月	
2089	名月の眞向に立つや崖の上	29	秋	天文	名月	
2090	名月や白馬の殿御野から来る	29	秋	天文	名月	
2091	名月や笛になるべき竹伐らん	29	秋	天文	名月	
2092	名月やます穂の芒風もなし	29	秋	天文	名月	
2093	名月やわが畑の芋畑の豆	29	秋	天文	名月	
2094	夕飯や明月上る膳の上	29	秋	天文	名月	
2095	明月に飛び行く雲の行方哉	30	秋	天文	名月	
2096	明月の波の中より上りけり	30	秋	天文	名月	
2097	名月の盗人どこにひそむらん	30	秋	天文	名月	
2098	明月は障子の外や蟲と鐘	30	秋	天文	名月	
2099	名月や野に面す樓の謠會	30	秋	天文	名月	
2100	吾病て名月晴し恨かな	30	秋	天文	名月	
2101	我病んで名月晴れし恨哉	30	秋	天文	名月	
2102	名月に飛び去る雲の行方哉	31	秋	天文	名月	
2103	明月の今年は遅き芒哉	31	秋	天文	名月	
2104	名月や隣の琴に笛吹かん	31	秋	天文	名月	
2105	明月やともし火見えて遠き森	32	秋	天文	名月	

2106	明月や灯の無き町を通りけり	32	秋	天文	名月	
2107	明月や樅の木高き堀の内	32	秋	天文	名月	
2108	木犀の香や名月は曇りけり	32	秋	天文	名月	
2109	明月ノ豆盗人ヲ照シケリ	34	秋	天文	名月	
2110	明月や枝豆ノ林酒ノ池	34	秋	天文	名月	
2111	大磯へまで来てこよひ月もなし	25	秋	天文	無月	
2112	傘の端のほのかに白し雨の月	25	秋	天文	無月	
2113	月の夜をふつてしまつて闇夜哉	25	秋	天文	無月	
2114	あまつさへ我家はもりぬ月の雨	26	秋	天文	無月	
2115	傘の端に月は出てけり宵の雨	26	秋	天文	無月	
2116	犬吠えて上野の森の月もなし	27	秋	天文	無月	
2117	家四五軒石狩の野の月もなし	28	秋	天文	無月	
2118	其月は雨がかくして名のこよひ	28	秋	天文	無月	
2119	月もなし円通堂の歌の會	28	秋	天文	無月	
2120	月も見えず大きな波の立つことよ	29	秋	天文	無月	
2121	雨多き秋や月見も雨にして	32	秋	天文	無月	
2122	雨多き年や月見も雨にして	32	秋	天文	無月	
2123	句を案ず蒲團の中や月の雨	32	秋	天文	無月	
2124	月の雨團子を喰ふて將棊哉	32	秋	天文	無月	
2125	月の雨天氣豫報のあたりけり	32	秋	天文	無月	
2126	名月も十六夜も皆雨にして	32	秋	天文	無月	
2127	十三四五六七夜月ナカリケリ	34	秋	天文	無月	
2128	あけの月迂りこんたりまつち山	21	秋	天文	有明	
2129	山の端に輕うのせけりあけの月	21	秋	天文	有明	
2130	有明の四條を渡る白拍子	26	秋	天文	有明	
2131	有明の月靜かなり最上河	26	秋	天文	有明	
2132	有明の落ちて周防の山遠し	28	秋	天文	有明	
2133	有明に鬼と狐の別哉	31	秋	天文	有明	
2134	いざよひといふまで寐たる月見哉	24	秋	天文	十六夜	
2135	いざよひの闇とゞかずよ不二の山	24	秋	天文	十六夜	
2136	不知よひの闇のせてたつ鳴の聲	24	秋	天文	十六夜	
2137	十六夜の闇をつなぐや野守の火	24	秋	天文	十六夜	
2138	十六夜や海にはたらぬほどのやみ	24	秋	天文	十六夜	
2139	十六夜の山はかはるや月の道	25	秋	天文	十六夜	
2140	十六夜の闇の底なり莊園寺	25	秋	天文	十六夜	
2141	十六夜は待宵程に晴にけり	25	秋	天文	十六夜	
2142	十六夜や出て後何の事もなし	25	秋	天文	十六夜	
2143	十六夜や尾上の鹿に月のさす	25	秋	天文	十六夜	
2144	十六夜は知らぬ方にて茶漬哉	26	秋	天文	十六夜	
2145	社を出れば十六宵の月上りけり	26	秋	天文	十六夜	
2146	それ丸や十六宵の闇を飛びめぐる	27	秋	天文	十六夜	
2147	又晴れて十六夜をたゞまうけ物	27	秋	天文	十六夜	
2148	十六夜や月におくるゝ迎ひ船	28	秋	天文	十六夜	
2149	十六夜や又酒のみの言ひ草に	28	秋	天文	十六夜	
2150	月二夜三夜さめにはや曇りけり	28	秋	天文	十六夜	
2151	月円し名は十六夜とかはりけり	28	秋	天文	十六夜	
2152	立待やうしろむいたる其ひまに	25	秋	天文	立待月	
2153	待宵に月見る處定めけり	25	秋	天文	立待月	
2154	待宵の晴れ過ぎて扱あした哉	25	秋	天文	立待月	
2155	待宵や出しぬかれたる月のてり	25	秋	天文	立待月	
2156	待宵や夕餉の膳に松の月	25	秋	天文	立待月	
2157	待宵のくもらばくもれ箱根山	26	秋	天文	立待月	
2158	待宵の猶たのもしや月の缺	26	秋	天文	立待月	
2159	待宵の猶たのもしや月の出	26	秋	天文	立待月	

2160	待宵や降ても晴ても面白き	26	秋	天文	立待月	
2161	待宵をなどてや人の狂はざる	26	秋	天文	立待月	
2162	待宵をにくらし誰の高髯	26	秋	天文	立待月	
2163	辻君の辻に立待月夜かな	28	秋	天文	立待月	
2164	待宵や十日の雨は晴れにけり	28	秋	天文	立待月	
2165	待宵を見たりあしたはなくもがな	28	秋	天文	立待月	
2166	立待の闇の話や五六人	31	秋	天文	立待月	
2167	月待つや去年をとゝしの月を話す	31	秋	天文	立待月	
2168	月を待つ闇たのもしき野の廣さ	31	秋	天文	立待月	
2169	宵闇や野風吹くる草の音	31	秋	天文	立待月	
2170	宵闇や灯二つ見ゆる三河島	31	秋	天文	立待月	
2171	秋老て九月の月の皴寒し	26	秋	天文	九月の月	
2172	年もはや六十の月の名残哉	26	秋	天文	九月の月	
2173	日本の都に住んで十三夜	26	秋	天文	十三夜	
2174	酒盛らん月なくも夜は十三夜	27	秋	天文	十三夜	
2175	汽車の月後にて聞けば十三夜	28	秋	天文	十三夜	
2176	繰りあぐる満月會や十三夜	33	秋	天文	十三夜	
2177	たなびくは芋屋の煙後の月	24	秋	天文	後の月	
2178	こんばすのつかひつらいや後の月	25	秋	天文	後の月	
2179	砥部焼の茶碗ひづむや後の月	25	秋	天文	後の月	
2180	晴れすきて白みづきたる後の月	25	秋	天文	後の月	
2181	冷酒を飲み過しけり後の月	25	秋	天文	後の月	
2182	丸池に少しかどあり後の月	25	秋	天文	後の月	
2183	明方のわつかの闇や後の月	26	秋	天文	後の月	
2184	更科はやゝ物すごし後の月	26	秋	天文	後の月	
2185	葉まばらに柚子あらはるゝ後の月	26	秋	天文	後の月	
2186	後の月足柄山で明けにけり	28	秋	天文	後の月	
2187	我國に日蓮ありて後の月	28	秋	天文	後の月	
2188	風空を吹き松地に印す後の月	29	秋	天文	後の月	
2189	後の月薄の白髪けづりあへず	29	秋	天文	後の月	
2190	後の月つくねんとして庵にあり	29	秋	天文	後の月	
2191	晴れ過ぎて風になりけり後の月	29	秋	天文	後の月	
2192	世の人に忘れられけり後の月	29	秋	天文	後の月	
2193	われ今年はじめて見たり後の月	29	秋	天文	後の月	
2194	仲秋の韻を疊むや後の月	33	秋	天文	後の月	
2195	朝霧の中に九段のともし哉	18	秋	天文	霧	
2196	遠方のともし動かず霧の中	18	秋	天文	霧	
2197	朝霧の晴れかゝりけり塔のさき	21	秋	天文	霧	
2198	朝霧の晴れぬ塔より見えそめて	21	秋	天文	霧	
2199	いつの間に舟やそろひけん霧晴れて	21	秋	天文	霧	
2200	いつの間に舟やそろひけん霧の下	21	秋	天文	霧	
2201	いつの間に舟やそろひし霧晴れて	21	秋	天文	霧	
2202	歌はかりきりにかくれぬ筏かな	21	秋	天文	霧	
2203	風吹や霧の中なる帆かけ舟	21	秋	天文	霧	
2204	霧にあけ煙にくるや墨田川	21	秋	天文	霧	
2205	霧にあけ煙にくるゝ墨田哉	21	秋	天文	霧	
2206	霧の中風も吹くかや帆かけ舟	21	秋	天文	霧	
2207	霧わけてこくも力か渡守	21	秋	天文	霧	
2208	霧わけてこくも力や渡守	21	秋	天文	霧	
2209	霧を出て又きりに入る小ふね哉	21	秋	天文	霧	
2210	こき行きて霧にもるや渡し舟	21	秋	天文	霧	
2211	こき行けは霧にうきけり渡し舟	21	秋	天文	霧	
2212	見る内に不盡のはれけり朝の霧	21	秋	天文	霧	
2213	見る内に不盡ははれけり朝の霧	21	秋	天文	霧	

2214	朝霧の富士を尊とく見する哉	25	秋	天文	霧	
2215	朝霧はおのこる島の姿かな	25	秋	天文	霧	
2216	朝霧や馬いばひあふつゞら折	25	秋	天文	霧	
2217	朝霧や女と見えてたびの笠	25	秋	天文	霧	
2218	樵夫二人だまつて霧を現はるゝ	25	秋	天文	霧	
2219	塔一ツ霧より上に晴れにけり	25	秋	天文	霧	
2220	紅葉出て落ちこむ瀧や霧の中	25	秋	天文	霧	
2221	破れ窓や霧吹き入るゝ不二風	25	秋	天文	霧	
2222	小原女の歸り路霧になりにけり	25	秋	天文	霧	
2223	曉の霧しづか也中禪寺	26	秋	天文	霧	
2224	朝霧や四十八瀧下り船	26	秋	天文	霧	
2225	朝霧や咫尺山見えず蜃小船	26	秋	天文	霧	
2226	朝霧や杉の木末の園城寺	26	秋	天文	霧	
2227	朝霧や舟かゝり居る裏戸口	26	秋	天文	霧	
2228	朝霧や矢橋へ向ふ舟の數	26	秋	天文	霧	
2229	あれなる霧の中に白きは何にて候ぞ	26	秋	天文	霧	
2230	風吹て霧にまかるゝ伽藍かな	26	秋	天文	霧	
2231	川音や萬馬肅として霧の中	26	秋	天文	霧	
2232	川霧やあらはれわたる牛の數	26	秋	天文	霧	
2233	狐火やあはれに消ゆる霧の朝	26	秋	天文	霧	
2234	霧に立つや蝸牛の角の山二つ	26	秋	天文	霧	
2235	霧晴れて妙義は天を衝かんとす	26	秋	天文	霧	
2236	霧晴れて小原女山を下る見ゆ	26	秋	天文	霧	
2237	瀬の音や霧に明け行く最上川	26	秋	天文	霧	
2238	瀧とぶや霧にもつれて尾上より	26	秋	天文	霧	
2239	吹きおろす霧やもつるゝ牛の角	26	秋	天文	霧	
2240	帆柱や霧に淡路の嶋もなし	26	秋	天文	霧	
2241	夕霧のひかるむしろや芝居小屋	26	秋	天文	霧	
2242	朝霧の雫するなり大師堂	27	秋	天文	霧	
2243	朝霧や旗翻す三萬騎	27	秋	天文	霧	
2244	朝霧やもつれてめぐる塔の尖	27	秋	天文	霧	
2245	足もとや霧晴れて京の町見ゆる	27	秋	天文	霧	
2246	安房の海や霧に灯ともす漁船	27	秋	天文	霧	
2247	風車霧を吹きまく音すなり	27	秋	天文	霧	
2248	鐘撞くや霧吹きかくる僧の顔	27	秋	天文	霧	
2249	霧雨やほつかり明るる辻行燈	27	秋	天文	霧	
2250	霧晴れて大旗小旗翻る	27	秋	天文	霧	
2251	霧晴れて山は十歩の内にあり	27	秋	天文	霧	
2252	霧深き足柄山の荷汽車哉	27	秋	天文	霧	
2253	くさび打つ音の高さよ霧の中	27	秋	天文	霧	
2254	廻廊や霧吹きめぐる巖嶋	27	秋	天文	霧	
2255	茶屋あらはに灯火立つや霧の中	27	秋	天文	霧	
2256	ともし火や霧に並びし村百戸	27	秋	天文	霧	
2257	盆の如き朝日のぼりぬ霧の中	27	秋	天文	霧	
2258	朝霧や海を限りし伊豫の鼻	28	秋	天文	霧	
2259	朝霧やもろこし船の何さわぐ	28	秋	天文	霧	
2260	かけ橋や霧の底行く水の音	28	秋	天文	霧	
2261	かけ橋や霧の底より水の音	28	秋	天文	霧	
2262	消えかねて朝月濡るゝ霧の中	28	秋	天文	霧	
2263	清水の屋根あらはれぬ霧の中	28	秋	天文	霧	
2264	霧晴れて雲飛ぶ山の凹み哉	28	秋	天文	霧	
2265	霧間よりあらおびたゞしの兵船や	28	秋	天文	霧	
2266	心細し我船遅き海の霧	28	秋	天文	霧	
2267	心細し我船遅き灘の霧	28	秋	天文	霧	

2268	先陣は霧に中陣後陣哉	28	秋	天文	霧	
2269	中天に竝ぶ岩あり霧の奥	28	秋	天文	霧	
2270	ところどころ竹藪青し霧の中	28	秋	天文	霧	
2271	鳥消えて舟あらはるゝ霧の中	28	秋	天文	霧	
2272	見ゆるべきお鼻も霧の十八里	28	秋	天文	霧	
2273	村も見えず竹藪青し霧の中	28	秋	天文	霧	
2274	屋の棟や草にからまる朝の霧	28	秋	天文	霧	
2275	山陰や霧に濡れたる村一つ	28	秋	天文	霧	
2276	山樫に朝霧かゝる峠かな	28	秋	天文	霧	
2277	山里や米つく音の霧の中	28	秋	天文	霧	
2278	山本や日のさす霧を出る鴉	28	秋	天文	霧	
2279	山々や霧吹きおろす奈良の町	28	秋	天文	霧	
2280	朝霧の九輪兀として鴉かな	29	秋	天文	霧	
2281	朝霧や起きて飯たく弟子大工	29	秋	天文	霧	
2282	朝霧や船頭うたふ最上川	29	秋	天文	霧	
2283	朝霧や一人火を焚く普請小屋	29	秋	天文	霧	
2284	川霧や鳥群れて飛ぶ舟の上	29	秋	天文	霧	
2285	霧晴るゝ田の面や鷺に旭のあたる	29	秋	天文	霧	
2286	霧晴れて窓に露のたまりけり	29	秋	天文	霧	
2287	霧晴れて檐のしのぶの雫かな	29	秋	天文	霧	しのぶ<草かんむり+忍>
2288	霧深く門鎖しけり無住寺	29	秋	天文	霧	
2289	戸明くるや霧に起きたる屋敷守	29	秋	天文	霧	
2290	旅籠屋や霧晴れて窓に山近し	29	秋	天文	霧	
2291	旅籠屋や霧晴て窓に不二近し	29	秋	天文	霧	
2292	北海や日蝕見えず晝の霧	29	秋	天文	霧	
2293	山陰や朝霧かゝる庭の竹	29	秋	天文	霧	
2294	山霧の奥も知られず鳥の聲	29	秋	天文	霧	
2295	喇叭吹けば霧晴れて朝の星一つ	29	秋	天文	霧	
2296	我船や夜明けて霧に流れ居る	29	秋	天文	霧	
2297	朝霧の比枝を出て京に廣がりぬ	30	秋	天文	霧	
2298	朝霧や團十郎の二三輪	30	秋	天文	霧	
2299	朝立や主従と見えて霧の中	30	秋	天文	霧	
2300	朝立や主従と見えて土手の霧	30	秋	天文	霧	
2301	霧晴れて朝日さす原に人遠し	30	秋	天文	霧	
2302	山陰や霧吹きつけて石佛	30	秋	天文	霧	
2303	夜霧こめて赤き灯見ゆる廓哉	30	秋	天文	霧	
2304	白露のおきあまりてはこぼれけり	21	秋	天文	露	
2305	日あふきの露をも知らぬ風情かな	21	秋	天文	露	
2306	射干は露知らぬ葉の姿哉	21	秋	天文	露	
2307	日あふき八露をも知らぬ風情かな	21	秋	天文	露	
2308	舟てくる友もありけり篷の露	21	秋	天文	露	
2309	夜や更けぬかすかに露の落つる音	22	秋	天文	露	
2310	お白粉の皿にうけばや花の露	23	秋	天文	露	
2311	白露のこぼれたあとや塚一つ	23	秋	天文	露	
2312	月かげを足にこぼすや草の露	23	秋	天文	露	
2313	まぼろしのいづこに住んで草の露	23	秋	天文	露	
2314	順禮の夢をひやすや松の露	24	秋	天文	露	
2315	朝露や馬糞ぬるゝはこね山	25	秋	天文	露	
2316	稻妻に露のちる間もなかりけり	25	秋	天文	露	
2317	芋の露ころがる度にわらひけり	25	秋	天文	露	
2318	芋の露硯の海に湛へけり	25	秋	天文	露	
2319	芋の露われて半分は落にけり	25	秋	天文	露	
2320	色々もなくて夜露の白さ哉	25	秋	天文	露	
2321	影むすぶ雌松雄松の松露哉	25	秋	天文	露	

2322	風吹て京も露けき夜也けり	25	秋	天文	露	
2323	からぐるの葉うつりするや露の玉	25	秋	天文	露	
2324	草の露こぼれてへりもせざりけり	25	秋	天文	露	
2325	草の戸の一重の外は露深し	25	秋	天文	露	
2326	火葬場の灰におきけり夜の露	25	秋	天文	露	
2327	火葬場の灰に置けり露の玉	25	秋	天文	露	
2328	こぼす露こぼさぬ露や萩と葛	25	秋	天文	露	
2329	白露の庵の戸あけて物や思ふ	25	秋	天文	露	
2330	白露のうつくし過ぎて散にけり	25	秋	天文	露	
2331	白露の上に濁るや天の河	25	秋	天文	露	
2332	白露の中に重る小鹿哉	25	秋	天文	露	
2333	白露の中に泣きけり祇王祇女	25	秋	天文	露	
2334	白露の中にほつかり夜の山	25	秋	天文	露	
2335	白露やよごれて古き角やぐら	25	秋	天文	露	
2336	白露を見事にこぼす旭哉	25	秋	天文	露	
2337	水晶の珠数の玉なり蓮の露	25	秋	天文	露	
2338	菅笠の裏に通るや夜の露	25	秋	天文	露	
2339	すてられた扇も露の宿り哉	25	秋	天文	露	
2340	大佛やかたつら乾く朝の露	25	秋	天文	露	
2341	魂棚の飯に露おくゆふべ哉	25	秋	天文	露	
2342	ちりやすき露にふるきはなかりけり	25	秋	天文	露	
2343	月のさす帆裏に露の通りけり	25	秋	天文	露	
2344	つぶつぶと丸む力や露の玉	25	秋	天文	露	
2345	露芋に夕立前の露涼し	25	秋	天文	露	
2346	露に泣き給ふ姿や市女笠	25	秋	天文	露	
2347	露の玉小牛の角をはしりけり	25	秋	天文	露	
2348	露夜毎殺生石をあらひけり	25	秋	天文	露	
2349	つるつると笠をすへるや露の玉	25	秋	天文	露	
2350	時頼が露の袈裟ほす焚火哉	25	秋	天文	露	
2351	仲國がすそごの袴露重し	25	秋	天文	露	
2352	萩か根や露にぬれたる土の色	25	秋	天文	露	
2353	一しきり露はらはらの夕哉	25	秋	天文	露	
2354	灯のちらりちらり通るや露の中	25	秋	天文	露	
2355	吹きかへす萩の雨戸や露はらはら	25	秋	天文	露	
2356	ふじは雲露にあけ行く裾野哉	25	秋	天文	露	
2357	佛像の眼やいれん露の玉	25	秋	天文	露	
2358	星一ツ飛んで音あり露の原	25	秋	天文	露	
2359	ほろほろと露の玉ちる夕哉	25	秋	天文	露	
2360	虫賣や籠の雫は瓜の露	25	秋	天文	露	
2361	闇の空露すみのぼる光り哉	25	秋	天文	露	
2362	夕露に灰のつめたき野茶屋哉	25	秋	天文	露	
2363	宵闇や露に引きずる狐の尾	25	秋	天文	露	
2364	よもすがら露ちる土の凹みけり	25	秋	天文	露	
2365	よもすがら露ちる土の凹みかな	25	秋	天文	露	
2366	猪や一ふりふるふ朝の露	25	秋	天文	露	
2367	小原女の歸り路露になりにけり	25	秋	天文	露	
2368	朝市や鯛にかぶさる笹の露	26	秋	天文	露	
2369	雨ながら露に明け行く野山哉	26	秋	天文	露	
2370	鬼ひしぐこぶしも露の宿り哉	26	秋	天文	露	
2371	侍の命も露のもるさ哉	26	秋	天文	露	
2372	白露に家四五軒の小村哉	26	秋	天文	露	
2373	新墓に誰の涙そ露の玉	26	秋	天文	露	
2374	夕風や苾をはしる露の玉	26	秋	天文	露	
2375	夕露の光るむしろや芝居小屋	26	秋	天文	露	

2376	蓬生に猶うつくしや露の玉	26	秋	天文	露	
2377	わらじはく人に置きけり夜の露	26	秋	天文	露	
2378	雨晴れて朝日の露のこぼるゝよ	27	秋	天文	露	
2379	生きて歸れ露の命と言乍ら	27	秋	天文	露	
2380	いたいけに小草露待つ夜明哉	27	秋	天文	露	
2381	無花菓の葉を流れけり朝の露	27	秋	天文	露	
2382	からげたる赤腰巻や露時雨	27	秋	天文	露	
2383	木立暗く堀割濡れて露の音	27	秋	天文	露	
2384	白露に眼の光る佛かな	27	秋	天文	露	
2385	白露に眼の玉光る佛かな	27	秋	天文	露	
2386	白露の三河嶋村灯ちらちら	27	秋	天文	露	
2387	白露や野營の枕木ぎれ也	27	秋	天文	露	
2388	大佛の顔をはしるや露の玉	27	秋	天文	露	
2389	大木や露の細道橋朽ちたり	27	秋	天文	露	
2390	松明を捨つるや露の煮ゆる音	27	秋	天文	露	
2391	誰が寐て石に跡ある朝の露	27	秋	天文	露	
2392	露の須磨霧の明石のともし哉	27	秋	天文	露	
2393	幅廣き葉を流れけり朝の露	27	秋	天文	露	
2394	紅皿も露けき頃の泪かな	27	秋	天文	露	
2395	草鞋はいて木曾路の露につまつくな	27	秋	天文	露	
2396	曉の骨に露置く焼場哉	28	秋	天文	露	
2397	朝露の槍の柄つたふ關屋哉	28	秋	天文	露	
2398	朝露や飯焚く煙草を這ふ	28	秋	天文	露	
2399	草の戸やひねもす深き苔の露	28	秋	天文	露	
2400	けさの露ゆふべの雨や屋根の草	28	秋	天文	露	
2401	柴門孤なり誰が住み捨てし露の庵	28	秋	天文	露	
2402	白露に濡るゝ不動の火焰かな	28	秋	天文	露	
2403	白露にぬれし不動の火焰かな	28	秋	天文	露	
2404	白露や冷えつくしたる捨篋	28	秋	天文	露	
2405	白露や葎に誰の捨車	28	秋	天文	露	
2406	千年の露に消えけり足の跡	28	秋	天文	露	
2407	竹藪の露に濡れたる夜明哉	28	秋	天文	露	
2408	露けしや朝日の昇る小松原	28	秋	天文	露	
2409	露けしや過ぎの落葉のつゝら折	28	秋	天文	露	
2410	露や置く神の灯青くなりけるは	28	秋	天文	露	
2411	白雲や山分け入れば草の露	28	秋	天文	露	
2412	旅籠屋の戸口で脱げば笠の露	28	秋	天文	露	
2413	火ちろちろ誰人寐たる露の中	28	秋	天文	露	
2414	灯ともすや露のしたゝる石燈籠	28	秋	天文	露	
2415	佛舍利とこたへて消えよ露の玉	28	秋	天文	露	
2416	山陰の橋朽ちんとす晝の露	28	秋	天文	露	
2417	已むなくば見事にはらへ劍の露	28	秋	天文	露	
2418	蓬生や我頬はしる露の玉	28	秋	天文	露	
2419	雨晴れて露けき中の煙かな	29	秋	天文	露	
2420	一升の露をたゝふる小庭かな	29	秋	天文	露	
2421	馬の尾の露をはね行く野道哉	29	秋	天文	露	
2422	植木屋の夜店の跡や道の露	29	秋	天文	露	
2423	顔見えて野武士火を焚く露の中	29	秋	天文	露	
2424	獵人も犬もぬれたり草の露	29	秋	天文	露	
2425	狩り暮れてむかばき光る露の玉	29	秋	天文	露	
2426	草の露馬も夜討の支度かな	29	秋	天文	露	
2427	草の戸や菓子も烟草も夜の露	29	秋	天文	露	
2428	草花や露あたゝかに温泉の流れ	29	秋	天文	露	
2429	草むらや露あたゝかに温泉の流れ	29	秋	天文	露	

2430	雲の上露の世界を忘るゝな	29	秋	天文	露	
2431	白露やともし火深く家低し	29	秋	天文	露	
2432	湯治場や夕露早き山の道	29	秋	天文	露	
2433	露の玉葉末の細いところかな	29	秋	天文	露	
2434	露の中に赤き廓のともし哉	29	秋	天文	露	
2435	露の身ぞ稻妻の世ぞさりながら	29	秋	天文	露	
2436	ばさばさと夜討過ぎ行く露の中	29	秋	天文	露	
2437	洞穴や石を流るゝ晝の露	29	秋	天文	露	
2438	森黒し月夜に光る屋根の露	29	秋	天文	露	
2439	藁沓や庭に山路の露を印す	29	秋	天文	露	
2440	草鞋を二足持て行け草の露	29	秋	天文	露	
2441	大佛も鐘も濡れたり森の露	30	秋	天文	露	
2442	太刀持の脛の白さよ草の露	30	秋	天文	露	
2443	鐵砲の露にぬれたる夜襲哉	30	秋	天文	露	
2444	堀割に露のしたゝる巖かな	30	秋	天文	露	
2445	草の露夜舟を昇る草履哉	31	秋	天文	露	
2446	庭に酌むや芋も團子も露の中	31	秋	天文	露	
2447	一群は庭に話すや草の露	31	秋	天文	露	
2448	瓶花露をこぼす琵琶三両曲	31	秋	天文	露	
2449	屋根に置く露の光や根岸町	31	秋	天文	露	
2450	うつくしき抱一か画や銀の露	32	秋	天文	露	
2451	甲乙の露まとまりて落ちにけり	33	秋	天文	露	
2452	萱の露断礎敗瓦ところところ	33	秋	天文	露	
2453	白露や菜畑の中の濡佛	33	秋	天文	露	
2454	晝の露を追ひ落したる夜の露	33	秋	天文	露	
2455	庭行くや露ちりかゝる足の甲	35	秋	天文	露	
2456	病床の我に露ちる思ひあり	35	秋	天文	露	
2457	不知火やそことも分かず鳴く狐	23	秋	天文	不知火	
2458	不知火を闇路にもとす嵐哉	23	秋	天文	不知火	
2459	不知火や嵐はれ行く海の果	25	秋	天文	不知火	
2460	不知火や闇の三十日の底明り	25	秋	天文	不知火	
2461	不知火のしらけて寒き夜明かな	26	秋	天文	不知火	
2462	不知火の闇の海原船もなし	26	秋	天文	不知火	
2463	雨なくて稻妻うつる水涼し	21	秋	天文	稻妻	
2464	絶えずしも稻妻うつる水涼し	21	秋	天文	稻妻	
2465	稻妻にうち消されけり三日の月	23	秋	天文	稻妻	
2466	稻妻にひらりと桐の一葉哉	23	秋	天文	稻妻	
2467	稻妻に行きあたりたる闇夜哉	24	秋	天文	稻妻	
2468	稻妻にふと行きあたる闇夜哉	24	秋	天文	稻妻	
2469	稻妻に燈籠の火のあばきかな	25	秋	天文	稻妻	
2470	稻妻の壁つき通す光りかな	25	秋	天文	稻妻	
2471	稻妻の消て不知火かすか也	25	秋	天文	稻妻	
2472	稻妻の崩れたあとや夕嵐	25	秋	天文	稻妻	
2473	稻妻のはなれて遠し電氣燈	25	秋	天文	稻妻	
2474	稻妻は雫の落る其間かな	25	秋	天文	稻妻	
2475	稻つまはたとへん物もなかり鳧	25	秋	天文	稻妻	
2476	稻妻や蟹の子遊ぶ浪がしら	25	秋	天文	稻妻	
2477	いなつまや大海原の波のはて	25	秋	天文	稻妻	
2478	稻妻や太刀魚はねる浪がしら	25	秋	天文	稻妻	
2479	稻妻や誰れが頭に碎け行く	25	秋	天文	稻妻	
2480	いなつまや誰れか頭に碎け散る	25	秋	天文	稻妻	
2481	稻妻や誰が稽古のくさり鎌	25	秋	天文	稻妻	
2482	いなつまや難船くたく波かしら	25	秋	天文	稻妻	
2483	稻妻や何の夢見る兒の顔	25	秋	天文	稻妻	

2484	いなつまや何を命に火取むし	25	秋	天文	稲妻	
2485	稲つまや一筋白き棉ばたけ	25	秋	天文	稲妻	
2486	いなつまや簀蟲のなく闇の闇	25	秋	天文	稲妻	
2487	いなつまや都を見れど浮世にて	25	秋	天文	稲妻	
2488	いなつまや妙見堂の鐘の紐	25	秋	天文	稲妻	
2489	稲妻をふるひおとすや鳴子引	25	秋	天文	稲妻	
2490	雲の峯崩れた跡や稲光り	25	秋	天文	稲妻	
2491	稲妻に顔おそろしき念佛哉	26	秋	天文	稲妻	
2492	稲妻に人見かけたる野道哉	26	秋	天文	稲妻	
2493	稲妻の勢弱し秋のくれ	26	秋	天文	稲妻	
2494	稲妻の花さく沖の小嶋哉	26	秋	天文	稲妻	
2495	稲妻のはらつく海や小豆嶋	26	秋	天文	稲妻	
2496	稲妻の北極めぐる曇り哉	26	秋	天文	稲妻	
2497	稲妻や赤猫狂ふ塔の尖	26	秋	天文	稲妻	
2498	稲妻や生血したゝるつるし熊	26	秋	天文	稲妻	
2499	稲妻や戌亥の雲のたゝならず	26	秋	天文	稲妻	
2500	稲妻やうしろ見らるゝ居合拔	26	秋	天文	稲妻	
2501	稲妻やこぼれて落る石佛	26	秋	天文	稲妻	
2502	稲妻やたえずひらめく一處	26	秋	天文	稲妻	
2503	稲妻や狸のふぐり牛の角	26	秋	天文	稲妻	
2504	稲つまや鼻のさきなる嵐山	26	秋	天文	稲妻	
2505	稲妻や一むれさわぐ女馬	26	秋	天文	稲妻	
2506	稲妻や塀のくづれの生駒山	26	秋	天文	稲妻	
2507	稲妻やほつとりとする薄曇り	26	秋	天文	稲妻	
2508	稲妻や闇に美人の笑ひ聲	26	秋	天文	稲妻	
2509	稲妻をかまへて御らんじ候な	26	秋	天文	稲妻	
2510	稲妻をしきりにこぼす夕哉	26	秋	天文	稲妻	
2511	風吹て稲妻ちらす曇り哉	26	秋	天文	稲妻	
2512	風吹てちるやほろほろ稲光り	26	秋	天文	稲妻	
2513	金銀の色よ稲妻西東	26	秋	天文	稲妻	
2514	大佛の眠りさますや稲光り	26	秋	天文	稲妻	
2515	稲妻や壁のくづれの生駒山	26	秋	天文	稲妻	
2516	稲妻や金碧うつる杉の隙	26	秋	天文	稲妻	
2517	稲妻の海に散る時猶凄し	26	秋	天文	稲妻	
2518	稲妻に金屏たゝむ夕かな	27	秋	天文	稲妻	
2519	稲妻に見ゆるかと思ふ海の底	27	秋	天文	稲妻	
2520	稲妻や石にあたつて折れ返る	27	秋	天文	稲妻	
2521	稲妻や高燈籠にふりかゝる	27	秋	天文	稲妻	
2522	稲妻や敵艦遠く逃げて行く	27	秋	天文	稲妻	
2523	稲妻に水雷艇の行方かな	28	秋	天文	稲妻	
2524	稲妻にすわやと投げる碇かな	28	秋	天文	稲妻	
2525	稲妻に松明暗き野道かな	28	秋	天文	稲妻	
2526	稲妻に誰そ刀抜く原の中	28	秋	天文	稲妻	
2527	稲妻に誰そや刀抜く原の中	28	秋	天文	稲妻	
2528	稲妻に紅粉つけて居る遊女哉	28	秋	天文	稲妻	
2529	稲妻の碎けて青し藪の奥	28	秋	天文	稲妻	
2530	稲妻や片帆に落す海の上	28	秋	天文	稲妻	
2531	稲妻や少しへだてゝ二ところ	28	秋	天文	稲妻	
2532	稲妻や天遠くして外が濱	28	秋	天文	稲妻	
2533	稲妻や檜ばかりの谷一つ	28	秋	天文	稲妻	
2534	稲妻や三井から見れば勢田の上	28	秋	天文	稲妻	
2535	稲妻や横幅廣く折れて出る	28	秋	天文	稲妻	
2536	稲妻やわれ宙を行く橋の上	28	秋	天文	稲妻	
2537	稲妻や折々見せる雲の峰	28	秋	天文	稲妻	

2538	稲妻や折れては残る雲の中	28	秋	天文	稲妻	
2539	空城や稲妻落ちて風起る	29	秋	天文	稲妻	
2540	稲妻に心なぐさむひとやかな	29	秋	天文	稲妻	
2541	稲つまに刃物を隠す未練かな	29	秋	天文	稲妻	
2542	稲妻に屏風をかこぶ遊女かな	29	秋	天文	稲妻	
2543	稲妻のあと風になる夕かな	29	秋	天文	稲妻	
2544	稲妻の蚊帳をすかして茶色也	29	秋	天文	稲妻	
2545	稲つまのちらと許りも見まいぞや	29	秋	天文	稲妻	
2546	稲妻や剣を按じて西の方	29	秋	天文	稲妻	
2547	稲妻や獄門の首我を見る	29	秋	天文	稲妻	
2548	稲妻や蓐をおろす刀店	29	秋	天文	稲妻	
2549	稲妻や大福餅をくふ女	29	秋	天文	稲妻	
2550	稲妻や盥の底の忘れ水	29	秋	天文	稲妻	
2551	稲妻や波黒く人魚出沒す	29	秋	天文	稲妻	
2552	稲妻や一聲鳥の夢に鳴く	29	秋	天文	稲妻	
2553	稲妻や森のすきまに水を見たり	29	秋	天文	稲妻	
2554	稲妻や森を隔てゝ水を見たり	29	秋	天文	稲妻	
2555	稲妻を潮に巻きこむ鳴門かな	29	秋	天文	稲妻	
2556	空城やいなつま落ちて風起る	29	秋	天文	稲妻	
2557	葬禮に稲妻散るや原の中	29	秋	天文	稲妻	
2558	四方から稲妻光る小家かな	29	秋	天文	稲妻	
2559	水晶に稲妻うつる夕かな	29	秋	天文	稲妻	
2560	竹伐つて稲妻近くなる夜かな	29	秋	天文	稲妻	
2561	ひかひかと稲妻すなり星ながら	29	秋	天文	稲妻	
2562	宵闇や稲妻走る西の窓	29	秋	天文	稲妻	
2563	夜や明けん稲妻白き森のひま	29	秋	天文	稲妻	
2564	夜や更けん稲妻白き森の隙	29	秋	天文	稲妻	
2565	稲妻のうしろの方に油断すな	30	秋	天文	稲妻	
2566	稲妻のすわといふまもあらはこそ	30	秋	天文	稲妻	
2567	稲妻の遠くに光る火花哉	31	秋	天文	稲妻	
2568	竹を伐て稲妻近き夜となりぬ	31	秋	天文	稲妻	
2569	稲妻の木がくれなりぬ森に入る	32	秋	天文	稲妻	
2570	稲妻の木隠れなりぬ森の道	32	秋	天文	稲妻	
2571	稲妻のする時雲の形哉	32	秋	天文	稲妻	
2572	稲妻のはためく水の映りかな	32	秋	天文	稲妻	
2573	稲妻のひらめく水の映りかな	32	秋	天文	稲妻	
2574	稲妻の世を觀すらん大佛	32	秋	天文	稲妻	
2575	稲妻や足場かけたる倉の間	32	秋	天文	稲妻	
2576	稲妻や一本杉の右左	32	秋	天文	稲妻	
2577	稲妻や提灯多き野邊送	32	秋	天文	稲妻	
2578	稲妻や燈臺番の妻一人	32	秋	天文	稲妻	
2579	稲妻や飛魚飛んで海暗き	32	秋	天文	稲妻	
2580	稲妻や廻り燈籠は消えにけり	32	秋	天文	稲妻	
2581	稲妻や南に晴れし盆の月	32	秋	天文	稲妻	
2582	稲妻やむら雨過し森の月	32	秋	天文	稲妻	
2583	稲妻や目を縫はれたる市の鷲	32	秋	天文	稲妻	
2584	瓦斯燈や稲妻薄き屋根の上	32	秋	天文	稲妻	
2585	瓦斯燈や稲妻遠き屋根の上	32	秋	天文	稲妻	
2586	町を出てゝ稲妻廣し森の上	32	秋	天文	稲妻	
2587	夜更けて稲妻遠くなりけり	32	秋	天文	稲妻	
2588	稲妻や悪の心もとゞまらず	33	秋	天文	稲妻	
2589	朝顔の一りん強しはつあらし	25	秋	天文	初嵐	
2590	粟の穂の折れも盡さす初嵐	25	秋	天文	初嵐	
2591	初あらし障子の穴を見付たり	25	秋	天文	初嵐	

2592	富士川の石あらはなり初嵐	25	秋	天文	初嵐	
2593	富士沼や小舟かちあふ初あらし	25	秋	天文	初嵐	
2594	松折れてふしあらはなり初嵐	25	秋	天文	初嵐	
2595	朝顔の花やぶれけり初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2596	雨なしに吹き出だしけり初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2597	猿の手のちぎれて悲し初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2598	大名の家より吹きぬ初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2599	恙なきや庵の葬初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2600	鳶の巢の吹き落されぬ初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2601	鶏の埒に小さし初嵐	26	秋	天文	初嵐	
2602	初嵐鵜の橋崩れけり	27	秋	天文	初嵐	
2603	初嵐箱根の石のあらはれぬ	27	秋	天文	初嵐	
2604	初嵐軍艦悠然として来る	28	秋	天文	初嵐	
2605	初嵐五重の塔に上りけり	28	秋	天文	初嵐	
2606	初嵐小不二ゆがんで見ゆる哉	28	秋	天文	初嵐	
2607	初嵐櫓の足場崩れけり	28	秋	天文	初嵐	
2608	古庭や鼯吹き出す初嵐	29	秋	天文	初嵐	
2609	一輪の薔薇吹き散りぬ初嵐	30	秋	天文	初嵐	
2610	須磨寺や月が出て居て初嵐	31	秋	天文	初嵐	
2611	なかなか朝顔つよき野分哉	24	秋	天文	野分	
2612	あれ馬のたて髪長き野分哉	25	秋	天文	野分	
2613	岩陰に鹿の落ちあふ野分哉	25	秋	天文	野分	
2614	笠いきて地上をはしる野分哉	25	秋	天文	野分	
2615	傘一ツあつかひかぬる野分哉	25	秋	天文	野分	
2616	から笠につられてありく野分哉	25	秋	天文	野分	
2617	さりげなき野分の跡やふしの山	25	秋	天文	野分	
2618	白浪の車輪にまはる野分かな	25	秋	天文	野分	
2619	人力のほろ吹きちぎる野分哉	25	秋	天文	野分	
2620	杉の木のたわみ見て居る野分哉	25	秋	天文	野分	
2621	捨舟はかたよる海の野わき哉	25	秋	天文	野分	
2622	捨舟の阜頭にかたよる野分哉	25	秋	天文	野分	
2623	旅僧のもたれてあるく野分哉	25	秋	天文	野分	
2624	野分して牛蒡大根のうまさ哉	25	秋	天文	野分	
2625	萩薄思ひ思ひの野分哉	25	秋	天文	野分	
2626	はせを泣き蘇鐵は怒る野分哉	25	秋	天文	野分	
2627	八反帆野分に落すあをり哉	25	秋	天文	野分	
2628	原へ出て目もあけられぬ野分哉	25	秋	天文	野分	
2629	針金に松の木起す野分哉	25	秋	天文	野分	
2630	番傘のほつきと折れし野分哉	25	秋	天文	野分	
2631	吹き付けてふしに消行野分哉	25	秋	天文	野分	
2632	吹きとつて雨さへふらぬ野分哉	25	秋	天文	野分	
2633	蛇落つる高石かけの野分哉	25	秋	天文	野分	
2634	光起が百鬼夜行く野分哉	25	秋	天文	野分	
2635	やせ馬の尾花恐るゝ野分哉	25	秋	天文	野分	
2636	猪の男鹿追ひ行く野分哉	25	秋	天文	野分	
2637	斧たてゝ鎌切りにげる野分かな	25	秋	天文	野分	
2638	あら鷲の吹きかへさるゝ野分哉	26	秋	天文	野分	
2639	行燈を吹き倒したる野分哉	26	秋	天文	野分	
2640	犬吠て野分すべき夜のけしき哉	26	秋	天文	野分	
2641	牛の尾の力はつよき野分哉	26	秋	天文	野分	
2642	鶏頭のしどろになりし野分哉	26	秋	天文	野分	
2643	小鼓の棚より落つる野分哉	26	秋	天文	野分	
2644	鷲つくむ野分のあとの澤邊哉	26	秋	天文	野分	
2645	しづしづと野分のあとの旭かな	26	秋	天文	野分	

2646	嶋一つ瘦せて残りし野分哉	26	秋	天文	野分	
2647	捨鐘の吹きとられたる野分哉	26	秋	天文	野分	
2648	宗鑑の生芋かぢる野分哉	26	秋	天文	野分	
2649	大佛のなひくかと思ふ野分哉	26	秋	天文	野分	
2650	大佛を一夜寐させぬ野分哉	26	秋	天文	野分	
2651	立琴にから鳴絶えぬ野分哉	26	秋	天文	野分	
2652	民の田の見えてものうき野分哉	26	秋	天文	野分	
2653	月清し野分のあとのあれ庇	26	秋	天文	野分	
2654	筑波根の吹きさらされて野分哉	26	秋	天文	野分	
2655	釣鐘を吹き残したる野分哉	26	秋	天文	野分	
2656	寺あれて釣鐘のこる野分哉	26	秋	天文	野分	
2657	野分して飯くふ人の寒げなり	26	秋	天文	野分	
2658	一つづゝ星吹きちらす野分哉	26	秋	天文	野分	
2659	百姓の足吹きすかす野分哉	26	秋	天文	野分	
2660	星飛んであとは淋しき野分哉	26	秋	天文	野分	
2661	三井寺の釣鐘なびく野分哉	26	秋	天文	野分	
2662	夫婦して雨戸押へる野分哉	26	秋	天文	野分	
2663	ものうさは日の照りながら野分哉	26	秋	天文	野分	
2664	石積んで野分に向ふ車哉	27	秋	天文	野分	
2665	押しつける大竹原の野分哉	27	秋	天文	野分	
2666	大石の山道ふさぐ野分かな	27	秋	天文	野分	
2667	大鳴門野分のあとの静かなり	27	秋	天文	野分	
2668	すさまじや野分の塔のきしる音	27	秋	天文	野分	
2669	大道の人吹きちらす野分かな	27	秋	天文	野分	
2670	電燈や夜の野分の砂ほこり	27	秋	天文	野分	
2671	野分して孔雀の羽の細りかな	27	秋	天文	野分	
2672	野分すなり赤きもの空にひるがへる	27	秋	天文	野分	
2673	芭蕉葉の娑婆と舞ひたる野分かな	27	秋	天文	野分	
2674	人細し野分の朝の大伽藍	27	秋	天文	野分	
2675	三井寺の釣鐘うなる野分哉	27	秋	天文	野分	
2676	粟の穂のくたびれもせぬ野分哉	28	秋	天文	野分	
2677	大粒な星吹きとばす野分哉	28	秋	天文	野分	
2678	雲ちぎれ雲飛び野分雨もふらず	28	秋	天文	野分	
2679	侍の足駄ふんばる野分哉	28	秋	天文	野分	
2680	すごすごと月さし上る野分哉	28	秋	天文	野分	
2681	大佛の鼻息あらき野分哉	28	秋	天文	野分	
2682	大佛の鼻息あらば野分哉	28	秋	天文	野分	
2683	大佛の鼻の穴から野分かな	28	秋	天文	野分	
2684	峠より眞下におろす野分哉	28	秋	天文	野分	
2685	旅人の吹きまくらるゝ野分哉	28	秋	天文	野分	
2686	旅人の吹きまくられる野分哉	28	秋	天文	野分	
2687	釣鐘のそばに寄られぬ野分哉	28	秋	天文	野分	
2688	電信の柱を倒す野分かな	28	秋	天文	野分	
2689	豆腐買ふて裏道戻る野分哉	28	秋	天文	野分	
2690	野分荒れて翠簾に押さるゝ女哉	28	秋	天文	野分	
2691	野分して野の低くなるあした哉	28	秋	天文	野分	
2692	方十町砂糖木畠の野分哉	28	秋	天文	野分	
2693	比良こえて湖水に落す野分哉	28	秋	天文	野分	
2694	吹き返す不二の裾野の野分哉	28	秋	天文	野分	
2695	帆柱の山にもたるゝ野分かな	28	秋	天文	野分	
2696	無住寺に荒れたきまゝの野分哉	28	秋	天文	野分	
2697	山鳥の尾を吹かれたる野分哉	28	秋	天文	野分	
2698	山鳥の尾を吹かれ居る野分哉	28	秋	天文	野分	
2699	鐘つけばぼんときれたる野分哉	29	秋	天文	野分	

2700	黍動く野分の里に灯のともる	29	秋	天文	野分	
2701	銀杏の青葉吹き散る野分哉	29	秋	天文	野分	
2702	草むらに落つる野分の鴉哉	29	秋	天文	野分	
2703	草むらに下りる野分の鴉かな	29	秋	天文	野分	
2704	小石やら雨やら野分顔を撲つ	29	秋	天文	野分	
2705	心細く野分のつる日暮かな	29	秋	天文	野分	
2706	この野分さらにやむべくもなかりけり	29	秋	天文	野分	
2707	せんつばや野分のあとの花白し	29	秋	天文	野分	
2708	大木の道に倒るゝ野分哉	29	秋	天文	野分	
2709	旅僧の吹き飛ばさるゝ野分哉	29	秋	天文	野分	
2710	野分して上野の鳶の庭に来る	29	秋	天文	野分	
2711	野分の夜書讀む心定まらず	29	秋	天文	野分	
2712	野分吹く雨横さまに筑波より	29	秋	天文	野分	
2713	ばさりばさり芭蕉野分に驚かず	29	秋	天文	野分	
2714	人がやがや土塀を起す野分哉	29	秋	天文	野分	
2715	日の光野分の雲の暮れんとす	29	秋	天文	野分	
2716	晝中や野分はじまる物の音	29	秋	天文	野分	
2717	福山の城を残して野分哉	29	秋	天文	野分	
2718	塀こけて家あらはなる野分哉	29	秋	天文	野分	
2719	眞黒な雲走り行く野分哉	29	秋	天文	野分	
2720	三日月の吹き取られたる野分哉	29	秋	天文	野分	
2721	宿替の百鬼群れ行く野分哉	29	秋	天文	野分	
2722	路次口を出れば大路の野分哉	29	秋	天文	野分	
2723	起せども野分の芒たわいなき	30	秋	天文	野分	
2724	狂亂の野分ありたき我思ひ	30	秋	天文	野分	
2725	くたびれて野分のあとの草木哉	30	秋	天文	野分	
2726	芒伏し萩折れ野分晴れにけり	30	秋	天文	野分	
2727	泊り舟一夜野分にゆられけり	30	秋	天文	野分	
2728	野分してさすが芒は風の草	30	秋	天文	野分	
2729	野分して飄亭來る夜明哉	30	秋	天文	野分	
2730	野分して向の朝餉垣はなし	30	秋	天文	野分	
2731	野分してもさすが芒は風の草	30	秋	天文	野分	
2732	野分少しやんで鷄鳴く夜明哉	30	秋	天文	野分	
2733	野分晴れて手負の蝶の低く飛ぶ	30	秋	天文	野分	
2734	野分稍やんで鷄聞く夜明哉	30	秋	天文	野分	
2735	野分やんで蝶飛ぶ岡の日和哉	30	秋	天文	野分	
2736	野分やんで飄亭來る夜明哉	30	秋	天文	野分	
2737	亂れ心野分に走り狂ひたく	30	秋	天文	野分	
2738	見に行くや野分のあとの百花園	30	秋	天文	野分	
2739	大家の寐静まりたる野分哉	31	秋	天文	野分	
2740	鷄頭は二尺に足らぬ野分哉	31	秋	天文	野分	
2741	鷄頭をもらふて植ぬ野分過	31	秋	天文	野分	
2742	飛ぶ鷲の勢盡きし野分哉	31	秋	天文	野分	
2743	竝松の小枝吹き散る野分哉	31	秋	天文	野分	
2744	野分して片枝折れし松の月	31	秋	天文	野分	
2745	野分して蟬の少きあした哉	31	秋	天文	野分	
2746	野分して萩をあはれむ泥まみれ	31	秋	天文	野分	
2747	野分待つ萩のけしきや花遅き	31	秋	天文	野分	
2748	野分やんで萩をあはれむ泥まみれ	31	秋	天文	野分	
2749	花園の垣倒れたる野分哉	31	秋	天文	野分	
2750	吹き足らで雨となる朝の野分哉	31	秋	天文	野分	
2751	闇の夜をめつたやたら野分哉	31	秋	天文	野分	
2752	老木朽ちて野分恐るゝ借家哉	32	秋	天文	野分	
2753	鷄頭の皆倒れたる野分哉	32	秋	天文	野分	

2754	鶏頭ノマダイトケナキ野分カナ	34	秋	天文	野分	
2755	野分近ク夕顔ノ實ノ太り哉	34	秋	天文	野分	
2756	夕顔ヤ野分恐ル、實ノ太り	34	秋	天文	野分	
2757	秋しぐれ兎角月には成り易き	25	秋	天文	秋時雨	
2758	秋もはや日和しぐるゝ飯時分	27	秋	天文	秋時雨	
2759	冬瓜や霜ふりかけし秋の色	30	秋	天文	秋の霜	
2760	御白洲や膝つきすゑる秋の霜	31	秋	天文	秋の霜	
2761	山深く通草腐りぬ秋の霜	31	秋	天文	秋の霜	
2762	鶏頭に霜見る秋の名残哉	33	秋	天文	秋の霜	
2763	もみち葉の色もかわるや秋の空	23	秋	天文	秋の空	
2764	すさまじき雲の走りや秋の空	24	秋	天文	秋の空	
2765	澄む時はあくまで澄んで秋の空	25	秋	天文	秋の空	
2766	海原の上にひろがる秋の空	26	秋	天文	秋の空	
2767	舞鶴の富士はなれけり秋の空	26	秋	天文	秋の空	
2768	秋の空物干竿の高さかな	27	秋	天文	秋の空	
2769	清水や舞臺の上の秋の空	28	秋	天文	秋の空	
2770	社壇百級秋の空へと登る人	28	秋	天文	秋の空	
2771	晝中の月宙にあり秋の空	28	秋	天文	秋の空	
2772	見あぐれば塔の高さよ秋の空	28	秋	天文	秋の空	
2773	湖の上に置きけり秋の空	28	秋	天文	秋の空	
2774	秋の空青菜車のつゞきけり	29	秋	天文	秋の空	
2775	秋の空華巖の瀧の白さかな	29	秋	天文	秋の空	
2776	秋の空清水流るゝ思ひあり	29	秋	天文	秋の空	
2777	秋の空露をためたる青さかな	29	秋	天文	秋の空	
2778	秋の空ますほの薄さはりけり	29	秋	天文	秋の空	
2779	秋の空凌雲閣に人見ゆる	29	秋	天文	秋の空	
2780	大水の引て雨なし秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2781	椎の木を伐り倒しけり秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2782	絶頂や頭の上に秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2783	病人のあるき出しけり秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2784	見渡すや只秋の空秋の雲	29	秋	天文	秋の空	
2785	鴟よりも鳶よりも高し秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2786	井戸堀の星や見るらん秋の空	29	秋	天文	秋の空	
2787	秋の空伽藍の屋根をありく人	30	秋	天文	秋の空	
2788	此頃の天気になりぬ秋の空	30	秋	天文	秋の空	
2789	絶頂や鳥下を舞ふて秋の空	30	秋	天文	秋の空	
2790	舟もなき川の廣さや空の秋	32	秋	天文	秋の空	
2791	あきの海伊與へ流るゝ汐の音	24	秋	地理	秋の海	
2792	白帆遠し嶋を見こしの秋の海	24	秋	地理	秋の海	
2793	秋の海名もなき嶋のあらはるゝ	25	秋	地理	秋の海	
2794	かたよつて白帆行くなり秋の海	26	秋	地理	秋の海	
2795	夕陽に馬洗ひけり秋の海	26	秋	地理	秋の海	
2796	ながながと安房の岬や秋の海	26	秋	地理	秋の海	
2797	つらつらと船ならびけり秋の海	27	秋	地理	秋の海	
2798	秋の海大船ばかりかゝりけり	28	秋	地理	秋の海	
2799	秋の海音頭が瀬戸を流れけり	28	秋	地理	秋の海	
2800	秋の海鳥飛ぶ方にひろがれり	28	秋	地理	秋の海	
2801	秋の海舟一艘もなかりけり	28	秋	地理	秋の海	
2802	大船の秋の海面ゆさぶりぬ	28	秋	地理	秋の海	
2803	那古寺の椽の下より秋の海	28	秋	地理	秋の海	
2804	門を出て十歩に秋の海廣し	28	秋	地理	秋の海	
2805	秋の海渺々として入日哉	29	秋	地理	秋の海	
2806	秋の海渺々として嶋孤なり	29	秋	地理	秋の海	
2807	底見えてうろくづ居らず秋の海	30	秋	地理	秋の海	

2808	秋の海我船近き岩の鳥	33	秋	地理	秋の海	
2809	大岩の穴より見ゆる秋の海	35	秋	地理	秋の海	
2810	はつきりと垣根に近し秋の山	24	秋	地理	秋の山	
2811	秋の山信濃の國はおそろしき	25	秋	地理	秋の山	
2812	秋の山瀧を残して紅葉哉	25	秋	地理	秋の山	
2813	稻つくる奥もありけり秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2814	大方はすゝきなりけり秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2815	笠負ふた僧の歸るや秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2816	雲も皆沈み勝ちなる秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2817	はつきりと行先遠し秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2818	一ひらの雲の行へや秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2819	行先のはつきり遠し秋の山	25	秋	地理	秋の山	
2820	雨晴れて馬頭に近し秋の山	26	秋	地理	秋の山	
2821	秋の山王子の上に見ゆる哉	27	秋	地理	秋の山	
2822	追分や左に遠き秋の山	27	秋	地理	秋の山	
2823	雲むらむら秋の山高くあらはるゝ	27	秋	地理	秋の山	
2824	信濃路やどこ迄つゞく秋の山	27	秋	地理	秋の山	
2825	日の旗や銀座は秋の山かつら	27	秋	地理	秋の山	
2826	秋の城山は赤松ばかりかな	28	秋	地理	秋の山	
2827	秋の山五重の塔に並びけり	28	秋	地理	秋の山	
2828	秋の山仙人橋の高さかな	28	秋	地理	秋の山	
2829	秋の山突兀として寺一つ	28	秋	地理	秋の山	
2830	秋の山中に石鐵山高し	28	秋	地理	秋の山	
2831	秋の山松鬱として常信寺	28	秋	地理	秋の山	
2832	秋の山御幸寺と申し天狗住む	28	秋	地理	秋の山	
2833	雲迷ふ簾の下の秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2834	山門を出て下りけり秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2835	竹の窗南に秋の山近し	28	秋	地理	秋の山	
2836	七重八重重なりあふて秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2837	七重八重かさなりあひぬ秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2838	野徑曲れり十歩の中に秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2839	道盡きて雲起りけり秋の山	28	秋	地理	秋の山	
2840	四方秋の山をめぐらす城下哉	28	秋	地理	秋の山	
2841	四方に秋の山をめぐらす城下哉	28	秋	地理	秋の山	
2842	秋の山あやしき僧に行き違ふ	29	秋	地理	秋の山	
2843	秋の山眼下町見えて人馬行く	29	秋	地理	秋の山	
2844	秋の山雲一片飛んで去る	29	秋	地理	秋の山	
2845	秋の山中にも金洞と申すは	29	秋	地理	秋の山	
2846	秋の山檜の苗を植ゑにけり	29	秋	地理	秋の山	
2847	高樓やわれを取り巻く秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2848	白河や山あつまつて山の秋	29	秋	地理	秋の山	
2849	石門を五つくゞりて秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2850	鳥飛んで秋の山眼に横はる	29	秋	地理	秋の山	
2851	人にあひて恐しくなりぬ秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2852	湖をとりまく秋の高嶺哉	29	秋	地理	秋の山	
2853	森濡れて神鎮まりぬ秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2854	宿かるや枕の上に秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2855	樓に上れば樓をめぐりて秋の山	29	秋	地理	秋の山	
2856	閑古鳥死んで淋しや秋の山	31	秋	地理	秋の山	
2857	石門をくゞりぬけたり秋の山	31	秋	地理	秋の山	
2858	絶頂に城構へたり秋の山	31	秋	地理	秋の山	
2859	國境の棒杭立つや秋の山	32	秋	地理	秋の山	
2860	秋の山北を固めの砦かな	33	秋	地理	秋の山	
2861	秋の山半腹に本社社務所など	33	秋	地理	秋の山	

2862	崖に倚る塔や伽藍や秋の山	33	秋	地理	秋の山	
2863	雲めぐる岩の柱や秋の山	33	秋	地理	秋の山	
2864	半腹に古き宮あり秋の山	33	秋	地理	秋の山	
2865	若松の城を圍みて秋の山	33	秋	地理	秋の山	
2866	そろそると秋もの凄し角田河	25	秋	地理	秋の川	
2867	つゝくりと五位の立けり川の秋	26	秋	地理	秋の川	
2868	蛭瘦せぬ秋の野川の水清み	27	秋	地理	秋の川	
2869	蓼短く秋の小川の溢れたり	28	秋	地理	秋の川	
2870	面白やどの橋からも秋の不二	25	秋	地理	秋の富士	
2871	身ふるひのつく程清し秋の不二	25	秋	地理	秋の富士	
2872	夕やけや星きらきらと秋の不二	26	秋	地理	秋の富士	
2873	秋不二や異人仰向く馬の上	29	秋	地理	秋の富士	
2874	右も三井左も三井秋の不盡	30	秋	地理	秋の富士	
2875	山はにしき不二獨り雪の朝日かな	22	秋	地理	野山の錦	
2876	山山の錦きたなしふしの山	25	秋	地理	野山の錦	
2877	都出て行けば野山の錦哉	26	秋	地理	野山の錦	
2878	たゝかひのあとを野山の錦かな	27	秋	地理	野山の錦	
2879	野の錦昼の葬礼通りけり	28	秋	地理	野山の錦	
2880	野の錦山の錦は繪の錦	29	秋	地理	野山の錦	
2881	からかさすほめて通る花野哉	25	秋	地理	花野	
2882	汽車道に堀り残されて花野哉	25	秋	地理	花野	
2883	闕迦桶にあるじの見えぬ花野哉	26	秋	地理	花野	
2884	から駕籠の近道戻る花野哉	26	秋	地理	花野	
2885	墨染の袖吹きあぐる花野哉	26	秋	地理	花野	
2886	僧一人立ちつくしたる花野哉	26	秋	地理	花野	
2887	其人の名もありさうな花野哉	26	秋	地理	花野	
2888	露にぬれて花野の雀ひけり	26	秋	地理	花野	
2889	手をあげて尼の呼びあふ花野哉	26	秋	地理	花野	
2890	神の子の地に低く飛ぶ花野哉	27	秋	地理	花野	
2891	山の上にさては湖あり花野あり	27	秋	地理	花野	
2892	おもしろや小道盡きたる花野原	28	秋	地理	花野	
2893	絶頂の山平らかに花野哉	28	秋	地理	花野	
2894	のぼりつめし山平らかに花野哉	28	秋	地理	花野	
2895	日傘して花野の小女郎誰が小女郎	29	秋	地理	花野	
2896	其中に牧場のある花野哉	31	秋	地理	花野	
2897	行列の松にかゝるや里の秋	26	秋	地理	里の秋	
2898	山を出てそゞろに悲し里の秋	28	秋	地理	里の秋	
2899	犬も来て牛につはべる刈田道	26	秋	地理	刈田	
2900	一段は刈り残す田の雀かな	27	秋	地理	刈田	
2901	一反は刈り残す田の雀かな	27	秋	地理	刈田	
2902	刈田から何驚いて鳩四五羽	27	秋	地理	刈田	
2903	鶏の籠をはなれて刈田哉	27	秋	地理	刈田	
2904	三四日見ぬ間に廣き刈田哉	28	秋	地理	刈田	
2905	夕陽や刈田に長き鶴の影	28	秋	地理	刈田	
2906	ひろびろと日の落ちかゝる刈田哉	28	秋	地理	刈田	
2907	大水の刈田は海の如くなり	29	秋	地理	刈田	
2908	大佛の夕影長き刈田哉	29	秋	地理	刈田	
2909	野社のぼつかりとして刈田哉	29	秋	地理	刈田	
2910	野社を中に残して刈田哉	29	秋	地理	刈田	
2911	ところどころ菜畠青き刈田哉	32	秋	地理	刈田	
2912	ひつじ田や瘦せて慈姑の花一つ	23	秋	地理	ひつじだ	ひつじ<禾+魯>
2913	にぎやかにくるゝ日もあり庵の秋	25	秋	地理	庵の秋	
2914	花聾に何をくはさん庵の秋	26	秋	地理	庵の秋	
2915	藏澤の竹も久しや庵の秋	31	秋	地理	庵の秋	

2916	もみぢうく水や刀に血のあと	23	秋	地理	秋の水	
2917	洗ひなは箔やはげなん秋の水	25	秋	地理	秋の水	
2918	鯉はねたにごり沈むや秋の水	25	秋	地理	秋の水	
2919	朝な朝な稻妻かくす秋の水	26	秋	地理	秋の水	
2920	風吹て秋行く水の音寒し	26	秋	地理	秋の水	
2921	星落ちて霜や浮くらん秋の水	26	秋	地理	秋の水	
2922	古井戸や金魚ものくふ秋の水	27	秋	地理	秋の水	
2923	松さびて緋鯉も居らず秋の水	27	秋	地理	秋の水	
2924	秋冴えたり我れ鯉切らん水の色	28	秋	地理	秋の水	
2925	秋の水澄みぬ天狗の影もなし	28	秋	地理	秋の水	
2926	秋の水天狗の鏡澄みにけり	28	秋	地理	秋の水	
2927	秋の水天狗の影やうつらん	28	秋	地理	秋の水	
2928	秋の水泥しづまつて魚もなし	28	秋	地理	秋の水	
2929	打ちこみし礫沈むや秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2930	打ちこんだ礫沈むや秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2931	此頃や泥龜居らず秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2932	静かさに礫打ちけり秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2933	石塔の沈めるも見えて秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2934	石塔の沈めるも見えぬ秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2935	底見えて魚見えて秋の水深し	28	秋	地理	秋の水	
2936	鳴かぬ鳥の飛んで過ぎけり秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2937	投げこんだ礫沈みぬ秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2938	山陰や日あしもさゝず秋の水	28	秋	地理	秋の水	
2939	秋の水魚住むべくもあらぬ哉	29	秋	地理	秋の水	
2940	翡翠の來らずなりぬ秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2941	翡翠も來らずなりぬ秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2942	静かさや日蝕映る秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2943	絶頂や火の脈絶えて秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2944	南泉の猫斬り捨てし秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2945	南泉の猫捨てられつ秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2946	日蝕のうつりてすごし秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2947	日蝕や蓋をして置く秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2948	みもり浮て鯉深くひそむ秋の水	29	秋	地理	秋の水	
2949	秋の水岩白く魚動かざる	31	秋	地理	秋の水	
2950	君が代や調子のそろふ落水	24	秋	地理	落水	
2951	小山田や一間程の落水	27	秋	地理	落水	
2952	おもしろや田毎の月の落水	28	秋	地理	落水	
2953	新田や汐にさしあふ落水	28	秋	地理	落水	
2954	日焼田や二反はからき落水	28	秋	地理	落水	
2955	くたびれた音や山田の落水	29	秋	地理	落水	
2956	千町田や夕静かに落水	29	秋	地理	落水	
2957	ゆらゆらと廻廊浮くや秋の汐	24	秋	地理	秋の潮	
2958	宮嶋の鳥居平たし秋の汐	26	秋	地理	秋の潮	
2959	日暮るゝや空のはてより秋の汐	28	秋	地理	秋の潮	
2960	初汐やつなぐ處に迷ふ舟	20	秋	地理	初潮	
2961	初汐や帆柱ならぶ垣の外	24	秋	地理	初潮	
2962	初汐にすれてとびけり鶴一羽	25	秋	地理	初潮	
2963	初汐につれていでけり鶴一羽	25	秋	地理	初潮	
2964	初汐の空にたゞよふきほい哉	25	秋	地理	初潮	
2965	初汐の空にひろがるきほい哉	25	秋	地理	初潮	
2966	初汐や御茶の水橋あたりまで	25	秋	地理	初潮	
2967	初汐や松に浪こす四十島	25	秋	地理	初潮	
2968	初汐の下を流るゝ角田川	26	秋	地理	初潮	
2969	初汐や渚をたどる鶴の足	26	秋	地理	初潮	

2970	初汐やはかなきものはうつせ貝	26	秋	地理	初潮	
2971	初汐や太平洋を檐の下	27	秋	地理	初潮	
2972	初汐やどつくにはいる軍船	27	秋	地理	初潮	
2973	初汐に松四五本の小島かな	28	秋	地理	初潮	
2974	初汐の上に灯ともす小島かな	28	秋	地理	初潮	
2975	初汐の海にあふるゝばかりかな	28	秋	地理	初潮	
2976	初汐や海ゆりこして草の上	28	秋	地理	初潮	
2977	初汐やからくも橋をくゞる船	28	秋	地理	初潮	
2978	初汐や千石積の船おろし	28	秋	地理	初潮	
2979	初汐や河豚遊び居る阜頭の内	28	秋	地理	初潮	
2980	初汐の跡これならし大鳥居	29	秋	地理	初潮	
2981	初汐の鯨うくべきけしきかな	29	秋	地理	初潮	
2982	初汐の渺々として入日哉	29	秋	地理	初潮	
2983	初汐や川に漾ふ薦包	29	秋	地理	初潮	
2984	初汐や背戸に漾ふ薦包	29	秋	地理	初潮	
2985	初汐や藻草にからむ古足駄	29	秋	地理	初潮	
2986	初汐に飯くふ船や窓の前	30	秋	地理	初潮	
2987	初汐の鰯を追はへる小海老哉	30	秋	地理	初潮	
2988	初汐や船に飯くふ窓の前	30	秋	地理	初潮	
2989	初汐や横須賀浮ぶ家の影	30	秋	地理	初潮	
2990	ひたひたと初汐よする戸口哉	30	秋	地理	初潮	
2991	初汐や埠頭の内なる蒸氣船	31	秋	地理	初潮	
2992	初汐や千石船の船よそひ	32	秋	地理	初潮	
2993	振袖をしぼりて洗ふ硯哉	21	秋	人事	硯洗	
2994	十年の硯洗ふこともなかりけり	29	秋	人事	硯洗	
2995	洗ひたる机洗ひたる硯哉	35	秋	人事	硯洗	
2996	いざ聞かん七夕づめのさゝめ言	23	秋	人事	七夕	
2997	笹につけて扇やかさん女七夕	25	秋	人事	七夕	
2998	七夕の橋やくづれてなく鴉	25	秋	人事	七夕	
2999	七夕や夢に驚く斧の音	25	秋	人事	七夕	
3000	ぬか星や七夕の子の数しれず	25	秋	人事	七夕	
3001	布引も願ひの絲の数にせむ	25	秋	人事	七夕	
3002	よもすがら烏もさわけ星祭	25	秋	人事	七夕	
3003	うれしさや七夕竹の中を行く	26	秋	人事	七夕	
3004	じりじりとよるとも見えず二ツ星	26	秋	人事	七夕	
3005	七夕にまことの情を尋ね見よ	26	秋	人事	七夕	
3006	七夕の雨やいづこの牛の聲	26	秋	人事	七夕	
3007	七夕の雨やいづくの牛の聲	26	秋	人事	七夕	
3008	七夕の袖やかざゝん初嵐	26	秋	人事	七夕	
3009	七夕の袖やかざゝん夕あらし	26	秋	人事	七夕	
3010	七夕の夜は牛の尾に明けにけり	26	秋	人事	七夕	
3011	七夕や牛の角にも露の玉	26	秋	人事	七夕	
3012	七夕や戀とも知らずさわぎ鳧	26	秋	人事	七夕	
3013	ぢりぢりとよるとも見えず星二ツ	26	秋	人事	七夕	
3014	草鞋屋は草鞋をかせよ女七夕	26	秋	人事	七夕	
3015	七夕の今宵にせまる曇り哉	27	秋	人事	七夕	
3016	七夕の人無し小舟流れけり	27	秋	人事	七夕	
3017	七夕の枕に貸さん子持石	27	秋	人事	七夕	
3018	どれ貸そか女七夕には紅の裏	27	秋	人事	七夕	
3019	牛載せて妻迎舟漕ぎ出しぬ	28	秋	人事	七夕	
3020	行水ぢやふんどし貸さん男七夕	28	秋	人事	七夕	
3021	七夕に草履を貸すや小傾城	28	秋	人事	七夕	
3022	七夕は鶯の聲にて明けにけり	28	秋	人事	七夕	
3023	七夕やおよそやもめの涙雨	28	秋	人事	七夕	

3024	七夕や蜘蛛の振舞おもしろき	28	秋	人事	七夕	
3025	七夕を祭らぬ御代に戀男	28	秋	人事	七夕	
3026	舟橋に七夕竹のかゝりけり	28	秋	人事	七夕	
3027	仰向に我臍見せん女七夕	29	秋	人事	七夕	
3028	月蝕の話などして星の妻	29	秋	人事	七夕	
3029	三十にしてよめらぬ人や星祭	29	秋	人事	七夕	
3030	七夕や城かねの水鳥の橋	29	秋	人事	七夕	
3031	七夕やそこらに在るは禿星	29	秋	人事	七夕	
3032	月落ちて雲の屏風を星の閨	29	秋	人事	七夕	
3033	彦星は缺落とこそたまへど	29	秋	人事	七夕	
3034	更くる夜ををかしゃ星のさゝめ言	29	秋	人事	七夕	
3035	紅粉白粉と七夕姫の日半日	29	秋	人事	七夕	
3036	星の戀念も残らず別れけり	29	秋	人事	七夕	
3037	星二人去年の雨をかこつらん	29	秋	人事	七夕	
3038	姫星に見られながらの湯あみ哉	29	秋	人事	七夕	
3039	七夕の夜を待つとはかりかゝれたり	30	秋	人事	七夕	
3040	椽側に七夕祭る机かな	31	秋	人事	七夕	
3041	思ひやる今妻星の胸さわぎ	31	秋	人事	七夕	
3042	貸したがる禿も星に紅の帯	31	秋	人事	七夕	
3043	七夕に何も貸さゞる男哉	31	秋	人事	七夕	
3044	七夕に物貸す人もなき世かな	31	秋	人事	七夕	
3045	妹に七夕星を教へけり	32	秋	人事	七夕	
3046	七夕の色紙分つ妹かな	32	秋	人事	七夕	
3047	門川や机洗ふ子五六人	35	秋	人事	七夕	
3048	物洗ふ七夕川の濁り哉	35	秋	人事	七夕	
3049	草花の上へころりと星二つ	29	秋	人事	星合	
3050	星合は月落ち烏啼いて夜半	29	秋	人事	星合	
3051	星合や求馬は三輪の烏帽子折	29	秋	人事	星合	
3052	女房に何を語らん星こよひ	26	秋	人事	星の夜	
3053	星の夜に誰をや小川を渡る音	26	秋	人事	星の夜	
3054	曉のしづかに星の別れ哉	26	秋	人事	星の別	
3055	雲のさま星別るゝと覺えたり	28	秋	人事	星の別	
3056	雲のさま星別るゝと覺えけり	28	秋	人事	星の別	
3057	船に寐て星の別を見る夜哉	28	秋	人事	星の別	
3058	星の別れほろりと露をこぼしけり	29	秋	人事	星の別	
3059	待ち待ちて星の別を見る夜哉	29	秋	人事	星の別	
3060	もうもうと牛鳴く星の別れ哉	29	秋	人事	星の別	
3061	雨うたて願ひの絲のきれやせん	26	秋	人事	願の糸	
3062	けふの雨願ひの絲のきれやせん	26	秋	人事	願の糸	
3063	梶の葉を戀のはじめや兄妹	25	秋	人事	梶の葉	
3064	梶の葉に書きなやみたる女哉	28	秋	人事	梶の葉	
3065	梶の葉に雑の歌書く女哉	26	秋	人事	梶の葉	
3066	松明に虫の飛ぶ見ゆ虫送	31	秋	人事	虫送	
3067	松明やいなごもともに虫送	31	秋	人事	虫送	
3068	火や鉦や遠里小野の虫送	31	秋	人事	虫送	
3069	虫送り送りすまして歸りけり	31	秋	人事	虫送	
3070	蟲送る松明森に隠れけり	32	秋	人事	虫送	
3071	草市にねぎる心のあはれなり	26	秋	人事	草市	
3072	草市のあとや麻木に露の玉	27	秋	人事	草市	
3073	賣れ残る菰は露なり草の市	28	秋	人事	草市	
3074	賣れ残るもの露けしや草の市	28	秋	人事	草市	
3075	賣れ残るものは露なり艸の市	28	秋	人事	草市	
3076	草市や人まばらなる宵の雨	28	秋	人事	草市	
3077	草市の草しほみたる日向哉	32	秋	人事	草市	

3078	草市の中を葬禮通りけり	32	秋	人事	草市	
3079	草市の蓮にたまる埃かな	32	秋	人事	草市	
3080	草市や燈籠白き夕まくれ	32	秋	人事	草市	
3081	草市や柳の下の燈籠店	32	秋	人事	草市	
3082	草の市價安くてあはれなり	32	秋	人事	草市	
3083	しかしかと賣れても行かざ草の市	32	秋	人事	草市	
3084	四足の瓜も茄子も草の市	32	秋	人事	草市	
3085	草市ノ草ノ匂ヒヤ廣小路	35	秋	人事	草市	
3086	草市ヤ雨ニ濡レタル蓮ノ花	35	秋	人事	草市	
3087	別家して盆なき家や琴の聲	31	秋	人事	盆	
3088	親もなき子もなき家の玉まつり	25	秋	人事	魂祭	
3089	團子もむ皺手あさましたま祭	25	秋	人事	魂祭	
3090	團子もむ皺手耻かし魂祭	25	秋	人事	魂祭	
3091	見た顔の三つ四つはあり魂祭	25	秋	人事	魂祭	
3092	牛なくや其牛かひの魂まつり	26	秋	人事	魂祭	
3093	酒ものめぬ身となられしか魂祭	26	秋	人事	魂祭	
3094	玉まつり悲しきものと覚えけり	26	秋	人事	魂祭	
3095	魂祭庫裏は團子の粉雪哉	26	秋	人事	魂祭	
3096	玉祭極樂へ轉宅の文書かん	26	秋	人事	魂祭	
3097	魂祭楽しみにして待つ子哉	26	秋	人事	魂祭	
3098	魂祭我より若き人の數	26	秋	人事	魂祭	
3099	つらつらとならび給へり魂祭	26	秋	人事	魂祭	
3100	三井寺や三千坊の魂祭	27	秋	人事	魂祭	
3101	討死の位牌新らし瓜の馬	28	秋	人事	魂祭	
3102	盂蘭盆の鶺鴒鳴くや墓印	28	秋	人事	魂祭	
3103	盂蘭盆や無縁の墓に鳴く蛙	28	秋	人事	魂祭	
3104	おろそかになりぬ都の靈祭	28	秋	人事	魂祭	
3105	おろそかになりまさる世の魂祭	28	秋	人事	魂祭	
3106	聖靈の寫眞によるや二三日	28	秋	人事	魂祭	
3107	魂祭る門を覗くや物狂ひ	28	秋	人事	魂祭	
3108	病んで父を思ふ心や魂祭	28	秋	人事	魂祭	
3109	裏店の隅に今年は魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3110	壁のすきにいなづますこし魂まつり	29	秋	人事	魂祭	
3111	壁のすきに稻妻すなり魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3112	來たまはぬもあるべし旅の魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3113	脚絆解いて魂祭るなり旅戻	29	秋	人事	魂祭	
3114	草の戸や月明かに魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3115	御先祖はうしろの方に聖靈棚	29	秋	人事	魂祭	
3116	御先祖はうしろの方に玉祭り	29	秋	人事	魂祭	
3117	ごたごたと並べたてたり魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3118	聖靈やすこし後から女だち	29	秋	人事	魂祭	
3119	魂祭團子をくへといはれけり	29	秋	人事	魂祭	
3120	魂祭蝸鳴いて夕なり	29	秋	人事	魂祭	
3121	花嫁のうみうみしくも魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3122	貧乏を見せじと人の魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3123	孫共か物見に来るよ魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3124	孫共が拜みに来るよ魂祭	29	秋	人事	魂祭	
3125	無縁様の供物すつれば鶺鴒鳴く	29	秋	人事	魂祭	
3126	我病んで魂祭るべくもあらぬ身よ	29	秋	人事	魂祭	
3127	晝飯は精進鮓や魂祭	31	秋	人事	魂祭	
3128	雨の夜はおくれ給はん魂迎	25	秋	人事	魂迎え	
3129	過去帳を讀み申さんか魂迎	25	秋	人事	魂迎え	
3130	迎火をもやひにたくや三軒家	25	秋	人事	迎火	
3131	迎火や父に似た子の頬の明り	28	秋	人事	迎火	

3132	いちはやく迎火焚きし隣哉	31	秋	人事	迎火	
3133	撫子に迎火映る小庭哉	31	秋	人事	迎火	
3134	迎火の消えて人來るけはひ哉	31	秋	人事	迎火	
3135	迎火や心いそぎの夕間暮	31	秋	人事	迎火	
3136	迎火や墓は故郷家は旅	31	秋	人事	迎火	
3137	夕餉はてゝ迎火を焚くいそぎ哉	31	秋	人事	迎火	
3138	棚経や小僧面白さうに讀む	28	秋	人事	棚経	
3139	魂棚や何はあれとも白團子	25	秋	人事	魂棚	
3140	魂棚や壁のひまもる夕つく日	26	秋	人事	魂棚	
3141	魂棚に壁のひま漏る夕日哉	26	秋	人事	魂棚	
3142	魂棚やいくさを語る人二人	28	秋	人事	魂棚	
3143	魂棚やいくさを語る後家二人	28	秋	人事	魂棚	
3144	魂棚の火を吹き消しぬ夕嵐	29	秋	人事	魂棚	
3145	魂棚に團子供へて拜みけり	32	秋	人事	魂棚	
3146	生身玉其又親も達者なり	25	秋	人事	生見玉	
3147	生身魂我は芋にて祭られん	26	秋	人事	生見玉	
3148	生身魂七十と申し達者也	28	秋	人事	生見玉	
3149	五ツ子やあはれ笠きる墓参り	23 ~	秋	人事	墓参	
3150	神主や烏帽子のまゝの墓参	26	秋	人事	墓参	
3151	長崎や三味線提げて墓参	27	秋	人事	墓参	
3152	舟借りて行くや小嶋の墓参	27	秋	人事	墓参	
3153	家族従者十人許り墓参	28	秋	人事	墓参	
3154	石ころで花いけ打や墓参	30	秋	人事	墓参	
3155	とかくして月になりけり大文字	23 ~ 25	秋	人事	大文字	
3156	大文字をのぞいて出たり山の月	25	秋	人事	大文字	
3157	夜の露もえて音あり大文字	25	秋	人事	大文字	
3158	弘法の投筆かなに大文字	26	秋	人事	大文字	
3159	大文字に片類まばゆき往來哉	28	秋	人事	大文字	
3160	風吹て廻り燈籠の浮世かな	26	秋	人事	走馬燈	
3161	同じ事を走馬燈のまはりけり	28	秋	人事	走馬燈	
3162	同じ事を廻燈籠のまはりけり	28	秋	人事	走馬燈	
3163	灯をともす女なまめく切籠哉	28	秋	人事	切籠	
3164	窓の内に切籠をともす嵐かな	29	秋	人事	切籠	
3165	燈籠も交喙のはしとかわりけり	24	秋	人事	燈籠	交喙(いすか<易+鳥>)
3166	薄絹に燈籠の火の朧かな	25	秋	人事	燈籠	
3167	うつくしき燈籠の猶哀れ也	25	秋	人事	燈籠	
3168	鎌倉に燈籠くらき夕かな	25	秋	人事	燈籠	
3169	傾城の燈籠のぞくや寶巖寺	25	秋	人事	燈籠	
3170	權助も燈籠になれば哀れ也	25	秋	人事	燈籠	
3171	燈籠に大小のある親子哉	25	秋	人事	燈籠	
3172	燈籠に人一人のかるさかな	25	秋	人事	燈籠	
3173	燈籠の朧に松の月夜かな	25	秋	人事	燈籠	
3174	燈籠の戒名習ふ子供かな	25	秋	人事	燈籠	
3175	燈籠の消へて泣きだすやも女哉	25	秋	人事	燈籠	
3176	燈籠の竹にうつろふすごさ哉	25	秋	人事	燈籠	
3177	燈籠の火に音たてゝ秋の風	25	秋	人事	燈籠	
3178	燈籠やそよ吹く風の何とやら	25	秋	人事	燈籠	
3179	燈籠を見かけて馬子のたまりけり	25	秋	人事	燈籠	
3180	とこやらに稻妻はしる燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3181	何處やらを稻妻走る燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3182	なき人もかたさまさまの燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3183	母さまといはれておがむ燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3184	母様もいはれて拜む燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3185	家根の上にとこの哀れぞ揚燈籠	25	秋	人事	燈籠	

3186	家根の上に何處の哀や揚燈籠	25	秋	人事	燈籠	
3187	藪かげは誰か買ふて行く燈ろう哉	25	秋	人事	燈籠	
3188	藪陰を誰がさげて行く燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3189	藪陰を誰がよそ行くや燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3190	をさな子のつることいそぐ燈籠哉	25	秋	人事	燈籠	
3191	あらびをのはて八やさしき燈籠哉	26	秋	人事	燈籠	
3192	うつゝともなき燈籠や松の陰	26	秋	人事	燈籠	
3193	こゝも亦燈籠店のさわぎ哉	26	秋	人事	燈籠	
3194	燈籠のかげに綱すく苦家哉	26	秋	人事	燈籠	
3195	燈籠の火消えなんとす此夕	26	秋	人事	燈籠	
3196	燈籠や小雨ふる夜の窓明り	26	秋	人事	燈籠	
3197	灯の消えて闇路をめぐる燈籠哉	26	秋	人事	燈籠	
3198	ほんやりと燈籠うつる小窓哉	26	秋	人事	燈籠	
3199	われ死なばどんな燈籠を願ふべし	26	秋	人事	燈籠	
3200	われ死なばどんな燈籠を願ふべき	26	秋	人事	燈籠	
3201	孝行のしたい頃には燈籠哉	28	秋	人事	燈籠	
3202	垣ごしに見ゆる隣の燈籠哉	28	秋	人事	燈籠	
3203	賤が檐端干魚燈籠蕃椒	28	秋	人事	燈籠	
3204	たはれ男の遊君祭る燈籠哉	28	秋	人事	燈籠	
3205	たをやめの足もと暗き燈籠哉	28	秋	人事	燈籠	
3206	燈籠をともして留守の小家哉	28	秋	人事	燈籠	
3207	人呼ぶや燈籠竝べし道の端	28	秋	人事	燈籠	
3208	尼の子の燈籠に遊ぶあはれ也	29	秋	人事	燈籠	
3209	うつくしき燈籠掛けたり竹の奥	29	秋	人事	燈籠	
3210	去年よりちいさき燈籠吊しけり	29	秋	人事	燈籠	
3211	傾城の猶うつくしき燈籠哉	29	秋	人事	燈籠	
3212	子を負ふてかるた貼り居る燈籠哉	29	秋	人事	燈籠	
3213	しょんぼりと燈籠白し草の奥	29	秋	人事	燈籠	
3214	燈籠にさはらんとする芭蕉哉	29	秋	人事	燈籠	
3215	燈籠に灯ともさぬ家の端居哉	29	秋	人事	燈籠	
3216	燈籠の主が達者で居られたら	29	秋	人事	燈籠	
3217	燈籠の門を叩くや女馬士	29	秋	人事	燈籠	
3218	燈籠二つかけて淋しき大家哉	29	秋	人事	燈籠	
3219	燈籠や椽を這ひ居る蟋蟀	29	秋	人事	燈籠	
3220	燈籠を二つかけたる小家かな	29	秋	人事	燈籠	
3221	亡き妻や燈籠の陰に裾をつかむ	29	秋	人事	燈籠	
3222	墓原に隣る小家の燈籠哉	29	秋	人事	燈籠	
3223	疫ありて燈籠多き小村哉	30	秋	人事	燈籠	
3224	里川や燈籠提けて渉る人	30	秋	人事	燈籠	
3225	里川や燈籠をさげて渡る人	30	秋	人事	燈籠	
3226	淋しさは燈籠かけたる二階哉	30	秋	人事	燈籠	
3227	雪院へ通ふ廊下の燈籠哉	30	秋	人事	燈籠	
3228	雪院へ行かんとすれば燈籠哉	30	秋	人事	燈籠	
3229	燈籠消えて芭蕉に風の渡る音	30	秋	人事	燈籠	
3230	燈籠の岐阜提灯と並ひけり	30	秋	人事	燈籠	
3231	燈籠のぽっと消えけり夜半の窓	30	秋	人事	燈籠	
3232	燈籠見えて小徑盡たり八重葎	30	秋	人事	燈籠	
3233	燈籠を得ねぎらぬもあはれなり	30	秋	人事	燈籠	
3234	萩垣や萩の葉隠れ釣燈籠	30	秋	人事	燈籠	
3235	人聲や燈籠見ゆる低き垣	30	秋	人事	燈籠	
3236	吉原の燈籠見による酒の酔	30	秋	人事	燈籠	
3237	草の雨燈籠さげて通りけり	31	秋	人事	燈籠	
3238	燈籠に夜半の喧嘩や仲の町	31	秋	人事	燈籠	
3239	燈籠の夜に見初めたる遊女哉	31	秋	人事	燈籠	

3240	吉原の燈籠見による月夜哉	31	秋	人事	燈籠	
3241	吉原や燈籠の花人の花	31	秋	人事	燈籠	
3242	燈籠さげて橋行く人や水の影	32	秋	人事	燈籠	
3243	墨水は燈籠もこはくおぼすらん	33	秋	人事	燈籠	
3244	燈籠にふたゝひともす夜半哉	不詳	秋	人事	燈籠	
3245	木曾さへも人は死ぬとや高燈籠	25	秋	人事	高燈籠	
3246	富士はまた暮れぬ内より高燈籠	25	秋	人事	高燈籠	
3247	一つづゝ星はくもりて高燈籠	26	秋	人事	高燈籠	
3248	日の入や星のあたりの高燈籠	28	秋	人事	高燈籠	
3249	火や消えし雲やかゝりし高燈籠	28	秋	人事	高燈籠	
3250	山の端や晝見る寺の高燈籠	28	秋	人事	高燈籠	
3251	あちこちに高燈籠の見ゆる哉	29	秋	人事	高燈籠	
3252	旅に暮れて高燈籠の村に出づ	29	秋	人事	高燈籠	
3253	目じるしや晝は杉夜は高燈籠	29	秋	人事	高燈籠	
3254	瘦村やひつそりとして高燈籠	29	秋	人事	高燈籠	
3255	わりなくも宿乞ふ僧や高燈籠	29	秋	人事	高燈籠	
3256	原中や西に當りて高燈籠	30	秋	人事	高燈籠	
3257	鶺鴒のかゝりならてうれしゝ流燈會	21	秋	人事	燈籠流	
3258	鶺鴒のかゝりならてうれしや流燈會	21	秋	人事	燈籠流	
3259	身の罪を水に流して流燈會	21	秋	人事	燈籠流	
3260	身の罪を水に流すか流燈會	21	秋	人事	燈籠流	
3261	女にも生れて見たき踊哉	21	秋	人事	踊	
3262	いざ踊れ溝の蛙ものら猫も	23	秋	人事	踊	
3263	負はれたる子供もせなで踊哉	23	秋	人事	踊	
3264	窓のかけよその二階の踊かな	23	秋	人事	踊	
3265	よし原は猫もうかれておどりけり	23	秋	人事	踊	
3266	住吉は松とりまいて踊かな	25	秋	人事	踊	
3267	袖なくてうき洋服の踊り哉	25	秋	人事	踊	
3268	日がくれて踊りに出たり生身玉	25	秋	人事	踊	
3269	しかすがに胸うちさわぐ踊哉	26	秋	人事	踊	
3270	背の高い人のこにき踊哉	26	秋	人事	踊	
3271	ちかづきの多過ぎてうき踊哉	26	秋	人事	踊	
3272	やせ村に老もこぞりし踊かな	26	秋	人事	踊	
3273	宵の間の角力くづれて踊哉	26	秋	人事	踊	
3274	踊りけり腰にぶらつく奉加帳	26	秋	人事	踊	
3275	親負うて踊念佛見に行ん	27	秋	人事	踊	
3276	雷のあとを淋しき踊哉	27	秋	人事	踊	
3277	誰そや闇に小石投げこむ踊哉	27	秋	人事	踊	
3278	うき人の袂觸れたる踊哉	28	秋	人事	踊	
3279	歌垣の世は變りたる踊りかな	28	秋	人事	踊	
3280	なまくさき漁村の月の踊かな	28	秋	人事	踊	
3281	英人も露人もまじる踊哉	29	秋	人事	踊	
3282	肘白き君が踊の手ぶりかな	29	秋	人事	踊	
3283	一人おきに男女の踊哉	30	秋	人事	踊	
3284	一人置きに女のまじる踊かな	30	秋	人事	踊	
3285	羽打つて小天狗どもの踊哉	31	秋	人事	踊	
3286	羽を打つて小天狗どもの踊かな	31	秋	人事	踊	
3287	魂送り背戸より歸り給ひけり	25	秋	人事	魂送り	
3288	風吹て聖靈いそぐ歸り道	26	秋	人事	魂送り	
3289	送火や朦朧として佛だち	24	秋	人事	送り火	
3290	送火や烟朦朧として佛達	24	秋	人事	送り火	
3291	烏帽子着て送り火たくや白拍子	25	秋	人事	送り火	
3292	送火の煙見上る子どもかな	25	秋	人事	送り火	
3293	送火の何とはなしに灰たまる	25	秋	人事	送り火	

3294	送火の灰の上なり桐一葉	25	秋	人事	送り火	
3295	送火のあとやもうき焦れ石	27	秋	人事	送り火	
3296	送火のもえたちかぬる月夜哉	28	秋	人事	送り火	
3297	送火にさつさと歸り給ひけり	29	秋	人事	送り火	
3298	いざたまへ迎火焚てまみらせん	28	秋	人事	芋殻焚く	
3299	麻木焚く女ばかりの哀れなり	29	秋	人事	芋殻焚く	
3300	燃えかねて麻木の烟西へ吹く	28	秋	人事	麻木	
3301	やぶ入や皆見覚えの木槿垣	25	秋	人事	藪入	
3302	盆過の村静かなり猿廻し	26	秋	人事	盆過ぎ	
3303	盆過の小草生えたる墓場哉	28	秋	人事	盆過ぎ	
3304	盆過の月明かに雨の音	32	秋	人事	盆過ぎ	
3305	折からの攝待うくる涙かな	29	秋	人事	攝待	
3306	攝待のむすび喰ひつゝ別れけり	32	秋	人事	攝待	
3307	攝待やむすびにしたる今年米	32	秋	人事	攝待	
3308	攝待のすみて淋しき茶堂哉	33	秋	人事	攝待	
3309	攝待の施主や佛屋善右衛門	33	秋	人事	攝待	
3310	攝待の札所や札の打ち納め	33	秋	人事	攝待	
3311	攝待や芝居のやうな子順禮	33	秋	人事	攝待	
3312	頓入や納屋をあくれば唐辛子	25	秋	人事	つと入	
3313	衝突入や人の心の見たき哉	25	秋	人事	つと入	
3314	つと入に小袖をかざす寐顔哉	26	秋	人事	つと入	
3315	つと入らでうき人の門を過ぎにけり	28	秋	人事	つと入	
3316	来て見れば取氣に成や辻角力	21	秋	人事	相撲	
3317	相撲見や翁の面に似た親父	24	秋	人事	相撲	
3318	一休の投げつけられし角力哉	26	秋	人事	相撲	
3319	風吹て淋しき宵の角力哉	26	秋	人事	相撲	
3320	くらがりに聲を力の角力哉	26	秋	人事	相撲	
3321	角力見の人上りけり稻荷堂	26	秋	人事	相撲	
3322	夕月や京のはづれの辻角力	26	秋	人事	相撲	
3323	篝焚いて今宵も角力取りけるよ	28	秋	人事	相撲	
3324	朝鴉稽古角力を笑ひけり	29	秋	人事	相撲	
3325	軍配上る時羽織飛び帽子ふる	29	秋	人事	相撲	
3326	四ヶ村に響く角力の大鼓かな	29	秋	人事	相撲	
3327	角力取ると見えて鎮守の土俵哉	29	秋	人事	相撲	
3328	一すぢに勝たんと思ふ角力かな	29	秋	人事	相撲	
3329	善き聲にこなた小錦とよばゝつたり	29	秋	人事	相撲	
3330	四つに組んで鬣負の多き角力哉	29	秋	人事	相撲	
3331	りゝしさは四つに組んだる角力哉	29	秋	人事	相撲	
3332	小錦に五人がゝりの角力かな	30	秋	人事	相撲	
3333	天高し角力の大鼓鳴り渡る	30	秋	人事	相撲	
3334	豊年や月明かに宮角力	30	秋	人事	相撲	
3335	角力取の見て居る辻の角力哉	31	秋	人事	相撲	
3336	東袖べし西のし梅や分角力	32	秋	人事	相撲	
3337	大關ト大關ト組ム角力カナ	34	秋	人事	相撲	
3338	マハシ著ケテ子供角力ノ竝ビケリ	34	秋	人事	相撲	
3339	角力取の猪首はつらしふじの山	25	秋	人事	相撲取	
3340	うつくしき秋を名乗るや角力取	26	秋	人事	相撲取	
3341	母親に孝の名もあり角力取	26	秋	人事	相撲取	
3342	いとし妻もつとしもあらず角力取	26	秋	人事	相撲取	
3343	角力取いづれ江戸絹京錦	26	秋	人事	相撲取	
3344	焼栗や妻なき宿の角力取	27	秋	人事	相撲取	
3345	角力取の矢走へ渡る小舟哉	27	秋	人事	相撲取	
3346	年若く前齒折りたる角力取	28	秋	人事	相撲取	
3347	わづらふと聞けばあはれや角力取	28	秋	人事	相撲取	

3348	薬煮て母をいたはる角力取	29	秋	人事	相撲取	
3349	勝角力其夜殿より召されけり	29	秋	人事	相撲取	
3350	相撲取小き妻を持ちてけり	29	秋	人事	相撲取	
3351	角力取負けてぞ歸る月の原	29	秋	人事	相撲取	
3352	憎まれて見にくき顔や相撲取	31	秋	人事	相撲取	
3353	番附にひいき角力を評しけり	31	秋	人事	相撲取	
3354	宮相撲九紋龍と名のりける	33	秋	人事	相撲取	
3355	村角力九紋龍とぞ名のりけり	33	秋	人事	相撲取	
3356	村角力九紋龍とそ名のりける	33	秋	人事	相撲取	
3357	阿波人八阿波ノ相撲ヲヒキカナ	34	秋	人事	相撲取	
3358	幾秋ヲ負ケテ老イヌル角力カナ	34	秋	人事	相撲取	
3359	大關ニナラデ老イヌル角力カナ	34	秋	人事	相撲取	
3360	角力取二角力取ノ子モナカリケリ	34	秋	人事	相撲取	
3361	幕ノ内二ナツテ故郷ニ歸リケリ	34	秋	人事	相撲取	
3362	十徳の打そるふたる会式哉	23~25	秋	人事	御命講	
3363	佐渡へ行く舟よびもどせ御命講	28	秋	人事	御命講	
3364	町内の年寄はかりや御命講	28	秋	人事	御命講	
3365	日の入や法師居竝ぶ御命講	28	秋	人事	御命講	
3366	御命講の花かつぎ行く夕日哉	31	秋	人事	御命講	
3367	築地派のお講淋しや普請中	32	秋	人事	御命講	
3368	御命講や寺につたはる祖師の筆	33	秋	人事	御命講	
3369	饅頭買ふて連に分つやお命講	33	秋	人事	御命講	
3370	放生會して心よくぬる夜かな	23	秋	人事	放生会	
3371	母親を負ふて出でけり御遷宮	26	秋	人事	御遷宮	
3372	秋はまた春の残りの三阿彌陀	27	秋	人事	後の彼岸	
3373	うまさうに見れば彼岸の焼茄子	27	秋	人事	後の彼岸	
3374	富士は曇り筑波は秋の彼岸哉	27	秋	人事	後の彼岸	
3375	山吹の歸花見る彼岸哉	30	秋	人事	後の彼岸	
3376	山吹の花歸りさく彼岸かな	30	秋	人事	後の彼岸	
3377	オ萩クバル彼岸ノ使行キ逢ヒヌ	34	秋	人事	後の彼岸	
3378	梨腹モ牡丹餅腹モ彼岸カナ	34	秋	人事	後の彼岸	
3379	うつくしきものなげこむやせがき舟	25	秋	人事	施餓鬼	
3380	施餓鬼舟向ふの岸はなかりけり	25	秋	人事	施餓鬼	
3381	水底の亡者やさわぐ施餓鬼舟	25	秋	人事	施餓鬼	
3382	施餓鬼會や水音更る後夜の鐘	26	秋	人事	施餓鬼	
3383	淋しさや施餓鬼のあとの火の光	28	秋	人事	施餓鬼	
3384	施餓鬼舟はや龍王も浮べし	28	秋	人事	施餓鬼	
3385	残る蚊の瘦せてあはれや施餓鬼棚	28	秋	人事	施餓鬼	
3386	水の音施餓鬼涼しき灯影哉	31	秋	人事	施餓鬼	
3387	門前の川に灯ともす施餓鬼哉	31	秋	人事	施餓鬼	
3388	由緒ありて泥鱧施餓鬼と申けり	31	秋	人事	施餓鬼	
3389	夜更けて施餓鬼の燈籠流しけり	31	秋	人事	施餓鬼	
3390	石佛に水をかけたる施餓鬼哉	33	秋	人事	施餓鬼	
3391	餓鬼モ食へ間ノ夜中ノ鱧汁	34	秋	人事	施餓鬼	
3392	朝顔ノ盛過ギタル施餓鬼カナ	35	秋	人事	施餓鬼	
3393	宿の菊天長節をしらせばや	25	秋	人事	天長節	
3394	海晴れて天長節の日和かな	27	秋	人事	天長節	
3395	草の戸や天長節の小豆飯	30	秋	人事	天長節	
3396	唱歌聞ゆ天長節の朝日哉	30	秋	人事	天長節	
3397	畑打の天長節を知らぬかな	30	秋	人事	天長節	
3398	粥にする天長節の小豆飯	32	秋	人事	天長節	
3399	人も來ぬ天長節の病哉	32	秋	人事	天長節	
3400	一日の秋にぎやかに祭りかな	27	秋	人事	秋祭	
3401	村會に秋の祭の日のべかな	29	秋	人事	秋祭	

3402	武藏野は稲刈る秋と成りにけり	25	秋	人事	稲刈	
3403	稲刈て近道もどる牛のむれ	26	秋	人事	稲刈	
3404	早稲刈て大黒笑ふ聲す也	26	秋	人事	稲刈	
3405	稲刈りや雨ならんとして山近し	27	秋	人事	稲刈	
3406	稲刈るや焼場の煙たゝぬ日に	27	秋	人事	稲刈	
3407	脛に立つ水田の晩稲刈る日かな	27	秋	人事	稲刈	
3408	鶴一羽稲刈るあとの夕日哉	27	秋	人事	稲刈	
3409	見下せば里は稲刈る日和かな	27	秋	人事	稲刈	
3410	早稲刈れば晩稲のうらむ實入哉	27	秋	人事	稲刈	
3411	稲刈の鎌持つて女見返しぬ	28	秋	人事	稲刈	
3412	子を負ふて女瘦田の稲を刈る	28	秋	人事	稲刈	
3413	順禮や稲刈るわざを見て過る	28	秋	人事	稲刈	
3414	道ばたや稲刈る男こぐ女	28	秋	人事	稲刈	
3415	早稲晩稲刈るや東海道長し	28	秋	人事	稲刈	
3416	早稲刈ていまだ晩稲の残りけり	28	秋	人事	稲刈	
3417	稲刈りて眞宗寺の残りけり	29	秋	人事	稲刈	
3418	稲借りて村會開く小村かな	29	秋	人事	稲刈	
3419	稲刈りて地藏に化ける狸かな	29	秋	人事	稲刈	
3420	稲刈るは父こぐは母這ふは子よ	29	秋	人事	稲刈	
3421	稲つけて馬が行くなり稲の中	29	秋	人事	稲刈	
3422	股を没す水田の稲の刈りにくき	29	秋	人事	稲刈	
3423	股引の女稲刈る水深み	29	秋	人事	稲刈	
3424	遠村に稲刈る人の小さきよ	32	秋	人事	稲刈	
3425	稲掛けて梢短き竝木かな	27	秋	人事	稲掛	
3426	稲掛けて家まばら也谷の底	28	秋	人事	稲掛	
3427	稲掛けて神南村の時雨哉	28	秋	人事	稲掛	
3428	稲舟に棹とり馴れぬ女かな	27	秋	人事	稲舟	
3429	稲舟や野菊の渚蓼の岸	27	秋	人事	稲舟	
3430	稲舟に棹取り馴れし女かな	29	秋	人事	稲舟	
3431	稲積んで車推し行く親子哉	27	秋	人事	稲車	
3432	稲つんで子供載せたる車哉	30	秋	人事	稲車	
3433	稲こくや街道狭き藁の束	27	秋	人事	稲扱	
3434	街道を尻に稲こく女かな	27	秋	人事	稲扱	
3435	問へど答はずひとり稲こく女かな	27	秋	人事	稲扱	
3436	藁積んで地藏わびしや道の端	27	秋	人事	稲扱	
3437	夕榮や稲こぐ嫁の赤き顔	29	秋	人事	稲扱	
3438	あぜ豆のつぎめは青し稲筵	25	秋	人事	稲筵	
3439	あぜ豆のつぎめは白し稲筵	25	秋	人事	稲筵	
3440	高低に蠡とぶなり稲むしろ	25	秋	人事	稲筵	
3441	夜嵐のあとくぼみけり稲筵	26	秋	人事	稲筵	
3442	一條も九條も見えず稲筵	28	秋	人事	稲筵	
3443	稲筵朝日わつかに上りけり	28	秋	人事	稲筵	
3444	稲筵九條あたりは見えぬ也	28	秋	人事	稲筵	
3445	四國路や小山の底の稲筵	28	秋	人事	稲筵	
3446	はせ違ふ氣車のかけりや稲筵	28	秋	人事	稲筵	
3447	はせ違ふ氣車の行方や稲筵	28	秋	人事	稲筵	
3448	松山の城を載せたり稲筵	28	秋	人事	稲筵	
3449	雨雲の夕榮すなり稲筵	29	秋	人事	稲筵	
3450	稲筵國旗立てたる村見ゆる	30	秋	人事	稲筵	
3451	詩經には初摺歌こそ入れたけれ	28	秋	人事	初すり	
3452	道はたの初すり白や蓼老いぬ	31	秋	人事	初すり	
3453	初すりのすみし小村や猿まはし	31	秋	人事	初すり	
3454	風吹て初のほこりのゆがみけり	26	秋	人事	初干	
3455	初干すや鶏遊ぶ門の内	28	秋	人事	初干	

3456	駒とめて何事問ふぞ毛見の人	28	秋	人事	毛見	
3457	旅人をさびしからする鳴子哉	23	秋	人事	鳴子	
3458	西行の子とは思はず鳥おどし	24	秋	人事	鳴子	
3459	どこで引くとしらで廣がる鳴子哉	24	秋	人事	鳴子	
3460	一日は鳴子も引かず村まつり	25	秋	人事	鳴子	
3461	稻妻にひとゆりゆるる鳴子かな	25	秋	人事	鳴子	
3462	思ひ出し思ひ出しひく鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3463	砧よりふしむつかしき鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3464	こちで引けばあちでも引くや鳴子繩	25	秋	人事	鳴子	
3465	淋しさにうつむいて引く鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3466	旅人を追かけてひく鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3467	何げなく引けと鳴子のすさましき	25	秋	人事	鳴子	
3468	引板繩にふしを動かす夜明哉	25	秋	人事	鳴子	
3469	鳴子引晝から秋をなぶりけり	25	秋	人事	鳴子	
3470	引てから耳たてゝ聞く鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3471	引けば引くものよ一日鳴子引	25	秋	人事	鳴子	
3472	引張て耳たてゝゐる鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3473	ひとりゆれひとり驚く鳴子かな	25	秋	人事	鳴子	
3474	行秋や案山子にかゝる鳴子繩	25	秋	人事	鳴子	
3475	小山田に秋をひろげる鳴子哉	25	秋	人事	鳴子	
3476	風吹て山本遠き鳴子哉	26	秋	人事	鳴子	
3477	山里にひとりゆれたる鳴子哉	26	秋	人事	鳴子	
3478	夜に入りて音の遠のく鳴子哉	26	秋	人事	鳴子	
3479	餘り淋し鳥なと飛ばせ鳴子引	28	秋	人事	鳴子	
3480	あれよあれよ鳴子に鳥のとぶことよ	28	秋	人事	鳴子	
3481	親が子が妻が代りて鳴子哉	28	秋	人事	鳴子	
3482	五六間に鳴子盡きたる山田哉	28	秋	人事	鳴子	
3483	田は刈りぬ鳴子の繩のすぢかひに	28	秋	人事	鳴子	
3484	鳴ることは風にまかする鳴子哉	28	秋	人事	鳴子	
3485	わびて誰鳴子に鈴の音すなり	28	秋	人事	鳴子	
3486	鳴子画いて圍ひの外に鳥一羽	29	秋	人事	鳴子	
3487	鳴子さげて鶏さげて悪和尚行く	29	秋	人事	鳴子	
3488	鳴子なくて鳥飛びぬ敵隠れたり	29	秋	人事	鳴子	
3489	鳴子引いて旅人おどす思ひあり	29	秋	人事	鳴子	
3490	鳴子引晝飯くふて休みけり	29	秋	人事	鳴子	
3491	瘦畑に鳴子引くこともなかりけり	29	秋	人事	鳴子	
3492	瘦畑の鳴子引くこともなかりけり	29	秋	人事	鳴子	
3493	我戀は鳴子の繩のきれてけり	29	秋	人事	鳴子	
3494	粟の穂に倒れかゝりし鳴子哉	31	秋	人事	鳴子	
3495	粟の穂にもたれかゝりし鳴子哉	31	秋	人事	鳴子	
3496	僧の老の鳴子引く罪後世近し	31	秋	人事	鳴子	
3497	手こたへは繩のきれたる鳴子哉	31	秋	人事	鳴子	
3498	鳴子引く家陰の粟や三坪程	31	秋	人事	鳴子	
3499	鳴子引く僧の後生や臼の餓鬼	31	秋	人事	鳴子	
3500	ぬす人のふりかへりたる案山子哉	18	秋	人事	案山子	
3501	人をみなからすと思ふかゞし哉	18	秋	人事	案山子	
3502	くづれてはむかしにかへるかゝしかな	23	秋	人事	案山子	
3503	世の中の人や案山子の出来不出来	23	秋	人事	案山子	
3504	汝かゞしそもさんか秋の第一義	24	秋	人事	案山子	
3505	餘所のよりおのがつくつた案山子哉	24	秋	人事	案山子	
3506	をかしうに出来てかゞしの哀也	24	秋	人事	案山子	
3507	不器用に出来て案山子のあはれ也	24	秋	人事	案山子	
3508	秋風としらずにやせる案山子哉	25	秋	人事	案山子	
3509	案山子にも目鼻ありける浮世哉	25	秋	人事	案山子	

3510	缺徳利字山田の案山子哉	25	秋	人事	案山子	
3511	笠とれたあとはものうき案山子哉	25	秋	人事	案山子	
3512	笠とれば跡は物うき案山子哉	25	秋	人事	案山子	
3513	君が代は案山子に残る弓矢哉	25	秋	人事	案山子	
3514	試みに案山子の口に笛入れん	25	秋	人事	案山子	
3515	淋しさにたへてうつむく案山子哉	25	秋	人事	案山子	
3516	菅笠のくさりて落ちしかゞし哉	25	秋	人事	案山子	
3517	世の中につれぬ案山子の弓矢哉	25	秋	人事	案山子	
3518	朝見れば笠落したる案山子哉	26	秋	人事	案山子	
3519	落武者を紛らしてやる案山子哉	26	秋	人事	案山子	
3520	風吹て狂ふに似たる案山子哉	26	秋	人事	案山子	
3521	風箏を吹て案山子入相を勇むかと	26	秋	人事	案山子	
3522	魂はふくべなりけり瘦案山子	26	秋	人事	案山子	
3523	どちらから見てもうしろの案山子哉	26	秋	人事	案山子	
3524	山嵐くるや案山子の片くづれ	26	秋	人事	案山子	
3525	山畑は笠に雲おく案山子哉	26	秋	人事	案山子	
3526	笠落ちて案山子仰むく姿あり	27	秋	人事	案山子	
3527	兀然ときりかぎ畑の案山子哉	27	秋	人事	案山子	
3528	血に染むやいくさのあとのこけ案山子	27	秋	人事	案山子	
3529	敵死して案山子の笠の血しほ哉	27	秋	人事	案山子	
3530	向きあふて何を二つの案山子哉	27	秋	人事	案山子	
3531	笠ぬげて手拭かぶる案山子哉	28	秋	人事	案山子	
3532	兼平の塚を案山子の矢先かな	28	秋	人事	案山子	
3533	草摺のちぎれて高さ案山子哉	28	秋	人事	案山子	
3534	こしらへて案山子負ひ行く山路哉	28	秋	人事	案山子	
3535	どう見ても案山子に耳はなかりけり	28	秋	人事	案山子	
3536	人立つて鳥追舟の案山子哉	28	秋	人事	案山子	
3537	人に似て月夜の案山子あはれなり	28	秋	人事	案山子	
3538	男ばかりと見えて案山子の哀れ也	28	秋	人事	案山子	
3539	あるが中に最も愚なる案山子哉	29	秋	人事	案山子	
3540	大水を踏みこたえたるかゞし哉	29	秋	人事	案山子	
3541	案山子にも劣りし人の行へかな	29	秋	人事	案山子	
3542	こけもせでやつれ行く身の案山子哉	29	秋	人事	案山子	
3543	村會や背戸の案山子もまかり出よ	29	秋	人事	案山子	
3544	刈あとやひとり案山子の影法師	30	秋	人事	案山子	
3545	其中にもつとも愚なるかゞし哉	30	秋	人事	案山子	
3546	禁田の夕日に多き案山子哉	30	秋	人事	案山子	
3547	十年の狂態今に案山子哉	32	秋	人事	案山子	
3548	徳利の頬冠する案山子哉	32	秋	人事	案山子	
3549	其中に把栗の如き案山子かな	33	秋	人事	案山子	
3550	雀祝ひ鼠よろこぶや今年米	28	秋	人事	今年米	
3551	神を祝ふ小豆の飯や今年米	32	秋	人事	今年米	
3552	つみあげて庄屋ひれふす年貢哉	25	秋	人事	年貢納め	
3553	道々にこぼるゝ年のみつぎ哉	25	秋	人事	年貢納め	
3554	挽きをさめ牛も年貢の車哉	26	秋	人事	年貢納め	
3555	すつと抜きすつと細るや牛房引	25	秋	人事	牛蒡引く	
3556	浪人の力ためしや牛蒡引	25	秋	人事	牛蒡引く	
3557	牛蒡肥えて鎮守の祭近よりぬ	28	秋	人事	牛蒡引く	
3558	蓑干す壁に西日のよわりかな	28	秋	人事	煙草干す	
3559	ほしわたやふし見る脊戸の一むしろ	25	秋	人事	棉摘	
3560	片隅を牛の蹴返す綿むしろ	26	秋	人事	棉摘	
3561	日あたりや棉も干し犬も寐る戸口	27	秋	人事	棉摘	
3562	日あたりや綿も干し猫も寐る戸口	27	秋	人事	棉摘	
3563	木棉取高雄の紅葉まだ早し	28	秋	人事	棉摘	

3564	大水のあとに取るべき綿もなし	29	秋	人事	棉摘	
3565	洪水のあとに取るべき棉もなし	29	秋	人事	棉摘	
3566	蘆刈や一里四方に木も見えず	25	秋	人事	芦刈	
3567	蘆刈や誰が行末の紺しぼり	25	秋	人事	芦刈	
3568	蘆刈や見廻すかきり雲の峰	25	秋	人事	芦刈	
3569	刈ル蘆やひきぬく蘆もまじりけり	25	秋	人事	芦刈	
3570	笠一ツ動いて行くや木賊刈	25	秋	人事	木賊刈る	
3571	子を負ふて木賊刈る里の女哉	27	秋	人事	木賊刈る	
3572	蓋とれば京の匂ひの柚味噌哉	25	秋	人事	柚味噌	
3573	鯛もなし柚味噌淋しき膳の上	27	秋	人事	柚味噌	
3574	江湖部屋に頭竝べる柚味噌哉	29	秋	人事	柚味噌	
3575	木守りの終に柚味噌とならん哉	29	秋	人事	柚味噌	
3576	客あり柚味噌探し得つ只一つ	29	秋	人事	柚味噌	
3577	こゝろみに柚味噌を製す居士二人	29	秋	人事	柚味噌	
3578	小僧既に柚味噌の底を叩きけり	29	秋	人事	柚味噌	
3579	昨夜星落ち今朝柚味噌到る	29	秋	人事	柚味噌	
3580	禪寺の柚味噌ねらふや白藏主	29	秋	人事	柚味噌	
3581	貧厨や柚味噌残りて鼠鳴く	29	秋	人事	柚味噌	
3582	柚の玉味噌火焰を吐かんとす	29	秋	人事	柚味噌	
3583	柚の木兀として京極に柚味噌出づ	29	秋	人事	柚味噌	
3584	柚味噌買ふて愚庵がもとに茶を乞はん	29	秋	人事	柚味噌	
3585	柚味噌買ふて吉田の里に歸りけり	29	秋	人事	柚味噌	
3586	柚味噌盡きて更に梅干を愛す哉	29	秋	人事	柚味噌	
3587	柚味噌の蓋釜の蓋程に切り抜けり	29	秋	人事	柚味噌	
3588	老僧や手底に柚味噌の味噌を點す	29	秋	人事	柚味噌	
3589	我ねぶり彼なめる柚味噌一つ哉	29	秋	人事	柚味噌	
3590	われ病んで京の柚味噌の喰ひたかり	29	秋	人事	柚味噌	
3591	釜こげる柚子の上味噌つめたかり	32	秋	人事	柚味噌	
3592	禁酒して茶の道に入る柚味噌哉	32	秋	人事	柚味噌	
3593	小包の歪みし柚味噌とり出しぬ	32	秋	人事	柚味噌	
3594	尻焦けし柚味噌の釜や古壘	32	秋	人事	柚味噌	
3595	膳もなき壘の上の柚味噌哉	32	秋	人事	柚味噌	
3596	冷酒や柚味噌を炙る古火桶	32	秋	人事	柚味噌	
3597	碧梧桐の巻鮓虚子の柚味噌哉	32	秋	人事	柚味噌	
3598	堀盡す柚味噌の釜や焦くさき	32	秋	人事	柚味噌	
3599	柚味噌焼く雨の夕や菊百句	32	秋	人事	柚味噌	
3600	老禪師柚味噌の狂歌詠まれたり	32	秋	人事	柚味噌	
3601	露月黙し柚味噌つぶやく別かな	32	秋	人事	柚味噌	
3602	六句目にさし合のある柚味噌哉	32	秋	人事	柚味噌	
3603	草庵や柚味噌賣る店遠からず	33	秋	人事	柚味噌	
3604	俳諧の奈良茶茶の湯の柚味噌哉	33	秋	人事	柚味噌	
3605	我庵や柚味噌賣る店遠からず	33	秋	人事	柚味噌	
3606	薬堀に出てしか翁返り來す	30	秋	人事	薬掘る	
3607	薬堀に出てしか終に返り來す	30	秋	人事	薬掘る	
3608	椋の木に罔掛たり家の北	33	秋	人事	罔	
3609	茸茸に山の名も添ふ籠のなか	22	秋	人事	茸狩	
3610	茸狩や友呼ぶこゑも秋の風	22	秋	人事	茸狩	
3611	茸狩や心細くも山のおく	25	秋	人事	茸狩	
3612	我聲の風になりけり茸狩	25	秋	人事	茸狩	
3613	茸狩女と知れし木玉哉	26	秋	人事	茸狩	
3614	茸狩や鳥啼て女淋しがる	26	秋	人事	茸狩	
3615	茸狩山淺くいくちばかりなり	27	秋	人事	茸狩	
3616	茸狩の池ある山にふみ込みぬ	27	秋	人事	茸狩	
3617	茸取つて大聲あぐる女かな	28	秋	人事	茸狩	

3618	茸狩に夕日さしけり森のひま	29	秋	人事	茸狩	
3619	茸狩のしやしやぶは兒のみやげ哉	29	秋	人事	茸狩	
3620	茸狩の靈芝取りてぞ歸りける	29	秋	人事	茸狩	
3621	茸狩やひとり離れて鳥の聲	29	秋	人事	茸狩	
3622	一むれは女ばかりの茸狩	29	秋	人事	茸狩	
3623	熊手持つ女案内す菌狩	30	秋	人事	茸狩	
3624	五六本竝ぶしめぢや氣のあせり	30	秋	人事	茸狩	
3625	茸狩の歸らんとする女かな	30	秋	人事	茸狩	
3626	茸狩や熊手持つ女案内にて	30	秋	人事	茸狩	
3627	紅茸の捨るに惜き籠の中	30	秋	人事	茸狩	
3628	汽車を下りる茸狩衆や稻荷山	31	秋	人事	茸狩	
3629	茱萸折て山を出づるや茸狩	31	秋	人事	茸狩	
3630	早稲刈て暇を得たり菌狩	32	秋	人事	茸狩	
3631	蕈狩や淺き山々女連	33	秋	人事	茸狩	
3632	水落ちて石瘦せにけり崩れ梁	26	秋	人事	崩れ梁	
3633	雨ほろほろ小橋落ち築崩れたり	27	秋	人事	崩れ梁	
3634	崩れ梁杭一本残りけり	28	秋	人事	崩れ梁	
3635	浮樽や小嶋ものせて鯛引	24	秋	人事	鯛引く	
3636	鯛ひく數に加はるわらは哉	25	秋	人事	鯛引く	
3637	浮樽や小鳥ものせて鯛引	25	秋	人事	鯛引く	
3638	海原をちゞめよせたり鯛曳	25	秋	人事	鯛引く	
3639	網あけて鯛ちらばる濱邊哉	28	秋	人事	鯛引く	
3640	七浦の夕雲赤し鯛引	29	秋	人事	鯛引く	
3641	にぎやかに鯛引く也九十九里	29	秋	人事	鯛引く	
3642	警報を傳ふる村や鯛引	32	秋	人事	鯛引く	
3643	轉地する安房の濱地や鯛引	32	秋	人事	鯛引く	
3644	鈴蟲の中によるうつ砧かな	23	秋	人事	砧	
3645	月落ちて灯のあるかたや小夜砧	23	秋	人事	砧	
3646	菅笠にともしをかこふ砧の音	23~25	秋	人事	砧	
3647	哀れしれと門もとさゝぬ砧かな	24	秋	人事	砧	
3648	一村は家皆うごく砧哉	24	秋	人事	砧	
3649	砧うつ隣に寒きたひね哉	24	秋	人事	砧	
3650	乳のまぬ子は寐入りけりさよきぬた	24	秋	人事	砧	
3651	二軒家は二軒とも打つ砧哉	24	秋	人事	砧	
3652	一つ家に泣聲まじる砧哉	24	秋	人事	砧	
3653	よくきけば我家にもうつ砧かな	24	秋	人事	砧	
3654	餘りうたば砧にくえんふじの雪	25	秋	人事	砧	
3655	かるく打つ砧の中のわらひ哉	25	秋	人事	砧	
3656	此頃は旅らしうなる砧かな	25	秋	人事	砧	
3657	二軒家八二軒家ともうつ砧哉	25	秋	人事	砧	
3658	一村は女や多き小夜砧	26	秋	人事	砧	
3659	牛馴れて夢驚かぬ砧哉	26	秋	人事	砧	
3660	大江戸や砧を聞かぬ人の数	26	秋	人事	砧	
3661	風吹いて鹿風やんで砧かな	26	秋	人事	砧	
3662	淋しさは裸男の砧かな	26	秋	人事	砧	
3663	三千の遊女に砧うたせばや	26	秋	人事	砧	
3664	寐た牛の鼻先にうつ砧哉	26	秋	人事	砧	
3665	年々に藏の傾く砧哉	26	秋	人事	砧	
3666	ふんどしになる白布を砧哉	26	秋	人事	砧	
3667	星ちるや多摩の里人砧打つ	26	秋	人事	砧	
3668	狼や禁にひくき小夜砧	27	秋	人事	砧	
3669	砧打てばほろほろと星のこぼれける	27	秋	人事	砧	
3670	船かけて明石の砧聞く夜かな	27	秋	人事	砧	
3671	市中や砧打ち絶えて何の聲	28	秋	人事	砧	

3672	市中や砧打ち絶えて夜の聲	28	秋	人事	砧	
3673	砧うつ五條あたりの伏家哉	28	秋	人事	砧	
3674	玉川や夜毎の月に砧打つ	28	秋	人事	砧	
3675	人遅し砧打たうよ更かさうよ	28	秋	人事	砧	
3676	舟に寐よ大津の砧三井の鐘	28	秋	人事	砧	
3677	夕月や砧聞ゆる城の内	28	秋	人事	砧	
3678	よめ入りて餘所の砧ぞ打ちにくき	28	秋	人事	砧	
3679	嵐吹く芒の中や砧打つ	29	秋	人事	砧	
3680	打ちやみつ打ちつ砧に恨あり	29	秋	人事	砧	
3681	遠方の子を思ひ思ひ衣打つ	29	秋	人事	砧	
3682	大家の内庭に打つ砧かな	29	秋	人事	砧	
3683	思ふこと砧に更けて人の影	29	秋	人事	砧	
3684	砧うつうつ月天心に上りけり	29	秋	人事	砧	
3685	狭庭に砧打ちけり庭の月	29	秋	人事	砧	
3686	五年目に歸れば妹が砧かな	29	秋	人事	砧	
3687	小博奕にまけて戻れば砧かな	29	秋	人事	砧	
3688	里の月砧打つべく夜はなりぬ	29	秋	人事	砧	
3689	里の月衣うつべく夜はなりぬ	29	秋	人事	砧	
3690	忍ぶれど砧の音にいでにけり	29	秋	人事	砧	
3691	説教に行かでもめの砧かな	29	秋	人事	砧	
3692	出しぬげに砧打ち出す隣哉	29	秋	人事	砧	
3693	露ほろりほろり砧の拍子かな	29	秋	人事	砧	
3694	郎いまだ歸らずと打つ砧かな	29	秋	人事	砧	
3695	二處長者の内の砧かな	30	秋	人事	砧	
3696	嫁入の翌を思ひつゝ砧うつ	30	秋	人事	砧	
3697	鎌倉に砧うつ家もなかりけり	31	秋	人事	砧	
3698	貧交は秋の扇を參らせん	29	秋	人事	秋扇	
3699	忘れ物扇一本と停車場	27	秋	人事	忘れ扇	
3700	忘れたる扇返さん君がもと	28	秋	人事	忘れ扇	
3701	破れ扇小町かはてを見付たり	21	秋	人事	捨扇	
3702	破れ扇これも小町かなれのはて	21	秋	人事	捨扇	
3703	扇捨てゝ手を置く膝のものうさよ	28	秋	人事	捨扇	
3704	外にありや扇の骨の紋處	31	秋	人事	捨扇	
3705	二三本扇捨てあり塾の庭	33	秋	人事	捨扇	
3706	古扇物書き散らし捨てにけり	33	秋	人事	捨扇	
3707	議論とて秋の團扇を手力	27	秋	人事	秋団扇	
3708	蚊を拂ふ團扇の風も秋の風	29	秋	人事	秋団扇	
3709	つくつくと秋の團扇をながめけり	31	秋	人事	秋団扇	
3710	絹團扇ソレサへ秋トナリニケリ	34	秋	人事	秋団扇	
3711	捨團扇鳳と化しけり樽天王	26	秋	人事	捨団扇	
3712	捨團扇鳳となる夜の樽天皇	26	秋	人事	捨団扇	
3713	投げやればすねて落たる團哉	26	秋	人事	捨団扇	
3714	捨團扇遊女の顔のあはれなり	28	秋	人事	捨団扇	
3715	捨團扇脊の骨にまじりけり	28	秋	人事	捨団扇	
3716	捨てられて厠に落ちし團扇哉	28	秋	人事	捨団扇	
3717	捨てられて厠に古りし團扇哉	28	秋	人事	捨団扇	
3718	白頭の吟を書きけり捨團扇	28	秋	人事	捨団扇	
3719	我膝に一葉落ちたる團扇哉	29	秋	人事	捨団扇	
3720	掃溜に捨てずもかなの團扇哉	31	秋	人事	捨団扇	
3721	捨團扇捨てぬ團扇をしまひけり	33	秋	人事	捨団扇	
3722	捨て惜み古き團扇を収めけり	33	秋	人事	捨団扇	
3723	はき溜に三日の雨や捨團扇	33	秋	人事	捨団扇	
3724	裏店や貧乏見ゆる秋のとばり	30	秋	人事	秋の蚊帳	とばり<巾+廚>
3725	日三竿あるじが寐たる秋の蚊帳	31	秋	人事	秋の蚊帳	

3726	病人の息たえたえに秋の蚊帳	34	秋	人事	秋の蚊帳	
3727	筆も墨も澁瓶も内二秋ノ蚊帳	34	秋	人事	秋の蚊帳	
3728	ふたぬいて月のかけくむ新酒哉	23	秋	人事	新酒	
3729	新酒かけて見ばや祇王の墓の上	26	秋	人事	新酒	
3730	船頭の風に吹かるゝ新酒哉	26	秋	人事	新酒	
3731	竹立てゝ新酒の風の匂ひかな	26	秋	人事	新酒	
3732	横波にゆさぶる船の新酒哉	26	秋	人事	新酒	
3733	新酒賣る家は小菊の荅かな	27	秋	人事	新酒	
3734	日の旗の杉葉に並ぶ新酒哉	27	秋	人事	新酒	
3735	思ふこと新酒に酔ふてしまひけり	28	秋	人事	新酒	
3736	狐啼いて新酒の酔のさめにけり	28	秋	人事	新酒	
3737	君今來ん新酒の爛のわき上る	28	秋	人事	新酒	
3738	竹の風新酒の酔はさめにけり	28	秋	人事	新酒	
3739	竹の風新酒の酔を吹きにけり	28	秋	人事	新酒	
3740	二三匹馬繋ぎたる新酒かな	28	秋	人事	新酒	
3741	悪僧の評議をこらす新酒かな	29	秋	人事	新酒	
3742	うき人の新酒勧めついなみあへず	29	秋	人事	新酒	
3743	菊も咲きぬ新酒盗みに來ませ君	29	秋	人事	新酒	
3744	葬禮の崩れや新酒のむ月夜	29	秋	人事	新酒	
3745	更に一杯の新酒を盡せ路遠し	29	秋	人事	新酒	
3746	新酒あり馬鹿貝を得つ野の小店	29	秋	人事	新酒	
3747	新酒酌むは中山寺の僧どもか	29	秋	人事	新酒	
3748	新酒三盃天高く風髪を吹く	29	秋	人事	新酒	
3749	竹立てゝ門に新酒と記しけり	29	秋	人事	新酒	
3750	たまさかの君に新酒を參らせん	29	秋	人事	新酒	
3751	月高し新酒賣る家は猶一里	29	秋	人事	新酒	
3752	世のうさや新酒飲み習ふきのふけふ	29	秋	人事	新酒	
3753	居酒屋に新酒の友を得たりけり	29	秋	人事	新酒	
3754	我病で新酒の債をはたらるゝ	30	秋	人事	新酒	
3755	駕かきのすき腹に飲む新酒哉	31	秋	人事	新酒	
3756	駕に揺る新酒の酔や眠くなる	31	秋	人事	新酒	
3757	磊落は新酒を偷む事にあらず	31	秋	人事	新酒	
3758	馬叱る新酒の酔や頬冠	32	秋	人事	新酒	
3759	新酒や鳴雪翁の三オンス	33	秋	人事	新酒	
3760	新酒賣る亭主が虎の話哉	33	秋	人事	新酒	
3761	新酒賣る亭主の髭や水滸傳	33	秋	人事	新酒	
3762	小便して新酒の酔の醒め易き	33	秋	人事	新酒	
3763	馬鹿貝の名をなつかしみ新酒哉	33	秋	人事	新酒	
3764	嘯殿に盃さすや菊の酒	25	秋	人事	菊の酒	
3765	喝土殿に盃さすや菊の酒	25	秋	人事	菊の酒	
3766	升のみの酒の雫や菊の花	25	秋	人事	菊の酒	
3767	たまはるや大盃の菊の酒	27	秋	人事	菊の酒	
3768	雨の菊酒酌む門の馬もなし	29	秋	人事	菊の酒	
3769	記者會す天長節の菊の酒	31	秋	人事	菊の酒	
3770	お菊見や酒をたまはる供の者	32	秋	人事	菊の酒	
3771	屈原のはじめた名なり濁酒	25	秋	人事	濁酒	
3772	白菊の花でこさばや濁り酒	25	秋	人事	濁酒	
3773	此瓶に蓮や生ん濁り酒	26	秋	人事	濁酒	
3774	三日月のうつらで寒し濁酒	27	秋	人事	濁酒	
3775	濁り酒木蘭いくさより歸る	28	秋	人事	濁酒	
3776	鹿笛を覺えて鹿を鳴かせばや	25	秋	人事	鹿笛	
3777	鹿ふえの谷を隔つる月夜哉	27	秋	人事	鹿笛	
3778	猿は啼かで鹿笛の夜こそ淋しけれ	28	秋	人事	鹿笛	
3779	鹿笛や聞耳立つる月の鹿	29	秋	人事	鹿笛	

3780	鹿聞きに来て鹿笛を聞く夜哉	30	秋	人事	鹿笛	
3781	鹿鳴て又鹿笛を吹出しぬ	30	秋	人事	鹿笛	
3782	鹿笛に答へて鹿の遠音哉	30	秋	人事	鹿笛	
3783	鹿笛の吹やんで人あらはるゝ	30	秋	人事	鹿笛	
3784	鹿笛のやみけりやがて銃の音	30	秋	人事	鹿笛	
3785	鹿笛や岩にふり向く月の鹿	30	秋	人事	鹿笛	
3786	鹿笛や鹿あらはるゝ山の鼻	30	秋	人事	鹿笛	
3787	鹿笛や鹿走り行く葛の風	30	秋	人事	鹿笛	
3788	月いでゝ猶鹿笛の吹つる	30	秋	人事	鹿笛	
3789	鹿笛や解珍解寶立ち別れ	33	秋	人事	鹿笛	
3790	山もとや鳩吹く聲消えて行	26	秋	人事	鳩吹く	
3791	藪陰や鳩吹く人のあらはるゝ	28	秋	人事	鳩吹く	
3792	鳩吹の貧しき里を通りけり	30	秋	人事	鳩吹く	
3793	五十年鳩吹く老の子も持たず	31	秋	人事	鳩吹く	
3794	子を連れて鳩吹過る小村哉	31	秋	人事	鳩吹く	
3795	鳩飛んで鳩吹聲はやみにけり	31	秋	人事	鳩吹く	
3796	鳩の飛ぶ方に鳩吹く聲遠し	31	秋	人事	鳩吹く	
3797	鳩吹きつゝ信太の森に這入けり	31	秋	人事	鳩吹く	
3798	鳩吹の過ぎ行里やハッ下り	31	秋	人事	鳩吹く	
3799	鳩吹のたくみも老いてしまひけり	31	秋	人事	鳩吹く	
3800	鳩吹のだまつて通る嵐哉	31	秋	人事	鳩吹く	
3801	鳩吹の一人に落つる夕日哉	31	秋	人事	鳩吹く	
3802	鳩吹や寺領の畑の柿林	31	秋	人事	鳩吹く	
3803	鳩吹をいさむる妻もなかりけり	31	秋	人事	鳩吹く	
3804	鳩吹を叱る法師もなかりけり	31	秋	人事	鳩吹く	
3805	鳩吹くや狐の宮のうしろ側	31	秋	人事	鳩吹く	
3806	町を出てやがて鳩吹く聲す也	31	秋	人事	鳩吹く	
3807	くらがりの天地にひゞく花火哉	21	秋	人事	花火	
3808	人の身は咲てすく散る花火哉	21	秋	人事	花火	
3809	星はおち月はくたくる花火哉	21	秋	人事	花火	
3810	星はきへ月はくたくる花火哉	21	秋	人事	花火	
3811	花火ちる四階五階のともし哉	25	秋	人事	花火	
3812	花火やむあとは露けき夜也けり	25	秋	人事	花火	
3813	梟や花火のあとの薄曇り	25	秋	人事	花火	
3814	ふじ見えて物うき晝の花火哉	25	秋	人事	花火	
3815	風吹てかたよる空の花火哉	26	秋	人事	花火	
3816	木の末に遠くの花火開きけり	26	秋	人事	花火	
3817	舟に寝て我にふりかゝる花火哉	27	秋	人事	花火	
3818	音もなし松の梢の遠花火	28	秋	人事	花火	
3819	城山の北にとゞろく花火かな	28	秋	人事	花火	
3820	人かへる花火のあとの暗さ哉	28	秋	人事	花火	
3821	晝見れば小旗立てたり花火舟	28	秋	人事	花火	
3822	道見えて闇上り行く花火哉	28	秋	人事	花火	
3823	夕花火虹の浮橋碎きけり	28	秋	人事	花火	
3824	月白や花火のあとの角田川	29	秋	人事	花火	
3825	晝の花火烟となつてしまひけり	29	秋	人事	花火	
3826	夕曇遠くの花火音もなし	29	秋	人事	花火	
3827	兩國の花火聞ゆる月夜かな	29	秋	人事	花火	
3828	兩國の花火見て居る上野哉	29	秋	人事	花火	
3829	枝川や花火にいそぐ館船	30	秋	人事	花火	
3830	落つかぬ晝の花火や人心	30	秋	人事	花火	
3831	風を圍ふ線香花火の端居哉	30	秋	人事	花火	
3832	淋しさや花火のあとを星の飛ぶ	30	秋	人事	花火	
3833	空高み嵐して花火消やすき	30	秋	人事	花火	

3834	恙なく玉になりしよ釣花火	30	秋	人事	花火	
3835	二三人花火線香に端居哉	30	秋	人事	花火	
3836	西風に火の流れたる花火哉	30	秋	人事	花火	
3837	花火して頭うごめく橋の上	30	秋	人事	花火	
3838	萬人の聲に散り落つ花火哉	30	秋	人事	花火	
3839	萬人の聲に散り来る花火哉	30	秋	人事	花火	
3840	物干や薄べり敷て花火見る	30	秋	人事	花火	
3841	夕飯や花火聞ゆる川開	30	秋	人事	花火	
3842	警察の舟も漕ぎ行く花火哉	31	秋	人事	花火	
3843	警察の舟も繋ぐや花火舟	31	秋	人事	花火	
3844	花火あげて開く間を心落付ず	31	秋	人事	花火	
3845	夕榮や晝の花火の打終り	31	秋	人事	花火	
3846	暮を待つ兄弟の子や釣花火	33	秋	人事	花火	
3847	後しざりしながら戻る月見哉	25	秋	人事	月見	
3848	あの枝をこの木をきれと月見哉	25	秋	人事	月見	
3849	綱引の綱引きながら月見哉	25	秋	人事	月見	
3850	犬つれて松原ありく月見哉	25	秋	人事	月見	
3851	芋を買ふ力もなくて月見哉	25	秋	人事	月見	
3852	いろいろの灯ともす舟の月見哉	25	秋	人事	月見	
3853	椽端や月に向いたる客あるじ	25	秋	人事	月見	
3854	大磯の町出はなれし月見哉	25	秋	人事	月見	
3855	廝から居待の月をながめけり	25	秋	人事	月見	
3856	北窓に眼やすめる月見哉	25	秋	人事	月見	
3857	雲のすきばかり見つむるこよひ哉	25	秋	人事	月見	
3858	新曆の十月五日月見哉	25	秋	人事	月見	
3859	沙濱に足くたびれる月見哉	25	秋	人事	月見	
3860	沙濱に人のあとふむ月見哉	25	秋	人事	月見	
3861	大名のかたみに劣る月見哉	25	秋	人事	月見	
3862	月と酒敵も味方もなかりけり	25	秋	人事	月見	
3863	月見るや上野は江戸の比叡山	25	秋	人事	月見	
3864	月見んとふじに近よる一日つゝ	25	秋	人事	月見	
3865	にくらしや月見戻りの蛇の目傘	25	秋	人事	月見	
3866	庭へ出てごみ拾ひ行月見哉	25	秋	人事	月見	
3867	盗人の笠きて出たる月見哉	25	秋	人事	月見	
3868	寝ころんで椽に首出す月見哉	25	秋	人事	月見	
3869	花よめは男を隈の月見哉	25	秋	人事	月見	
3870	孕句に雲のかゝりし月見哉	25	秋	人事	月見	
3871	人もなし我ものにして月見哉	25	秋	人事	月見	
3872	干綱に足をとらるゝ月見哉	25	秋	人事	月見	
3873	星數へ數へ月見の戻り哉	25	秋	人事	月見	
3874	松苗に行末ちぎる月見哉	25	秋	人事	月見	
3875	松原を出つ入りつして月見哉	25	秋	人事	月見	
3876	村人の市へ出でたる月見哉	25	秋	人事	月見	
3877	羊羹に隈ある下戸の月見哉	25	秋	人事	月見	
3878	我庵は人にあつけて月見哉	25	秋	人事	月見	
3879	色々と名をつけて秋の月見哉	26	秋	人事	月見	
3880	朱兀げて辨天堂の月見哉	26	秋	人事	月見	
3881	立琴に瀧こしらへて月見哉	26	秋	人事	月見	
3882	樋の口に鼠顔出す月見哉	26	秋	人事	月見	
3883	橋二つ三つ漕ぎ出でゝ月見哉	26	秋	人事	月見	
3884	ひつそりと三千坊の月見哉	26	秋	人事	月見	
3885	灯の渡る橋の長さや間こよひ	26	秋	人事	月見	
3886	窓の向き厠を月見處かな	26	秋	人事	月見	
3887	月酒に酔ふ我はた月に酔ふて舞ふ	28	秋	人事	月見	

3888	あす知らぬ身を韓國の月見哉	27	秋	人事	月見	
3889	いろいろに坐り直す舟の月見哉	27	秋	人事	月見	
3890	馬追ふて芋畑歸る月見哉	27	秋	人事	月見	
3891	雲一つこよひの空の大事なり	27	秋	人事	月見	
3892	隨身の走りついたる月見哉	27	秋	人事	月見	
3893	大名のひとり月見る夜中哉	27	秋	人事	月見	
3894	月見るやきのふの花に出家して	27	秋	人事	月見	
3895	萬人の額あつむる月見哉	27	秋	人事	月見	
3896	あるが中に詩人瘦せたり月の宴	28	秋	人事	月見	
3897	思ひ出の月見も過ぎて分れけり	28	秋	人事	月見	
3898	侍の朱鞘に出立つ月見哉	28	秋	人事	月見	
3899	いむや月見て居れば水の音	28	秋	人事	月見	
3900	月見るや寺の二階の瓦頭口	28	秋	人事	月見	
3901	月見るや流さるゝ身の舟の中	28	秋	人事	月見	
3902	兎角して九年の月見友もなし	28	秋	人事	月見	
3903	方丈や月見の客の五六人	28	秋	人事	月見	
3904	兀山にさはるものなき月見哉	28	秋	人事	月見	
3905	兀山にもものもさはらぬ月見哉	28	秋	人事	月見	
3906	舟に橋に物干に皆月見哉	28	秋	人事	月見	
3907	豆のあと畔道ありく月見哉	28	秋	人事	月見	
3908	めづらしや始めて見たる月の不二	28	秋	人事	月見	
3909	物干に大阪人の月見哉	28	秋	人事	月見	
3910	行燈の火を細くして月見哉	29	秋	人事	月見	
3911	高樓や月に酒酌み詩を吟ず	29	秋	人事	月見	
3912	崖上に月見る聲や五六人	29	秋	人事	月見	
3913	場末なり月見る空の邪魔もなし	29	秋	人事	月見	
3914	雨晴れて旅僧おこす月見哉	30	秋	人事	月見	
3915	重箱の芋ころげ落つ月見哉	30	秋	人事	月見	
3916	朝雲り觀月會の用意哉	31	秋	人事	月見	
3917	ある僧の月も待たずに歸りけり	31	秋	人事	月見	
3918	酒載せてたゝよふ舟の月見哉	31	秋	人事	月見	
3919	精進に月見る人の誠かな	31	秋	人事	月見	
3920	月曇る觀月會の終り哉	31	秋	人事	月見	
3921	盆に分けて栗は少し芋と豆	31	秋	人事	月見	
3922	稍酔ひし月の酒宴や握飯	31	秋	人事	月見	
3923	お寺より月見の芋をもらひけり	32	秋	人事	月見	
3924	小淋しき月見の宴や雨曇	32	秋	人事	月見	
3925	寺に待つ觀月會の車哉	32	秋	人事	月見	
3926	止みになる觀月會の手紙哉	32	秋	人事	月見	
3927	先生の草鞋も見たりもみぢ狩	25	秋	人事	紅葉狩	
3928	大小の朱鞘はいやし紅葉狩	25	秋	人事	紅葉狩	
3929	紅葉狩鬼すむ方を見つけたり	25	秋	人事	紅葉狩	
3930	岩またぎ岩くゞり紅葉見てありく	26	秋	人事	紅葉狩	
3931	紅葉折て腕たしかむる男哉	26	秋	人事	紅葉狩	
3932	紅葉折て夕日寒がる女哉	26	秋	人事	紅葉狩	
3933	紅葉見や異國の王子馬で来る	27	秋	人事	紅葉狩	
3934	むら雨や車をいそぐ紅葉狩	28	秋	人事	紅葉狩	
3935	騎馬一人從者五六人紅葉狩	29	秋	人事	紅葉狩	
3936	書生四五人紅葉さしたる帽子哉	29	秋	人事	紅葉狩	
3937	紅葉見の舟著けて居る三軒屋	30	秋	人事	紅葉狩	
3938	紅葉見や女載せたる駕の雨	31	秋	人事	紅葉狩	
3939	菊を見ず菊人形を見る人よ	29	秋	人事	菊細工	
3940	旗立てゝ菊人形の日和かな	30	秋	人事	菊細工	
3941	広告や菊人形の園開き	31	秋	人事	菊細工	

3942	雨になる天長節や菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3943	大方は似顔なりけり菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3944	崖に倚る菊人形の小屋高し	32	秋	人事	菊細工	
3945	傘さして菊細工見る小雨哉	32	秋	人事	菊細工	
3946	枯れ方になりて哀れや菊人形	32	秋	人事	菊細工	
3947	白菊を瀧につくりし細工哉	32	秋	人事	菊細工	
3948	千駄木の友訪ふ道や菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3949	團洲の似顔愛づるや菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3950	二軒見て通り過ぎけり菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3951	墓参の歸りを行くや菊細工	32	秋	人事	菊細工	
3952	菊細工舞臺も枯れてしまひけり	34	秋	人事	菊細工	
3953	焼米や路通か袋重げなり	26	秋	人事	焼米	
3954	焼米や路通の袋重げ也	26	秋	人事	焼米	
3955	鹿聞て出あるく人も歸りけり	21	秋	動物	鹿	
3956	小男鹿の通ひ路狭し萩の風	24	秋	動物	鹿	
3957	宮島の神殿走る男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
3958	曉や霧わけ出る鹿の角	25	秋	動物	鹿	
3959	岩角にのつほり立つや月の鹿	25	秋	動物	鹿	
3960	烏帽子きた禰宜のよびけり神の鹿	25	秋	動物	鹿	
3961	奥殿に鹿のまねする夕かな	25	秋	動物	鹿	
3962	押しあふて月に遊ぶや鹿ふたつ	25	秋	動物	鹿	
3963	親鹿の岩とびこえて鳴きにけり	25	秋	動物	鹿	
3964	神さびて鹿なく奈良の都哉	25	秋	動物	鹿	
3965	神に灯をあげて戻れば鹿の聲	25	秋	動物	鹿	
3966	刈稻にけつまづいてや鹿のこゑ	25	秋	動物	鹿	
3967	御殿場に鹿の驚く夜汽車哉	25	秋	動物	鹿	
3968	里の灯を見かけてなくや闇の鹿	25	秋	動物	鹿	
3969	小男鹿の首とゞきけり月の笠	25	秋	動物	鹿	
3970	小男鹿の尻聲きゆるあらし哉	25	秋	動物	鹿	
3971	棹鹿のなくななく山を登りけり	25	秋	動物	鹿	
3972	さを鹿のにげにげはねる紅葉哉	25	秋	動物	鹿	
3973	さを鹿の萩のりこゆる嵐かな	25	秋	動物	鹿	
3974	小男鹿の一よさ聲を盡しけり	25	秋	動物	鹿	
3975	さをしかの晝なく秋と成にけり	25	秋	動物	鹿	
3976	小男鹿の富士よちかゝる月よ哉	25	秋	動物	鹿	
3977	鹿老て猿の聲にも似たる哉	25	秋	動物	鹿	
3978	鹿なくや闇に見すかす山のなり	25	秋	動物	鹿	
3979	鹿の影幽靈に似る夕哉	25	秋	動物	鹿	
3980	鹿のくびねぢけて細き月夜哉	25	秋	動物	鹿	
3981	鹿の首ねぢれて細き月夜哉	25	秋	動物	鹿	
3982	鹿の聲ある夜はぬれて細長し	25	秋	動物	鹿	
3983	鹿の聲川一筋のあなたかな	25	秋	動物	鹿	
3984	鹿の聲月夜になれば細りけり	25	秋	動物	鹿	
3985	鹿のこへとなりの山へかゝりけり	25	秋	動物	鹿	
3986	鹿の聲一夜一夜に秋深し	25	秋	動物	鹿	
3987	鹿の聲二ツにわれる嵐かな	25	秋	動物	鹿	
3988	鹿の尾のうしろを見れ八閨夜哉	25	秋	動物	鹿	
3989	鹿一ツひよとり越を下りけり	25	秋	動物	鹿	
3990	鹿二つ尻を重ぬる月夜哉	25	秋	動物	鹿	
3991	しとやかに鹿の角ゆく薄哉	25	秋	動物	鹿	
3992	神殿や鏡に向かふ鹿のふり	25	秋	動物	鹿	
3993	關の戸にへだてられてや鹿の聲	25	秋	動物	鹿	
3994	背戸へ来て鍋ふみかへす男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
3995	その角を薦にからめてなく鹿か	25	秋	動物	鹿	

3996	谷あひにはさまりて鳴く男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
3997	谷の鹿こなたになければかなたにも	25	秋	動物	鹿	
3998	旅僧も淋しと申せ鹿のこゑ	25	秋	動物	鹿	
3999	月代や鹿のふしど八松の影	25	秋	動物	鹿	
4000	月にふしつ仰きつ鹿の姿哉	25	秋	動物	鹿	
4001	月の鹿思ひ思ひの足場かな	25	秋	動物	鹿	
4002	月の鹿尾の上上に鳴きにけり	25	秋	動物	鹿	
4003	なきなきて近よる聲や鹿二ツ	25	秋	動物	鹿	
4004	啼に出ていよいよやせる男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
4005	啼に出てよるよるやせる男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
4006	鳴き別れ又鳴きよるや女夫鹿	25	秋	動物	鹿	
4007	奈良の鹿やせてことさら神々し	25	秋	動物	鹿	
4008	盗みぐひしてさへ鹿の瘦せにけり	25	秋	動物	鹿	
4009	萩こぼす留守の伏處や鹿の妻	25	秋	動物	鹿	
4010	萩に寐て月見あげたる男鹿哉	25	秋	動物	鹿	
4011	一ツ一ツなでゝ通るや神の鹿	25	秋	動物	鹿	
4012	吹きまくる萩に男鹿のふしど哉	25	秋	動物	鹿	
4013	ほつかりと月夜に黒し鹿の影	25	秋	動物	鹿	
4014	町へ来て紅葉ふるふや奈良の鹿	25	秋	動物	鹿	
4015	松に身をすつて鳴けり雨の鹿	25	秋	動物	鹿	
4016	みあかしをめぐりてなくや鹿の聲	25	秋	動物	鹿	
4017	三日月をすくひあげたり鹿の角	25	秋	動物	鹿	
4018	耳出して蒲團に鹿を聞く夜哉	25	秋	動物	鹿	
4019	宮嶋に汐やふむらん月の鹿	25	秋	動物	鹿	
4020	宮島は汐やふむらん月の鹿	25	秋	動物	鹿	
4021	宮嶋の神殿はしる小鹿かな	25	秋	動物	鹿	
4022	宮嶋や干汐にたてる月の鹿	25	秋	動物	鹿	
4023	雌鹿雄鹿尾の上をわけてなきにけり	25	秋	動物	鹿	
4024	物置に鹿のいねたる嵐かな	25	秋	動物	鹿	
4025	門へ来てひゝと鳴きけり奈良の鹿	25	秋	動物	鹿	
4026	山かけり谷かけり鹿の月に啼く	25	秋	動物	鹿	
4027	行く秋をすつくと鹿の立ちにけり	25	秋	動物	鹿	
4028	夕月や鹿のふしどは松のかげ	25	秋	動物	鹿	
4029	夕月や山の裏行く鹿の聲	25	秋	動物	鹿	
4030	爐にくべて紅葉を焚けば鹿の聲	25	秋	動物	鹿	
4031	牛歸るあとの山田や鹿の聲	26	秋	動物	鹿	
4032	柏手の木玉に逃る男鹿哉	26	秋	動物	鹿	
4033	風の中に一筋細し鹿の聲	26	秋	動物	鹿	
4034	風吹て春日の鹿の鳴く夜哉	26	秋	動物	鹿	
4035	風吹て鹿の音細き尾上かな	26	秋	動物	鹿	
4036	傾城はなれてよく寐る鹿の聲	26	秋	動物	鹿	
4037	けうとしや鹿のまねする馬の聲	26	秋	動物	鹿	
4038	小雨ふる夜明は遠し鹿の聲	26	秋	動物	鹿	
4039	鹿なくや尾上にかゝる天の川	26	秋	動物	鹿	
4040	鹿の秋牛の秋さへ悲しきを	26	秋	動物	鹿	
4041	新家の拾ふて來たり鹿の角	26	秋	動物	鹿	
4042	新田やこの頃さびて鹿の角	26	秋	動物	鹿	
4043	關守の戸をあけてやる男鹿哉	26	秋	動物	鹿	
4044	夕山の尾上ほのかに鹿一つ	26	秋	動物	鹿	
4045	石壇に鹿鳴く奈良の月夜哉	27	秋	動物	鹿	
4046	大杉の下に鹿立つ一つかな	27	秋	動物	鹿	
4047	小男鹿や上野にどこの秋を鳴く	27	秋	動物	鹿	
4048	捨舟や鹿の寐に來る薄月夜	27	秋	動物	鹿	
4049	奈良淋し犬に追はるゝ鹿の聲	27	秋	動物	鹿	

4050	人去て鹿鳴く山の湯壺哉	27	秋	動物	鹿	
4051	闇の鹿石につまづく聲すなり	27	秋	動物	鹿	
4052	夢に見て何處の秋を啼く鹿ぞ	27	秋	動物	鹿	
4053	有明や寐ぼけてしらむ鹿の顔	28	秋	動物	鹿	
4054	岩橋や月にうつむく鹿二つ	28	秋	動物	鹿	
4055	岩鼻や眞向に細き鹿の尻	28	秋	動物	鹿	
4056	春日野の女鹿呼ぶ夕かな	28	秋	動物	鹿	
4057	鹿聞て淋しき奈良の旅籠哉	28	秋	動物	鹿	
4058	鹿聞いて淋しき奈良の宿屋哉	28	秋	動物	鹿	
4059	鹿鳴くや小窓の外は薄月夜	28	秋	動物	鹿	
4060	鹿なくや小窓の外は藪月夜	28	秋	動物	鹿	
4061	鹿鳴くや杉の梢の二十日月	28	秋	動物	鹿	
4062	鹿も居らず樵夫下り来る手向山	28	秋	動物	鹿	
4063	煎餅をくふて鳴きけり神の鹿	28	秋	動物	鹿	
4064	月雲に隠れて悲し鹿の聲	28	秋	動物	鹿	
4065	ともし火や鹿鳴くあとの神の杜	28	秋	動物	鹿	
4066	奈良の宿悲しく鹿の鳴く夜哉	28	秋	動物	鹿	
4067	盗み喰ひしたまひけりや神の鹿	28	秋	動物	鹿	
4068	萩の上に寐ころびうつや鹿の腹	28	秋	動物	鹿	
4069	晝の鹿来るや人なき博奕宿	28	秋	動物	鹿	
4070	行く秋や眞向に細き鹿の尻	28	秋	動物	鹿	
4071	わりなしや妻追ひまはず晝の鹿	28	秋	動物	鹿	
4072	岩はなや月にうつむく鹿一つ	29	秋	動物	鹿	
4073	草花や寺無住にして鹿の糞	29	秋	動物	鹿	
4074	傾城の鹿呼ぶ奈良の夕淋し	29	秋	動物	鹿	
4075	鹿追ふてあとの淋しき夕かな	29	秋	動物	鹿	
4076	鹿二匹つるして獵師夜食す	29	秋	動物	鹿	
4077	鹿の聲鹿や見ゆると戸を明る	29	秋	動物	鹿	
4078	そばぬれて雨の薄に鹿二つ	29	秋	動物	鹿	
4079	旅人や鹿追ひ上る春日山	29	秋	動物	鹿	
4080	旅人や鹿に餌をやる春日山	29	秋	動物	鹿	
4081	筒の音雄鹿は鳴かずなりにけり	29	秋	動物	鹿	
4082	豆腐屋の娘呼び出す神の鹿	29	秋	動物	鹿	
4083	二三匹鹿の立ちたる刈田かな	29	秋	動物	鹿	
4084	旅籠屋の厠に鹿を聞く夜哉	29	秋	動物	鹿	
4085	灯ともして宮を出づれば鹿の聲	29	秋	動物	鹿	
4086	洞穴や圓座人無く鹿白し	29	秋	動物	鹿	
4087	またくらに月上りけり一つ鹿	29	秋	動物	鹿	
4088	山の端や月さしのぼる鹿のまた	29	秋	動物	鹿	
4089	夕月や雄鹿群れ行く東大寺	29	秋	動物	鹿	
4090	浴堂の外に鹿鳴く興福寺	29	秋	動物	鹿	
4091	鹿を放ち向ふの森に鳴かせばや	30	秋	動物	鹿	
4092	二三匹鹿鳴く月の木の間哉	31	秋	動物	鹿	
4093	鹿聞きに來て鹿笛をあはれがる	32	秋	動物	鹿	
4094	鹿来る樂屋の外や薪能	32	秋	動物	鹿	
4095	春日野の宿屋を出るや鹿に逢ふ	33	秋	動物	鹿	
4096	鹿にやる菓子に残りや紅葉茶屋	33	秋	動物	鹿	
4097	奈良に寝る絹の蒲團や鹿の聲	33	秋	動物	鹿	
4098	鹿を逐ふ夏野の夢路草茂る	35	秋	動物	鹿	
4099	トコロトコロ鹿ノ顔出入茂リカナ	35	秋	動物	鹿	
4100	御殿場や猪死して五百年	23～25	秋	動物	猪	
4101	蛇穴に入りぬ萱原を恐るゝな	29	秋	動物	蛇穴に入る	
4102	穴にいそぐ小き蛇のをさな心	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4103	石垣の穴に入らず蛇の這去りし	30	秋	動物	蛇穴に入る	

4104	洪水の来んとして蛇穴に入る	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4105	五蛇穴に一蛇泣く夜の風悲し	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4106	蛇穴に入らんとして物におぢ心	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4107	蛇穴に入りけり菌生えにけり	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4108	蛇穴に入りたるを覗く岡の蟹	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4109	蛇穴に入る時曼珠沙花赤し	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4110	蛇穴に入るや彼岸の鐘が鳴る	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4111	蛇の入りし櫃の穴を塞ぎけり	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4112	蛇鷲に鳴き立てられて穴に入る	30	秋	動物	蛇穴に入る	
4113	稲の波かぶりて遊ぶ雀かな	26	秋	動物	稲雀	
4114	稲雀稲を追はれて唐柜へ	27	秋	動物	稲雀	
4115	嬉しさうに忙がしさうに稲雀	27	秋	動物	稲雀	
4116	むら雨やはつと崩るゝ稲雀	28	秋	動物	稲雀	
4117	稲雀案山子に射られ海に入	30	秋	動物	稲雀	
4118	つくつくと聞けば初鴨鳴て居る	25	秋	動物	初鴨	
4119	初雁や餘所の冷みの添て来る	20	秋	動物	初雁	
4120	初雁があれあれ山の向ふから	26	秋	動物	初雁	
4121	初雁の我を見かけていそぐ也	26	秋	動物	初雁	
4122	不二こえたくたびれ顔や隅田の雁	21	秋	動物	雁	
4123	夕榮や雁一つらの西の空	21	秋	動物	雁	
4124	山僧の笠から雁の渡りけり	23~25	秋	動物	雁	
4125	蒔繪なんぞ小窓の月に雁薄	24	秋	動物	雁	
4126	下し来る雁の中也笠いくつ	25	秋	動物	雁	
4127	雁いくつ一手は月を渡りけり	25	秋	動物	雁	
4128	雁こえた山は月夜と成にけり	25	秋	動物	雁	
4129	きのふ来てけふ来てあすや雁いくつ	25	秋	動物	雁	
4130	さわがしう鳴くや立つ雁下りる雁	25	秋	動物	雁	
4131	月の雁蘆ちる中へ下しけり	25	秋	動物	雁	
4132	闇の雁手のひら渡る峠かな	25	秋	動物	雁	
4133	風吹てくの字にまがる雁の棹	26	秋	動物	雁	
4134	堅田なり雁の居ぬ夜のおもしろや	26	秋	動物	雁	
4135	雁暮れて西湖明るし眞帆片帆	26	秋	動物	雁	
4136	雁啼て船の灯遠き入江哉	26	秋	動物	雁	
4137	雁のつら我家の上へ鳴いて来る	26	秋	動物	雁	
4138	旅烏雁にまじりてあはれなり	26	秋	動物	雁	
4139	旅烏雁にまじるも哀れなり	26	秋	動物	雁	
4140	月の出や皆首立てゝ小田の雁	26	秋	動物	雁	
4141	波ぎはや二度来た雁の二ならば	26	秋	動物	雁	
4142	やよ雁よどこまで往ても鳩の海	26	秋	動物	雁	
4143	大佛の御手を渡るか闇の雁	26	秋	動物	雁	
4144	船焼けて夕榮の雁亂れけり	27	秋	動物	雁	
4145	雨の雁ひとり屏風の月を見る	28	秋	動物	雁	
4146	雁鳴かぬ夜もなし船の旅十日	28	秋	動物	雁	
4147	雁の聲旅に聞かぬぞくちをしき	28	秋	動物	雁	
4148	雁もなし入江見おろす山の上	28	秋	動物	雁	
4149	月の雁をりをりをさわぐ田面哉	28	秋	動物	雁	
4150	朝鮮へ渡るや雁と行きちかひ	28	秋	動物	雁	
4151	長橋を左に見てや落つる雁	28	秋	動物	雁	
4152	投げ出したやうに山から雁の竿	28	秋	動物	雁	
4153	飯櫃に雁の落ち来る堅田哉	28	秋	動物	雁	
4154	雁低く薄の上を渡りけり	29	秋	動物	雁	
4155	汽車道に雁低く飛ぶ月夜哉	29	秋	動物	雁	
4156	汽車道に低く雁飛ぶ月夜哉	29	秋	動物	雁	
4157	くたびれもせぬか番雁首立てゝ	29	秋	動物	雁	

4158	田の泥に雁の足跡凍りけり	31	秋	動物	雁	
4159	雁なくや巖に白き夜の波	32	秋	動物	雁	
4160	聞きやるや間におし行く雁の聲	25	秋	動物	雁が音	
4161	むらむらと雁かねたまる小池哉	25	秋	動物	雁が音	
4162	雨をよぶ小田の雁金あはれ也	26	秋	動物	雁が音	
4163	行在は雨の漏りけり雁の聲	26	秋	動物	雁が音	
4164	鐵鉢の中へ落ちけり雁の聲	26	秋	動物	雁が音	
4165	三日月の下をわたるや雁の聲	26	秋	動物	雁が音	
4166	陸奥通ふ雨の夜氣車や雁の聲	26	秋	動物	雁が音	
4167	雁かねの家鴨にまじるあはれ也	27	秋	動物	雁が音	
4168	雁かねの腹に月さすつかな	27	秋	動物	雁が音	
4169	書に倦みて饅頭焼けば雁の聲	27	秋	動物	雁が音	
4170	日本が見えてやいそぐ雁の聲	27	秋	動物	雁が音	
4171	雁の聲蓮盡く破れたり	28	秋	動物	雁が音	
4172	行水の首筋わたる雁の聲	28	秋	動物	雁が音	
4173	旅枕雁が鳴いても目がさめる	28	秋	動物	雁が音	
4174	妻や子や野營夢さめて雁の聲	28	秋	動物	雁が音	
4175	なかなか猿聞きなれて雁の聲	28	秋	動物	雁が音	
4176	釵で行燈掻き立て雁の聲	29	秋	動物	雁が音	
4177	雨となりぬ雁聲昨夜低かりし	30	秋	動物	雁が音	
4178	打消えんとすれば雁鳴き雨來る	30	秋	動物	雁が音	
4179	雁かねや朝日にすむ小田の水	30	秋	動物	雁が音	
4180	灯消えんとすれば雁鳴き雨來る	30	秋	動物	雁が音	
4181	駕早し根岸へ落る雁の聲	31	秋	動物	雁が音	
4182	縫物や灯をかきたつる雁の聲	31	秋	動物	雁が音	
4183	人を送りて歸るはしけや雁の聲	31	秋	動物	雁が音	
4184	庄屋殿の提灯遠し雁の聲	33	秋	動物	雁が音	
4185	鳴も來ず鴉を下りず雀堂	22	秋	動物	鴉	
4186	鳴黒く不二紫のゆふべ哉	25	秋	動物	鴉	
4187	鳴なくや笠きてやせた都人	25	秋	動物	鴉	
4188	淋しさを立ち行く鳴の夕哉	26	秋	動物	鴉	
4189	立てば淋し立たねば淋し澤の鳴	27	秋	動物	鴉	
4190	立てば淋し立たねば淋し鳴一つ	27	秋	動物	鴉	
4191	立てば鳴立たねば秋の夕かな	27	秋	動物	鴉	
4192	古沼や鳴立て三日の月低し	27	秋	動物	鴉	
4193	鳴立てあとにものなき入日哉	28	秋	動物	鴉	
4194	勅選に漏れてや鳴の猶淋し	30	秋	動物	鴉	
4195	獵師つれて鳴打ちに行く泊り掛	33	秋	動物	鴉	
4196	淋しさの三羽減りけり鳴の秋	34	秋	動物	鴉	
4197	むく鳥の聲聞きつけし林哉	31	秋	動物	椋鳥	
4198	歸りかけて又立ち戻る燕哉	26	秋	動物	帰燕	
4199	燕や家をめぐりて暇ごひ	26	秋	動物	帰燕	
4200	燕の歸りて淋し電信機	27	秋	動物	帰燕	
4201	燕の歸ると見れば戻しけり	28	秋	動物	帰燕	
4202	歸りしか燕門へ來ずなりぬ	30	秋	動物	帰燕	
4203	鶯となりには見せてめ次郎かな	26	秋	動物	目白	
4204	草むらや目白だまつて飛びうつる	28	秋	動物	目白	
4205	木隠れて目白の覗く雀かな	28	秋	動物	目白	
4206	誰やらが口まねすれば目白鳴く	30	秋	動物	目白	
4207	眼白鳴く此里下りのお乳の人	34	秋	動物	目白	
4208	眼白鳴くと見れば垣の眼白籠	34	秋	動物	目白	
4209	沓の代はたられて百舌鳥の聲悲し	25	秋	動物	鴉	
4210	鴉啼て秋の日和を定めけり	25	秋	動物	鴉	
4211	鴉啼くや一番高い木のさきに	25	秋	動物	鴉	

4212	鴉啼くや灘をひかえた岡の松	25	秋	動物	鴉	
4213	鴉なくやふしを見下す松のさき	25	秋	動物	鴉	
4214	鴉ないて大根畑の日和哉	26	秋	動物	鴉	
4215	鴉なくや雑木の中の古社	26	秋	動物	鴉	
4216	鴉なくや夕日に歸る松葉搔き	26	秋	動物	鴉	
4217	稻刈れと鴉の促す日和かな	27	秋	動物	鴉	
4218	氣短に鴉啼き立つる日和哉	27	秋	動物	鴉	
4219	啼きながら鴉の尾をふる日和哉	27	秋	動物	鴉	
4220	鴉鳴て妙義赤城の日和かな	27	秋	動物	鴉	
4221	鴉鳴くや晩稻掛けたる大師道	27	秋	動物	鴉	
4222	鴉鳴くや十日の雨の晴際を	27	秋	動物	鴉	
4223	鴉鳴くや小藪の中の蕎麥畑	27	秋	動物	鴉	
4224	鴉鳴くや藪のうしろの蕎麥畠	27	秋	動物	鴉	
4225	雨の村暮れかけて鴉の声淋し	28	秋	動物	鴉	
4226	いそがしや誰が追はれて鴉の聲	28	秋	動物	鴉	
4227	馬土去つて鴉鳴いて土手の淋しさよ	28	秋	動物	鴉	
4228	鴉木に鳴けば雀和するや蔵の上	28	秋	動物	鴉	
4229	鴉鳴くや妻鎌を取つて戸を出づる	28	秋	動物	鴉	
4230	六尺の竹の梢や鴉の聲	28	秋	動物	鴉	
4231	演習の野中の杉や鴉の聲	29	秋	動物	鴉	
4232	木の末や落馬あざける鴉の聲	29	秋	動物	鴉	
4233	百舌鳴いて村會散す三時過	29	秋	動物	鴉	
4234	百舌鳴くや土手に棉荷の十四五駄	29	秋	動物	鴉	
4235	鴉の晝こぼろぎの夜と分れけり	29	秋	動物	鴉	
4236	鴉鳴て北海の林檎到來す	30	秋	動物	鴉	
4237	百舌鳴くや薺赤き花一つ	30	秋	動物	鴉	
4238	犬つれて狩に出る日や鴉の聲	31	秋	動物	鴉	
4239	稻掛けし榛の梢や鴉の聲	31	秋	動物	鴉	
4240	杉の木に鴉鳴きやんで夕焼す	31	秋	動物	鴉	
4241	鴉のやうな辯舌墓のやうな顔	31	秋	動物	鴉	
4242	塙を出て餌につく鴉の囀哉	32	秋	動物	鴉	
4243	野に近き根岸の庭や鴉落し	32	秋	動物	鴉	
4244	鶺鴒や橋杭になるふしの山	25	秋	動物	鶺鴒	
4245	橋もなし鶺鴒飛んでしまひけり	28	秋	動物	鶺鴒	
4246	鶺鴒の橋の一夜もうらやまし	29	秋	動物	鶺鴒	
4247	鶺鴒の橋に柱はなかりけり	32	秋	動物	鶺鴒	
4248	一ツ家はこの道でなしなく鶺鴒	24	秋	動物	鶺鴒	
4249	一ツ家はすゝきにくれてなく鶺鴒	24	秋	動物	鶺鴒	
4250	粟の穂にふじはかくれて鶺鴒啼く	25	秋	動物	鶺鴒	
4251	あこあこと呼べど聲なし鳴く鶺鴒	26	秋	動物	鶺鴒	
4252	新田の曙はやき鶺鴒かな	26	秋	動物	鶺鴒	
4253	粟の穂に村はかくれて鶺鴒啼く	27	秋	動物	鶺鴒	
4254	鶺鴒鳴いて提灯草に隠れ行く	27	秋	動物	鶺鴒	
4255	末枯に晝の鶺鴒のあはれなり	27	秋	動物	鶺鴒	
4256	ちよろちよると粟の穂がくれ行く鶺鴒	28	秋	動物	鶺鴒	
4257	鶺鴒啼けば淋しきものに思ひけり	29	秋	動物	鶺鴒	
4258	粟の穂に鶺鴒かくれて見えなくなりぬ	30	秋	動物	鶺鴒	
4259	鶺鴒取る人は歸りぬ鳴く鶺鴒	31	秋	動物	鶺鴒	
4260	片鶺鴒交野の人家灯ともさず	31	秋	動物	鶺鴒	
4261	向きあふて鳴くや鶺鴒の籠二ツ	32	秋	動物	鶺鴒	
4262	ぬかつけは鶺鴒なくやどこてやら	25	秋	動物	鶺鴒	
4263	鶺鴒の二羽来て狭き砌かな	25	秋	動物	鶺鴒	
4264	鶺鴒の人をよぶやら山淋し	25	秋	動物	鶺鴒	
4265	鶺鴒や夜は子猿の叫ぶ枝	25	秋	動物	鶺鴒	

4266	我なりを見かけて鶉のなくらしき	25	秋	動物	鶉	
4267	鶉の聲ばかり也箱根山	26	秋	動物	鶉	
4268	鶉や晝の朝顔花細し	27	秋	動物	鶉	
4269	鶉鳴いて杉の下道晝凄し	28	秋	動物	鶉	
4270	山は雲鶉鳴いて奥深し	28	秋	動物	鶉	
4271	御獵場やひよ鳥驕る蝶々と	29	秋	動物	鶉	
4272	町中に鶉群るゝ水木かな	29	秋	動物	鶉	
4273	雀ほど鶉鳴きたてゝ山淋し	25	秋	動物	鶉	
4274	追ひつめた鶉見えず溪の景	24	秋	動物	鶉	
4275	忘れたる笠の上なり石たゝき	24	秋	動物	鶉	
4276	鶉の糞して行くや石佛	25	秋	動物	鶉	
4277	鶉の飛び石づたひ来りけり	25	秋	動物	鶉	
4278	鶉の欄干はしる五條哉	25	秋	動物	鶉	
4279	鶉の尾にはねらるゝ蚯蚓哉	25	秋	動物	鶉	
4280	鶉や岩を凹める尾の力	25	秋	動物	鶉	
4281	せき鶉や風にかまはぬ尾のひねり	25	秋	動物	鶉	
4282	鶉やこの笠たゝくことなかれ	25	秋	動物	鶉	
4283	鶉や三千丈の瀧の水	25	秋	動物	鶉	
4284	鶉や飛び失ふて残る不盡	25	秋	動物	鶉	
4285	鶉や庭の小石をふみ返し	25	秋	動物	鶉	
4286	鶉や欄干はしる瀬田の橋	25	秋	動物	鶉	
4287	鶉よこの笠叩くことなかれ	25	秋	動物	鶉	
4288	叩く尾のすりきれもせず石敲き	25	秋	動物	鶉	
4289	飛ぶさまや尾につらさるゝ石叩き	25	秋	動物	鶉	
4290	箱庭の山に上るや石たゝき	25	秋	動物	鶉	
4291	箱庭の山へ上るや石たたき	25	秋	動物	鶉	
4292	ひよいひよいと鶉ありく岩ほ哉	25	秋	動物	鶉	
4293	鶉のあらはれそめて山けはし	26	秋	動物	鶉	
4294	鶉の見えそめてより山けはし	26	秋	動物	鶉	
4295	鶉や山と溪との幾十里	26	秋	動物	鶉	
4296	鶉や瀧をはねたる尾の力	27	秋	動物	鶉	
4297	鶉や叩き折つたる石の橋	27	秋	動物	鶉	
4298	鶉や水瘦せて石あらはるゝ	27	秋	動物	鶉	
4299	藪川や鶉とまるごみの上	27	秋	動物	鶉	
4300	鶉や浪うちかけし岩の上	28	秋	動物	鶉	
4301	淵靜かに鶉の尾の動きけり	28	秋	動物	鶉	
4302	瀧落ち岩尖る處鶉飛ぶ	29	秋	動物	鶉	
4303	鶉や池の渚の芭蕉塚	32	秋	動物	鶉	
4304	鶉や池の汀の芭蕉塚	32	秋	動物	鶉	
4305	啄木鳥のつゝき落すやせみのから	25	秋	動物	啄木鳥	
4306	木のうろに隠れうせけりけらつゝき	25	秋	動物	啄木鳥	
4307	啄木鳥の来て錦木を倒しけり	26	秋	動物	啄木鳥	
4308	啄木鳥や山しんとして晝の月	27	秋	動物	啄木鳥	
4309	秋の小鳥はらはらと枝に飛び移る	29	秋	動物	秋の鳥	
4310	秋の小鳥鼻の目を笑ひけり	29	秋	動物	秋の鳥	
4311	色鳥の聲をそるへて渡るげな	25	秋	動物	色鳥	
4312	色鳥や頬の白きは頬白か	27	秋	動物	色鳥	
4313	鳥はらはらどれが頬赤やら目白やら	27	秋	動物	色鳥	
4314	鳥はらはらどれが目白やら頬赤やら	27	秋	動物	色鳥	
4315	色鳥や一むれ嶋へ分れ行く	28	秋	動物	色鳥	
4316	打ち得たる色鳥美也名を知らず	31	秋	動物	色鳥	
4317	朝鳥の来ればうれしき日和哉	28	秋	動物	朝鳥	
4318	一つ一つ帆柱くれて渡り鳥	23~25	秋	動物	渡り鳥	
4319	一つづゝ帆柱暮れて渡り鳥	24	秋	動物	渡り鳥	

4320	軍艦の帆檣高し渡り鳥	25	秋	動物	渡り鳥	
4321	牛積んだ船の上より渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4322	鳥羽玉や夜半の嵐の渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4323	崩れては返し寄せては渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4324	今朝どこを立て夕日の渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4325	爲朝の弭のさきや渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4326	ひたすらにそなたと許り渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4327	我畑の米くひに來よ渡り鳥	26	秋	動物	渡り鳥	
4328	草臥や我足遅き渡り鳥	27	秋	動物	渡り鳥	
4329	船の灯を目當に闇の渡り鳥	27	秋	動物	渡り鳥	
4330	渡りかけて鳥さわぐ海の響き哉	27	秋	動物	渡り鳥	
4331	小嶋から陸へ五町の渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4332	小島から岡へ五町の渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4333	旅僧やひとり四國へ渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4334	旅人の馬こはがるや渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4335	とりつくや日本の山へ渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4336	晝凄し沖は嵐の渡り鳥	28	秋	動物	渡り鳥	
4337	むれ來るや小鳥は小鳥雁は雁	28	秋	動物	渡り鳥	
4338	大海や一かたまりの渡り鳥	29	秋	動物	渡り鳥	
4339	一むれは大島さして渡り鳥	30	秋	動物	渡り鳥	
4340	かぎりなり竿になる手やわたり鳥	31	秋	動物	渡り鳥	
4341	籠の虫皆啼きたつる小雨哉	25	秋	動物	虫	
4342	虫賣の月なき方へ歸りけり	25	秋	動物	虫	
4343	虫賣や北野の聲に嵯峨の聲	25	秋	動物	虫	
4344	松杉や晝の虫鳴く八重葎	27	秋	動物	虫	
4345	笠塚や晝の蟲鳴く石の下	28	秋	動物	虫	
4346	ある月夜ことごとく籠の虫を放つ	29	秋	動物	虫	
4347	籠の蟲鳴いて居るのを覗かばや	29	秋	動物	虫	
4348	籠の虫茄子の露を吸ひにけり	29	秋	動物	虫	
4349	傾城や格子にすがる籠の虫	29	秋	動物	虫	
4350	一つ買ふて歸れば淋し籠の虫	29	秋	動物	虫	
4351	人病んで籠の虫鳴く枕もと	29	秋	動物	虫	
4352	虫賣や虫かしましき市の月	29	秋	動物	虫	
4353	虫聞くべくこゝに亭あり岡の上	29	秋	動物	虫	
4354	湯戻りの小便するや蟲の中	29	秋	動物	虫	
4355	わりなしや鳴くものにして籠の虫	29	秋	動物	虫	
4356	富める人の蟲買ふて放つ植木鉢	30	秋	動物	虫	
4357	虫賣の虫賣と語る嵯峨の道	30	秋	動物	虫	
4358	虫賣の虫賣に逢ぬ嵯峨の道	30	秋	動物	虫	
4359	籠の虫の鳴かざるを庭に放ちけり	32	秋	動物	虫	
4360	庭の草に鳴かざる蟲を放ちけり	32	秋	動物	虫	
4361	サマヾ、ノ蟲鳴ク夜トナリニケリ	34	秋	動物	虫	
4362	虫取る夜運座戻りの夜更など	35	秋	動物	虫	
4363	虫の音の上に床しく伏家哉	20	秋	動物	虫の声	
4364	蟲の音をふみわけて行く小道哉	20	秋	動物	虫の声	
4365	ともし火になじむ夜頃や虫の聲	21	秋	動物	虫の声	
4366	邯鄲につかれ忘れる枕かな	22	秋	動物	虫の声	
4367	仇し野や露吸ふ虫の聲三里	23	秋	動物	虫の声	
4368	横窓は嵯峨の月夜や蟲の聲	24	秋	動物	虫の声	
4369	新道やまだ人なれぬ蟲の聲	25	秋	動物	虫の声	
4370	虫賣りにゆられて虫の啼きにけり	25	秋	動物	虫の声	
4371	虫啼て籠から月をのぞきけり	25	秋	動物	虫の声	
4372	虫の鳴隅隅暗し石灯籠	25	秋	動物	虫の声	
4373	駕籠舁の喧嘩も過ぎて虫の聲	26	秋	動物	虫の声	

4374	旅人のいそぐ夜山や虫の聲	26	秋	動物	虫の声	
4375	婆々が茶屋夜は虫鳴く處哉	26	秋	動物	虫の声	
4376	虫の音や君を思へば土手八町	26	秋	動物	虫の声	
4377	蓬生はこのましき名よ虫の聲	26	秋	動物	虫の声	
4378	蓬生はこのもしき名よ虫の聲	26	秋	動物	虫の声	
4379	下宿屋の裏窓あかし虫の聲	27	秋	動物	虫の声	
4380	虫鳴くや木もなき闇の山一つ	27	秋	動物	虫の声	
4381	嘯みまぜてあくび念佛蟲の聲	28	秋	動物	虫の声	
4382	行列の太鼓過ぎけり蟲の声	28	秋	動物	虫の声	
4383	蟲鳴くや梅若寺の葎簀茶屋	28	秋	動物	虫の声	
4384	蟲鳴くや金堂の跡門の跡	28	秋	動物	虫の声	
4385	蟲鳴くや七堂伽藍何もなし	28	秋	動物	虫の声	
4386	蟲鳴くや花露草の晝の露	28	秋	動物	虫の声	
4387	蟲鳴くや闇におどろく地藏尊	28	秋	動物	虫の声	
4388	蟲の聲一番鶏の鳴きにけり	28	秋	動物	虫の声	
4389	旅に迷ふ心細さを虫の聲	29	秋	動物	虫の声	
4390	野の闇の渺茫として虫の聲	29	秋	動物	虫の声	
4391	萩が枝に蟲籠吊つて聞きにけり	29	秋	動物	虫の声	
4392	萩が根も芒かもとも虫の聲	29	秋	動物	虫の声	
4393	町荒れて家まばら也虫の聲	29	秋	動物	虫の声	
4394	蟲籠やこちらで鳴けばあちらでも	29	秋	動物	虫の声	
4395	虫鳴くや人少し野の停車場	29	秋	動物	虫の声	
4396	虫の名は知らず虫聞く男ども	29	秋	動物	虫の声	
4397	灯ともせば既に蟲なく夕哉	30	秋	動物	虫の声	
4398	窓の灯の草にうつりて虫の聲	30	秋	動物	虫の声	
4399	虫鳴や俳句分類の進む夜半	30	秋	動物	虫の声	
4400	くたびれし僧の鼯や蟲の聲	31	秋	動物	虫の声	
4401	竹垣の外は上野や虫の聲	31	秋	動物	虫の声	
4402	庭上にラムプを置くや蟲の聲	31	秋	動物	虫の声	
4403	更くる夜や川を隔つる虫の聲	31	秋	動物	虫の声	
4404	蟲鳴くや月出でゝ猶暗き庭	31	秋	動物	虫の声	
4405	虫の聲二度目の運坐始まりぬ	31	秋	動物	虫の声	
4406	ツクゞト我影見ルヤ虫の聲	34	秋	動物	虫の声	
4407	八石ノ拍子木鳴ルヤ虫ノ聲	34	秋	動物	虫の声	
4408	虫ノ聲滋シ歌ヨミナラバ歌ヨマン	34	秋	動物	虫の声	
4409	夜涼如水書燈二迫ル虫ノ聲	34	秋	動物	虫の声	
4410	夜嵐に黒木くつれていとゝかな	26	秋	動物	竈馬	
4411	夜嵐や黒木くづれて鳴くいとゞ	26	秋	動物	竈馬	
4412	灯ともすや竈馬飛びつく佛の眼	29	秋	動物	竈馬	
4413	筆の穂にいとど髭うつ寫し物	30	秋	動物	竈馬	
4414	轡蟲夜討も來べき夜なる哉	28	秋	動物	轡虫	
4415	轡虫夜討よすると覺えたり	28	秋	動物	轡虫	
4416	一夜一夜がちやがちや近くやかましく	29	秋	動物	轡虫	
4417	松虫や風呂暗らくして松の月	28	秋	動物	松虫	
4418	人は寐て籠の松虫啼きいでぬ	29	秋	動物	松虫	
4419	逝したる松虫なくや庭の草	31	秋	動物	松虫	
4420	松蟲や露二濡レタル絹團扇	34	秋	動物	松虫	
4421	鈴蟲や露をのむこと日に五升	24	秋	動物	鈴虫	
4422	鈴虫や土手の向ふは相模灘	25	秋	動物	鈴虫	
4423	鈴虫や小川の流れちかちかと	25	秋	動物	鈴虫	
4424	よもすがら鈴虫近く波遠し	25	秋	動物	鈴虫	
4425	鈴虫の籠に燈籠の月夜哉	26	秋	動物	鈴虫	
4426	釜の湯は冷えて鈴蟲ちんちろり	28	秋	動物	鈴虫	
4427	鈴虫や風呂の灯消えて松の月	28	秋	動物	鈴虫	

4428	鈴虫や風呂場灯消えて松の月	28	秋	動物	鈴虫	
4429	鈴蟲よ鳴け籠の月籠の露	28	秋	動物	鈴虫	
4430	飼ひ置きし鈴虫死で庵淋し	29	秋	動物	鈴虫	
4431	山路の草間に眠るきりぎりす	12~16	秋	動物	蟋蟀	
4432	むさし野や月をふまへてきりぎりす	23	秋	動物	蟋蟀	
4433	掛茶屋の灰はつめたしきりぎりす	25	秋	動物	蟋蟀	
4434	下駄箱の奥になきけりきりきりす	25	秋	動物	蟋蟀	
4435	下駄箱の底になきけり蟋蟀	25	秋	動物	蟋蟀	
4436	こほろぎの蘆にとびつく襖かな	25	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4437	こほろぎの頭にはねる伏家かな	25	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4438	汐風にすがれて鳴くやきりきりす	25	秋	動物	蟋蟀	
4439	捨笠をうてばだまるやきりきりす	25	秋	動物	蟋蟀	
4440	露のちるたびになくなり蟋蟀	25	秋	動物	蟋蟀	
4441	我庵や蠹にまじはる蟋蟀	25	秋	動物	蟋蟀	
4442	曉や廚子を飛び出るきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4443	あかつきや御厨子とびでる蟋蟀	26	秋	動物	蟋蟀	
4444	刈りのこす草のあたりやきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4445	箒ふせて置けば晝鳴くきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4446	賤か家に露おく床やきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4447	旅人の草鞋すてたりきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4448	夜をこめて麥つく日や蟋蟀	26	秋	動物	蟋蟀	
4449	夜をこめて麥つく音やきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4450	井戸堀の焚火のあとやきりきりす	26	秋	動物	蟋蟀	
4451	こほろぎや露なめて居る夜泣石	27	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4452	山ぞひや帽子の椽にきりぎりす	27	秋	動物	蟋蟀	
4453	山ぞひや帽子の端にきりきりす	27	秋	動物	蟋蟀	
4454	馬の息とゞくあたりのきりきりす	28	秋	動物	蟋蟀	
4455	大寺の竈は冷えてきりきりす	28	秋	動物	蟋蟀	
4456	草刈つて枕に遠しきりきりす	28	秋	動物	蟋蟀	
4457	こほろぎや承塵の邊に聲す也	28	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4458	晝鳴いて子に取られけりきりきりす	28	秋	動物	蟋蟀	
4459	吉原の太鼓更けたりきりきりす	28	秋	動物	蟋蟀	
4460	こほろぎや蝸いまだ鳴きやまず	29	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4461	惣門は錠のさゝれてきりきりす	29	秋	動物	蟋蟀	
4462	佛壇のともし火暗しきりきりす	29	秋	動物	蟋蟀	
4463	平作もおよねも寐たりきりきりす	29	秋	動物	蟋蟀	
4464	夕露や大砲冷えてきりきりす	29	秋	動物	蟋蟀	
4465	籠二つきりぎりす先鳴いでぬ	30	秋	動物	蟋蟀	
4466	こほろぎに宿かる蝶の旅寐哉	30	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4467	こほろぎに宿かる蝶の夫婦哉	30	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4468	こほろぎに宿かる旅の胡蝶哉	30	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4469	こほろぎの佛壇の中に鳴出しぬ	31	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4470	こほろぎや青物市のこぼれ菜に	31	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4471	萩の月きりきりすやがて鳴出ぬ	31	秋	動物	蟋蟀	
4472	こほろぎや猫の寐て居る臺處	32	秋	動物	蟋蟀	こほろぎ<虫+車>
4473	いな子焼く香やこほろぎの鳴止め	33	秋	動物	蟋蟀	
4474	こほろぎや翌の大根を刻む音	33	秋	動物	蟋蟀	
4475	こほろぎや翌の大根を刻みけり	33	秋	動物	蟋蟀	
4476	こほろぎや犬を埋めし庭の隅	33	秋	動物	蟋蟀	
4477	こほろぎや隣へ移る壁の穴	33	秋	動物	蟋蟀	
4478	こほろぎや隣へくゞる壁の穴	33	秋	動物	蟋蟀	
4479	こほろぎや夜學の灯消して後	33	秋	動物	蟋蟀	
4480	消エントシテトモシ火青シキリゞ、ス	34	秋	動物	蟋蟀	
4481	コホロギヤ物音絶エシ臺所	34	秋	動物	蟋蟀	

4482	夜更ケテ米トグ音ヤキリゞ、ス	34	秋	動物	蟋蟀	
4483	馬追にラムプの低き葛家哉	30	秋	動物	馬追	
4484	馬追のこほろぎを追ふ聲すなり	31	秋	動物	馬追	こほろぎ<虫+車>
4485	馬追の長き鬚ふるラムプ哉	31	秋	動物	馬追	
4486	馬追の我貧乏を鳴く夜哉	31	秋	動物	馬追	
4487	馬追や追ひ出だされて椽に鳴く	31	秋	動物	馬追	
4488	椽端に馬追啼くや西瓜の灯	31	秋	動物	馬追	
4489	月明り馬追鳴くや西の窓	31	秋	動物	馬追	
4490	狭蕙に機織鳴けば足寒し	26	秋	動物	機織	
4491	釣鐘にとまりて鳴くや秋の蝉	26	秋	動物	秋の蝉	
4492	秋の蝉子にとらるゝもあはれ也	27	秋	動物	秋の蝉	
4493	此頃はまばらになりぬ秋の蝉	27	秋	動物	秋の蝉	
4494	秋の蝉朝日にきほふあはれなり	28	秋	動物	秋の蝉	
4495	啼きながら蟻にひかるゝ秋の蝉	28	秋	動物	秋の蝉	
4496	鳴くあとのやゝ淋しさや秋の蝉	28	秋	動物	秋の蝉	
4497	秋の蝉蝸にまぎれ鳴きにけり	29	秋	動物	秋の蝉	
4498	死にかけて猶やかましき秋の蝉	29	秋	動物	秋の蝉	
4499	泣き盡す我が玉の緒も秋の蝉	29	秋	動物	秋の蝉	
4500	泣き盡せりわが玉の緒も秋の蝉	29	秋	動物	秋の蝉	
4501	蝸に鳴き勝たれけり秋の蝉	29	秋	動物	秋の蝉	
4502	一日一日思ひせまるか秋の蝉	29	秋	動物	秋の蝉	
4503	あながまや死ぞこなひの秋の蝉	30	秋	動物	秋の蝉	
4504	あながまや死でもよきに秋の蝉	30	秋	動物	秋の蝉	
4505	抜けんとして抜け得ず死る秋の蝉	30	秋	動物	秋の蝉	
4506	やかましきものニコライの鐘秋の蝉	30	秋	動物	秋の蝉	
4507	九月蝉椎伐ラバヤト思フカナ	34	秋	動物	秋の蝉	
4508	病牀ノウメキニ和シテ秋の蝉	34	秋	動物	秋の蝉	
4509	庭に椎の樹ありつくつくぼうし鳴く	29	秋	動物	法師蝉	
4510	大聲につくつくぼうしと鳴て居る	30	秋	動物	法師蝉	
4511	家ヲ遠リテツクゝ、ポーシ榿林	34	秋	動物	法師蝉	
4512	ツクゝ、ポーシ明日無キヤウニ鳴キニケリ	34	秋	動物	法師蝉	
4513	ツクゝ、ポーシ雨ノ日和ノキラヒナシ	34	秋	動物	法師蝉	
4514	ツクゝ、ポーシツクゝ、ポーシバカリナリ	34	秋	動物	法師蝉	
4515	夕飯ヤツクゝ、ポーシヤカマシキ	34	秋	動物	法師蝉	
4516	友をまつ虫たゞ日ぐらしの蝉のこゑ	23	秋	動物	蝸	
4517	蝸や椎の實ひろふ日は長き	24	秋	動物	蝸	
4518	蝸や背戸から覗く婆の顔	24	秋	動物	蝸	
4519	蝸や隣もねむき絲車	24	秋	動物	蝸	
4520	蝸に一すぢ長き夕日かな	25	秋	動物	蝸	
4521	蝸の松は月夜となりにけり	25	秋	動物	蝸	
4522	蝸や金箱荷ふ人の息	25	秋	動物	蝸	
4523	蝸や一日一日をなきへらす	25	秋	動物	蝸	
4524	蝉の聲あつし蝸やゝ涼し	26	秋	動物	蝸	
4525	蝉蝸其中下す小舟かな	26	秋	動物	蝸	
4526	蝸の二十五年もむかし哉	26	秋	動物	蝸	
4527	蝸やお堀の松に人もなし	26	秋	動物	蝸	
4528	蝸や乗あひ舟のかしましき	26	秋	動物	蝸	
4529	蝸や宮しんとして人もなし	26	秋	動物	蝸	
4530	蝸や飯くふ窓に榿の影	26	秋	動物	蝸	
4531	蝸や森は夕日の古やしる	26	秋	動物	蝸	
4532	蝸や夕日の坐敷十の影	26	秋	動物	蝸	
4533	蝸や夕日の里は見えながら	26	秋	動物	蝸	
4534	奥の院見えて蝸十八町	27	秋	動物	蝸	
4535	蝸の茶屋静かなり杉の中	27	秋	動物	蝸	

4536	蝸の茶屋静かなる木の間かな	27	秋	動物	蝸	
4537	蝸や動物園の垣ひろし	27	秋	動物	蝸	
4538	蝸の聲の尻より三日の月	28	秋	動物	蝸	
4539	蝉の鳴いて机の日影かな	28	秋	動物	蝸	
4540	蝸や夕日の窓に櫳の影	28	秋	動物	蝸	
4541	蝸や上野の茶店灯ともる	29	秋	動物	蝸	
4542	書に倦むや蝸鳴て飯遅し	30	秋	動物	蝸	
4543	蝸や几を壓す椎の影	30	秋	動物	蝸	
4544	蝸や柩を埋む五六人	30	秋	動物	蝸	
4545	雨晴れて山は蝸夕榮す	31	秋	動物	蝸	
4546	蝸に翌の米とぐ伏屋哉	31	秋	動物	蝸	
4547	蝸に翌の米なき伏屋哉	31	秋	動物	蝸	
4548	蝸や尼こゝに住む二十年	31	秋	動物	蝸	
4549	蝸や神鳴晴れて又夕日	31	秋	動物	蝸	
4550	蝸や木曾塚こゝに杉木立	31	秋	動物	蝸	
4551	蝸や小説を書く田舎住	31	秋	動物	蝸	
4552	蝸や畳に上る夕日影	31	秋	動物	蝸	
4553	蝸や竝松盡きて町に入る	31	秋	動物	蝸	
4554	蝸や旅籠もすなる一軒家	31	秋	動物	蝸	
4555	蝸や谷中を出づる墓參	31	秋	動物	蝸	
4556	夕榮や蝸多き岡の松	31	秋	動物	蝸	
4557	残る蚊や飄々として飛んで来る	34	秋	動物	残る蚊	
4558	秋の蚊や畳にそふて低く飛ぶ	21	秋	動物	秋の蚊	
4559	秋の蚊や畳の上を低く飛ぶ	21	秋	動物	秋の蚊	
4560	哀れにも来て秋の蚊のころさるゝ	21	秋	動物	秋の蚊	
4561	哀れにも来てころさるゝ秋の蚊の	21	秋	動物	秋の蚊	
4562	秋の蚊や親にもらふた血をわけん	24	秋	動物	秋の蚊	
4563	秋の蚊を追へどたわいもなかりけり	24	秋	動物	秋の蚊	
4564	秋の蚊に病む身さゝるゝ山路かな	25	秋	動物	秋の蚊	
4565	壁の笠とれは秋の蚊あらはるゝ	25	秋	動物	秋の蚊	
4566	壁の笠とるや秋の蚊あらはるる	25	秋	動物	秋の蚊	
4567	秋の蚊の聲ばかりするあはれ也	26	秋	動物	秋の蚊	
4568	秋の蚊や死ぬる覺期でわれを刺す	26	秋	動物	秋の蚊	
4569	待つ戀を又秋の蚊にさゝれけり	26	秋	動物	秋の蚊	
4570	秋の蚊とあなどれば群れて我をさす	27	秋	動物	秋の蚊	
4571	秋の蚊の人見て出づる箱根山	28	秋	動物	秋の蚊	
4572	秋の蚊や人見て出るよ卵塔場	28	秋	動物	秋の蚊	
4573	秋の蚊の泣聲細し古そとば	28	秋	動物	秋の蚊	
4574	秋の蚊の人見て出づる上り阪	28	秋	動物	秋の蚊	
4575	秋の蚊の人見て出るよ卵塔場	28	秋	動物	秋の蚊	
4576	秋の蚊や人見て出づる上り阪	28	秋	動物	秋の蚊	
4577	秋の蚊やともし火暗き棺の前	29	秋	動物	秋の蚊	
4578	一夜二夜秋の蚊居らずなりにけり	29	秋	動物	秋の蚊	
4579	秋の蚊の大粒なるが残りけり	31	秋	動物	秋の蚊	
4580	秋の蚊や墓場に近き寺の庫裏	31	秋	動物	秋の蚊	
4581	秋の蚊や秋海棠を鳴いて出る	32	秋	動物	秋の蚊	
4582	秋の蚊や玉の御膚刺しに来る	33	秋	動物	秋の蚊	
4583	秋の蚊の源左衛門と名乗りけり	34	秋	動物	秋の蚊	
4584	秋の蚊のよろよると来て人を刺す	34	秋	動物	秋の蚊	
4585	病室に蚊帳の寒さや蚊の名残	34	秋	動物	秋の蚊	
4586	瘦臍二秋ノ蚊トマル憎キカナ	34	秋	動物	秋の蚊	
4587	追かけた人にとまるや秋の蝶	23	秋	動物	秋の蝶	
4588	枯れ草にすれすれ飛ぶや秋の蝶	23	秋	動物	秋の蝶	
4589	魂祭ふわふわと来る秋の蝶	23	秋	動物	秋の蝶	

4590	すかりてはへちまにゆれる秋の蝶	24	秋	動物	秋の蝶	
4591	秋に来て石臼頼む胡蝶かな	25	秋	動物	秋の蝶	
4592	秋の蝶動物園をたどりけり	25	秋	動物	秋の蝶	
4593	秋の蝶長柄の傘にとまりけり	25	秋	動物	秋の蝶	
4594	秋の蝶長柄の傘に宿りけり	25	秋	動物	秋の蝶	
4595	馬糞にわりなき秋のこてふ哉	25	秋	動物	秋の蝶	
4596	情なう色のさめたり秋の蝶	25	秋	動物	秋の蝶	
4597	情なく色のさめけり秋の蝶	25	秋	動物	秋の蝶	
4598	秋の蝶祇王の袖にかくれけり	26	秋	動物	秋の蝶	
4599	淋しさや杉の木立ちの秋の蝶	26	秋	動物	秋の蝶	
4600	炭竈をめぐりて秋の胡蝶哉	26	秋	動物	秋の蝶	
4601	秋の蝶物喰はで何を生きて居る	27	秋	動物	秋の蝶	
4602	秋の蝶羽小さくもなりにけり	28	秋	動物	秋の蝶	
4603	命なり小夜の中山秋の蝶	28	秋	動物	秋の蝶	
4604	馬糞に息つく秋の胡蝶哉	28	秋	動物	秋の蝶	
4605	何事の心いそぎぞ秋の蝶	28	秋	動物	秋の蝶	
4606	塵塚や扇の骨に秋の蝶	29	秋	動物	秋の蝶	
4607	身のはてや蟻の餌食の秋の蝶	29	秋	動物	秋の蝶	
4608	身のはてを蟻にくはるゝ秋の蝶	29	秋	動物	秋の蝶	
4609	毛虫にもなれぬ妄執か秋の蝶	30	秋	動物	秋の蝶	
4610	毛蟲にもなれぬ妄執や秋の蝶	30	秋	動物	秋の蝶	
4611	毛蟲にもなれぬ夫婦や秋の蝶	30	秋	動物	秋の蝶	
4612	辻君のたもとに秋の螢かな	24	秋	動物	秋の螢	
4613	枯れ柴にくひ入る秋の螢かな	25	秋	動物	秋の螢	
4614	消えもせでかなしき秋の螢かな	26	秋	動物	秋の螢	
4615	附木手に燃えつきて秋の螢飛ぶ	29	秋	動物	秋の螢	
4616	日にむけたぢゝの背中や秋の蠅	24	秋	動物	秋の蠅	
4617	日にさらす人の背中や秋の蠅	24	秋	動物	秋の蠅	
4618	わびしげに臍をねぶるや秋の蠅	24	秋	動物	秋の蠅	
4619	笠について一里は来たり秋の蠅	25	秋	動物	秋の蠅	
4620	飯粒を探りあてたり秋の蠅	25	秋	動物	秋の蠅	
4621	秋の蠅叩かれやすく成にけり	26	秋	動物	秋の蠅	
4622	秋の蠅二尺のうちを立ち去らず	26	秋	動物	秋の蠅	
4623	秋の蠅拂子の髭にとまりけり	26	秋	動物	秋の蠅	
4624	はたごやにわれをなぶるか秋の蠅	26	秋	動物	秋の蠅	
4625	秋もはや象なぶるべき蠅もなし	27	秋	動物	秋の蠅	
4626	馬糞をはなれて石に秋の蠅	27	秋	動物	秋の蠅	
4627	秋の蠅叩いて見れば叩かるゝ	28	秋	動物	秋の蠅	
4628	人もなし駄菓子の上の秋の蠅	28	秋	動物	秋の蠅	
4629	お供物に群れたる秋の蠅鈍し	29	秋	動物	秋の蠅	
4630	秋の蠅秋の蚊よりも猶憎し	31	秋	動物	秋の蠅	
4631	瀬戸船や晝餉にたかる秋の蠅	31	秋	動物	秋の蠅	
4632	打捨し辨當のからや秋の蠅	32	秋	動物	秋の蠅	
4633	秋ノ蠅追へバマタ來ル叩ケバ死ヌ	34	秋	動物	秋の蠅	
4634	秋ノ蠅殺セドモ猶盡キヌカナ	34	秋	動物	秋の蠅	
4635	秋ノ蠅叩キ殺セト命ジケリ	34	秋	動物	秋の蠅	
4636	秋ノ蠅蠅タ、キ皆破レタリ	34	秋	動物	秋の蠅	
4637	濕氣多ク汗バム日ナリ秋ノ蠅	34	秋	動物	秋の蠅	
4638	病室ヤ窓アタゝカニ秋ノ蠅	34	秋	動物	秋の蠅	
4639	蓑虫の首ちゞめたる嵐哉	26	秋	動物	蓑虫	
4640	蓑虫の其父母よりも鳴くなめり	28	秋	動物	蓑虫	
4641	蓑虫の妹戀しとは鳴かぬ也	26	秋	動物	蓑虫鳴く	
4642	蓑虫の金戀しとは鳴くなめり	28	秋	動物	蓑虫鳴く	
4643	蓑虫の闇とも知らで啼きにけり	28	秋	動物	蓑虫鳴く	

4644	蓑蟲やひとり常夜の闇を鳴く	28	秋	動物	蓑虫鳴く	
4645	蓑蟲のなくや芭蕉の塚の木に	32	秋	動物	蓑虫鳴く	
4646	蓑虫ノ鳴ク時蕃椒赤シ	35	秋	動物	蓑虫鳴く	
4647	芋虫や女をおどす悪太郎	35	秋	動物	芋虫	
4648	西日さす地藏の笠に蜻蛉哉	21	秋	動物	蜻蛉	
4649	蜻蛉や花なき枝を飛めぐり	22	秋	動物	蜻蛉	
4650	蜻蛉やりゝととまつてついと行	24	秋	動物	蜻蛉	
4651	砂濱にとまるものなし赤蜻蛉	25	秋	動物	蜻蛉	
4652	旅人の笠追へけり赤蜻蜒	25	秋	動物	蜻蛉	
4653	蜻蛉の中ゆく旅の小笠哉	25	秋	動物	蜻蛉	
4654	耳なくてにげるやんまの悟り哉	25	秋	動物	蜻蛉	
4655	牛若の扇は赤きとんぼ哉	26	秋	動物	蜻蛉	
4656	草枕我膝にくる蜻蛉哉	26	秋	動物	蜻蛉	
4657	蜻蜒のうつる西日や竹格子	26	秋	動物	蜻蛉	
4658	蜻蜒や追ひつきかぬる下り船	26	秋	動物	蜻蛉	
4659	蜻蜒を相手に上る峠かな	26	秋	動物	蜻蛉	
4660	赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり	27	秋	動物	蜻蛉	
4661	石橋の石に喰ひつく蜻蜒哉	27	秋	動物	蜻蛉	
4662	蜻蛉の影せつろしや顔の上	27	秋	動物	蜻蛉	
4663	蜻蛉の勢を揃ゆる夕日哉	27	秋	動物	蜻蛉	
4664	蜻蛉の眠られもせぬ眼玉かな	27	秋	動物	蜻蛉	
4665	蜻蛉群るゝ地藏の辻の夕日哉	27	秋	動物	蜻蛉	
4666	兀山にそふて夕日の蜻蛉哉	27	秋	動物	蜻蛉	
4667	噴水につばへて遊ぶ蜻蜒かな	27	秋	動物	蜻蛉	
4668	堀割を四角に返す蜻蛉哉	27	秋	動物	蜻蛉	
4669	赤蜻蛉地藏の顔の夕日哉	28	秋	動物	蜻蛉	
4670	赤蜻蜒飛ぶや平家のちりぢりに	28	秋	動物	蜻蛉	
4671	動かずに早瀬の上の蜻蜒かな	28	秋	動物	蜻蛉	
4672	蜻蛉の海をかゝえる西日かな	28	秋	動物	蜻蛉	
4673	蜻蛉の御寺見おろす日和哉	28	秋	動物	蜻蛉	
4674	蜻蛉の御幸寺見下す日和哉	28	秋	動物	蜻蛉	
4675	蜻蛉や何をわすれてもとの杭	28	秋	動物	蜻蛉	
4676	線香の烟に向ふ蜻蛉かな	28	秋	動物	蜻蛉	
4677	赤蜻蛉鳥毛の槍の通りけり	29	秋	動物	蜻蛉	
4678	絲つけてふりまはさるゝ蜻蛉哉	29	秋	動物	蜻蛉	
4679	五郎櫃を追ひかけて行く蜻蛉哉	29	秋	動物	蜻蛉	
4680	竹竿のさきに夕日の蜻蛉かな	29	秋	動物	蜻蛉	
4681	溜池に蜻蛉集まる夕日哉	29	秋	動物	蜻蛉	
4682	蜻蛉の羽にかゝやく夕日かな	29	秋	動物	蜻蛉	
4683	晝の雲消え去つて蜻蛉蚊の如し	29	秋	動物	蜻蛉	
4684	赤蜻蛉運動會の日となりぬ	30	秋	動物	蜻蛉	
4685	いつ見ても蜻蛉一つ竹の先	30	秋	動物	蜻蛉	
4686	蜻蛉の群れて河越す夕日かな	30	秋	動物	蜻蛉	
4687	年五十蜻蛉つりしことを思ふ哉	30	秋	動物	蜻蛉	
4688	とまらんとす蜻蛉に動く芒哉	30	秋	動物	蜻蛉	
4689	蜻蜒の蜻蛉にとまる水の上	30	秋	動物	蜻蛉	
4690	干柿に蜻蛉飛行く西日かな	30	秋	動物	蜻蛉	
4691	蘆の葉の蜻蛉風無し蟹の泡	31	秋	動物	蜻蛉	
4692	演習に人群るゝ岡や赤蜻蛉	31	秋	動物	蜻蛉	
4693	土べたにくひついて居る蜻蛉哉	31	秋	動物	蜻蛉	
4694	蜻蜒のとまり直して夕日哉	31	秋	動物	蜻蛉	
4695	蜻蛉の外は動かず沼の草	31	秋	動物	蜻蛉	
4696	蜻蛉の外は動かず沼の晝	31	秋	動物	蜻蛉	
4697	番兵にとまらんとする蜻蜒哉	31	秋	動物	蜻蛉	

4698	水草や蜻蛉とまる秋の花	31	秋	動物	蜻蛉	
4699	酔兵士蜻蛉釣る子を叱りけり	31	秋	動物	蜻蛉	
4700	團十郎の眼玉蜻蛉の眼玉かな	33	秋	動物	蜻蛉	
4701	蜻蛉や日本一の大眼玉	33	秋	動物	蜻蛉	
4702	飛付て蠹を落す蛙哉	23	秋	動物	蝗	
4703	あぜ道や稻をおこせば蠹飛ぶ	24	秋	動物	蝗	
4704	菅笠に蠹わけゆく野路哉	25	秋	動物	蝗	
4705	稻刈りて水に飛びこむ蠹かな	27	秋	動物	蝗	
4706	蛙逃げ蠹飛ぶ野の小道哉	27	秋	動物	蝗	
4707	刈株に蠹老い行く日数かな	27	秋	動物	蝗	
4708	飛びかけし蠹押ゆる嵐かな	27	秋	動物	蝗	
4709	はらはらと蠹飛ぶ野の日和哉	27	秋	動物	蝗	
4710	低く飛ぶ畔の蠹や日の弱り	27	秋	動物	蝗	
4711	餘所の田へ蠹のうつる日和哉	27	秋	動物	蝗	
4712	我袖に来てはね返る蠹かな	27	秋	動物	蝗	
4713	飛びはせで川に落ちたる蠹かな	28	秋	動物	蝗	
4714	はらはらと汽車に驚く蠹かな	28	秋	動物	蝗	
4715	稻刈りてにぶくなりたる蠹かな	29	秋	動物	蝗	
4716	稻刈るや蠹飛び込む野の茶店	29	秋	動物	蝗	
4717	螳螂のおどしてまはる蠹かな	29	秋	動物	蝗	
4718	焼鮎に賣れ残りたる蠹哉	30	秋	動物	蝗	
4719	蠹取る人に飛びつく蠹哉	31	秋	動物	蝗	
4720	蠹焼く爺の話や嘘だらけ	31	秋	動物	蝗	
4721	稻舟に遊ぎつゐたる蠹かな	31	秋	動物	蝗	
4722	くたびれて歸る野道や蠹踏む	31	秋	動物	蝗	
4723	問ふて曰く稻の稻子の鳴くや否や	31	秋	動物	蝗	
4724	一つつかむ手に猶攫む蠹哉	31	秋	動物	蝗	
4725	螳螂の風にはむかふきをひ哉	23	秋	動物	螳螂	
4726	秋風や螳螂肥て蝶細し	25	秋	動物	螳螂	
4727	稻妻やかまきり何をとらんとす	25	秋	動物	螳螂	
4728	かきよせて又螳螂の草移り	25	秋	動物	螳螂	
4729	螳螂の切籠にかゝる夕かな	25	秋	動物	螳螂	
4730	かまきりのはひ渡る也鍋のつる	25	秋	動物	螳螂	
4731	かまきりの引きゆがめたる庵哉	25	秋	動物	螳螂	
4732	かまきりのゆらゆら上る芒哉	25	秋	動物	螳螂	
4733	螳螂の斧ほのほのと三日の月	25	秋	動物	螳螂	
4734	螳螂は叶はぬ戀の狂亂か	25	秋	動物	螳螂	
4735	かまきりは聲にも出さぬ思ひ哉	25	秋	動物	螳螂	
4736	螳螂も刀豆の實にくみつつか	25	秋	動物	螳螂	
4737	螳螂や西瓜の甲かゝんとす	25	秋	動物	螳螂	
4738	石塔に誰れが遺恨のかまきりぞ	25	秋	動物	螳螂	
4739	螳螂の露ひきこぼす葉未哉	26	秋	動物	螳螂	
4740	螳螂の石を枕にはてにける	27	秋	動物	螳螂	
4741	螳螂の身は瘦せながら何恨む	28	秋	動物	螳螂	
4742	きほへども身は螳螂の瘦腕	28	秋	動物	螳螂	
4743	いくさありと鎌切急ぐ嵐かな	29	秋	動物	螳螂	
4744	いちさきに螳螂逃げる嵐かな	29	秋	動物	螳螂	
4745	螳螂落ち蜈蚣這ひ上る縁の上	29	秋	動物	螳螂	
4746	螳螂に石うつて去る野路かな	29	秋	動物	螳螂	
4747	螳螂にしばしば出逢ふ小道哉	29	秋	動物	螳螂	
4748	螳螂の枳殻の中に逢着す	29	秋	動物	螳螂	
4749	螳螂のすぐに鎌振る卑怯哉	29	秋	動物	螳螂	
4750	螳螂の取逃したる蠹哉	29	秋	動物	螳螂	
4751	螳螂の這登りたる城の壁	29	秋	動物	螳螂	

4752	螳螂の人に向かふぞあはれなる	29	秋	動物	螳螂	
4753	螳螂の不覺を取りし最期哉	29	秋	動物	螳螂	
4754	螳螂のほむらさめたる芙蓉かな	29	秋	動物	螳螂	
4755	螳螂や油取らるゝ身の終り	29	秋	動物	螳螂	
4756	螳螂や蟹のいくさにも参りあはず	29	秋	動物	螳螂	
4757	螳螂や鐘の龍頭に手をかける	29	秋	動物	螳螂	
4758	螳螂や二つ向きあふ石の上	29	秋	動物	螳螂	
4759	桐落ちて螳螂多き小庭かな	29	秋	動物	螳螂	
4760	執念や鎌切踏めば腹の蟲	29	秋	動物	螳螂	
4761	城跡やばつた螳螂なんと飛	29	秋	動物	螳螂	
4762	日蝕して螳螂蝉を捕んとす	29	秋	動物	螳螂	
4763	螳螂や蟹の味方にも参りあはず	29	秋	動物	螳螂	
4764	蚯蚓鳴けば蓑虫もなく夕哉	25	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4765	名劍の土に埋れて蚯蚓なく	27	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4766	名劍は土に埋れて蚯蚓鳴く	27	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4767	夕闇に蚯蚓鳴きけり流元	27	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4768	童子呼べば答なし只蚯蚓鳴く	28	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4769	茶坊主の躰の下や蚯蚓鳴く	29	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4770	眞夜中や蚯蚓の聲の風になる	29	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4771	手洗へば蚯蚓鳴きやむ手水鉢	31	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4772	蚯蚓鳴く第四の絃に恨あり	31	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4773	蚯蚓鳴くとそれはおけらの一種也	31	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4774	蚯蚓鳴くや土の達磨はもとの土	31	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4775	蛙鳴蝉噪彼モ一時ト蚯蚓鳴ク	34	秋	動物	蚯蚓鳴く	
4776	秋の蜘蛛刀にかくれけり	30	秋	動物	秋の蜘蛛	
4777	秋の蜘蛛刀にひよりぬ	30	秋	動物	秋の蜘蛛	
4778	秋の蜘蛛刀に落かゝる	30	秋	動物	秋の蜘蛛	
4779	善き酒を呑む主やひしこ漬	32	秋	動物	ひしこ	
4780	押しよせて網の底なる鰯哉	25	秋	動物	鰯	
4781	五軒家や門竝はいる鰯賣	26	秋	動物	鰯	
4782	鰯分つ上様日和暮れんとす	27	秋	動物	鰯	
4783	夕榮や鰯の網に人だかり	28	秋	動物	鰯	
4784	夕焼や鰯の網に人だかり	28	秋	動物	鰯	
4785	目をぬすみ小鰯ひろふ貧女哉	30	秋	動物	鰯	
4786	安房へ来て鰯に飽きし脚氣哉	32	秋	動物	鰯	
4787	安房へ来て鰯をくはぬ脚氣哉	32	秋	動物	鰯	
4788	今取りし鰯をわけてもらひけり	32	秋	動物	鰯	
4789	鰯網鰯の中の小鰯哉	32	秋	動物	鰯	
4790	鱈干す磯静か也遠鷗	32	秋	動物	鰯	
4791	鰯焼く隣同士や木槿垣	32	秋	動物	鰯	
4792	カンテラに鰯かゝやく夜店哉	32	秋	動物	鰯	
4793	三錢の鰯包むや竹の皮	32	秋	動物	鰯	
4794	十家内こぞつて出ぬ鰯網	32	秋	動物	鰯	
4795	十家内こぞつて出たり鰯網	32	秋	動物	鰯	
4796	大漁の鰯拾ふて戻りけり	32	秋	動物	鰯	
4797	大漁や鰯こぼるゝ濱の道	32	秋	動物	鰯	
4798	覗き行く夕餉の家や鰯賣	32	秋	動物	鰯	
4799	夕餉すみて濱の散歩や鰯網	32	秋	動物	鰯	
4800	十ヶ村鰯くはぬは寺ばかり	35	秋	動物	鰯	
4801	北海の鮭あり厨貧ならず	29	秋	動物	鮭	
4802	澁鮎の岩關落す嵐かな	25	秋	動物	鯖鮎	
4803	澁鮎のさりとして紅葉にもならず	25	秋	動物	鯖鮎	
4804	さびたりな茄子の紫鮎の腹	28	秋	動物	鯖鮎	
4805	何として鮎はさびたぞ取られたぞ	28	秋	動物	鯖鮎	

4806	落鮎や小石小石に行きあたり	24	秋	動物	落鮎	
4807	鮎漉ていよいよ石に似たりけり	25	秋	動物	落鮎	
4808	落鮎にはねる力はなかりけり	25	秋	動物	落鮎	
4809	落鮎や武者の瀬を聞く村はづれ	26	秋	動物	落鮎	
4810	落鮎の身をまかせたる流れかな	27	秋	動物	落鮎	
4811	海へ五里一日に鮎や落るらん	28	秋	動物	落鮎	
4812	瀬の音や月夜に落つる鮎もあらん	28	秋	動物	落鮎	
4813	落鮎の三の瀬あたり人網す	29	秋	動物	落鮎	
4814	赤腹とあだ名や立ちて紅葉鮎	25	秋	動物	紅葉鮎	
4815	山里に魚あり其名紅葉鮎	25	秋	動物	紅葉鮎	
4816	紅葉鮎琉球人におくらばや	26	秋	動物	紅葉鮎	
4817	沙魚釣りの大加賀歸る月夜哉	25	秋	動物	鯊	
4818	引しほやはぜつり出る埠の先	27	秋	動物	鯊	
4819	引汐や沙魚釣り繞る阜頭の先	27	秋	動物	鯊	
4820	鱸さげて簀笠の人通りけり	25	秋	動物	鱸	
4821	籠あけて雑魚にまじりし鱸哉	26	秋	動物	鱸	
4822	堀江瀉釣り得て歸る鱸かな	28	秋	動物	鱸	
4823	江に網し三尺の鱸得て歸る	29	秋	動物	鱸	
4824	誰か知らず三尺の鱸得て歸る	29	秋	動物	鱸	
4825	訴へや廣島の鱸伊豫の鯛	31	秋	動物	鱸	
4826	鱸釣る藤江の浦を尋ねけり	31	秋	動物	鱸	
4827	吸物も鱸さしみも鱸哉	31	秋	動物	鱸	
4828	釣上し顔に鱸の雫かな	31	秋	動物	鱸	
4829	貧厨の光を生ず鱸哉	31	秋	動物	鱸	
4830	太刀魚の出刃庖丁にはてにけり	25	秋	動物	太刀魚	
4831	太刀魚の水きつて行く姿かな	25	秋	動物	太刀魚	
4832	馬つなぐ網にこかるゝ木槿かな	24	秋	植物	木槿	
4833	折れもせで凋む木槿の哀れなり	24	秋	植物	木槿	
4834	一尺の木に花さかる木槿かな	25	秋	植物	木槿	
4835	家もなき土手に木槿の籬かな	25	秋	植物	木槿	
4836	尼寺の尼のぞきけり白木槿	26	秋	植物	木槿	
4837	馬ひとり木槿にそふて曲りけり	26	秋	植物	木槿	
4838	白木槿鳥海山を見こし哉	26	秋	植物	木槿	
4839	海苔あぶる匂ひの深し木槿垣	26	秋	植物	木槿	
4840	木槿垣鳥海山を見こしかな	26	秋	植物	木槿	
4841	木槿咲く土手の人馬や酒田道	26	秋	植物	木槿	
4842	紫と名には呼ばれぬ木槿哉	26	秋	植物	木槿	
4843	繪屏風に木槿を漏るゝ夕日哉	26	秋	植物	木槿	
4844	杉垣に結びこまれたる木槿哉	27	秋	植物	木槿	
4845	寺町の片側淋し木槿垣	27	秋	植物	木槿	
4846	花木槿西日さしこむ簀子かな	27	秋	植物	木槿	
4847	木槿垣人も通らぬ小道かな	27	秋	植物	木槿	
4848	木槿垣箕輪の里の境かな	27	秋	植物	木槿	
4849	木槿垣箕輪をめぐる小川哉	27	秋	植物	木槿	
4850	木槿咲いて船出來上る漁村哉	27	秋	植物	木槿	
4851	木槿咲て里の社の普請かな	27	秋	植物	木槿	
4852	木槿咲く垣や小道の櫛子賣	27	秋	植物	木槿	
4853	木槿咲く何ぞと見れば野雪隠	27	秋	植物	木槿	
4854	川舟や木槿の垣根菊の背戸	28	秋	植物	木槿	
4855	君が門木槿見て行く別れ哉	28	秋	植物	木槿	
4856	汐風や瘦せて花なき木槿垣	28	秋	植物	木槿	
4857	駄菓子賣る村の小店の木槿かな	28	秋	植物	木槿	
4858	花木槿家ある限り機音	28	秋	植物	木槿	
4859	花木槿雲林先生恙なきや	28	秋	植物	木槿	

4860	道ばたに蔓草まとふ木槿哉	28	秋	植物	木槿	
4861	道ばたの木槿にたまるほこり哉	28	秋	植物	木槿	
4862	木槿垣草鞋ばかりの小店哉	28	秋	植物	木槿	
4863	木槿咲く塀や昔の武家屋敷	28	秋	植物	木槿	
4864	夕暮の旅僧通る木槿かな	28	秋	植物	木槿	
4865	十軒の長屋とりまく木槿哉	29	秋	植物	木槿	
4866	白木槿大水引いて家孤なり	29	秋	植物	木槿	
4867	花木槿犬神飼ふと人のいふ	29	秋	植物	木槿	
4868	低き木に花咲くそれは白木槿	29	秋	植物	木槿	
4869	木槿垣本所區を野へ出る處	29	秋	植物	木槿	
4870	落馬した人あはれむや花木槿	29	秋	植物	木槿	
4871	家借られざる一月木槿盛り也	30	秋	植物	木槿	
4872	かけ落の夫婦来て住む木槿垣	30	秋	植物	木槿	
4873	かたばかり長屋の前の木槿垣	30	秋	植物	木槿	
4874	木槿咲て繪師の家問ふ三嶋前	30	秋	植物	木槿	
4875	山の手や朝日さしたる木槿垣	30	秋	植物	木槿	
4876	木槿垣出水の跡を残しけり	32	秋	植物	木槿	
4877	木槿さくや寺のうしろの貧乏町	32	秋	植物	木槿	
4878	やぶ入の一日にしぼむ芙蓉哉	25	秋	植物	芙蓉	
4879	雨の芙蓉花かたつらになひきけり	26	秋	植物	芙蓉	
4880	妻戸明けて一枚はねる芙蓉哉	26	秋	植物	芙蓉	
4881	枝廣くたしかに開く芙蓉哉	27	秋	植物	芙蓉	
4882	古家や芙蓉咲いて人なまめかし	27	秋	植物	芙蓉	
4883	爪紅の手をのべて芙蓉折らんとす	28	秋	植物	芙蓉	
4884	露なくて色のさめたる芙蓉哉	28	秋	植物	芙蓉	
4885	芙蓉咲く橋の袂の小家かな	28	秋	植物	芙蓉	
4886	芙蓉見えてさすがに人の聲ゆかし	28	秋	植物	芙蓉	
4887	松が根になまめきたてる芙蓉哉	28	秋	植物	芙蓉	
4888	八ツ時の太鼓打ち出す芙蓉哉	28	秋	植物	芙蓉	
4889	村會の議員住みける芙蓉哉	29	秋	植物	芙蓉	
4890	廢館に鷄遊ぶ芙蓉かな	29	秋	植物	芙蓉	
4891	芙蓉咲いて古池の鴛やもめ也	29	秋	植物	芙蓉	
4892	明家の草の中より芙蓉哉	30	秋	植物	芙蓉	
4893	雨にぬれて雑草の中の芙蓉哉	30	秋	植物	芙蓉	
4894	雑草の雨にぬれたる芙蓉哉	30	秋	植物	芙蓉	
4895	椽廣く折り曲りたる芙蓉哉	31	秋	植物	芙蓉	
4896	暮の音や芙蓉の花に灯のうつり	31	秋	植物	芙蓉	
4897	萎みたる芙蓉の花や磬の聲	31	秋	植物	芙蓉	
4898	月出たり芙蓉の花の傍に	31	秋	植物	芙蓉	
4899	廢苑や芙蓉を覆ふ葭の風	31	秋	植物	芙蓉	
4900	廣椽の折り曲りたる芙蓉かな	31	秋	植物	芙蓉	
4901	柳散る芙蓉の庭や朝嵐	31	秋	植物	芙蓉	
4902	武藏野を見下す寺の芙蓉哉	33	秋	植物	芙蓉	
4903	芙蓉ヨリモ朝顔ヨリモウツクシク	34	秋	植物	芙蓉	
4904	雪洞は消えて木犀の匂ひ哉	26	秋	植物	木犀	
4905	木犀や雨の欄干人もなし	27	秋	植物	木犀	
4906	木犀や朱欄高くア鬢月に立つ	27	秋	植物	木犀	ア(あ<Yに似た字>)
4907	木犀や欄干高く人もなし	27	秋	植物	木犀	
4908	木犀の夕小袖にたきものす	29	秋	植物	木犀	
4909	木犀や母が教ふる二絃琴	29	秋	植物	木犀	
4910	朝飯に木犀匂ふ旅籠哉	30	秋	植物	木犀	
4911	詩人住む寺の坐敷や木犀花	31	秋	植物	木犀	
4912	木犀やしきりに匂ふ宵の程	31	秋	植物	木犀	
4913	木犀や人は寐ねたる庭の月	31	秋	植物	木犀	

4914	木犀や障子しめたる佛の間	33	秋	植物	木犀	
4915	桐の木に家あらはるゝ小路哉	25	秋	植物	桐の秋	
4916	桐の木に葉もなき秋の半かな	25	秋	植物	桐の秋	
4917	ひろがつたまゝで落るや桐一葉	22	秋	植物	桐一葉	
4918	石上の夢をたゝくや桐一葉	24	秋	植物	桐一葉	
4919	隣からそれで落ちけり桐一葉	24	秋	植物	桐一葉	
4920	見てをればつひに落ちけり桐一葉	24	秋	植物	桐一葉	
4921	あなかちに枯れるてもなし桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4922	落ちてから庭をはいれば桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4923	落ちてから庭をはひけり桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4924	大内に秋の一葉や桐の紋	25	秋	植物	桐一葉	
4925	重ければ落つるならひそ桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4926	鎌きりを石にふせるや桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4927	桐の木に雀とまりて一葉かな	25	秋	植物	桐一葉	
4928	桐一葉尼の頭にかゝりけり	25	秋	植物	桐一葉	
4929	桐一葉落ちて鳴きやむいとゞ哉	25	秋	植物	桐一葉	
4930	桐一葉落ちても秋の未だ青し	25	秋	植物	桐一葉	
4931	桐一葉笠にかぶるや石地藏	25	秋	植物	桐一葉	
4932	桐一葉心もとなきひゞき哉	25	秋	植物	桐一葉	
4933	桐一葉何をかいてもはぢきけり	25	秋	植物	桐一葉	
4934	桐一ははしごの段にかゝりけり	25	秋	植物	桐一葉	
4935	桐一葉一葉やついに不二の山	25	秋	植物	桐一葉	
4936	桐一葉拾ふてもとる小供かな	25	秋	植物	桐一葉	
4937	桐二木時をちがへて一葉かな	25	秋	植物	桐一葉	
4938	業平は何とか見たる桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4939	ぬす人のはいつた朝や桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4940	早し遅し二木の桐の一葉哉	25	秋	植物	桐一葉	
4941	一雨は過ぎて静かに桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4942	一葉ちるはじめもなくて桐林	25	秋	植物	桐一葉	
4943	井のそこに沈み入りけり桐一葉	25	秋	植物	桐一葉	
4944	金持は悟りのわろし桐一葉	26	秋	植物	桐一葉	
4945	曙や一葉浮いたる手水鉢	27	秋	植物	桐一葉	
4946	桐の葉の四五枚許り動きけり	28	秋	植物	桐一葉	
4947	つくねんと坐し居れば桐の一葉落つ	28	秋	植物	桐一葉	
4948	夏瘦の骨にひゞくや桐一葉	28	秋	植物	桐一葉	
4949	我に落ちて淋しき桐の一葉かな	28	秋	植物	桐一葉	
4950	我に落ちて夕淋しき桐の一葉哉	28	秋	植物	桐一葉	
4951	桐も落ちず風そよめかす許り也	29	秋	植物	桐一葉	
4952	人聲や桐の葉がくれ灯のともる	29	秋	植物	桐一葉	
4953	晝人なし棋盤に桐の影動く	29	秋	植物	桐一葉	
4954	落ちたるは蟲ばみし桐の一葉哉	31	秋	植物	桐一葉	
4955	桐の葉のいまだ落ざる小庭哉	31	秋	植物	桐一葉	
4956	桐の葉の落ちても居らず庭の芝	31	秋	植物	桐一葉	
4957	桐落ちて庵の障子の破れ哉	33	秋	植物	桐一葉	
4958	桐落ちて櫻欄緑なる小庭哉	33	秋	植物	桐一葉	
4959	塵取に押し込む桐の廣葉かな	33	秋	植物	桐一葉	
4960	病む人の獨り聞き知る一葉哉	26	秋	植物	一葉	
4961	おくればせに残る一葉も散りにけり	27	秋	植物	一葉	
4962	我に落ちてものゝ淋しき一葉哉	28	秋	植物	一葉	
4963	青桐の實は豌豆に似たりけり	33	秋	植物	桐の実	
4964	絲萩の露こぼしけり青蛙	21	秋	植物	萩	
4965	萩ちるや檐に掛けたる青燈籠	21	秋	植物	萩	
4966	一日の旅おもしろや萩の原	22	秋	植物	萩	
4967	猪や臥せし鹿や亂せし萩の花	22	秋	植物	萩	

4968	すりよつてだいても見たり萩の花	23	秋	植物	萩	
4969	分けて行く手にきづかはし萩の花	23	秋	植物	萩	
4970	水門に萩を吸ひこむ流れ哉	23~25	秋	植物	萩	
4971	あえぎあえぎ登って見るや萩すゝき	24	秋	植物	萩	
4972	一句なかるべからずさりとはこの萩の原	24	秋	植物	萩	
4973	うねりたるまゝを小萩のうねり哉	24	秋	植物	萩	
4974	うねりたるまゝを小萩のすがた哉	24	秋	植物	萩	
4975	奥山やうねりならはぬ萩のはな	24	秋	植物	萩	
4976	大ゆれにゆれてあぶなし萩の花	24	秋	植物	萩	
4977	白露のちるやたまるや萩すすき	24	秋	植物	萩	
4978	白萩や夜のあけぎはをりんと澄む	24	秋	植物	萩	
4979	床の間の萩は一日おくれけり	24	秋	植物	萩	
4980	ぬれて戻る犬の背にもこぼれ萩	24	秋	植物	萩	
4981	萩薄秋を行脚のいのちにて	24	秋	植物	萩	
4982	ふみこんで歸る道なし萩の原	24	秋	植物	萩	
4983	行きくれてふりむくかほや萩芒	24	秋	植物	萩	
4984	夕月やたゝかば散らん萩の門	24	秋	植物	萩	
4985	萩に寐て月見あげたる小鹿哉	25	秋	植物	萩	
4986	同じ秋高低に成て萩と葛	25	秋	植物	萩	
4987	笠賣の笠ぬらしけり萩の露	25	秋	植物	萩	
4988	傾城は屏風の萩に旅寐哉	25	秋	植物	萩	
4989	白露にぬれて重たし萩の蝶	25	秋	植物	萩	
4990	白萩の露ふき落す薄哉	25	秋	植物	萩	
4991	白萩や以ての外に露もなし	25	秋	植物	萩	
4992	萩薄小町が笠は破れけり	25	秋	植物	萩	
4993	萩薄小町が笠は破れたり	25	秋	植物	萩	
4994	萩薄月に重なる夕かな	25	秋	植物	萩	
4995	萩薄一ツになりて火花散る	25	秋	植物	萩	
4996	萩の露疊の上にこぼしけり	25	秋	植物	萩	
4997	萩の花思ふ通りにたわみけり	25	秋	植物	萩	
4998	萩の花思ひ通りにたわみけり	25	秋	植物	萩	
4999	萩ゆられ葛ひるかへる夕かな	25	秋	植物	萩	
5000	萩折て戻れば肩の月夜かな	25	秋	植物	萩	
5001	古寺や木魚うつつ萩のちる	25	秋	植物	萩	
5002	ほろほろと露になりけり雨の萩	25	秋	植物	萩	
5003	御陵としらで咲けり萩の花	25	秋	植物	萩	
5004	風の萩月に起き臥す夕哉	26	秋	植物	萩	
5005	白萩のしきりに露をこほしけり	26	秋	植物	萩	
5006	白萩や星一つ消え二つ消え	26	秋	植物	萩	
5007	新井戸にこぼれそめけり萩の花	26	秋	植物	萩	
5008	月に出でゝ萩の枝折戸押す女	26	秋	植物	萩	
5009	庭の萩寐て見るやうにたわみけり	26	秋	植物	萩	
5010	萩さくや百萬石の古城下	26	秋	植物	萩	
5011	萩散ちるや女机の愚案抄	26	秋	植物	萩	
5012	萩に来てはねかへさるゝ雀かな	26	秋	植物	萩	
5013	萩の中に猶白萩のあはれなり	26	秋	植物	萩	
5014	萩の花くねるとなくてうねりけり	26	秋	植物	萩	
5015	萩の花雀の背にこほれけり	26	秋	植物	萩	
5016	萩の花寐て見るやうなたわみ哉	26	秋	植物	萩	
5017	萩を手に兒山する一人かな	26	秋	植物	萩	
5018	萩を見に行くや彼岸の渡し舟	26	秋	植物	萩	
5019	はなしでは又抱えけり萩の花	26	秋	植物	萩	
5020	はね返し牛行く萩の小道哉	26	秋	植物	萩	
5021	灯きえんとして小窓にそよぐ萩の影	26	秋	植物	萩	

5022	人ぬれて萩の下道月細し	26	秋	植物	萩	
5023	堀わりのきはにうつむく萩の花	26	秋	植物	萩	
5024	山駕籠に散りこむ萩の盛哉	26	秋	植物	萩	
5025	我まゝの猶うつくしき小萩哉	26	秋	植物	萩	
5026	大庭に亂れぬ萩のまがきかな	27	秋	植物	萩	
5027	こぼるゝや萩の枝折戸誰が住みて	27	秋	植物	萩	
5028	裾山や萩咲く中の尼一人	27	秋	植物	萩	
5029	裾山や萩吹く中の尼一人	27	秋	植物	萩	
5030	地に引くや雀のすがる萩の花	27	秋	植物	萩	
5031	露の萩はらりはらりとほね返る	27	秋	植物	萩	
5032	萩散るや笥の下の水溜り	27	秋	植物	萩	
5033	萩の花垣と申さば垣ながら	27	秋	植物	萩	
5034	人や待つ萩の枝折戸明けすてゝ	27	秋	植物	萩	
5035	古塚や何を亂れて萩の花	27	秋	植物	萩	
5036	明き寺や取り亂したる萩の花	28	秋	植物	萩	
5037	馬牽くや松の下道乱れ萩	28	秋	植物	萩	
5038	笥からこぼれた水を萩の露	28	秋	植物	萩	
5039	風をいたみ萩の上枝の花もなし	28	秋	植物	萩	
5040	さきつ散りつ皆露の萩萩の露	28	秋	植物	萩	
5041	白萩や水にちぎれし枝の尖	28	秋	植物	萩	
5042	僧もなし山門閉ぢて萩の花	28	秋	植物	萩	
5043	太閤の像の古びや萩の花	28	秋	植物	萩	
5044	旅人の簑着て行くや萩の原	28	秋	植物	萩	
5045	萩荒れて鶉鳴く松の梢哉	28	秋	植物	萩	
5046	萩ちりぬ西行も來よ宿かさん	28	秋	植物	萩	
5047	麓から寺まで萩の花五町	28	秋	植物	萩	
5048	古簀や芒の小雨萩の露	28	秋	植物	萩	
5049	ほろほると石にこぼれぬ萩の露	28	秋	植物	萩	
5050	ものうさや手すりに倚れば萩の花	28	秋	植物	萩	
5051	ものうしや手すりによれば萩の花	28	秋	植物	萩	
5052	尼をその尼をなつかしみ萩の門	29	秋	植物	萩	
5053	垣の外に萩咲かせけり百花園	29	秋	植物	萩	
5054	今年又養ひ得たり萩桔梗	29	秋	植物	萩	
5055	静かさや少しこぼるゝ萩の花	29	秋	植物	萩	
5056	僧房を借りて人住む萩の花	29	秋	植物	萩	
5057	其はてが萩と薄の心中かな	29	秋	植物	萩	
5058	道慾な坊主銭取る寺の萩	29	秋	植物	萩	
5059	名所や小僧案内す萩の庭	29	秋	植物	萩	
5060	庭の萩荅も持たずあはれ也	29	秋	植物	萩	
5061	野の萩の伏し重なりて路もなし	29	秋	植物	萩	
5062	萩芒風絶ゆることもなかりけり	29	秋	植物	萩	
5063	萩薄中に水汲む小道かな	29	秋	植物	萩	
5064	萩芒萩は芒に押されけり	29	秋	植物	萩	
5065	萩芒われに落馬の心あり	29	秋	植物	萩	
5066	萩散らぬ寺の小道もなかりけり	29	秋	植物	萩	
5067	萩の花のこぼれ盡さぬ程に來よ	29	秋	植物	萩	
5068	萩の路薄の路と分れけり	29	秋	植物	萩	
5069	萩の晝月の句も一つ袋かな	29	秋	植物	萩	
5070	萩の画も月の句も一つ袋かな	29	秋	植物	萩	
5071	萩は月に芒は風になる夕	29	秋	植物	萩	
5072	萩は骨に薄白髪にならんとす	29	秋	植物	萩	
5073	萩低く薄の風をかぶりけり	29	秋	植物	萩	
5074	古庭の萩に銭取るお寺かな	29	秋	植物	萩	
5075	古庭の萩に銭取る坊主かな	29	秋	植物	萩	

5076	みちのくは馬の多さよ萩の花	29	秋	植物	萩	
5077	水の上に萩うづ高くこぼれけり	29	秋	植物	萩	
5078	遣戸あけてイめば萩の亂れ哉	29	秋	植物	萩	
5079	我庵や萩に飯櫃松に竿	29	秋	植物	萩	
5080	萩の中に猶の白萩あはれなり	29	秋	植物	萩	
5081	いもうとが日覆をまくる萩の月	30	秋	植物	萩	
5082	七日月庇の下に萩の上に	30	秋	植物	萩	
5083	萩植て家賃五圓の家に住む	30	秋	植物	萩	
5084	萩咲て家賃五圓の家に住む	30	秋	植物	萩	
5085	萩咲くや生きて今年の望足る	30	秋	植物	萩	
5086	萩芒今年は見たり來年は	30	秋	植物	萩	
5087	萩芒來年逢んさりながら	30	秋	植物	萩	
5088	萩寺の屏風に萩の發句哉	30	秋	植物	萩	
5089	萩に立て萩の句記す手帳哉	30	秋	植物	萩	
5090	萩によらで蝶の過行く恨哉	30	秋	植物	萩	
5091	萩の風さぞや都は砂ほこり	30	秋	植物	萩	
5092	萩の風書燈消えんとしてあかる	30	秋	植物	萩	
5093	朝飯や日のあたりたる萩芒	31	秋	植物	萩	
5094	うしろ手に百日草や萩の花	31	秋	植物	萩	
5095	枝折れて野分のあとの萩淋し	31	秋	植物	萩	
5096	押分て行けは行かるゝ萩の原	31	秋	植物	萩	
5097	合點ぢや萩のうねりの其事か	31	秋	植物	萩	
5098	萩刈て百日草のあらは也	31	秋	植物	萩	
5099	萩芒水汲みに行く道一つ	31	秋	植物	萩	
5100	萩の花二百十日を氣遣ひぬ	31	秋	植物	萩	
5101	花少し残れる萩を刈にけり	31	秋	植物	萩	
5102	温泉の道や通ひなれたる萩桔梗	31	秋	植物	萩	
5103	草庵に千句の會や萩の花	32	秋	植物	萩	
5104	妻を呼ぶ籠の鶉や庭の萩	32	秋	植物	萩	
5105	杖によりて立ち上りけり萩の花	32	秋	植物	萩	
5106	庭荒れて萩の亂れをつくろはず	32	秋	植物	萩	
5107	萩咲いて俗に墮つ松の小庭哉	32	秋	植物	萩	
5108	萩咲て抱一の画を掛にけり	32	秋	植物	萩	
5109	萩を題に歌つくらしむ萩の宿	32	秋	植物	萩	
5110	箔焼けて萩の模様や古色紙	32	秋	植物	萩	
5111	彫物の鹿を置きけり萩の庭	32	秋	植物	萩	
5112	活版の誤植や萩に萩交る	33	秋	植物	萩	
5113	下草に萩咲く松の林かな	33	秋	植物	萩	
5114	土饅頭萩も芒もなかりけり	33	秋	植物	萩	
5115	萬葉の輪講會や萩の花	33	秋	植物	萩	
5116	餅ノ名ヤ秋ノ彼岸ハ萩ニコソ	34	秋	植物	萩	
5117	首あげて折々見るや庭の萩	35	秋	植物	萩	
5118	宮城野ノマ萩ノ若葉馬ヤ喰ヒシ	35	秋	植物	萩	
5119	山萩のしどろに秋を亂れけり	26	秋	植物	山萩	
5120	山萩やものすこやかな枝のふり	26	秋	植物	山萩	
5121	山萩の枝にかゝれり捨草鞋	29	秋	植物	山萩	
5122	秋のうら秋のおもてや葛尾花	25	秋	植物	葛	
5123	葛の葉を傳ふて松の零哉	25	秋	植物	葛	
5124	葛の葉をふみ返したる別哉	25	秋	植物	葛	
5125	葛の葉の何に驚く夕まぐれ	28	秋	植物	葛	
5126	葛の葉や何に驚く夕まぐれ	28	秋	植物	葛	
5127	うら返す葛の葉亂り心地なる	30	秋	植物	葛	
5128	山葛の風に動きて旅淋し	30	秋	植物	葛	
5129	葛花や秋を尋ねてはひまはる	24	秋	植物	葛の花	

5130	葛花や何を尋ねてはひまわる	24	秋	植物	葛の花	
5131	葛の葉の花に成たる憎さかな	25	秋	植物	葛の花	
5132	山葛にわりなき花の高さかな	25	秋	植物	葛の花	
5133	葛の葉の吹きしづまりて葛の花	28	秋	植物	葛の花	
5134	葛の葉や吹き静まりて葛の花	28	秋	植物	葛の花	
5135	花ながら葛ぞ引かるゝ水車	29	秋	植物	葛の花	
5136	甘干にしたし浮世の人心	20	秋	植物	柿	
5137	甘干の枝村かけてつゞきけり	20	秋	植物	柿	
5138	柿の實やうれしさうにもなく烏	22	秋	植物	柿	
5139	澁柿のとり残されてあはれ也	22	秋	植物	柿	
5140	澁柿もまじりてともに盆の中	22	秋	植物	柿	
5141	澁柿や行來のしげき道の端	22	秋	植物	柿	
5142	澁柿の一枝重きわらじ哉	25	秋	植物	柿	
5143	月白く柿赤き夜や猿の夢	25	秋	植物	柿	
5144	店さきの柿の實つゝく烏かな	25	秋	植物	柿	
5145	澁柿に菅笠かざす日和哉	26	秋	植物	柿	
5146	澁柿や落るはつみを牛の面	26	秋	植物	柿	
5147	澁柿や酒屋の前のから車	26	秋	植物	柿	
5148	追分や鶏飼ふ茶屋の柿石榴	27	秋	植物	柿	
5149	澁柿の青くて落つる彼岸哉	27	秋	植物	柿	
5150	澁柿の烏もつかずあはれなり	27	秋	植物	柿	
5151	澁柿や落ちて踏まるゝ石の上	27	秋	植物	柿	
5152	臍寒し柿喰ふ宿の旅枕	27	秋	植物	柿	
5153	柿赤く稻田みのれり堀の内	28	秋	植物	柿	
5154	柿落ちて犬吠ゆる奈良の横町かな	28	秋	植物	柿	
5155	柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺	28	秋	植物	柿	
5156	垣ごしに澁柿垂るゝ隣かな	28	秋	植物	柿	
5157	柿に照り蕎麥に雨ふる畑哉	28	秋	植物	柿	
5158	柿の木にとりまかれたる温泉哉	28	秋	植物	柿	
5159	柿の木や宮司が宿の門構	28	秋	植物	柿	
5160	柿の實や口ばし赤き鳥が来る	28	秋	植物	柿	
5161	柿ばかり竝べし須磨の小店哉	28	秋	植物	柿	
5162	柿ばかり竝べし須磨の茶店哉	28	秋	植物	柿	
5163	御所柿にいそぐ祭の用意哉	28	秋	植物	柿	
5164	御所柿に雄群祭の用意哉	28	秋	植物	柿	
5165	御所柿に小栗祭の用意哉	28	秋	植物	柿	
5166	澁柿の實勝になりて肌寒し	28	秋	植物	柿	
5167	澁柿やあら壁つゞく奈良の町	28	秋	植物	柿	
5168	澁柿や古寺多き奈良の町	28	秋	植物	柿	
5169	高円をかざして柿の在所哉	28	秋	植物	柿	
5170	駄菓子賣る茶店の門の柿青し	28	秋	植物	柿	
5171	町あれて柿の木多しーくるわ	28	秋	植物	柿	
5172	村一つ澁柿勝に見ゆるかな	28	秋	植物	柿	
5173	温泉の町を取り巻く柿の小山哉	28	秋	植物	柿	
5174	嫁がものに凡そ五町の柿畠	28	秋	植物	柿	
5175	嫁がものに凡そ五町歩の柿畠	28	秋	植物	柿	
5176	柿喰ふて洪水の詩を草しけり	29	秋	植物	柿	
5177	柿くふて文學論を草しけり	29	秋	植物	柿	
5178	柿くふや道灌山の婆が茶屋	29	秋	植物	柿	
5179	黄菊白菊柿赤くして澁し	29	秋	植物	柿	
5180	古跡見んと車してよぎる柿の村	29	秋	植物	柿	
5181	小祭や柿賣る店の柿の皮	29	秋	植物	柿	
5182	米櫃や米にたくはふ柿一つ	29	秋	植物	柿	
5183	澁柿の庄屋と申し人悪き	29	秋	植物	柿	

5184	澁柿や猪隣村へ来る	29	秋	植物	柿	
5185	書に倦みて燈下に柿をむく半夜	29	秋	植物	柿	
5186	樽柿や少し澁きも喰ふべく	29	秋	植物	柿	
5187	奈良の宿御所柿くへば鹿が鳴く	29	秋	植物	柿	
5188	山本にかたよる柿の小村哉	29	秋	植物	柿	
5189	痢病ありて會議催す柿の村	29	秋	植物	柿	
5190	講堂や澁柿くふた顔は誰	30	秋	植物	柿	
5191	柿多き村に出でけり西の京	30	秋	植物	柿	
5192	柿買の裏門覗く屋敷かな	30	秋	植物	柿	
5193	柿くふて鬼の泣く詩を作らばや	30	秋	植物	柿	
5194	柿くふて腹痛み出す旅籠哉	30	秋	植物	柿	
5195	柿くはゞや鬼の泣く詩を作らばや	30	秋	植物	柿	
5196	柿喰の俳句好みしと傳ふべし	30	秋	植物	柿	
5197	柿熟す愚庵に猿も弟子もなし	30	秋	植物	柿	
5198	和尚病んで禪寺の柿猶澁し	30	秋	植物	柿	
5199	柿に来る烏逐ふなるお僧哉	30	秋	植物	柿	
5200	柿の皮を掃きつ床几を置かへつ	30	秋	植物	柿	
5201	柿の木に烏のおどし反古なり	30	秋	植物	柿	
5202	くひさしの柿捨てゝある繩手道	30	秋	植物	柿	
5203	三千の俳句を閲し柿二つ	30	秋	植物	柿	
5204	澁柿や高尾の紅葉猶早し	30	秋	植物	柿	
5205	禪寺の澁柿くへば澁かりき	30	秋	植物	柿	
5206	禪寺の澁柿猶澁き恨かな	30	秋	植物	柿	
5207	樽柿の少し澁きをすてかねし	30	秋	植物	柿	
5208	つり鐘の蒂のところ澁かりき	30	秋	植物	柿	
5209	文賣らん柿買ふ錢の足らぬ勝	30	秋	植物	柿	
5210	故郷や祭も過ぎて柿の味	30	秋	植物	柿	
5211	御佛に供へあまりの柿十五	30	秋	植物	柿	
5212	稍澁き佛の柿をもらひけり	30	秋	植物	柿	
5213	累々と澁柿たるゝ堀の上	30	秋	植物	柿	
5214	和尚病んで柿猶澁き恨哉	30	秋	植物	柿	
5215	秋暮るゝ奈良の旅籠や柿の味	31	秋	植物	柿	
5216	枝柿の青きをもらふ土産哉	31	秋	植物	柿	
5217	枝柿を掲げて汽車待つ田夫哉	31	秋	植物	柿	
5218	柿を呼ぶうしろの方の列車哉	31	秋	植物	柿	
5219	歸るさの柿を入れたる袂哉	31	秋	植物	柿	
5220	淋しげに柿くふは暮を知らざらん	31	秋	植物	柿	
5221	鳥啼くや木蔭の卓に柿を盛る	31	秋	植物	柿	
5222	癒えんとして柿くはれぬそ小淋しき	32	秋	植物	柿	
5223	大なるやはらかき柿を好みけり	32	秋	植物	柿	
5224	柿あまたくひけるよりの病哉	32	秋	植物	柿	
5225	柿くはぬ腹にまぐろのうまさ哉	32	秋	植物	柿	
5226	柿くはぬ病に柿をもらひけり	32	秋	植物	柿	
5227	柿店に馬繋ぎたる騎兵哉	32	秋	植物	柿	
5228	柿もくはて随問随答を草しけり	32	秋	植物	柿	
5229	柿を入れし帽子小脇にかゝへけり	32	秋	植物	柿	
5230	側に柿くふ人を恨みけり	32	秋	植物	柿	
5231	句を閲すラムプの下や柿二つ	32	秋	植物	柿	
5232	子規ひとり柿の眼利や手にナイフ	32	秋	植物	柿	
5233	澁柿の木蔭に遊ぶ童哉	32	秋	植物	柿	
5234	樽柿を握るところを寫生哉	32	秋	植物	柿	
5235	停車場に柿賣る柿の名所かな	32	秋	植物	柿	
5236	初なりの柿を佛にそなへけり	32	秋	植物	柿	
5237	風呂敷をほどけば柿のころげゝり	32	秋	植物	柿	

5238	干柿や湯殿のうしろ納屋の前	32	秋	植物	柿	
5239	宿取りて淋しき宵や柿を喰ふ	32	秋	植物	柿	
5240	酔さめや戸棚を探る柿二つ	32	秋	植物	柿	
5241	我好の柿をくはれぬ病哉	32	秋	植物	柿	
5242	胃を病んで柿をくはれぬいさめ哉	32	秋	植物	柿	
5243	柿蜜柑園遊會の用意哉	33	秋	植物	柿	
5244	柿をもらひ柿の一句をむくいけり	33	秋	植物	柿	
5245	ころ柿も一年ぶりや淡路島	33	秋	植物	柿	
5246	野の茶屋に柿買ふて遠く歩きけり	33	秋	植物	柿	
5247	柿くふも今年ばかりと思ひけり	34	秋	植物	柿	
5248	音深く熟柿落けり井戸の中	26	秋	植物	熟柿	
5249	日もさして雨の小村の熟柿哉	26	秋	植物	熟柿	
5250	晩鐘や寺の熟柿の落つる音	28	秋	植物	熟柿	
5251	明屋敷凡を百本の柿熟す	29	秋	植物	熟柿	
5252	家まばらに澁柿熟す西の京	29	秋	植物	熟柿	
5253	此村に赤痢のはやる熟柿かな	29	秋	植物	熟柿	
5254	カブリツク熟柿ヤ鬚ヲ汚シケリ	34	秋	植物	熟柿	
5255	根府川や石切る山の青蜜柑	27	秋	植物	青蜜柑	
5256	綿弓や店にならべし青蜜柑	27	秋	植物	青蜜柑	
5257	居風呂の煙のさきや青蜜柑	28	秋	植物	青蜜柑	
5258	蜜柑青き背戸の居風呂屋根もなし	28	秋	植物	青蜜柑	
5259	白雲や山の麓の蜜柑畑	29	秋	植物	青蜜柑	
5260	行秋や病氣見舞の青蜜柑	33	秋	植物	青蜜柑	
5261	皮むけば青煙たつ蜜柑哉	25	秋	植物	蜜柑	
5262	蜜柑、籠に蜜柑山下りて来る女	30	秋	植物	蜜柑	
5263	道南紀州に入つて蜜柑畑	30	秋	植物	蜜柑	
5264	飯くはで蜜柑を好む病哉	32	秋	植物	蜜柑	
5265	杯盤狼藉蜜柑の皮のところどころ	33	秋	植物	蜜柑	
5266	豚汁の後口渴く蜜柑かな	33	秋	植物	蜜柑	
5267	蜜柑焼くや太祇の手紙よみながら	33	秋	植物	蜜柑	
5268	棟あげや棟の上なる餅蜜柑	33	秋	植物	蜜柑	
5269	蜜柑得てうれしき支那のたより哉	35	秋	植物	蜜柑	
5270	珍らしきみかむや母に参らする	35	秋	植物	蜜柑	
5271	佛壇の柑子を落す鼠かな	29	秋	植物	柑子	
5272	柑子咲く酒屋の門や縄簾	31	秋	植物	柑子	
5273	九州に入りて五月のジャボン哉	31	秋	植物	朱欒	
5274	林檎無き國をあはれむジャボン哉	31	秋	植物	朱欒	
5275	枕元に内紫を並べけり	32	秋	植物	朱欒	
5276	わらんべの頭程あるザボン哉	32	秋	植物	朱欒	
5277	橘に嶋原匂ふむかし哉	26	秋	植物	橘	
5278	橘の小窓に牛の匂ひ哉	26	秋	植物	橘	
5279	橘の窓に小牛の匂ひ哉	26	秋	植物	橘	
5280	橘は昔の曲にかをりけり	26	秋	植物	橘	
5281	橘やあたりに家もなき野中	26	秋	植物	橘	
5282	橘や牛飼殿に何とはん	26	秋	植物	橘	
5283	橘や風ふるくさき長谷の里	26	秋	植物	橘	
5284	橘やとかくに物のふる臭き	26	秋	植物	橘	
5285	橘やどの枝切て三味にせん	26	秋	植物	橘	
5286	橘や都のあとの只の家	27	秋	植物	橘	
5287	橘や南圓堂の香爐盤	28	秋	植物	橘	
5288	橘や吾身の昔なつかしき	28	秋	植物	橘	
5289	橘の昔を忍ぶ血筋かな	33	秋	植物	橘	
5290	橘や宇佐の使の旅館	33	秋	植物	橘	
5291	荒壁や柚子に楷子す武家屋敷	29	秋	植物	柚子	

5292	古家や累々として柚子黄なり	29	秋	植物	柚子	
5293	あやまつて林檎落しぬ海の上	29	秋	植物	林檎	
5294	頬の落る林檎齒の痛む肉に足る	30	秋	植物	林檎	
5295	林檎くふて又物寫す夜半哉	30	秋	植物	林檎	
5296	盗みくふ林檎に腹をいためけり	32	秋	植物	林檎	
5297	林檎くふて牡丹の前に死なん哉	32	秋	植物	林檎	
5298	胃痛癒えて林檎の來る嬉しさよ	32	秋	植物	林檎	
5299	赤き林檎青き林檎や卓の上	33	秋	植物	林檎	
5300	澁紙の袋に入れし林檎かな	33	秋	植物	林檎	
5301	千成と書きし札貼る林檎かな	33	秋	植物	林檎	
5302	札貼りし品評會の林檎かな	33	秋	植物	林檎	
5303	美しき籃の林檎や贈り物	34	秋	植物	林檎	
5304	いが栗のなぜみにくうは生れける	25	秋	植物	栗	
5305	いが栗をひきぞわづらふあれ鼠	26	秋	植物	栗	
5306	老猿の忌日を栗の落ちにけり	26	秋	植物	栗	
5307	栗のいが鼠の穴をふさぎけり	26	秋	植物	栗	
5308	栗焼てしづかに話す夕哉	26	秋	植物	栗	
5309	黒染にいが栗つかむ松か岡	26	秋	植物	栗	
5310	近道やいが栗落て足をさす	26	秋	植物	栗	
5311	小原女の通ひ路狭し栗のいが	26	秋	植物	栗	
5312	雨の日や泥に突きさす栗のいが	27	秋	植物	栗	
5313	姪婿が栗擔はせて参りたり	28	秋	植物	栗	
5314	焼栗のはねて驚く一人かな	28	秋	植物	栗	
5315	秋もはや栗の落葉や目黒道	29	秋	植物	栗	
5316	いかながら栗くれる人の誠哉	29	秋	植物	栗	
5317	怒る栗笑ふ栗皆落ちにけり	29	秋	植物	栗	
5318	落栗に膝ついて居る關所かな	29	秋	植物	栗	
5319	栗落ちて鼯の道の絶えてけり	29	秋	植物	栗	
5320	栗飯の給仕して居る娘哉	29	秋	植物	栗	
5321	栗飯や不動参りの大工連	29	秋	植物	栗	
5322	栗飯や目黒の茶屋の發句會	29	秋	植物	栗	
5323	栗焼いて經義争ふ法師かな	29	秋	植物	栗	
5324	雑談の間に栗の焼けるべく	29	秋	植物	栗	
5325	柴栗を袂につゝむ小供かな	29	秋	植物	栗	
5326	人も居らず栗はねて猫を驚かす	29	秋	植物	栗	
5327	道端に栗賣並ぶ祭かな	29	秋	植物	栗	
5328	飯赤く栗黄にあるじすこやか也	29	秋	植物	栗	
5329	もてなしに栗焼くとて妹がやけど哉	29	秋	植物	栗	
5330	盆に分けて栗は少し豆と芋	31	秋	植物	栗	
5331	芋のあとに栗を蒸すべき指圖哉	31	秋	植物	栗	
5332	勝ちさうになつて栗剥く暇かな	31	秋	植物	栗	
5333	勝ちさうになりて栗剥く暇哉	31	秋	植物	栗	
5334	毯ながら栗くれる人のまことかな	31	秋	植物	栗	
5335	焼栗のはねかけて行く先手哉	31	秋	植物	栗	
5336	主病ム絲瓜ノ宿ヤ栗ノ飯	34	秋	植物	栗	
5337	栗飯ノ四椀ト書キシ日記カナ	34	秋	植物	栗	
5338	栗飯ヤ病人ナガラ大食ヒ	34	秋	植物	栗	
5339	栗飯ヤ絲瓜ノ花ノ黄ナルアリ	34	秋	植物	栗	
5340	眞心ノ虫喰ヒ栗ヲモラヒケリ	34	秋	植物	栗	
5341	眞心の蟲喰ひ栗をもらひたり	34	秋	植物	栗	
5342	椎の實や袂の底にいつからぞ	25	秋	植物	椎の実	
5343	椎の實や山又山を山めぐり	26	秋	植物	椎の実	
5344	椎の實も寂しきものに禰宜の顔	27	秋	植物	椎の実	
5345	城山や椎の實落ちて兒もなし	29	秋	植物	椎の実	

5346	椎の實に雀を嚇す烏かな	30	秋	植物	椎の実	
5347	椎の實のまじる楓の落葉哉	30	秋	植物	椎の実	
5348	椎の實を探す楓の落葉哉	30	秋	植物	椎の実	
5349	椎の實を拾ひに来るや隣の子	30	秋	植物	椎の実	
5350	團栗に添ふて落けりかせの音	21	秋	植物	団栗	
5351	袈裟とれば團栗一つこぼれけり	25	秋	植物	団栗	
5352	猿聞く夜團栗落つるしきりなり	25	秋	植物	団栗	
5353	猿啼く夜團栗落つるしきり也	25	秋	植物	団栗	
5354	椎ひろふあとに團栗哀れ也	25	秋	植物	団栗	
5355	竹椽を團栗はしる嵐哉	25	秋	植物	団栗	
5356	竹籠のめを團くりのこぼれけり	25	秋	植物	団栗	
5357	團栗にうたれて牛の眠り哉	25	秋	植物	団栗	
5358	どんぐりのいくつ落ちてや破れ笠	25	秋	植物	団栗	
5359	どんぐりの落つるや土手の裏表	25	秋	植物	団栗	
5360	どんぐりの竹椽走る嵐哉	25	秋	植物	団栗	
5361	團栗の礫戸を打つあらし哉	25	秋	植物	団栗	
5362	團栗の水に落つるや終夜	25	秋	植物	団栗	
5363	團栗二つ闇にまぎれてこぼれけり	25	秋	植物	団栗	
5364	團栗もかきよせらるゝ落葉哉	25	秋	植物	団栗	
5365	團栗や内を覗けど人もなし	25	秋	植物	団栗	
5366	どん栗や一ツころがる納屋の隅	25	秋	植物	団栗	
5367	團栗や剛力やすむ土手の陰	26	秋	植物	団栗	
5368	暁の團栗たまる戸口かな	27	秋	植物	団栗	
5369	團栗の音いかめしや卵塔場	27	秋	植物	団栗	
5370	團栗の音めづらしや板庇	27	秋	植物	団栗	
5371	團栗の廣葉つきぬく音すなり	27	秋	植物	団栗	
5372	團栗や屋根をころげて手水鉢	27	秋	植物	団栗	
5373	團栗の落ちて沈むや山の池	28	秋	植物	団栗	
5374	山に飢ゑて道は團栗ばかり也	29	秋	植物	団栗	
5375	團栗の落ちずなりたる嵐哉	30	秋	植物	団栗	
5376	團栗のひとりころがる山路哉	31	秋	植物	団栗	
5377	八方に風の道ある榎實哉	25	秋	植物	榎の実	
5378	野社に子供のたえぬ榎實哉	26	秋	植物	榎の実	
5379	一本に子供あつまる榎の實かな	28	秋	植物	榎の実	
5380	榎の實散る此頃うとし隣の子	29	秋	植物	榎の実	
5381	甘からず酸からず酸醬の實や秋の味	24	秋	植物	山椒の実	
5382	日おさへの通草の棚や檐のさき	31	秋	植物	通草	
5383	松高く通草の蔓のさがりたる	31	秋	植物	通草	
5384	山高く通草腐りぬ秋の霜	31	秋	植物	通草	
5385	老僧に通草をもらふ暇乞	31	秋	植物	通草	
5386	はちわれて實をこぼしたる柘榴哉	24	秋	植物	柘榴	
5387	口あけて柘榴のたるゝ軒端哉	26	秋	植物	柘榴	
5388	はちわれて實もこぼさる柘榴哉	33	秋	植物	柘榴	
5389	筆筒に拙く彫りし柘榴かな	33	秋	植物	柘榴	
5390	盆栽ノ柘榴實垂レテ落チントス	35	秋	植物	柘榴	
5391	白桃の白やこぼるゝ朝の露	25	秋	植物	桃の実	
5392	とゞくだけ桃むしらるゝ二階哉	26	秋	植物	桃の実	
5393	桃くふや羽黒の山を前にして	26	秋	植物	桃の実	
5394	桃の實を籠にもりてや床の上	26	秋	植物	桃の実	
5395	桃舟の伏見を出るや二三艘	26	秋	植物	桃の実	
5396	越が谷へ桃喰ひに行くつれも哉	31	秋	植物	桃の実	
5397	旅籠屋の行燈暗し桃の虫	31	秋	植物	桃の実	
5398	道ばたの桃の木に實はなかりけり	31	秋	植物	桃の実	
5399	虫はみて桃紅の腐り哉	31	秋	植物	桃の実	

5400	桃盗む子を叱りけり垣の内	31	秋	植物	桃の実	
5401	桃の實の桃源を出て流れけり	31	秋	植物	桃の実	
5402	桃の實を論語讀む子に分ちけり	31	秋	植物	桃の実	
5403	病間や桃食ひながら季画く	35	秋	植物	桃の実	
5404	桃太郎は桃金太郎は何からぞ	35	秋	植物	桃の実	
5405	桃の如く肥えて可愛や目口鼻	35	秋	植物	桃の実	
5406	桃の實に目鼻かきたる如きかな	35	秋	植物	桃の実	
5407	川崎や梨を食ひ居る旅の人	28	秋	植物	梨	
5408	がしがしとしかも小梨の堅き哉	29	秋	植物	梨	
5409	川崎や小店小店の梨の山	29	秋	植物	梨	
5410	小刀や鉛筆を削り梨を剥く	29	秋	植物	梨	
5411	極上々あわ雪と記す梨の札	29	秋	植物	梨	
5412	すゞなりの小梨に村の曇り哉	29	秋	植物	梨	
5413	梨くふは大師戻りの人ならし	29	秋	植物	梨	
5414	梨むくや甘き雫の刃を垂るゝ	29	秋	植物	梨	
5415	日毎日毎十顆の梨を喰ひけり	29	秋	植物	梨	
5416	晝淋し梨をかぢつて句を案ず	29	秋	植物	梨	
5417	佛へと梨十ばかりもらひけり	29	秋	植物	梨	
5418	歸省して裏庭の梨落すべく	30	秋	植物	梨	
5419	梨黒く腐りて落つる畠哉	30	秋	植物	梨	
5420	梨したゝか腐りて落つる早哉	30	秋	植物	梨	
5421	早して梨くさり落つ畠哉	30	秋	植物	梨	
5422	梨くふて暫く憩ふ茶店哉	31	秋	植物	梨	
5423	大きな梨を包みし袱紗哉	32	秋	植物	梨	
5424	ザボンより大きな梨をもらひけり	32	秋	植物	梨	
5425	汽車待つや梨喰ふ人の淋し顔	33	秋	植物	梨	
5426	石ノ巻ノ長十郎ガ見舞カナ	34	秋	植物	梨	
5427	吾ヲ見舞フ長十郎ガ誠カナ	34	秋	植物	梨	
5428	行脚より歸れば棗熟したり	29	秋	植物	棗	
5429	祇園の鴉愚庵の棗くひに来る	30	秋	植物	棗	
5430	棗多き古家買ふて移りけり	33	秋	植物	棗	
5431	荔枝摘んで土の達磨に供へばや	29	秋	植物	荔枝	
5432	倒まに這ひ行く兒や葡萄棚	26	秋	植物	葡萄	
5433	葉は虫にくはれなからも葡萄哉	28	秋	植物	葡萄	
5434	佛壇の葡萄を落す鼠哉	28	秋	植物	葡萄	
5435	蟲飛ぶや葡萄畠の薄月夜	28	秋	植物	葡萄	
5436	朱硯に葡萄のからの散亂す	29	秋	植物	葡萄	
5437	毎日葡萄も喰はず水薬	30	秋	植物	葡萄	
5438	桃を得て葡萄を望む患者哉	31	秋	植物	葡萄	
5439	三尺の庭を掩ふや葡萄棚	32	秋	植物	葡萄	
5440	西洋の田舎に似たり葡萄園	32	秋	植物	葡萄	
5441	小説を好むあるじや葡萄棚	32	秋	植物	葡萄	
5442	小説を讀む窓さきや葡萄棚	32	秋	植物	葡萄	
5443	梨に飽きて葡萄を好む病哉	32	秋	植物	葡萄	
5444	鄙に住む牧師か家や葡萄棚	32	秋	植物	葡萄	
5445	ほしいまゝに葡萄取らしむ葡萄園	32	秋	植物	葡萄	
5446	虫くひの葉にかくれたる葡萄哉	32	秋	植物	葡萄	
5447	虫絶えず來る小窓や葡萄棚	32	秋	植物	葡萄	
5448	紫の玉累累と葡萄哉	32	秋	植物	葡萄	
5449	持主も知らず山路の葡萄園	32	秋	植物	葡萄	
5450	黒キマデニ紫深キ葡萄カナ	35	秋	植物	葡萄	
5451	ナリ初メシ自家ノ葡萄ヲ侷メケリ	35	秋	植物	葡萄	
5452	吹キ下ス妙義ノ霧ヤ葡萄園	35	秋	植物	葡萄	
5453	野葡萄に鶏遊ぶ小家かな	29	秋	植物	野葡萄	

5454	無花果や八百屋の裏にまだ青し	27	秋	植物	無花果	
5455	無花果や桶屋か門の月細し	27	秋	植物	無花果	
5456	黒板塀無花果多き小道かな	27	秋	植物	無花果	
5457	無花果の落ちてもくれぬ家主哉	33	秋	植物	無花果	
5458	無花果二手足生エタト御覧ゼヨ	34	秋	植物	無花果	
5459	一つらに藤の實なびく嵐哉	25	秋	植物	藤の實	
5460	南天の實をこぼしたる目白かな	29	秋	植物	南天の実	
5461	南天の實をこぼしてや鳴く雀	30	秋	植物	南天の実	
5462	花賣や七草盡きて梅もとき	30	秋	植物	梅もとき	
5463	貧しさに菊枯し瓶の梅もとき	30	秋	植物	梅もとき	
5464	貧しさは菊枯れし瓶の梅嫌	30	秋	植物	梅もとき	
5465	はりはりと木の實ふる也檜木笠	25	秋	植物	木の実	
5466	木立暗く何の實落つる水の音	27	秋	植物	木の実	
5467	木立暗く小川に落つる何の實ぞ	27	秋	植物	木の実	
5468	鳥啼いて赤き木の實をこぼしけり	27	秋	植物	木の実	
5469	鳥啼いて笹にこぼるゝ何の實ぞ	27	秋	植物	木の実	
5470	はね返る木の實の音や板庇	27	秋	植物	木の実	
5471	御手洗にこぼれて赤き木の實かな	27	秋	植物	木の実	
5472	我見しより久しきひよんの木實哉	28	秋	植物	木の実	
5473	代る代る礫打ちたる木の實かな	28	秋	植物	木の実	
5474	鍋蓋にはぢく木の實や流し元	28	秋	植物	木の実	
5475	二つ三つ木の實の落つる音淋し	28	秋	植物	木の実	
5476	木の實くふ我が前の世は猿か鳥か	30	秋	植物	木の実	
5477	俳諧や木の實くれさうな人を友	30	秋	植物	木の実	
5478	明寺の垣潜り入る木實哉	31	秋	植物	木の実	
5479	明寺の垣潜る子や木實取	31	秋	植物	木の実	
5480	師の坊に猿の持て来る木實哉	31	秋	植物	木の実	
5481	堂守の木の實を拾ふ掃除哉	31	秋	植物	木の実	
5482	貧淋し喰へぬ木の實の落る音	31	秋	植物	木の実	
5483	不二一つおさえて高さ銀杏哉	25	秋	植物	銀杏黄葉	
5484	杉暗く中に色つく銀杏かな	27	秋	植物	銀杏黄葉	
5485	田甫から見ゆる谷中の銀杏哉	32	秋	植物	銀杏黄葉	
5486	松杉の中に黄ばみし銀杏哉	33	秋	植物	銀杏黄葉	
5487	鳶一羽住むや銀杏の羽はらはら	26	秋	植物	銀杏落葉	
5488	鷄遊ぶ銀杏の下の落葉哉	28	秋	植物	銀杏落葉	
5489	下闇に光る銀杏の落葉かな	29	秋	植物	銀杏落葉	
5490	銀杏散る辻の日南やト屋算	30	秋	植物	銀杏落葉	
5491	此處はかり夕日の残る紅葉哉	21	秋	植物	紅葉	
5492	一村の家まばらなる紅葉哉	22	秋	植物	紅葉	
5493	馬つなぐ木に散りそむる紅葉哉	22	秋	植物	紅葉	
5494	こかくれて薄き夕日の紅葉哉	22	秋	植物	紅葉	
5495	谷陰に夕日の残る紅葉かな	22	秋	植物	紅葉	
5496	通りぬけ通りぬけても紅葉哉	22	秋	植物	紅葉	
5497	一もとの紅葉も見えず松縄手	22	秋	植物	紅葉	
5498	山寺の鐘に見あくる紅葉哉	22	秋	植物	紅葉	
5499	戎山の紅葉流るゝ小川哉	23	秋	植物	紅葉	
5500	菅笠をぬげばもみぢの二ツ三ツ	23	秋	植物	紅葉	
5501	日光は木さへ岩さへ紅葉哉	23	秋	植物	紅葉	
5502	はきすてる程にはちらす初紅葉	23	秋	植物	紅葉	
5503	吹きはるゝきりの跡より紅葉哉	23	秋	植物	紅葉	
5504	いつしかにふじも暮けり夕紅葉	23~25	秋	植物	紅葉	
5505	笠ぬげば笠の上にも紅葉かな	24	秋	植物	紅葉	
5506	瘦村と思ひの外の紅葉哉	24	秋	植物	紅葉	
5507	夕日さす紅葉の中に小村哉	24	秋	植物	紅葉	

5508	朝霧の杉にかたよるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5509	一村は夕日をあびる紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5510	岩に腹つけてのぞけばもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5511	岩鼻に見上げ見下す紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5512	いろいろの紅葉の中の银杏哉	25	秋	植物	紅葉	
5513	牛小屋の留守に鹿鳴く紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5514	牛の子を追ひ追ひはいるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5515	薄紅葉紅にそめよと與へけり	25	秋	植物	紅葉	
5516	薄紅葉紅にそめよと與へたり	25	秋	植物	紅葉	
5517	うつくしき朝日夕日やむらもみち	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5518	馬の背の大根白し夕もみち	25	秋	植物	紅葉	
5519	奥庭やもみち蹴あぐる緋の袴	25	秋	植物	紅葉	
5520	恐ろしきいはほと見れば紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5521	面白や一尺の木も櫨紅葉	25	秋	植物	紅葉	
5522	駕下りて紅葉へ二里と申す也	25	秋	植物	紅葉	
5523	かごかきの熱い息ふく紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5524	川一つ處々のもみぢ哉	25	秋	植物	紅葉	
5525	傘にをりをり見すくもみち哉	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5526	からかねの鑄ぬきの門や薄紅葉	25	秋	植物	紅葉	
5527	狩りくらす鞆の底の紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5528	煙たつ軒にふすぼるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5529	猿引の家はもみちとなりけり	25	秋	植物	紅葉	
5530	下闇に紅葉一木のゆふ日哉	25	秋	植物	紅葉	
5531	尺八の手に持ちそふるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5532	白河の關を染めけり夕紅葉	25	秋	植物	紅葉	
5533	白鷺の泥にふみこむもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5534	神殿の御格子おろすもみち哉	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5535	居風呂に紅葉はねこむ筧哉	25	秋	植物	紅葉	
5536	關守の徳利かくすもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5537	絶壁に夕日うらてるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5538	背に鳥帽子かけた仕丁や薄もみち	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5539	千山の紅葉一すぢの流れ哉	25	秋	植物	紅葉	
5540	先生の草鞋も見たり紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5541	松明の山上り行くもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5542	谷窪に落ち重なれるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5543	谷底に空の狭さやむら紅葉	25	秋	植物	紅葉	
5544	谷深く夕日一すぢのもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5545	旅人のもみちに暮れてあはれ也	25	秋	植物	紅葉	
5546	旅人のもみちに暮れていそぎけり	25	秋	植物	紅葉	
5547	豆腐屋の豆腐の水にもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5548	常盤木にまじりて遅き紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5549	どの山の紅葉が残る馬の鞍	25	秋	植物	紅葉	
5550	どの山の紅葉なるらん馬の鞍	25	秋	植物	紅葉	
5551	ともし火の見えて紅葉の奥深し	25	秋	植物	紅葉	
5552	何の木も紅葉となればうつくしき	25	秋	植物	紅葉	
5553	二三枚取て重ねる紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5554	日光に紅葉せぬ木はなかりけり	25	秋	植物	紅葉	
5555	日光は杖にする木も紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5556	鶏の鳴く奥もありむらもみち	25	秋	植物	紅葉	
5557	箱根路は一月早し初もみち	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5558	橋赤く谷川青し薄もみち	25	秋	植物	紅葉	
5559	橋一つ樵夫の通ふ紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5560	一枝の紅葉そへたり妹が文	25	秋	植物	紅葉	
5561	一むらは夕日をあびる紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	

5562	火ともせはずんぶり暮るゝ紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5563	二荒や紅葉紅葉の山かつら	25	秋	植物	紅葉	
5564	舟流すあとに押しよるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5565	辨當を鹿にやつたるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5566	町ありく樵夫の髪にもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5567	眞黒に釣鐘暮れるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5568	松の木はあらはれにけりむら紅葉	25	秋	植物	紅葉	
5569	味噌色に摺鉢山の紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5570	道二つ馬土と木こりのもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5571	湖をとりまく山の紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5572	むら紅葉巖ばかりの深山かな	25	秋	植物	紅葉	
5573	燃え残る伽藍のあとの紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5574	紅葉する木立もなしに山深し	25	秋	植物	紅葉	
5575	紅葉せぬいはほも山もなかりけり	25	秋	植物	紅葉	
5576	紅葉にも一日にぎわし京の秋	25	秋	植物	紅葉	
5577	紅葉見え瀧見える茶屋の床几かな	25	秋	植物	紅葉	
5578	紅葉やく烟は黒し土鐘子	25	秋	植物	紅葉	
5579	紅葉より瀧ちる谷間谷間かな	25	秋	植物	紅葉	
5580	藪蔭に夕日の足らぬもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5581	山駕の空からくるやむらもみち	25	秋	植物	紅葉	
5582	山寺に塩こぼし行くもみちかな	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5583	山はくつ日のてりわける紅葉かな	25	秋	植物	紅葉	
5584	行く秋を奇麗にそめし紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5585	夕しくれ見返る山のもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5586	夕紅葉寺の木魚ははげにけり	25	秋	植物	紅葉	
5587	夕もみち女もまじるうたひ哉	25	秋	植物	紅葉	
5588	横雲のすき間こぼるゝもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5589	廊下から手燭をうつすもみち哉	25	秋	植物	紅葉	もみち<木+色>
5590	兩岸の紅葉に下す筏かな	25	秋	植物	紅葉	
5591	をさな子の手を重ねたるもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5592	小原女の衣ふるへばもみち哉	25	秋	植物	紅葉	
5593	をりをりに鹿のかほ出す紅葉哉	25	秋	植物	紅葉	
5594	家あれば菊あり村あれば薄紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5595	馬行くや雨の棧橋夕紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5596	傘持の火鉢ほしがる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5597	川青く瀧白し紅葉處處	26	秋	植物	紅葉	
5598	汽車の窓折々うつる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5599	煙立つ紅葉の中の小村かな	26	秋	植物	紅葉	
5600	源氏画の車もかもな夕紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5601	上臈の折たさうなる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5602	石門に雲の宿かる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5603	谷川は藍より青しむら紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5604	血なまくさき戸隠山の紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5605	釣鐘を染め残したる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5606	虹消えて夕山寒し薄紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5607	日光の空をこがすや夕紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5608	初紅葉そろそろ松をこぼれけり	26	秋	植物	紅葉	
5609	人もなし紅葉の小橋夕日さす	26	秋	植物	紅葉	
5610	人呼ぶや紅葉の宿のきぬかつき	26	秋	植物	紅葉	
5611	二荒や紅葉にこもる瀧の音	26	秋	植物	紅葉	
5612	二荒を蒔繪にしたる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5613	古寺に灯のともしたる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5614	まだ青き紅葉に秋の夕寒し	26	秋	植物	紅葉	
5615	又一つ紅葉の中に小村哉	26	秋	植物	紅葉	

5616	道々の菊や紅葉や右左	26	秋	植物	紅葉	
5617	武者一騎夕山こゆる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5618	紅葉あり夕日の酒屋月の茶屋	26	秋	植物	紅葉	
5619	紅葉して錦に埋む家二軒	26	秋	植物	紅葉	
5620	紅葉して元山一つのこりけり	26	秋	植物	紅葉	
5621	山鳥のしだり尾動く紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5622	行く秋や紅葉の中の一軒家	26	秋	植物	紅葉	
5623	夕雲の石門めぐる紅葉哉	26	秋	植物	紅葉	
5624	夕紅葉谷川つたひ牛戻る	26	秋	植物	紅葉	
5625	夕紅葉角あるものは鹿許り	26	秋	植物	紅葉	
5626	夕山や下戸と上戸のむら紅葉	26	秋	植物	紅葉	
5627	伶人のならびぬ紅葉かざしつゝ	26	秋	植物	紅葉	
5628	女ゆかし紅葉を散らす烟草盆	26	秋	植物	紅葉	
5629	家まばら牛歸る道の紅葉哉	27	秋	植物	紅葉	
5630	家やいづこ夕山紅葉人歸る	27	秋	植物	紅葉	
5631	奥深き杉の木の間の紅葉かな	27	秋	植物	紅葉	
5632	きらきらと紅葉まはゆし藪の中	27	秋	植物	紅葉	
5633	紅の夕日を浦の紅葉かな	27	秋	植物	紅葉	
5634	杉木立中に紅葉の家居あり	27	秋	植物	紅葉	
5635	杉の奥に白雲起る紅葉哉	27	秋	植物	紅葉	
5636	塔見ゆや小山つゞきのむら紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5637	つれだつや女商人山紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5638	手も足も顔も野寺の紅葉かな	27	秋	植物	紅葉	
5639	はらはらと飛ぶや紅葉の四十雀	27	秋	植物	紅葉	
5640	一葉二葉若木の楓初紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5641	一もとは墓場の中の薄紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5642	松杉や朱の圍垣の薄紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5643	松紅葉中に暮るゝや大悲閣	27	秋	植物	紅葉	
5644	眞帆片帆小島小島の紅葉哉	27	秋	植物	紅葉	
5645	見上ぐれば石壇高し夕紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5646	水青く石白く兩岸の紅葉哉	27	秋	植物	紅葉	
5647	目の下やおよそ紅葉の十箇村	27	秋	植物	紅葉	
5648	紅葉あり寺も社も岡の上	27	秋	植物	紅葉	
5649	山に倚つて家まばらなりむら紅葉	27	秋	植物	紅葉	
5650	嵐山はつかにもみちそめにけり	28	秋	植物	紅葉	
5651	梅紅葉天満の屋根に鴉鳴	28	秋	植物	紅葉	
5652	砂土手や山をかざして櫺紅葉	28	秋	植物	紅葉	
5653	亭ところどころ溪に橋ある紅葉哉	28	秋	植物	紅葉	
5654	通天の下に火を焚く紅葉かな	28	秋	植物	紅葉	
5655	西うくる奈良の家々紅葉かな	28	秋	植物	紅葉	
5656	簾持つて所化二人立つ紅葉哉	28	秋	植物	紅葉	
5657	白雲紅葉ともし火見えて日暮れたり	28	秋	植物	紅葉	
5658	日表を崩崩れたる紅葉かな	28	秋	植物	紅葉	
5659	人氣なき山の紅葉や瀧の音	28	秋	植物	紅葉	
5660	松の中ひそかにもみちそめにけり	28	秋	植物	紅葉	
5661	紅葉焼く法師は知らず酒の爛	28	秋	植物	紅葉	爛(かん<西+間>)
5662	夕山の裾に紅葉の小村かな	28	秋	植物	紅葉	
5663	柳樹屯紅葉する木もなかりけり	28	秋	植物	紅葉	
5664	悪僧の女捉ふる紅葉かな	29	秋	植物	紅葉	
5665	荒寺や金屏はげて夕紅葉	29	秋	植物	紅葉	
5666	大杉の下に一木の紅葉哉	29	秋	植物	紅葉	
5667	櫨多く紅葉稀なり山深み	29	秋	植物	紅葉	
5668	暮れ行くや杉の林の薄紅葉	29	秋	植物	紅葉	
5669	酒を賣る紅葉の茶屋に妖女あり	29	秋	植物	紅葉	

5670	笹原に笹のたけなる紅葉かな	29	秋	植物	紅葉	
5671	三寸の苗も楓の紅葉かな	29	秋	植物	紅葉	
5672	谷を渡り寺に上るところ紅葉哉	29	秋	植物	紅葉	
5673	手拭に紅葉打ちこむ砧かな	29	秋	植物	紅葉	
5674	手拭に紅葉打ち出す砧かな	29	秋	植物	紅葉	
5675	寺やある夕山紅葉木魚打つ	29	秋	植物	紅葉	
5676	梅尾や紅葉にかゝるこぼれ酒	29	秋	植物	紅葉	
5677	南岸の茶屋北岸の寺やむら紅葉	29	秋	植物	紅葉	
5678	方等と般若と懸る紅葉哉	29	秋	植物	紅葉	
5679	人さわぐ漁村の市や夕紅葉	29	秋	植物	紅葉	
5680	灯ともしの顔に灯うつる紅葉かな	29	秋	植物	紅葉	
5681	幕吹いて伶人見ゆる紅葉哉	29	秋	植物	紅葉	
5682	満山の紅葉一條の流れ哉	29	秋	植物	紅葉	
5683	夕紅葉飯繩に人の淋しがる	29	秋	植物	紅葉	
5684	魯知深の寺を追はるゝもみち哉	29	秋	植物	紅葉	
5685	犬吠えて故郷荒れぬ柿紅葉	30	秋	植物	紅葉	
5686	稻刈て村静か也柿紅葉	30	秋	植物	紅葉	
5687	家すこし牛歸る道の紅葉かな	30	秋	植物	紅葉	
5688	柿賣て淋しき柿の紅葉哉	30	秋	植物	紅葉	
5689	柿の實の三ツ四ツ柿の紅葉哉	30	秋	植物	紅葉	
5690	門口に棉干す家や柿もみち	30	秋	植物	紅葉	
5691	河内から大和へ出でぬ柿紅葉	30	秋	植物	紅葉	
5692	蕎麥白く柿の紅葉に夕榮す	30	秋	植物	紅葉	
5693	寺紅葉京の柿賣は女なり	30	秋	植物	紅葉	
5694	櫓紅葉柿紅葉里の夕榮す	30	秋	植物	紅葉	
5695	塀低き在郷寺や柿紅葉	30	秋	植物	紅葉	
5696	讀み盡さし状をこぼるゝ紅葉哉	30	秋	植物	紅葉	
5697	讀み盡きて手紙こぼるゝ紅葉哉	30	秋	植物	紅葉	
5698	藁家をめぐりて柿の紅葉哉	30	秋	植物	紅葉	
5699	駕舁や紅葉は焚かす茶碗酒	31	秋	植物	紅葉	
5700	かつ散らす庭の紅葉や四十雀	31	秋	植物	紅葉	
5701	鉢栽の小松が中の紅葉かな	31	秋	植物	紅葉	
5702	ひとり寐の紅葉に冷えし夜もあらん	31	秋	植物	紅葉	
5703	文と詩と松と紅葉とまじりたり	31	秋	植物	紅葉	
5704	紅葉山の文庫保ちし人は誰	31	秋	植物	紅葉	
5705	山駕や雨さつと來る夕紅葉	31	秋	植物	紅葉	
5706	白瀧の二筋かゝる紅葉かな	32	秋	植物	紅葉	
5707	草紅葉ばつたが宿は荒にけり	33	秋	植物	紅葉	
5708	病牀ノ財布モ秋ノ錦カナ	34	秋	植物	紅葉	
5709	御連枝の未まで秋の錦かな	35	秋	植物	紅葉	
5710	山寺や無縁の墓に散る紅葉	23	秋	植物	紅葉散る	
5711	夕日さす村の煙や散る紅葉	26	秋	植物	紅葉散る	
5712	馬の沓換ふるや櫓の紅葉散る	28	秋	植物	紅葉散る	
5713	縦横に蔦這ひたらぬ岩屋哉	25	秋	植物	蔦	
5714	水晶のいはほに蔦の錦かな	25	秋	植物	蔦	
5715	蔦の葉をつたふて松の雫哉	25	秋	植物	蔦	
5716	浪ぎはへ蔦はひ下りる十餘丈	25	秋	植物	蔦	
5717	羽衣やちきれてのこる松のつた	25	秋	植物	蔦	
5718	ひつはれは思はぬ蔦の動きけり	25	秋	植物	蔦	
5719	蔦の這ふ吉野拾遺の名所哉	26	秋	植物	蔦	
5720	我戀や筆のはこびも蔦かつら	26	秋	植物	蔦	
5721	板塀や厨につゞく蔦かづら	27	秋	植物	蔦	
5722	岩橋の裏這ふ猿や蔦かつら	27	秋	植物	蔦	
5723	岩山や空に這ひつく蔦紅葉	27	秋	植物	蔦	

5724	搦手や門朽ちて鳶うつくしき	27	秋	植物	鳶	
5725	淋しさや鳶の細道捨草鞋	27	秋	植物	鳶	
5726	大木を抱いて短し鳶かつら	27	秋	植物	鳶	
5727	月うかれ妙義の鳶を上らうよ	27	秋	植物	鳶	
5728	鳶かつら裏門多き小道かな	27	秋	植物	鳶	
5729	鳶さがる岩の凹みや堂一つ	27	秋	植物	鳶	
5730	鳶の葉や無絃の琴に這ひかゝる	27	秋	植物	鳶	
5731	引窓に鳶の手を出す山家かな	27	秋	植物	鳶	
5732	猪や足すくはるゝ鳶かつら	27	秋	植物	鳶	
5733	鳶からむ侍町の土堀かな	28	秋	植物	鳶	
5734	鳶さがる窓に緑の朝日かな	28	秋	植物	鳶	
5735	西側は鳶の窓なり四疊半	28	秋	植物	鳶	
5736	足ふるふ胎内くゞり鳶赤し	29	秋	植物	鳶	
5737	松嶋の松にかつらも鳶もなし	29	秋	植物	鳶	
5738	鳶まとふ堀に窓あり家中町	30	秋	植物	鳶	
5739	わざと這はず鳶の茂りや茶師の門	31	秋	植物	鳶	
5740	神杉や三百年の鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5741	神松や三百年のつたもみぢ	25	秋	植物	鳶紅葉	
5742	かりそめの鐘子のつるや鳶もみぢ	25	秋	植物	鳶紅葉	もみぢ<木+色>
5743	枯木ともしらずに鳶の紅葉哉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5744	山賊のすみかを問へば鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5745	杉の木や三百年の鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5746	鉢植の松にも鳶の紅葉かな	25	秋	植物	鳶紅葉	
5747	一筋は月にたれけり鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5748	一筋は月にたれたり鳶もみぢ	25	秋	植物	鳶紅葉	
5749	松二木鳶一もとのもみぢ哉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5750	行く秋や松にすがりし鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5751	わりなしや小松をのぼる鳶紅葉	25	秋	植物	鳶紅葉	
5752	白雲の上に岩あり鳶紅葉	26	秋	植物	鳶紅葉	
5753	白雲や三千丈の鳶紅葉	26	秋	植物	鳶紅葉	
5754	竝松や根はむしられて鳶紅葉	27	秋	植物	鳶紅葉	
5755	軒の端や裏葉すゝけて鳶紅葉	27	秋	植物	鳶紅葉	
5756	一筋は戸にはさまれて鳶紅葉	27	秋	植物	鳶紅葉	
5757	紅葉する鳶さへ見えず神の松	27	秋	植物	鳶紅葉	
5758	松の鳶きたならしくも紅葉哉	28	秋	植物	鳶紅葉	
5759	藪かこふ寺の土堀や鳶紅葉	28	秋	植物	鳶紅葉	
5760	燕を見送りながら柳ちる	25	秋	植物	柳散る	
5761	柳ちる土手や笠ゆき笠戻る	25	秋	植物	柳散る	
5762	大柳ちり盡すとも見えざりき	26	秋	植物	柳散る	
5763	門の柳烏啼きけり散りにけり	26	秋	植物	柳散る	
5764	此門や客の出入りにちる柳	26	秋	植物	柳散る	
5765	寺あれて柳ちりこむ古井哉	26	秋	植物	柳散る	
5766	路ばたの柳ちりけり牛の角	26	秋	植物	柳散る	
5767	道ばたの柳ちる也牛の角	26	秋	植物	柳散る	
5768	六朝の塚や夕日の柳散る	26	秋	植物	柳散る	
5769	さで網に柳散りこむ小川かな	27	秋	植物	柳散る	
5770	古庭の柳散りけり手水鉢	27	秋	植物	柳散る	
5771	柳散り菜屑流るゝ小川哉	27	秋	植物	柳散る	
5772	明家の戸に寐る犬や柳散る	28	秋	植物	柳散る	
5773	かせを干す紺屋の柳散りにけり	28	秋	植物	柳散る	
5774	鐘を撞く叟の頭に柳散る	28	秋	植物	柳散る	
5775	斷橋流水夕日の柳散りにけり	28	秋	植物	柳散る	
5776	橋を守る叟の頭に柳散る	28	秋	植物	柳散る	
5777	古塚に恋のさめたる柳散る	28	秋	植物	柳散る	

5778	古塚や戀のさめたる柳散る	28	秋	植物	柳散る	
5779	古濠や腐つた水に柳散る	28	秋	植物	柳散る	
5780	通ひけり出口の柳散る日迄	29	秋	植物	柳散る	
5781	廣小路散るか柳のまばらなる	29	秋	植物	柳散る	
5782	朝見れば柳散りけり辻行燈	31	秋	植物	柳散る	
5783	池近き芝に柳の落葉哉	31	秋	植物	柳散る	
5784	今も猶柳散るなり山谷堀	31	秋	植物	柳散る	
5785	大門の柳散りけり掃きにけり	31	秋	植物	柳散る	
5786	柳散る秦淮と詩につくりけり	31	秋	植物	柳散る	
5787	柳散る地藏の頭なかりけり	31	秋	植物	柳散る	
5788	色かへぬ松や主は知らぬ人	25	秋	植物	色かえぬ松	
5789	うらの戸に色かへぬ松の枯れにけり	26	秋	植物	色かえぬ松	
5790	色かへぬ松はめでたし竹ゆかし	28	秋	植物	色かえぬ松	
5791	青々と障子にうつるはせを哉	21	秋	植物	芭蕉	
5792	さびしさのうれしさうなる芭蕉哉	23	秋	植物	芭蕉	
5793	芭蕉葉や風も蜘蛛にふき分れ	24	秋	植物	芭蕉	
5794	思ふ事風に成たるはせを哉	25	秋	植物	芭蕉	
5795	笹塚の笹を根にしてはせを哉	25	秋	植物	芭蕉	
5796	桐の雨はせをの風や庵の空	25	秋	植物	芭蕉	
5797	風吹てさし物裂けるはせを哉	26	秋	植物	芭蕉	
5798	隣からともしのうつるはせを哉	26	秋	植物	芭蕉	
5799	芭蕉己に此秋をのびる事五尺	26	秋	植物	芭蕉	
5800	芭蕉破れて書讀む君の聲近し	26	秋	植物	芭蕉	
5801	荒寺や芭蕉破れて猫もなし	27	秋	植物	芭蕉	
5802	唐めかす石に並びて芭蕉かな	27	秋	植物	芭蕉	
5803	廻廊の曲り曲りの芭蕉哉	27	秋	植物	芭蕉	
5804	芭蕉破れて露おくべくもあらぬ哉	27	秋	植物	芭蕉	
5805	綻びのとめどもなくて芭蕉哉	27	秋	植物	芭蕉	
5806	石に觸れて芭蕉驚く夜半哉	28	秋	植物	芭蕉	
5807	大寺の施餓鬼過ぎたる芭蕉哉	28	秋	植物	芭蕉	
5808	大寺や芭蕉廣がる庭の隅	28	秋	植物	芭蕉	
5809	がさがさと猫の上りし芭蕉哉	28	秋	植物	芭蕉	
5810	壁隣芭蕉に風のわたりけり	28	秋	植物	芭蕉	
5811	壁隣芭蕉の風に吹かれけり	28	秋	植物	芭蕉	
5812	さらさらと白雲わたるはせを哉	28	秋	植物	芭蕉	
5813	猿松の狸を繋ぐ芭蕉かな	28	秋	植物	芭蕉	
5814	静かさを少し吹かるゝ芭蕉哉	28	秋	植物	芭蕉	
5815	芭蕉四五株朱欄の橋の苔ぬれたり	28	秋	植物	芭蕉	
5816	芭蕉破れて繕ふべくもあらぬ哉	28	秋	植物	芭蕉	
5817	芭蕉破れて古池半ば埋もれり	28	秋	植物	芭蕉	
5818	破れ盡す貧乏寺の芭蕉哉	28	秋	植物	芭蕉	
5819	六尺の庭にふさがる芭蕉かな	28	秋	植物	芭蕉	
5820	黄檗の山門深き芭蕉かな	28	秋	植物	芭蕉	
5821	折々や芭蕉雨戸にさはる音	28	秋	植物	芭蕉	
5822	溪に近く亭あり芭蕉七八株	29	秋	植物	芭蕉	
5823	手燭袖に芭蕉の廊を通りけり	29	秋	植物	芭蕉	
5824	手燭袖に芭蕉の廊下通りけり	29	秋	植物	芭蕉	
5825	日蝕すること八分芭蕉に風起る	29	秋	植物	芭蕉	
5826	試みに芭蕉の題字蘇子に擬す	30	秋	植物	芭蕉	
5827	廣き葉に朝日のあたる芭蕉哉	30	秋	植物	芭蕉	
5828	貧村に寺一つあり破れ芭蕉	30	秋	植物	芭蕉	
5829	吹き散らす芭蕉の露や敷瓦	30	秋	植物	芭蕉	
5830	屋根葺のごみ掃落す芭蕉哉	30	秋	植物	芭蕉	
5831	十反の帆は巻いてある芭蕉哉	31	秋	植物	芭蕉	

5832	とゆ朽て雨だれかゝる芭蕉哉	32	秋	植物	芭蕉	
5833	青崖ト愚庵芭蕉ト蘇鐵哉	34	秋	植物	芭蕉	
5834	蘇東坡の笠やつくらん竹の春	25	秋	植物	竹の春	
5835	七賢の正月來たり竹の春	26	秋	植物	竹の春	
5836	暮盤あり琴あり窓の竹の春	27	秋	植物	竹の春	
5837	窓あつて琴立てかけつ竹の春	27	秋	植物	竹の春	
5838	竹むらの秋をうしろに浦家かな	29	秋	植物	竹の春	
5839	手てうけてやりたし荻のこほれ露	21	秋	植物	荻	
5840	さらさらと水こす荻の下葉哉	25	秋	植物	荻	
5841	水門に荻をすひこむ流れ哉	25	秋	植物	荻	
5842	濱荻や水氣はなれし畑の中	25	秋	植物	荻	
5843	水音の荻にかくるゝ夕哉	25	秋	植物	荻	
5844	わがはねるその水かぶる風の荻	25	秋	植物	荻	
5845	濱荻に隠れて低し蟹が家	28	秋	植物	荻	
5846	荻吹くや崩れそめたる雲の峰	31	秋	植物	荻	
5847	川風はあしの葉に来てそよきたつけり	21	秋	植物	芦	
5848	川風はあしの葉に来てそよきたつ	21	秋	植物	芦	
5849	沼古りし蘆の茂や四手小屋	32	秋	植物	芦	
5850	蟹か家のかこひもなしに蘆の花	24	秋	植物	芦の花	
5851	蘆ちるや浅妻舟の波の音	25	秋	植物	芦の花	
5852	鮭船のへさき竝べて蘆の花	26	秋	植物	芦の花	
5853	月落て江村蘆の花白し	26	秋	植物	芦の花	
5854	蘆散るや夕日の川の捨小舟	27	秋	植物	芦の花	
5855	砂村や蘆散る暮の戻り舟	27	秋	植物	芦の花	
5856	橋高し小川を挟む蘆の花	27	秋	植物	芦の花	
5857	引舟や蘆の葉隠れ花隠れ	27	秋	植物	芦の花	
5858	舟歌のどのに隠れて蘆の花	27	秋	植物	芦の花	
5859	夕風や蘆の花散る捨小舟	27	秋	植物	芦の花	
5860	蘆の花彦根の城は隠れけり	28	秋	植物	芦の花	
5861	橋やあらん漁夫歸り行く蘆の花	28	秋	植物	芦の花	
5862	鷺落ちて夕月細し蘆の花	29	秋	植物	芦の花	
5863	魚釣り得て酒買ひに行く蘆の花	30	秋	植物	芦の花	
5864	魚を得て酒買ひに行く蘆の花	30	秋	植物	芦の花	
5865	柴又へ通ふ渡しや蘆の花	32	秋	植物	芦の花	
5866	船つなく阮家の背戸や蘆の花	33	秋	植物	芦の花	
5867	弓掛けし朱貴が酒屋や蘆の花	33	秋	植物	芦の花	
5868	笠いくつ蘆の穂つたひ廻りけり	25	秋	植物	芦の穂	
5869	引舟の蘆の穂かくれ動く笠	26	秋	植物	芦の穂	
5870	蘆の穂に汐さし上る小川かな	28	秋	植物	芦の穂	
5871	蘆の穂や酒屋へ上る道一つ	28	秋	植物	芦の穂	
5872	堀割や蘆の穂がくれ捨小舟	28	秋	植物	芦の穂	
5873	刈萱の穂にあらはれぬ思ひかな	25	秋	植物	刈萱	
5874	刈萱の穂にあらはれぬうらみかな	25	秋	植物	刈萱	
5875	刈萱の亂るゝ思ひをまがきかな	27	秋	植物	刈萱	
5876	宵闇や薄に月のいづる音	20	秋	植物	薄	
5877	秋風のそよく處の尾花かな	21	秋	植物	薄	
5878	秋風のそよく處や尾花かな	21	秋	植物	薄	
5879	おのが荷に追はれて淋し芒賣	22	秋	植物	薄	
5880	僧一人薄の中にくれにけり	23	秋	植物	薄	
5881	のびすぎてさひしさまさる芒哉	23	秋	植物	薄	
5882	水流れ芒招くやされかうべ	23	秋	植物	薄	
5883	尼寺や向へはなびくすゝきの穂	24	秋	植物	薄	
5884	奥山や秋はと問へばすゝきかな	24	秋	植物	薄	
5885	これ程の秋を薄のおさえけり	24	秋	植物	薄	

5886	そよそよとすゝき動くや晴るゝ霧	24	秋	植物	薄	
5887	どれだけの秋の奢ぞ薄うり	24	秋	植物	薄	
5888	細らすにみられぬ風のすゝき哉	24	秋	植物	薄	
5889	三日月の重みをしなふすゝきかな	24	秋	植物	薄	
5890	武蔵野に月あり芒八百里	24	秋	植物	薄	
5891	秋老て物恐ろしきすゝきかな	25	秋	植物	薄	
5892	雨さそふ千疊敷の薄かな	25	秋	植物	薄	
5893	石の上にはへぬ許りそ花薄	25	秋	植物	薄	
5894	伊豆相模境もわかず花すゝき	25	秋	植物	薄	
5895	馬の尾をたばねてくゝる薄哉	25	秋	植物	薄	
5896	おろおろとのんで風呼ぶ薄哉	25	秋	植物	薄	
5897	笠賣とならんで出たり薄賣	25	秋	植物	薄	
5898	風拂ふ尾花か雲や不二の山	25	秋	植物	薄	
5899	風一筋川一筋の薄かな	25	秋	植物	薄	
5900	川一筋風一筋のすゝきかな	25	秋	植物	薄	
5901	行水の中へしたゝる薄哉	25	秋	植物	薄	
5902	草刈の刈りそろへけり花薄	25	秋	植物	薄	
5903	さきへ行く馬の尾かくす薄かな	25	秋	植物	薄	
5904	菅笠のそろふて動く薄哉	25	秋	植物	薄	
5905	薄賣去年の笠をかぶりけり	25	秋	植物	薄	
5906	すてつきに押し分けて行薄哉	25	秋	植物	薄	
5907	月の出で風に成たる芒かな	25	秋	植物	薄	
5908	出つ入つ薄の山と蘆の海	25	秋	植物	薄	
5909	はけ物といハれてそよく花薄	25	秋	植物	薄	
5910	はけ物といハれてゆれし花薄	25	秋	植物	薄	
5911	はけ物といハれてをかし花薄	25	秋	植物	薄	
5912	箱根山薄八里と申さはや	25	秋	植物	薄	
5913	箱根山薄八里と申さずや	25	秋	植物	薄	
5914	はねかえず野分のあとの薄哉	25	秋	植物	薄	
5915	はや秋のありたけ見する芒哉	25	秋	植物	薄	
5916	一谷は風撫であぐる薄哉	25	秋	植物	薄	
5917	一谷は雲すみつかぬ薄かな	25	秋	植物	薄	
5918	一山は風にかたよる薄哉	25	秋	植物	薄	
5919	晝見れば薄の山や虫の聲	25	秋	植物	薄	
5920	吹きかへす風の薄のそゝけ哉	25	秋	植物	薄	
5921	への字への字かさなる山の薄哉	25	秋	植物	薄	
5922	堀割に風のうつむく薄哉	25	秋	植物	薄	
5923	堀割になれてうつむく薄哉	25	秋	植物	薄	
5924	水はねる添水のまねを尾花かな	25	秋	植物	薄	
5925	むさし野に筑波を望む尾花哉	25	秋	植物	薄	
5926	武蔵野の不二は尾花に紛れけり	25	秋	植物	薄	
5927	むさしのや薄のはてのつくば山	25	秋	植物	薄	
5928	山姥の力餅賣る薄かな	25	秋	植物	薄	
5929	槍たてた人も通らず花薄	25	秋	植物	薄	
5930	槍立てゝ通る人なし花薄	25	秋	植物	薄	
5931	夕月に露ふりかける尾花哉	25	秋	植物	薄	
5932	宵闇や笠のうらかく花薄	25	秋	植物	薄	
5933	我戀は穂に出て招く尾花哉	25	秋	植物	薄	
5934	草鞋の緒きれてよりこむ薄哉	25	秋	植物	薄	
5935	牛引て大の男や薄原	26	秋	植物	薄	
5936	牛むれて薄まじりの牧場哉	26	秋	植物	薄	
5937	風筋のかはりて枯るゝ薄かな	26	秋	植物	薄	
5938	風吹てはても那須野の芒哉	26	秋	植物	薄	
5939	風吹て一つ家かくすゝき哉	26	秋	植物	薄	

5940	こゝろみに四五本出たり初尾花	26	秋	植物	薄	
5941	實方が馬の尾を吹く薄哉	26	秋	植物	薄	
5942	順禮の親子出てくるすゝき哉	26	秋	植物	薄	
5943	少しづゝ砂利に取らるゝ薄哉	26	秋	植物	薄	
5944	すゝ風によそよそしさよ初尾花	26	秋	植物	薄	
5945	薄ほるあとのくぼみや小雨ふる	26	秋	植物	薄	
5946	旅人のともに吹かるゝ尾花かな	26	秋	植物	薄	
5947	辻君や尾花波よる袖の露	26	秋	植物	薄	
5948	墓あれて卒塔婆短き尾花哉	26	秋	植物	薄	
5949	花薄こゝも小町のふしど哉	26	秋	植物	薄	
5950	花山車や薄に似たる小提灯	26	秋	植物	薄	
5951	人や招く狐の尾花そよぐなり	26	秋	植物	薄	
5952	舟一つそよぎ出したる薄哉	26	秋	植物	薄	
5953	穂薄の顔かく汽車の小窓哉	26	秋	植物	薄	
5954	穂薄を筆に結んで物書かん	26	秋	植物	薄	
5955	三日月やはつれはつれの花芒	26	秋	植物	薄	
5956	むら尾花物見やしきの跡古りぬ	26	秋	植物	薄	
5957	夕風に一山なびく薄哉	26	秋	植物	薄	
5958	海見えて尾花が末の白帆かな	27	秋	植物	薄	
5959	大石を抱えてなびく尾花かな	27	秋	植物	薄	
5960	きぬきぬの薄の小道君招く	27	秋	植物	薄	
5961	谷川や岸は夕日の尾花散る	27	秋	植物	薄	
5962	何草となく生ふる中の尾花かな	27	秋	植物	薄	
5963	何の草となく生ふる中の尾花哉	27	秋	植物	薄	
5964	二度よりは通らぬ汽車や花芒	27	秋	植物	薄	
5965	一つ家を埋めて風の薄かな	27	秋	植物	薄	
5966	舟や行く水棹動く花芒	27	秋	植物	薄	
5967	麓から風吹き起るすゝき哉	27	秋	植物	薄	
5968	麓より風吹き起る薄かな	27	秋	植物	薄	
5969	祭見に狐も尾花かざし來よ	27	秋	植物	薄	
5970	武藏野や畠の隅の花芒	27	秋	植物	薄	
5971	賣馬の進まず風の芒花	28	秋	植物	薄	
5972	椽朽ちて狐の穴の尾花哉	28	秋	植物	薄	
5973	片側に薄少しある小池かな	28	秋	植物	薄	
5974	薄原月は頭の上にある	28	秋	植物	薄	
5975	捨笠や芒の小雨萩の露	28	秋	植物	薄	
5976	田の中や何に残して花芒	28	秋	植物	薄	
5977	露に伏す薄の原の朝日哉	28	秋	植物	薄	
5978	箱根路の石落ちかゝる芒哉	28	秋	植物	薄	
5979	花薄しきりに雲の起りけり	28	秋	植物	薄	
5980	花芒墓いづれとも見定めず	28	秋	植物	薄	
5981	伏勢の矢尻そろへる芒かな	28	秋	植物	薄	
5982	穂芒や野末は暮れて氣車の音	28	秋	植物	薄	
5983	招かれつ追はれつ風の芒かな	28	秋	植物	薄	
5984	皆やせけり男薄に女郎花	28	秋	植物	薄	
5985	見渡せば薄がちなる山邊哉	28	秋	植物	薄	
5986	山陰や薄は薄月は月	28	秋	植物	薄	
5987	猪の嵐に向ふ芒かな	28	秋	植物	薄	
5988	稻光芒の上を走りけり	29	秋	植物	薄	
5989	学校の此頃で來し薄かな	29	秋	植物	薄	
5990	駕二つ徒歩五六人花薄	29	秋	植物	薄	
5991	刀抜いて人潛み居る芒かな	29	秋	植物	薄	
5992	狩人の鐵砲見ゆる薄かな	29	秋	植物	薄	
5993	くゝりあげて片そよぎする芒哉	29	秋	植物	薄	

5994	十字架の墓に薄もなかりけり	29	秋	植物	薄	
5995	十丈の杉六尺の薄かな	29	秋	植物	薄	
5996	死んだ夢は生きた夢也花芒	29	秋	植物	薄	
5997	薄刈る童に逢ひぬ箱根山	29	秋	植物	薄	
5998	芒わけて甘藷先生の墓を得たり	29	秋	植物	薄	
5999	薄わけて行くや笠深く鞆赤し	29	秋	植物	薄	
6000	絶頂平かに寺の跡と見えて花薄	29	秋	植物	薄	
6001	絶頂はなかなか薄ばかり也	29	秋	植物	薄	
6002	旅はものゝ那須の薄にだまされな	29	秋	植物	薄	
6003	田を隔てゝ薄の岡を見得たり	29	秋	植物	薄	
6004	戸あくれば灯影にそよぐ芒哉	29	秋	植物	薄	
6005	とかくして西に傾く芒かな	29	秋	植物	薄	
6006	何ともな芒がもとの吾亦香	29	秋	植物	薄	
6007	何やらの原と申して薄かな	29	秋	植物	薄	
6008	箱根路や薄に富士の六合目	29	秋	植物	薄	
6009	花芒品川の人家隠見す	29	秋	植物	薄	
6010	一秋の思ひに瘦する薄かな	29	秋	植物	薄	
6011	一谷は芒にまじる草もなし	29	秋	植物	薄	
6012	一もとの薄に風の起りけり	29	秋	植物	薄	
6013	祠淋し一むら芒そよそよと	29	秋	植物	薄	
6014	山に上れば芒の中に墓場あり	29	秋	植物	薄	
6015	夕風や薄つかんで鳥が鳴く	29	秋	植物	薄	
6016	夕薄草履さげて人うろろす	29	秋	植物	薄	
6017	夕薄見る見る風になりけり	29	秋	植物	薄	
6018	夜嵐や風呂場倒れて花薄	29	秋	植物	薄	
6019	片側は鶯谷の芒かな	30	秋	植物	薄	
6020	しばられて片そよぎする芒かな	30	秋	植物	薄	
6021	薄の芽もえぬ病のいえるべく	30	秋	植物	薄	
6022	穂薄や袷多き野邊送	30	秋	植物	薄	
6023	無雑作にくゝりあけたる芒哉	30	秋	植物	薄	
6024	犬に逢ふ芒の山や村近き	31	秋	植物	薄	
6025	汽車を下りて淋しき驛や花芒	31	秋	植物	薄	
6026	實方の芒は刈らず村の者	31	秋	植物	薄	
6027	萩刈りて芒淋しき小庭哉	31	秋	植物	薄	
6028	日は暮れて芒の山を越えにけり	31	秋	植物	薄	
6029	武藏野を見下す崖や花芒	31	秋	植物	薄	
6030	汽車を見る崖の茶店や花芒	32	秋	植物	薄	
6031	庭さきに暑し芒の亂髪	32	秋	植物	薄	
6032	尾花常山崖の茶店や汽車を見る	32	秋	植物	薄	
6033	夕月や芒吹かるゝ堀の外	33	秋	植物	薄	
6034	芋の湯氣團子ノ露や花芒	34	秋	植物	薄	
6035	よべこゝに花火あげたる芒かな	35	秋	植物	薄	
6036	粟の穂に鶏飼ふや一構	28	秋	植物	粟	
6037	粟の穂のこゝを叩くなこの墓を	28	秋	植物	粟	
6038	粟の穂のこゝを叩くな父の墓	28	秋	植物	粟	
6039	粟や菜や裾山畠四角なり	28	秋	植物	粟	
6040	通夜堂の前に粟干す日向かな	28	秋	植物	粟	
6041	山里や箕に干す粟の二三升	28	秋	植物	粟	
6042	小山田や箕に干す粟の二三升	28	秋	植物	粟	
6043	大水や屋根に粟干す野の小家	29	秋	植物	粟	
6044	行く馬のあとにうなづく粟か稗か	29	秋	植物	粟	
6045	粟刈りて黍にむらかる雀哉	30	秋	植物	粟	
6046	粟畑を前に網張る男哉	30	秋	植物	粟	
6047	旅人の荷にかけし粟の一穂哉	30	秋	植物	粟	

6048	故郷や道狭くして粟垂るゝ	30	秋	植物	粟	
6049	故郷や道狭うして粟垂るゝ	30	秋	植物	粟	
6050	草鞋の緒結び居れば粟穂笠を打	30	秋	植物	粟	
6051	粟くふて妻を思ふか飼鶉	31	秋	植物	粟	
6052	片鶉粟穂もくはで鳴きにけり	31	秋	植物	粟	
6053	鳴子きれて粟の穂垂るゝみのり哉	31	秋	植物	粟	
6054	粟畑や家遠くして小鳥網	33	秋	植物	粟	
6055	高麗黍の穂波も秋のひとつ哉	24	秋	植物	黍	
6056	高黍や百姓涼む門の月	24	秋	植物	黍	
6057	高きびの中にせわしきつるべ哉	25	秋	植物	黍	
6058	黍からや鶏あそぶ土間の隅	27	秋	植物	黍	
6059	白帆見ゆや黍のうしろの角田川	27	秋	植物	黍	
6060	高黍の上に短き白帆かな	27	秋	植物	黍	
6061	黍小黍一里半来て別れ哉	28	秋	植物	黍	
6062	城あとの石垣高し黍畑	28	秋	植物	黍	
6063	黍刈て檐の朝日の土間に入る	30	秋	植物	黍	
6064	唐柜のからでたく湯や山の宿	25	秋	植物	唐黍	
6065	唐黍に背中うたるゝ湯あみ哉	27	秋	植物	唐黍	
6066	唐黍のうしろに低し寺の壁	28	秋	植物	唐黍	
6067	唐黍の白髪にもならであはれ也	28	秋	植物	唐黍	
6068	子を負ふて唐柜かぢる子守哉	30	秋	植物	唐黍	
6069	唐柜の上に見えたる小城かな	32	秋	植物	唐黍	
6070	稲の葉や袂にふくむ風の味	23	秋	植物	稲	
6071	稲の香や闇に一すぢ野の小道	24	秋	植物	稲	
6072	霧はれて稲のおしあふ旭哉	25	秋	植物	稲	
6073	むさし野は稲よりのぼる朝日哉	25	秋	植物	稲	
6074	君が代や四海静かに稲の波	26	秋	植物	稲	
6075	大名のお庭は廣し稲十里	26	秋	植物	稲	
6076	稲の波渺々として牛の聲	27	秋	植物	稲	
6077	稲の波南に凌雲閣低し	27	秋	植物	稲	
6078	静かさや稲の葉末の本願寺	27	秋	植物	稲	
6079	いむや社壇から見る稲の雲	27	秋	植物	稲	
6080	武藏野や昔問へば稲のうなづきぬ	27	秋	植物	稲	
6081	村遠近雨雲垂れて稲十里	27	秋	植物	稲	
6082	稲の秋命拾ふて戻りけり	28	秋	植物	稲	
6083	稲の雨班鳩寺にまうでけり	28	秋	植物	稲	
6084	稲の香に人居らずなりぬ避病院	28	秋	植物	稲	
6085	稲の香の雨ならんとして燕飛ぶ	28	秋	植物	稲	
6086	稲の香や野末は暮れて汽車の音	28	秋	植物	稲	
6087	家高低稲段々に山の裾	28	秋	植物	稲	
6088	魚提げて歸る親父や稲の中	28	秋	植物	稲	
6089	庄屋殿の棺行くなり稲の中	28	秋	植物	稲	
6090	高繩や稲の葉末の五里六里	28	秋	植物	稲	
6091	ところどころ家かたまりぬ稲の中	28	秋	植物	稲	
6092	晩鐘や稲の葉末を鳴り渡る	28	秋	植物	稲	
6093	山盡きて稲の葉末の白帆かな	28	秋	植物	稲	
6094	稲の香や修覆しかゝる神輿部屋	29	秋	植物	稲	
6095	稲の香や修覆出来たる神輿部屋	29	秋	植物	稲	
6096	村會や水損の稲いまだ刈らず	29	秋	植物	稲	
6097	ところどころ刈りたるも見えぬ稲の中	29	秋	植物	稲	
6098	宮立てゝ稲の神とぞあがめける	29	秋	植物	稲	
6099	稲の香や汽車から見ゆる法隆寺	31	秋	植物	稲	
6100	稲の畫をかき直さざる話かな	31	秋	植物	稲	
6101	濡れて行く樞の駕や稲の雨	31	秋	植物	稲	

6102	柴又の茶店いづれば稲の雨	32	秋	植物	稲	
6103	婆つれし佛詣りや稲曇	32	秋	植物	稲	
6104	雨ふくむ上野の森や稲日和	35	秋	植物	稲	
6105	氣車路や百里餘りを稲の花	24	秋	植物	稲の花	
6106	そよそよとそよぎ出しけり稲の花	26	秋	植物	稲の花	
6107	電信に眠る燕や稲の花	26	秋	植物	稲の花	
6108	稲の花道灌山の日和かな	27	秋	植物	稲の花	
6109	牛小屋に町は盡きたり稲の花	27	秋	植物	稲の花	
6110	絶壁は蕎麥に盡きたり稲の花	27	秋	植物	稲の花	
6111	大國のもの静かなり稲の花	27	秋	植物	稲の花	
6112	大藩のもの静かなり稲の花	27	秋	植物	稲の花	
6113	犬山の城はるかなり稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6114	稲の花今津の海の光りけり	28	秋	植物	稲の花	
6115	稲の花四五人かたりつゝ歩行く	28	秋	植物	稲の花	
6116	うぶすなに幟立てたり稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6117	裏口や出入にさはる稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6118	汽車道をありけば近し稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6119	汽車道を迎れば近し稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6120	眞宗の伽藍いかめし稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6121	杖によりて町を出づれば稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6122	何となければとそゞろありきや稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6123	何とはなくてそゞろありきぬ稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6124	何とはなくてそゞろありぬ稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6125	南無大師石手の寺よ稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6126	二の門は二町奥なり稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6127	百姓の家の低さよ稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6128	本堂やうらへまはれば稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6129	村中の先生顔や稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6130	山城に残る夕日や稲の花	28	秋	植物	稲の花	
6131	稲の花阿彌陀を買ふて戻りけり	29	秋	植物	稲の花	
6132	稲の花庄屋を會の議長にて	29	秋	植物	稲の花	
6133	稲の花東籬菊いまだ蒼なり	29	秋	植物	稲の花	
6134	稲の花人相書のまはりけり	29	秋	植物	稲の花	
6135	大寺の上棟式や稲の花	29	秋	植物	稲の花	
6136	夕焼けて雨雲黄なり稲の花	29	秋	植物	稲の花	
6137	稲正に二百十日の花曇り	30	秋	植物	稲の花	
6138	鷄鳴て里ゆたかなり稲の花	30	秋	植物	稲の花	
6139	演習のあるべき村や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6140	駕おろす鳥居の前や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6141	汽車下りて遠き宿場や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6142	汽車を下りて遠き宿場や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6143	君か代や五尺の稲の花盛	31	秋	植物	稲の花	
6144	此頃の五十三次稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6145	四國路の小さき馬や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6146	湯治丹日山を出づれば稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6147	電信の街道筋や稲の花	31	秋	植物	稲の花	
6148	婆つれし佛参りや稲の花	32	秋	植物	稲の花	
6149	稲の穂に招く哀れはなかりけり	25	秋	植物	稲穂	
6150	稲の穂のうつむく程にみのりけり	25	秋	植物	稲穂	
6151	稲の穂のうねりこんだり祝谷	25	秋	植物	稲穂	
6152	稲の穂の伏し重なりし夕日哉	26	秋	植物	稲穂	
6153	稲の穂の鎌の形にたわみける	27	秋	植物	稲穂	
6154	稲の穂の人招きよせよせ	27	秋	植物	稲穂	
6155	稲の穂の名所に神の鎮まりぬ	27	秋	植物	稲穂	

6156	稲穂やあちらこちらの赤練瓦	27	秋	植物	稲穂	
6157	稲の穂や南に凌雲閣低し	27	秋	植物	稲穂	
6158	朝露に稲の穂波の亂れ哉	28	秋	植物	稲穂	
6159	雨晴れて稲の穂末の夕日哉	28	秋	植物	稲穂	
6160	稲の穂に十里の雨の静かなり	28	秋	植物	稲穂	
6161	稲の穂に姫路の城は暮れてけり	28	秋	植物	稲穂	
6162	稲の穂に温泉の町低し二百軒	28	秋	植物	稲穂	
6163	稲の穂の雨ならんとして燕飛ふ	28	秋	植物	稲穂	
6164	稲の穂の嵐になりし夕かな	28	秋	植物	稲穂	
6165	稲の穂やうるちはものゝいやしかり	28	秋	植物	稲穂	
6166	豊年や稲の穂がくれ雀鳴く	28	秋	植物	稲穂	
6167	山盡きて稲の穂末の白帆かな	28	秋	植物	稲穂	
6168	稲の穂の動きて昇る朝日哉	29	秋	植物	稲穂	
6169	牛一つ早稲の匂ひをわけて来る	26	秋	植物	早稲	
6170	早稲の香や小山にそふて汽車走る	27	秋	植物	早稲	
6171	一枚の田は早稲の穂に分れけり	28	秋	植物	早稲	
6172	夕日さす山段々の晩稲哉	25	秋	植物	晩稲	
6173	晩稲刈る東海道の日和かな	27	秋	植物	晩稲	
6174	大水の女は舟に晩稲刈る	29	秋	植物	晩稲	
6175	馬土酔ふて晩稲月夜の小唄哉	29	秋	植物	晩稲	
6176	晩稲田の水も落してしまひけり	32	秋	植物	晩稲	
6177	武藏野の薄にまじる岡穂かな	27	秋	植物	陸稲	
6178	一升到五合まぜたる陸穂哉	30	秋	植物	陸稲	
6179	刈稲もふじも一つに日暮れけり	25	秋	植物	刈稲	
6180	刈稲を枕に寐たるこじき哉	25	秋	植物	刈稲	
6181	苗代に出て干稲に戻りけり	28	秋	植物	干稲	
6182	干稲の上に首出す地藏かな	28	秋	植物	干稲	
6183	山陰に稲干す晝の日脚哉	28	秋	植物	干稲	
6184	干稲に鶏上る夕日かな	29	秋	植物	干稲	
6185	杉垣に稲干してある門の脇	30	秋	植物	干稲	
6186	掛稲に人の影行く夕日哉	26	秋	植物	掛稲	
6187	掛稲の見こしに遠き上野哉	26	秋	植物	掛稲	
6188	掛稲に蠶飛びつく夕日かな	27	秋	植物	掛稲	
6189	掛稲に鳥啼くなり須磨の里	27	秋	植物	掛稲	
6190	掛稲の上に短し塔の尖	27	秋	植物	掛稲	
6191	掛稲のとぎれに青き筑波かな	27	秋	植物	掛稲	
6192	掛稲や狐に似たる村の犬	27	秋	植物	掛稲	
6193	掛稲や野菊花咲く道の端	27	秋	植物	掛稲	
6194	掛けながら稲に隠るゝ嫁御哉	27	秋	植物	掛稲	
6195	背戸も見えず晩稲かけたる竝木哉	27	秋	植物	掛稲	
6196	谷あひや谷は掛稲山は柿	28	秋	植物	掛稲	
6197	掛稲に夕陽残る榛の畦	29	秋	植物	掛稲	
6198	掛稲や雨雲蔽ふ鴻の臺	29	秋	植物	掛稲	
6199	榛の木に晩稲掛けたり道の端	29	秋	植物	掛稲	
6200	掛稲やまた引かてある畦の黍	32	秋	植物	掛稲	
6201	順禮の木にかけて行く落穂哉	24	秋	植物	落穂	
6202	ぬす人の見返りもせぬ落穂哉	25	秋	植物	落穂	
6203	鶏の親子引きあふ落穂かな	27	秋	植物	落穂	
6204	君が代は道に拾はぬ落穂かな	28	秋	植物	落穂	
6205	新米や天つちの和をこめた出来	21	秋	植物	新米	
6206	新米や何はともあれいたゝきて	21	秋	植物	新米	
6207	新米や先ツいたゝきて詠め見る	21	秋	植物	新米	
6208	新米に月日の味を覚えけり	25	秋	植物	新米	
6209	こぼれしか車のあとの今年米	27	秋	植物	新米	

6210	新米の下落政府の瓦解哉	31	秋	植物	新米	
6211	新米の市に出でたる相場かな	32	秋	植物	新米	
6212	新米のこぼるゝ庭や鶏の群れ	32	秋	植物	新米	
6213	新米のこぼれし庭や鶏の群れ	32	秋	植物	新米	
6214	新米の十駄ばかりや城下口	32	秋	植物	新米	
6215	新米の二十駄ばかり城下口	32	秋	植物	新米	
6216	新米や妻に櫛買ふ小百姓	32	秋	植物	新米	
6217	新米や方丈様へ一袋	32	秋	植物	新米	
6218	新米や目利かしこき掌	32	秋	植物	新米	
6219	新米や賣りに出でたり小百姓	32	秋	植物	新米	
6220	新米を河の東に運びけり	32	秋	植物	新米	
6221	瘦村や税の増したる今年米	32	秋	植物	新米	
6222	新わらや此頃出来し鼠の巢	26	秋	植物	新藁	
6223	蕎麥植ゑて人住みけるよ藪の中	27	秋	植物	蕎麥	
6224	墓原のつゞきや寺の蕎麥畠	27	秋	植物	蕎麥	
6225	踏まれたが損か彼岸の蕎麥畠	27	秋	植物	蕎麥	
6226	山本や雲もかゝらず蕎麥の莖	28	秋	植物	蕎麥	
6227	酒のあらたならんよりは蕎麥のあらたなれ	29	秋	植物	蕎麥	
6228	汽車道のあらはに蕎麥の莖赤し	30	秋	植物	蕎麥	
6229	花蕎麥の下までとゞく夕日哉	25	秋	植物	蕎麥の花	
6230	花蕎麥や山の腹までくる夕日	25	秋	植物	蕎麥の花	
6231	富士隠す山のうらてや蕎麥の花	25	秋	植物	蕎麥の花	
6232	蕎麥の花やもめの畑はあれにけり	26	秋	植物	蕎麥の花	
6233	灯ちらちら村暮れかねつ蕎麥の花	26	秋	植物	蕎麥の花	
6234	花蕎麥や湖水小さく舟細し	27	秋	植物	蕎麥の花	
6235	砂土手や西日をうけて蕎麥の花	28	秋	植物	蕎麥の花	
6236	蕎麥の花野川の音に暮れにけり	28	秋	植物	蕎麥の花	
6237	蕎麥の花野川の音はくれにけり	28	秋	植物	蕎麥の花	
6238	山明けぬあれは花蕎麥これは雲	28	秋	植物	蕎麥の花	
6239	山本やうしろ上に蕎麥の花	28	秋	植物	蕎麥の花	
6240	山本や雲もかゝらず蕎麥の花	28	秋	植物	蕎麥の花	
6241	山本や日落ちて見ゆるそばの花	28	秋	植物	蕎麥の花	
6242	なだらなる岡の片側蕎麥の花	29	秋	植物	蕎麥の花	
6243	箱根越えて三嶋近く蕎麥の花暮るゝ	29	秋	植物	蕎麥の花	
6244	煙草干す家も見えけり蕎麥の花	32	秋	植物	蕎麥の花	
6245	花蕎麥に大砲の鳴る曇哉	32	秋	植物	蕎麥の花	
6246	山越えて三島に近し蕎麥の花	33	秋	植物	蕎麥の花	
6247	少しづゝ洗ひ減すやかいわり菜	25	秋	植物	貝割菜	
6248	村近し小川流るゝかいわり菜	27	秋	植物	貝割菜	
6249	間引して淋しくなりし畠哉	28	秋	植物	間引き	
6250	間引して緑少き畠哉	28	秋	植物	間引き	
6251	卓上や狼藉として豆のから	31	秋	植物	枝豆	
6252	話ながら枝豆をくふあせり哉	31	秋	植物	枝豆	
6253	枝豆は喰ひけり月は見ざりけり	33	秋	植物	枝豆	
6254	枝豆ノカラ棄テニ出ル月夜カナ	34	秋	植物	枝豆	
6255	枝豆ノ月ヨリ先ニ老イニケリ	34	秋	植物	枝豆	
6256	枝豆ノツマメバハヂク仕掛カナ	34	秋	植物	枝豆	
6257	枝豆ヤ三寸飛ンデ口ニ入ル	34	秋	植物	枝豆	
6258	枝豆ヤ月八絲瓜ノ棚ニ在リ	34	秋	植物	枝豆	
6259	枝豆ヤ俳句ノ才子曹子建	34	秋	植物	枝豆	
6260	枝豆ヤ盆ニ載セタル枝ナガラ	34	秋	植物	枝豆	
6261	枝豆ヤ病ノ牀ノ晝永シ	34	秋	植物	枝豆	
6262	學校に行カズ枝豆賣ル子カナ	34	秋	植物	枝豆	
6263	刀豆や親王様の齒の力	25	秋	植物	刀豆	

6264	新棉の荷をこぼれ出る寒さ哉	25	秋	植物	新棉	
6265	里芋の嫩入したる月夜かな	25	秋	植物	芋	
6266	里芋の嫩入したる都かな	25	秋	植物	芋	
6267	新田や雨はなけれと芋の露	25	秋	植物	芋	
6268	いも積んで中嶋舟の来りけり	28	秋	植物	芋	
6269	芋はあれど酒なし月を如何せん	28	秋	植物	芋	
6270	里人よ今宵は許せ芋掘らん	28	秋	植物	芋	
6271	知る人のいも送り来る依かな	28	秋	植物	芋	
6272	芋の子や龍の目あらみころげ落つ	29	秋	植物	芋	
6273	芋の子を箸で追はえる膳の上	29	秋	植物	芋	
6274	芋掘りに行けば雄鹿に出あひけり	29	秋	植物	芋	
6275	芋掘らんと行けば男鹿に出逢ひけり	29	秋	植物	芋	
6276	芋掘るや夜宮の太鼓月に鳴る	29	秋	植物	芋	
6277	椽端の芋に湯氣立つ月見哉	29	秋	植物	芋	
6278	衣かつき芋の御前とも申すや	29	秋	植物	芋	
6279	切れ味や五尺に餘る芋の莖	29	秋	植物	芋	
6280	叱られて芋嫌ひの小僧泣きにけり	29	秋	植物	芋	
6281	薄生け芋盛りて月いまだ出でず	29	秋	植物	芋	
6282	三日月の頃より肥ゆる子芋哉	29	秋	植物	芋	
6283	重箱の芋ころげ落つ草の上	30	秋	植物	芋	
6284	芋阪に芋を賣らず團子賣る小店	30	秋	植物	芋	
6285	板敷や豆積みあげし芋の側	31	秋	植物	芋	
6286	芋くふて不平を鳴らす酒の酔	31	秋	植物	芋	
6287	芋阪の團子の起り尋ねけり	31	秋	植物	芋	
6288	芋の用意酒の用意や人遅し	31	秋	植物	芋	
6289	芋は煮えず豆は釜中に在りて泣	31	秋	植物	芋	
6290	茶の土瓶酒の土瓶や芋團子	31	秋	植物	芋	
6291	琵琶聴くや芋をくふたる顔もせず	31	秋	植物	芋	
6292	夕飯は芋でくひけり寺男	31	秋	植物	芋	
6293	貧乏な八百屋車や芋大根	32	秋	植物	芋	
6294	豚汁や芋を得て秋の季となりぬ	32	秋	植物	芋	
6295	芋アリ豆アリ女房二酒ヲネダリケリ	34	秋	植物	芋	
6296	芋ヲ喰ハヌ枝豆好ノ上戸カナ	34	秋	植物	芋	
6297	大家や芋煮エテ居ル臺所	34	秋	植物	芋	
6298	十人ノ家内や芋ノ十皿程	34	秋	植物	芋	
6299	盛り分ツ十皿ノ芋や臺所	34	秋	植物	芋	
6300	新田は枯色多しさつま芋	25	秋	植物	薩摩芋	
6301	新田は黄ばみ勝なりさつま芋	25	秋	植物	薩摩芋	
6302	小きを珍重かるや秋茄子	24	秋	植物	秋茄子	
6303	唐櫃の圍ひは枯れて秋茄子	27	秋	植物	秋茄子	
6304	秋茄子唐辛子の朱に奪はれぬ	28	秋	植物	秋茄子	
6305	秋茄子小きはものゝなつかしき	28	秋	植物	秋茄子	
6306	鮎はあれど鰻はあれど秋茄子	28	秋	植物	秋茄子	
6307	鮎もあり鰻もあれと秋茄子	28	秋	植物	秋茄子	
6308	鮎もあれと鰻はあれと秋茄子	28	秋	植物	秋茄子	
6309	武家町の畠になりぬ秋茄子	28	秋	植物	秋茄子	
6310	うら廣く秋の茄子も植ゑてあらん	31	秋	植物	秋茄子	
6311	うら廣し秋の茄子も植ゑてあらん	31	秋	植物	秋茄子	
6312	畑になる侍町や秋茄子	32	秋	植物	秋茄子	
6313	病む人が老いての戀や秋茄子	35	秋	植物	秋茄子	
6314	西瓜切るこぶしのさえや刃の雫	24	秋	植物	西瓜	
6315	世の中ようれぬ西瓜のひとかゝへ	24	秋	植物	西瓜	
6316	歌もなし朱印さひしき西瓜哉	25	秋	植物	西瓜	
6317	西瓜くふあとにものうきゝぬた哉	25	秋	植物	西瓜	

6318	西瓜さへ表は青し蕃椒	25	秋	植物	西瓜	
6319	風吹て見てもころげぬ西瓜哉	26	秋	植物	西瓜	
6320	西瓜買ふて闇の方より歸りけり	26	秋	植物	西瓜	
6321	君來ばと西瓜抱えて待つ夜かな	27	秋	植物	西瓜	
6322	切賣の西瓜くふなり市の月	28	秋	植物	西瓜	
6323	西瓜舟天の河原につきにけり	28	秋	植物	西瓜	
6324	敲けばか西瓜は赤し肺わろし	28	秋	植物	西瓜	
6325	寺清水西瓜も見えず秋老いぬ	28	秋	植物	西瓜	
6326	赤行燈西瓜を切りて竝べけり	29	秋	植物	西瓜	
6327	だまされて薄桃色の西瓜哉	29	秋	植物	西瓜	
6328	早雲西瓜を切れば眞赤也	29	秋	植物	西瓜	
6329	風呂を出て西瓜を切れと命じけり	29	秋	植物	西瓜	
6330	薄月夜西瓜を盗む心あり	31	秋	植物	西瓜	
6331	起し繪を照す西瓜の灯籠哉	31	秋	植物	西瓜	
6332	上手より西瓜流さん桂川	31	秋	植物	西瓜	
6333	試験所に西洋種の西瓜哉	31	秋	植物	西瓜	
6334	西瓜わらん桔梗の花のつぼむ頃	31	秋	植物	西瓜	
6335	すてゝある西瓜の皮や堂の前	31	秋	植物	西瓜	
6336	隅田川西瓜の皮の流れけり	31	秋	植物	西瓜	
6337	船頭の西瓜を切るや涼船	31	秋	植物	西瓜	
6338	ものもいはで喰ひついたる西瓜哉	31	秋	植物	西瓜	
6339	桃賣の西瓜食ひ居る木陰哉	35	秋	植物	西瓜	
6340	ぐるりからくろはひ上る南瓜哉	25	秋	植物	南瓜	
6341	傾城も南瓜の畑で生れけり	26	秋	植物	南瓜	
6342	丸裸南瓜かゝえて戻りけり	28	秋	植物	南瓜	
6343	南瓜や茄子の従兄弟瓜の叔父	30	秋	植物	南瓜	
6344	南瓜や絲瓜の従弟茄子の叔父	30	秋	植物	南瓜	
6345	仇花の南瓜にならぬ許り也	31	秋	植物	南瓜	
6346	鉢植の南瓜をとめし竹の杖	32	秋	植物	南瓜	
6347	鉢植の南瓜傾く重み哉	32	秋	植物	南瓜	
6348	鉢植の南瓜をつくる床屋哉	32	秋	植物	南瓜	
6349	鉢植の南瓜をとめし一つ哉	32	秋	植物	南瓜	
6350	南瓜の賦茄子の篇や村夫子	35	秋	植物	南瓜	
6351	たのしみの其中にあるひさごかな	21	秋	植物	瓢	
6352	秋に實の入りて重たし種瓢	25	秋	植物	瓢	
6353	くりぬいて中へはいらん種ふくべ	25	秋	植物	瓢	
6354	種ふくべ垣根の闇にもつれけり	25	秋	植物	瓢	
6355	種ふくべ何の力にくびれけん	25	秋	植物	瓢	
6356	ぶらぶらと小窓うれしき瓢哉	26	秋	植物	瓢	
6357	蔓長く下る瓢の風もなし	28	秋	植物	瓢	
6358	藁家の右に傾くふくべかな	28	秋	植物	瓢	
6359	藁屋根の右に傾くふくべかな	28	秋	植物	瓢	
6360	血脈をつたへて今に瓢かな	33	秋	植物	瓢	
6361	血脈をつたへて古き瓢かな	33	秋	植物	瓢	
6362	試ミニ名ヲ八巾着フクベカナ	34	秋	植物	瓢	
6363	子ヲ育ツフクベヲ育ツ如キカモ	34	秋	植物	瓢	
6364	取付テ松ニモ一ツフクベカナ	34	秋	植物	瓢	
6365	夕月やふくべの尻の花乍ら	34	秋	植物	瓢	
6366	雨ノ日ヲ夕顔ノ實ノナガメカナ	34	秋	植物	夕顔の実	
6367	驚クヤ夕顔落チシ夜半ノ音	34	秋	植物	夕顔の実	
6368	成佛ヤ夕顔ノ顔ヘチマノ尻	34	秋	植物	夕顔の実	
6369	棚一ツ夕顔フクベヘチマナンド	34	秋	植物	夕顔の実	
6370	珍客に夕顔の實を見せ申す	34	秋	植物	夕顔の実	
6371	鄙ノ宿夕顔汁ヲ食ハサレシ	34	秋	植物	夕顔の実	

6372	夕顔ノ愚ニ及バザルフクベカナ	34	秋	植物	夕顔の実	
6373	夕顔ノ實ニ富ヲ得シ話カナ	34	秋	植物	夕顔の実	
6374	夕顔ノ實ヲフクベトハ昔カナ	34	秋	植物	夕顔の実	
6375	秋に形あらば絲瓜に似たるべし	24	秋	植物	糸瓜	
6376	しばらくは風のもつるゝ絲瓜かな	24	秋	植物	糸瓜	
6377	露いくつ絲瓜の尻に出あひけり	25	秋	植物	糸瓜	
6378	蔓かれてへちまぶらりと不二の山	25	秋	植物	糸瓜	
6379	茶屋淋し絲瓜の蔓の這ひかゝる	26	秋	植物	糸瓜	
6380	家一つ門は絲瓜の月夜かな	27	秋	植物	糸瓜	
6381	柴の戸に絲瓜の風の静かさよ	27	秋	植物	糸瓜	
6382	投げ出したやうな絲瓜や垣の外	27	秋	植物	糸瓜	
6383	投げ出したやうに垣根の絲瓜哉	27	秋	植物	糸瓜	
6384	絲瓜肥え鶏頭瘦せぬ背戸の雨	27	秋	植物	糸瓜	
6385	わぐなつて残る絲瓜や屋根の上	27	秋	植物	糸瓜	
6386	五六反叔父がつくりし絲瓜かな	28	秋	植物	糸瓜	
6387	雪隠の窓にぶらりと絲瓜かな	28	秋	植物	糸瓜	
6388	行く秋を絲瓜にさはる雲もなし	28	秋	植物	糸瓜	
6389	垢すりになるべく絲瓜愚也けり	29	秋	植物	糸瓜	
6390	秋のいろあかきへちまを畫にかゝむ	30	秋	植物	糸瓜	
6391	へちまとは絲瓜のようなものならん	30	秋	植物	糸瓜	
6392	夕顔の貧に處る絲瓜の愚を守る	30	秋	植物	糸瓜	
6393	西行に絲瓜の歌はなかりけり	31	秋	植物	糸瓜	
6394	内閣を絲瓜にたとへ論ずべく	31	秋	植物	糸瓜	
6395	絲瓜とも瓢ともわかぬ目利哉	32	秋	植物	糸瓜	
6396	愚なる處すなはち雅なる絲瓜かな	33	秋	植物	糸瓜	
6397	目鼻画く絲瓜の顔の長さ哉	33	秋	植物	糸瓜	
6398	秋ノ灯ノ絲瓜ノ尻ニ映リケリ	34	秋	植物	糸瓜	
6399	棚ノ絲瓜思フ處ヘブラ下ル	34	秋	植物	糸瓜	
6400	西ヘマハル秋ノ日影ヤ絲瓜棚	34	秋	植物	糸瓜	
6401	病間ニ絲瓜ノ句ナド作りケル	34	秋	植物	糸瓜	
6402	病閑ニ絲瓜ノ花ノ落ツル晝	34	秋	植物	糸瓜	
6403	日掩棚絲瓜ノ蔓ノ這ヒ足ラズ	34	秋	植物	糸瓜	
6404	絲瓜サヘ佛ニナルゾ後ル、ナ	34	秋	植物	糸瓜	
6405	絲瓜ニハ可モ不可モナキ残暑カナ	34	秋	植物	糸瓜	
6406	絲瓜ブラリ夕顔ダラリ秋ノ風	34	秋	植物	糸瓜	
6407	牡丹ニモ死ナズ瓜ニモ絲瓜ニモ	34	秋	植物	糸瓜	
6408	默然ト絲瓜ノサガル庭ノ秋	34	秋	植物	糸瓜	
6409	物思フ窓ニブラリト絲瓜哉	34	秋	植物	糸瓜	
6410	夕顔ト絲瓜残暑ト新涼ト	34	秋	植物	糸瓜	
6411	夕顔ノ棚に絲瓜モ下リケリ	34	秋	植物	糸瓜	
6412	夕顔モ絲瓜モ同ジ棚子同土	34	秋	植物	糸瓜	
6413	痰一斗絲瓜の水も間にあはず	35	秋	植物	糸瓜	
6414	絲瓜咲て痰のつまりし佛かな	35	秋	植物	糸瓜	
6415	をととのひのへちまの水も取らざりき	35	秋	植物	糸瓜	
6416	鳩麥や昔通ひし叔父が家	28	秋	植物	鳩麥	
6417	じゅずだまや昔通ひし叔父が家	28	秋	植物	じゅずだま	じゅずだま(漢字二文字:草冠+意、苡)
6418	じゅずだまに大雨來る野道かな	29	秋	植物	じゅずだま	じゅずだま(漢字二文字:草冠+意、苡)
6419	朝川の薑を洗ふ匂かな	27	秋	植物	生姜	
6420	一束の葉生姜ひたす野川哉	29	秋	植物	生姜	
6421	蕃椒晝間の月のうそ白し	23	秋	植物	唐辛子	
6422	つまだつて秋にとゞくや蕃椒	24	秋	植物	唐辛子	
6423	何の思ひ内であればや蕃椒	24	秋	植物	唐辛子	
6424	あき家に一畝赤し唐からし	25	秋	植物	唐辛子	
6425	雨風にますます赤し唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	

6426	いつしかにくひ習ひけり蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6427	垣きはにかたへは青し唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6428	紅にならでくちをし蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6429	煙にも更にすゝけず唐からし	25	秋	植物	唐辛子	
6430	兼好に歌をよません唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6431	草子にも書きもらしけり蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6432	すさましくつ立つまや蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6433	すさましや七鉢竝ぶ唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6434	すさましややもめすむ家の蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6435	束髪の人にくはせん唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6436	添竹を残して赤し蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6437	唐辛子赤き穂先をそるへけり	25	秋	植物	唐辛子	
6438	唐辛子おろかな色はなかりけり	25	秋	植物	唐辛子	
6439	唐辛子辛きが上の赤さかな	25	秋	植物	唐辛子	
6440	唐辛子かんで待つ夜の恨哉	25	秋	植物	唐辛子	
6441	蕃椒心ありける浮世かな	25	秋	植物	唐辛子	
6442	蕃椒手水盥の水赤し	25	秋	植物	唐辛子	
6443	蕃椒中にも種のからさかな	25	秋	植物	唐辛子	
6444	唐辛子残る暑さをほのめかす	25	秋	植物	唐辛子	
6445	唐辛子一ツ二ツは青くあれ	25	秋	植物	唐辛子	
6446	唐辛子日に日に秋の恐るしき	25	秋	植物	唐辛子	
6447	蕃椒やゝひんまがつて猶からし	25	秋	植物	唐辛子	
6448	蕃椒横むいたのはなかりけり	25	秋	植物	唐辛子	
6449	蓼をくふ虫はあるとや唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6450	なまじいに赤く成けり唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6451	はらわたに通りて赤し蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6452	一すぢに思ひつめてや蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6453	盆栽の数に入りけり蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6454	養父入のうれしがりけり蕃椒	25	秋	植物	唐辛子	
6455	行秋やつられてさがる唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6456	世の中を赤うばかすや唐辛子	25	秋	植物	唐辛子	
6457	姑の口裂けもせで唐辛子	26	秋	植物	唐辛子	
6458	すゝけたる廚の隅や唐辛子	26	秋	植物	唐辛子	
6459	葉がくれの色なつかしみ唐辛子	27	秋	植物	唐辛子	
6460	唐辛子芦のまる屋の戸口哉	28	秋	植物	唐辛子	
6461	にくにくと赤き色なり蕃椒	28	秋	植物	唐辛子	
6462	はらわたもなくして淋しや蕃椒	28	秋	植物	唐辛子	
6463	いろいろの秋や小錦唐辛子	29	秋	植物	唐辛子	
6464	蒟蒻の鈍なる蕃椒の利なる	29	秋	植物	唐辛子	
6465	唐辛子に朝日さしたる飯時分	30	秋	植物	唐辛子	
6466	鉢植の唐辛子喰ふ世帯哉	30	秋	植物	唐辛子	
6467	唐辛子三十棒をくらひけり	31	秋	植物	唐辛子	
6468	唐辛子からき命をつなきけり	31	秋	植物	唐辛子	
6469	唐辛子三十棒をくねりけり	31	秋	植物	唐辛子	
6470	蕃椒廣長舌をちゝめけり	32	秋	植物	唐辛子	
6471	悪ノ利ク女形ナリ唐辛子	34	秋	植物	唐辛子	
6472	日蓮の骨の辛さよ唐辛子	35	秋	植物	唐辛子	
6473	鬼灯や田舎の秋は秋らしき	24	秋	植物	鬼灯	
6474	をさな子の鬼灯盛るや竹の籠	25	秋	植物	鬼灯	
6475	鬼灯の顔や四つ子が筆の跡	26	秋	植物	鬼灯	
6476	葉のかれて鬼灯もゆる垣根哉	27	秋	植物	鬼灯	
6477	鬼灯に妹がうらみを鳴らしける	27	秋	植物	鬼灯	
6478	鬼灯の少し赤らむぞなつかしき	28	秋	植物	鬼灯	
6479	鬼灯の少し破れたるぞ口をしき	28	秋	植物	鬼灯	

6480	鬼灯をほうと吹きたるア鬢哉	28	秋	植物	鬼灯	ア(あ<Yに似た字>)
6481	鬼灯をほうと吹きたる禿かな	28	秋	植物	鬼灯	
6482	虫賣と鬼灯賣と話しけり	29	秋	植物	鬼灯	
6483	鬼灯やいまだ楊家の娘ぶり	31	秋	植物	鬼灯	
6484	鬼灯を鳴らしやめたる唱歌哉	32	秋	植物	鬼灯	
6485	鬼灯の行列いくつ御命講	35	秋	植物	鬼灯	
6486	あら壁やこほろぎ老いて懸烟草	29	秋	植物	懸烟草	こほろぎ<虫+車>
6487	くちをしう老にけらしな若烟草	25	秋	植物	若烟草	
6488	ほろほるとぬかごこぼるゝ垣根哉	28	秋	植物	零餘子	
6489	雨に瘦せて秋海棠のそゞろ也	27	秋	植物	秋海棠	
6490	紅に秋海棠の雫かな	27	秋	植物	秋海棠	
6491	露ほろほろ秋海棠のゆれにけり	27	秋	植物	秋海棠	
6492	石路に倚る秋海棠の姿かな	28	秋	植物	秋海棠	
6493	女こびて秋海棠に何思ふ	28	秋	植物	秋海棠	
6494	化粧の間秋海棠の風寒し	29	秋	植物	秋海棠	
6495	君か植ゑし秋海棠も甲斐ありき	30	秋	植物	秋海棠	
6496	秋海棠に齒磨こぼす端居哉	30	秋	植物	秋海棠	
6497	雨だれの秋海棠にかゝりけり	31	秋	植物	秋海棠	
6498	石白く秋海棠の小庭かな	32	秋	植物	秋海棠	
6499	妹が庭や秋海棠とおしろいと	32	秋	植物	秋海棠	
6500	画き習ふ秋海棠の繪具哉	32	秋	植物	秋海棠	
6501	紙ににじむ秋海棠の繪の具哉	32	秋	植物	秋海棠	
6502	嚙んで見る秋海棠の莖赤き	32	秋	植物	秋海棠	
6503	秋海棠妹が好みの小庭哉	32	秋	植物	秋海棠	
6504	秋海棠日陰の庭の三坪程	32	秋	植物	秋海棠	
6505	秋海棠の小庭に満つる濕地哉	32	秋	植物	秋海棠	
6506	硯箱に秋海棠の蒔繪哉	32	秋	植物	秋海棠	
6507	蕾多き秋海棠の寫生哉	32	秋	植物	秋海棠	
6508	露こぼす秋海棠や手水鉢	32	秋	植物	秋海棠	
6509	葉蘭青く秋海棠は瘦にけり	32	秋	植物	秋海棠	
6510	病牀に秋海棠を描きけり	32	秋	植物	秋海棠	
6511	水を打つ秋海棠や夜の市	32	秋	植物	秋海棠	
6512	移シ植エシ秋海棠や寐テ見ユル	34	秋	植物	秋海棠	
6513	秋海棠朝顔ノ花八飽キ易キ	34	秋	植物	秋海棠	
6514	秋海棠二鉢ヲアテルコト勿レ	34	秋	植物	秋海棠	
6515	秋海棠二向ケル病ノ寐床カナ	34	秋	植物	秋海棠	
6516	毒蝶ノ秋海棠ニトマリケリ	34	秋	植物	秋海棠	
6517	毒蝶ノ秋海棠ヲ犯スカナ	34	秋	植物	秋海棠	
6518	俳を談す秋海棠の夕哉	34	秋	植物	秋海棠	
6519	美女立テリ秋海棠ノ如キカナ	34	秋	植物	秋海棠	
6520	臥シテ見ル秋海棠ノ木末カナ	34	秋	植物	秋海棠	
6521	斷腸花つれなき文の返事哉	35	秋	植物	秋海棠	
6522	一枝は荷にさしはさむ菊の花	24	秋	植物	菊	
6523	まいた餌に鷄もどる菊畠	24	秋	植物	菊	
6524	菊植る丈の畑あり山のおく	25	秋	植物	菊	
6525	菊形の焼餅くふて節句哉	25	秋	植物	菊	
6526	菊さくやきせ綿匂ふ不二の雪	25	秋	植物	菊	
6527	すてた餌に鷄もとる菊畠	25	秋	植物	菊	
6528	袖は一重二重合羽や菊の花	25	秋	植物	菊	
6529	竹垣や菊と野菊の裏表	25	秋	植物	菊	
6530	誰に賣らん金なき人に菊賣らん	25	秋	植物	菊	
6531	残る菊けふより後の名にせはや	25	秋	植物	菊	
6532	盆程の庭の蒔繪や菊もみち	25	秋	植物	菊	
6533	明耿々朝日に竝ぶ菊花？	25	秋	植物	菊	

6534	ゆゝしさや九輪咲いたるけふの菊	25	秋	植物	菊	
6535	酔ざめや十日の菊にたばこのむ	25	秋	植物	菊	
6536	世や捨てんわれも其名を菊の水	25	秋	植物	菊	
6537	浮世哉菊に晴し着の黒小袖	26	秋	植物	菊	
6538	縁日へ押し出す菊の車かな	26	秋	植物	菊	
6539	蠣がらは垣根に白し菊の花	26	秋	植物	菊	
6540	歸んなんいざと咲きけり菊の花	26	秋	植物	菊	
6541	菊あれて鶏ねらふ融かな	26	秋	植物	菊	
6542	菊賣るや十二街道の塵の中	26	秋	植物	菊	
6543	菊買ふや杖頭の錢二百文	26	秋	植物	菊	
6544	菊咲かす程の畑あり山の奥	26	秋	植物	菊	
6545	菊さくや米飯麥飯粟の飯	26	秋	植物	菊	
6546	菊淋し歌にもならで賤か庭	26	秋	植物	菊	
6547	菊つかむ雀悲しき嵐哉	26	秋	植物	菊	
6548	菊時はあきぞ悲しき明樽の	26	秋	植物	菊	
6549	菊の垣犬くゞりだけ折れにけり	26	秋	植物	菊	
6550	菊の香や雲井に近き朝朗	26	秋	植物	菊	
6551	菊の香や鬚ある人の思はるゝ	26	秋	植物	菊	
6552	菊の花我を相手に咲きにけり	26	秋	植物	菊	
6553	菊の宿昔女のうたひかな	26	秋	植物	菊	
6554	菊許り花賣の荷の物淋し	26	秋	植物	菊	
6555	菊や鍬や買ひけり市の夕月夜	26	秋	植物	菊	
6556	栗飯や下駄ぬぐきはに菊の花	26	秋	植物	菊	
6557	けふの菊御堀の水をのまうよ	26	秋	植物	菊	
6558	これもうし菊に晴着の黒小袖	26	秋	植物	菊	
6559	咲きさうにしながら菊のつぼみかな	26	秋	植物	菊	
6560	里近し酒賣る家の菊の花	26	秋	植物	菊	
6561	聖天のうしろは淋し菊の花	26	秋	植物	菊	
6562	白菊や珊瑚の簪入るべからず	26	秋	植物	菊	
6563	城趾の菊に硯の瓦かな	26	秋	植物	菊	
6564	竹垣や隣の菊のこぼれ咲く	26	秋	植物	菊	
6565	南山にもたれて咲くや菊の花	26	秋	植物	菊	
6566	野分して葎の中の小菊哉	26	秋	植物	菊	
6567	旭に向くや大輪の菊露ながら	26	秋	植物	菊	
6568	百姓の垣に菊あり鶏頭あり	26	秋	植物	菊	
6569	古家にあるじは知らず菊の花	26	秋	植物	菊	
6570	味噌桶をめぐつて菊の花咲きぬ	26	秋	植物	菊	
6571	昔めくことこそよしや菊の露	26	秋	植物	菊	
6572	棟上げや家巍々として菊の紋	26	秋	植物	菊	
6573	嵐雪の黄菊白菊庵貧し	26	秋	植物	菊	
6574	我庵や黄菊白菊それもなし	26	秋	植物	菊	
6575	繪に書くは黄菊白菊に限りけり	26	秋	植物	菊	
6576	男なり小菊ながらも白を咲く	26	秋	植物	菊	
6577	菊さくや十二街頭の塵の中	26	秋	植物	菊	
6578	嵐雪が黄菊白菊庵貧し	26	秋	植物	菊	
6579	明家や旗はなけれど菊の花	27	秋	植物	菊	
6580	あはれ氣もなくて此菊あはれなり	27	秋	植物	菊	
6581	哀れにもなくて此菊哀れ也	27	秋	植物	菊	
6582	稻舟や穂蓼の渚菊の岸	27	秋	植物	菊	
6583	縁日へ菊買ひに行く翁かな	27	秋	植物	菊	
6584	號外を受け取る菊の垣根哉	27	秋	植物	菊	
6585	號外を投込菊の垣根哉	27	秋	植物	菊	
6586	菊咲くや草の庵の大硯	27	秋	植物	菊	
6587	菊咲くや大師の堂の普請小屋	27	秋	植物	菊	

6588	菊咲くや舟漕いで童子酒買ひに	27	秋	植物	菊	
6589	菊積んで人中通る車かな	27	秋	植物	菊	
6590	菊の垣満艦飾の見ゆる哉	27	秋	植物	菊	
6591	菊の花蓑の下より見ゆるかな	27	秋	植物	菊	
6592	菊の花八百屋の店に老いにける	27	秋	植物	菊	
6593	菊折て日の丸る旗の竿にせん	27	秋	植物	菊	
6594	汐風に蟹か垣根の菊瘦せぬ	27	秋	植物	菊	
6595	白菊の老いて赤らむわりなさよ	27	秋	植物	菊	
6596	白菊や闇をこぼれて庭の隅	27	秋	植物	菊	
6597	戸あくれば紙燭のとゞく黄菊哉	27	秋	植物	菊	
6598	菜畠のわつかに青し菊の花	27	秋	植物	菊	
6599	日曜やけふ菊による人の蟻	27	秋	植物	菊	
6600	旗一本菊一鉢の小家かな	27	秋	植物	菊	
6601	旗は菊は人は錦のむら紅葉	27	秋	植物	菊	
6602	旗汚れ垣は頽れて小菊かな	27	秋	植物	菊	
6603	八十の翁なりけり菊作り	27	秋	植物	菊	
6604	一つづゝ橋持つ家の菊の花	27	秋	植物	菊	
6605	日の旗や淋しき村の菊の垣	27	秋	植物	菊	
6606	佛壇の灯暗く菊の匂ひかな	27	秋	植物	菊	
6607	水一筋菊の亂れのうつくしき	27	秋	植物	菊	
6608	御階近く大菊の花亂けり	27	秋	植物	菊	
6609	ものゝうれし小菊の蒼鳥の聲	27	秋	植物	菊	
6610	木棉ながら善き衣着たり菊の花	27	秋	植物	菊	
6611	藁屋根の雫に瘦する小菊哉	27	秋	植物	菊	
6612	朝霧や奈良阪下る小菊賣	28	秋	植物	菊	
6613	大君のあれましゝ日や菊の花	28	秋	植物	菊	
6614	大君のあれましせし日や菊の花	28	秋	植物	菊	
6615	面白う黄菊白菊咲きやつたよ	28	秋	植物	菊	
6616	面白う黄菊白菊咲きやたな	28	秋	植物	菊	
6617	かやふきの細殿あれて菊の花	28	秋	植物	菊	
6618	黄菊白菊一もとは赤もあらまほし	28	秋	植物	菊	
6619	菊荒れて日好し虻去り虻来る	28	秋	植物	菊	
6620	菊いけて荷物ちらはる旅籠哉	28	秋	植物	菊	
6621	菊活けて荷物ちらばる宿屋哉	28	秋	植物	菊	
6622	菊作り顔に疱瘡のある男なり	28	秋	植物	菊	
6623	菊の香や只三人に夜の更くる	28	秋	植物	菊	
6624	菊の花天長節は過ぎにけり	28	秋	植物	菊	
6625	君が代は菊の花こそ大きけれ	28	秋	植物	菊	
6626	小橋かけて黄菊鶏頭など見えぬ	28	秋	植物	菊	
6627	滄浪の水濁りけり菊の花	28	秋	植物	菊	
6628	白菊にしかもこよひは月夜哉	28	秋	植物	菊	
6629	白菊の一もと白し八重葎	28	秋	植物	菊	
6630	白菊の一もとゆかし八重葎	28	秋	植物	菊	
6631	白も黄も咲きならべけり菊の園	28	秋	植物	菊	
6632	白も黄もさき竝べたり菊の園	28	秋	植物	菊	
6633	白も黄もさき竝べたり菊の花	28	秋	植物	菊	
6634	せわしなや桔梗に來り菊に去る	28	秋	植物	菊	
6635	谷川に臨んで菊の宿屋哉	28	秋	植物	菊	
6636	人形のならば小店や菊の花	28	秋	植物	菊	
6637	人形をきざむ小店や菊の花	28	秋	植物	菊	
6638	年々や菊に思はん思はれん	28	秋	植物	菊	
6639	花に月に雪にわけては菊の香に	28	秋	植物	菊	
6640	病居士の端居そゞろなり菊の花	28	秋	植物	菊	
6641	百號に満ちけり菊はさきにけり	28	秋	植物	菊	

6642	古き香に白菊咲いて手向かな	28	秋	植物	菊	
6643	古き香に白菊さける手向哉	28	秋	植物	菊	
6644	松に菊古きはものゝなつかしき	28	秋	植物	菊	
6645	瘦村の質屋富みたり菊の花	28	秋	植物	菊	
6646	繪かきには見せじよ庵の作り菊	28	秋	植物	菊	
6647	一年の丹精こゝに菊の花	29	秋	植物	菊	
6648	うれしさや聞えぬ耳で菊の花	29	秋	植物	菊	
6649	大菊を養ひ得たる隠士かな	29	秋	植物	菊	
6650	隠れ家や贅澤盡す菊の鉢	29	秋	植物	菊	
6651	門口や稻干すそばの菊の花	29	秋	植物	菊	
6652	菊一籬栗三升に事足りぬ	29	秋	植物	菊	
6653	菊咲て龍駕幸手にとゞまりぬ	29	秋	植物	菊	
6654	菊提げて雑魚提げて村へ歸る人	29	秋	植物	菊	
6655	菊の垣南の山は上野なり	29	秋	植物	菊	
6656	菊島南の山は上野なり	29	秋	植物	菊	
6657	絹着せぬ家に菊あり詩經あり	29	秋	植物	菊	
6658	金色に咲くとは菊の口をしき	29	秋	植物	菊	
6659	草の戸や盃赤く菊白し	29	秋	植物	菊	
6660	こともなげに菊咲かせたる小家哉	29	秋	植物	菊	
6661	酒買ひにどこへ行きしぞ菊の花	29	秋	植物	菊	
6662	殘菊のしどろに妹が垣根かな	29	秋	植物	菊	
6663	殘菊や宇治の古宮女君	29	秋	植物	菊	
6664	白菊に蟻はひ上る日和かな	29	秋	植物	菊	
6665	白露に養ふ菊の荅かな	29	秋	植物	菊	
6666	先生はいつも留守なり菊の花	29	秋	植物	菊	
6667	竹立てゝ？燭さしぬ菊の中	29	秋	植物	菊	
6668	茶屋に菊あり遠足會の人休む	29	秋	植物	菊	
6669	何事もなき世なりけり菊の花	29	秋	植物	菊	
6670	庭荒れて名なしの菊の盛哉	29	秋	植物	菊	
6671	萩刈りぬ菊に朝日を受くるべく	29	秋	植物	菊	
6672	馬蹄去つて菊提げし僧に逢着す	29	秋	植物	菊	
6673	灯ともして御影祭るや菊の花	29	秋	植物	菊	
6674	日に向いて菊の荅のはぜかゝる	29	秋	植物	菊	
6675	二人のめ四百歳づゝ菊の花	29	秋	植物	菊	
6676	豆程にむらがる菊の荅かな	29	秋	植物	菊	
6677	御園生やところどころに菊の家	29	秋	植物	菊	
6678	ものつくる程の田もなし菊の花	29	秋	植物	菊	
6679	山猫をよぶ主艶也菊の花	29	秋	植物	菊	
6680	ゆかしさはさしみのつまの黄菊哉	29	秋	植物	菊	
6681	靈山の麓に白し菊の花	29	秋	植物	菊	
6682	井戸端に一うね菊の赤きかな	29	秋	植物	菊	
6683	秋菊に媒はき落す小窓哉	30	秋	植物	菊	
6684	雨上り菊拜觀の草履哉	30	秋	植物	菊	
6685	後から朝日さす菊の花壇哉	30	秋	植物	菊	
6686	大菊に吾は小菊を愛すかな	30	秋	植物	菊	
6687	大菊や金持めかす門構へ	30	秋	植物	菊	
6688	大菊や金持めかす家構	30	秋	植物	菊	
6689	金持の隠居なりけり菊つくり	30	秋	植物	菊	
6690	菊花壇の障子をあぶる西日哉	30	秋	植物	菊	
6691	菊咲くや樓に上れば舟遠し	30	秋	植物	菊	
6692	菊年々天長節の日和順	30	秋	植物	菊	
6693	菊の宴に菊の蒔繪そ心なき	30	秋	植物	菊	
6694	小雨して小袖に菊の香をしたむ	30	秋	植物	菊	
6695	御所の雨菊拜觀の草履哉	30	秋	植物	菊	

6696	其中に蒼の多き黄菊かな	30	秋	植物	菊	
6697	谷の家や朝日に育つ菊少し	30	秋	植物	菊	
6698	二三本菊倒れ伏す草の雨	30	秋	植物	菊	
6699	萩枯れて隣の菊を妬みけり	30	秋	植物	菊	
6700	薔薇を移して跡に蒼の菊を植ゑし	30	秋	植物	菊	
6701	故郷の菊はいくさに踏まれけん	30	秋	植物	菊	
6702	古庭に芒散る菊の蒼かな	30	秋	植物	菊	
6703	本尊は阿彌陀菊咲いて無住也	30	秋	植物	菊	
6704	松を伐てうれし小菊に旭のあたる	30	秋	植物	菊	
6705	門の内に菊づくりたる小料理屋	30	秋	植物	菊	
6706	横町につゞきて菊の夜店哉	30	秋	植物	菊	
6707	我今年牡丹に病んで菊に起きし	30	秋	植物	菊	
6708	赤菊の蕾黄菊の蕾哉	31	秋	植物	菊	
6709	御菊見の物運ぶらし女官だち	31	秋	植物	菊	
6710	カンテラや蕾少き市の菊	31	秋	植物	菊	
6711	菊賣に天長節の朝日哉	31	秋	植物	菊	
6712	菊つくる五位の隠居や黒あばた	31	秋	植物	菊	
6713	菊の壇氣に入つた菊はなかりけり	31	秋	植物	菊	
6714	菊の杖蜻蜒のとまる處なり	31	秋	植物	菊	
6715	菊安し天長節の後の市	31	秋	植物	菊	
6716	銀燭の燦爛として菊合	31	秋	植物	菊	
6717	三錢と札の付いたる小菊哉	31	秋	植物	菊	
6718	白菊と思ひし菊の黄を咲ぬ	31	秋	植物	菊	
6719	庭の菊天長節の蕾哉	31	秋	植物	菊	
6720	店先に賣れざる菊の盛哉	31	秋	植物	菊	
6721	赤菊をそへし柚味噌の贈物	32	秋	植物	菊	
6722	買ふて來た菊に水やる手燭哉	32	秋	植物	菊	
6723	買ふて來た菊を見せたる手燭哉	32	秋	植物	菊	
6724	菊活けて黄菊一枝残りけり	32	秋	植物	菊	
6725	菊時は菊を賣る也小百姓	32	秋	植物	菊	
6726	菊の句を殘して去りぬ把栗居士	32	秋	植物	菊	
6727	菊の主拙き歌を詠みにけり	32	秋	植物	菊	
6728	菊鉢や咲きひろけたる二百輪	32	秋	植物	菊	
6729	菊鉢や咲きも咲いたる二百輪	32	秋	植物	菊	
6730	菊園に天長節の國旗哉	32	秋	植物	菊	
6731	くれといへはしたゝかくれし小菊哉	32	秋	植物	菊	
6732	酒買ふて酒屋の菊をもらひけり	32	秋	植物	菊	
6733	藪蕎麥に菊の膾はなかりけり	32	秋	植物	菊	
6734	菊くゝる杖の長さをそろへけり	33	秋	植物	菊	
6735	燈心の如き白菊咲きにけり	33	秋	植物	菊	
6736	九日も知らぬ野菊のさかり哉	24	秋	植物	野菊	
6737	野菊折る手元に低し伊豆の嶋	24	秋	植物	野菊	
6738	石あげて野菊花さく力餅	25	秋	植物	野菊	
6739	石原にやせて倒るゝ野菊かな	25	秋	植物	野菊	
6740	草むらにはつきりとさく野菊哉	25	秋	植物	野菊	
6741	どつさりと山鴛籠おろす野菊かな	25	秋	植物	野菊	
6742	何のかのうき名をすてゝ野菊哉	25	秋	植物	野菊	
6743	秋三月咲て淋しき野菊哉	26	秋	植物	野菊	
6744	風吹て薄の中の野菊哉	26	秋	植物	野菊	
6745	捨草鞋野菊しかれて一盛り	26	秋	植物	野菊	
6746	寺見えて小道の曲る野菊哉	26	秋	植物	野菊	
6747	鄙のつと野菊にそへて參らせん	26	秋	植物	野菊	
6748	我庵や野菊の外に菊もなし	26	秋	植物	野菊	
6749	稻刈りて野菊おとろふ小道かな	27	秋	植物	野菊	

6750	稻刈て野菊淋しき小道哉	27	秋	植物	野菊	
6751	いやが上に野菊露草かさなりぬ	27	秋	植物	野菊	
6752	大寺の礎残る野菊かな	27	秋	植物	野菊	
6753	大水のあとを蟹行く野菊かな	27	秋	植物	野菊	
6754	草むらにもつともらしき野菊かな	27	秋	植物	野菊	
6755	けふの日を祝へ野菊の草枕	27	秋	植物	野菊	
6756	野菊咲て測量杭の丈低し	27	秋	植物	野菊	
6757	野菊咲いてまひまひ遊ぶ小川哉	27	秋	植物	野菊	
6758	野菊折つて足洗ふ里の女かな	27	秋	植物	野菊	
6759	道の邊に野菊咲くなり善光寺	27	秋	植物	野菊	
6760	屋根見れば野菊咲くなり古社	27	秋	植物	野菊	
6761	きり崖や日陰の野菊濡れて咲く	28	秋	植物	野菊	
6762	草の中に野菊咲くなり一里塚	28	秋	植物	野菊	
6763	草むらむら其中に野菊まじり咲く	28	秋	植物	野菊	
6764	肥溜のいくつも竝ぶ野菊かな	28	秋	植物	野菊	
6765	鐵砲のかすかにひゞく野菊哉	28	秋	植物	野菊	
6766	野菊やらん汽車の窓より見ゆる也	28	秋	植物	野菊	
6767	道の邊や荊がくれに野菊咲く	28	秋	植物	野菊	
6768	下草に野菊咲くなり杉木立	29	秋	植物	野菊	
6769	瘦馬の老尼載せ行く野菊哉	29	秋	植物	野菊	
6770	洪水に瘦せて野菊の花細き	30	秋	植物	野菊	
6771	杉の下に野菊咲きたる誰が冢ぞ	30	秋	植物	野菊	
6772	野菊待ちし女の童に逢ひぬ鈴鹿越	30	秋	植物	野菊	
6773	初旅をなぐさめ顔の野菊哉	30	秋	植物	野菊	
6774	道ばたに赤い菊さく野の小店	30	秋	植物	野菊	
6775	袱子垂れて野菊山萩顔に散る	30	秋	植物	野菊	
6776	朮すりのほこりをかぶる野菊哉	31	秋	植物	野菊	
6777	人力をあぜによけたる野菊かな	32	秋	植物	野菊	
6778	人力をよけたるくろの野菊哉	32	秋	植物	野菊	
6779	溝蕎麥に野菊乏しき川へ哉	32	秋	植物	野菊	
6780	尼寺の佛の花は野菊哉	33	秋	植物	野菊	
6781	野菊より嫁菜の花はかじけたる	33	秋	植物	野菊	
6782	穂蓼多くたまたま野菊柴に	33	秋	植物	野菊	
6783	ゆれ残る紫苑にさひし庭の秋	24	秋	植物	紫苑	
6784	ゆれ残る紫苑にさひし庵の秋	25	秋	植物	紫苑	
6785	ゆれ残る紫苑にさひし窓の秋	25	秋	植物	紫苑	
6786	淋しさを猶も紫苑ののびるなり	26	秋	植物	紫苑	
6787	雨そぼそぼ紫苑の花の盛り哉	27	秋	植物	紫苑	
6788	古庭に瘦せて紫苑のさかり哉	27	秋	植物	紫苑	
6789	弓鞆紫苑活けたり床の上	28	秋	植物	紫苑	
6790	竹籠に紫苑活けたり軸は誰	28	秋	植物	紫苑	
6791	床の間や紫苑を活けて弓鞆	28	秋	植物	紫苑	
6792	八重葎荒れにし宿の紫苑哉	28	秋	植物	紫苑	
6793	弓鞆紫苑生けたり床柱	28	秋	植物	紫苑	
6794	紫苑活けて机に向ふ讀書哉	31	秋	植物	紫苑	
6795	桔梗笠勘十郎の好み哉	25	秋	植物	桔梗	
6796	風吹て桔梗あぶなき細り哉	26	秋	植物	桔梗	
6797	桔梗折る妹が手もとのたゆげ也	26	秋	植物	桔梗	
6798	花籠に荅ばかりの桔梗哉	26	秋	植物	桔梗	
6799	一籠のこき紫や桔梗賣	26	秋	植物	桔梗	
6800	むつかしくつぼむ桔梗の力哉	26	秋	植物	桔梗	
6801	桔梗活けてしばらく假の書齋哉	28	秋	植物	桔梗	
6802	桔梗折つて婆のつれ立つ彼岸哉	28	秋	植物	桔梗	
6803	銅瓶に白き桔梗をさゝられたり	28	秋	植物	桔梗	

6804	銅瓶に白き桔梗をさゝれけり	28	秋	植物	桔梗	
6805	明日よりは桔梗折るべき人もなし	29	秋	植物	桔梗	
6806	桔梗活けて屏風は狩野の繫馬	29	秋	植物	桔梗	
6807	旅硯庭の桔梗は咲きにけり	29	秋	植物	桔梗	
6808	盗人の塚の横から桔梗かな	29	秋	植物	桔梗	
6809	秋もはや桔梗の名残花一つ	30	秋	植物	桔梗	
6810	雨はれて荒野の桔梗夕日照る	30	秋	植物	桔梗	
6811	枝ぶりの手折るに安き桔梗哉	30	秋	植物	桔梗	
6812	枝ぶりの折るにたやすき桔梗哉	30	秋	植物	桔梗	
6813	桔梗刈て菊の下葉の枯し見ゆ	30	秋	植物	桔梗	
6814	桔梗折れば撫子恨む女心	30	秋	植物	桔梗	
6815	種に刈る桔梗長く花一つ	30	秋	植物	桔梗	
6816	紫のふつとふくらむ桔梗哉	30	秋	植物	桔梗	
6817	二度生の低き桔梗や花多き	31	秋	植物	桔梗	
6818	梅干すや桔梗の花の傍に	33	秋	植物	桔梗	
6819	笠にさす那須野の桔梗花小し	33	秋	植物	桔梗	
6820	朝顔の垣根に鶏の遊びけり	21	秋	植物	朝顔	
6821	朝顔やきのふなかりし花のいる	21	秋	植物	朝顔	
6822	朝顔やきのふ八しらぬ花のいる	21	秋	植物	朝顔	
6823	朝顔や日うらに残る花一つ	21	秋	植物	朝顔	
6824	朝顔や日かけに残る花一つ	21	秋	植物	朝顔	
6825	朝顔やよしある人のわひ住ひ	22	秋	植物	朝顔	
6826	朝顔にわれ恙なきあした哉	23	秋	植物	朝顔	
6827	朝顔の荅數へてまはりけり	23	秋	植物	朝顔	
6828	朝顔やあてありさうにのびる蔓	23	秋	植物	朝顔	
6829	あさがほや顔子も居らん裏借家	23	秋	植物	朝顔	
6830	朝顔や氣儘に咲いておもしろき	23	秋	植物	朝顔	
6831	葬や人の心に塵もなし	23	秋	植物	朝顔	
6832	朝顔や夢裡の美人は消えて行く	23	秋	植物	朝顔	
6833	朝がほや夢の美人の消え處	23	秋	植物	朝顔	
6834	朝顔や我筆先に花も咲け	23	秋	植物	朝顔	
6835	ほのぼのに朝顔見るや？一重	23	秋	植物	朝顔	<巾+厨>
6836	めざましに朝がほ見るや蚊帳一重	23	秋	植物	朝顔	蚊帳(かや<蚊、巾+厨>)
6837	夕暮に朝顔の葉のならびけり	23	秋	植物	朝顔	
6838	朝かほや斜にさきしつる一つ	24	秋	植物	朝顔	
6839	朝な朝な朝がほながき契り哉	24	秋	植物	朝顔	
6840	朝な朝な朝がほながきさかり哉	24	秋	植物	朝顔	
6841	葬としらでとりつくかつら哉	25	秋	植物	朝顔	
6842	朝顔となりおほせたる垣根哉	25	秋	植物	朝顔	
6843	朝顔と見えて夜明る庵かな	25	秋	植物	朝顔	
6844	葬の地をはひわたる明家哉	25	秋	植物	朝顔	
6845	朝顔のつるさき秋に届きけり	25	秋	植物	朝顔	
6846	朝顔の日うら勝にてあはれなり	25	秋	植物	朝顔	
6847	葬の不二を脊にして咲きにけり	25	秋	植物	朝顔	
6848	朝顔のわつかに闇をはなれけり	25	秋	植物	朝顔	
6849	朝顔は命の中のいのちかな	25	秋	植物	朝顔	
6850	朝顔やあしたはいくつ開くやら	25	秋	植物	朝顔	
6851	朝顔や傾城町のうら通り	25	秋	植物	朝顔	
6852	葬や鉢に植ゑても同じ事	25	秋	植物	朝顔	
6853	稻妻に朝顔つぼむ夕かな	25	秋	植物	朝顔	
6854	白露や葬は世に長きもの	25	秋	植物	朝顔	
6855	葬に今朝は朝寐の亭主あり	26	秋	植物	朝顔	
6856	葬に土佐の昔画元にけり	26	秋	植物	朝顔	
6857	葬に引きくづされな一軒家	26	秋	植物	朝顔	

6858	葬に昔女の住居かな	26	秋	植物	朝顔	
6859	葬の入谷豆腐の根岸哉	26	秋	植物	朝顔	
6860	葬の咲くがあはれや日に向けて	26	秋	植物	朝顔	
6861	葬の何しに赤を咲く事ぞ	26	秋	植物	朝顔	
6862	葬の残る日陰のいほり哉	26	秋	植物	朝顔	
6863	葬は開く間を賣られけり	26	秋	植物	朝顔	
6864	葬やあるじの外は知らぬ也	26	秋	植物	朝顔	
6865	葬やいづれかさきに露の玉	26	秋	植物	朝顔	
6866	葬や君いかめしき文學士	26	秋	植物	朝顔	
6867	葬や客來てあるじまだ寐たり	26	秋	植物	朝顔	
6868	葬や心にひゞく尼の鉦	26	秋	植物	朝顔	
6869	葬や此頃へりし花の数	26	秋	植物	朝顔	
6870	葬や誰が恨みに瘦せはてし	26	秋	植物	朝顔	
6871	葬や千代萬代の花の種	26	秋	植物	朝顔	
6872	葬やはなだの上に霧かゝる	26	秋	植物	朝顔	
6873	妹の朝顔赤を咲きにけり	26	秋	植物	朝顔	
6874	風吹て葬開く垣間かな	26	秋	植物	朝顔	
6875	人の家を借りて葬さかせけり	26	秋	植物	朝顔	
6876	めつらしや葬老いて花一つ	26	秋	植物	朝顔	
6877	我夢をめぐつて葬のさかり哉	26	秋	植物	朝顔	
6878	朝貌のかくて宵寐の人ならし	26	秋	植物	朝顔	
6879	朝顔にまた明日迄の命哉	27	秋	植物	朝顔	
6880	朝顔の石に這ひつく山家哉	27	秋	植物	朝顔	
6881	朝顔の這ひいでて咲きぬ堀の蔦	27	秋	植物	朝顔	
6882	朝顔の引き捨てられし荅かな	27	秋	植物	朝顔	
6883	葬や赤きを咲ける妹が垣	27	秋	植物	朝顔	
6884	朝顔や明石のお城須磨の船	27	秋	植物	朝顔	
6885	朝顔や入谷あたりの只の家	27	秋	植物	朝顔	
6886	朝顔や塵紙を漉く一つ家	27	秋	植物	朝顔	
6887	朝顔や野茶屋の垣根まばらなり	27	秋	植物	朝顔	
6888	朝顔や實勝になりて花細し	27	秋	植物	朝顔	
6889	朝顔やわれ未だ起きずと思ふらん	27	秋	植物	朝顔	
6890	貸家札葬の庵と申さばや	27	秋	植物	朝顔	
6891	何も彼も庭は葬だらけなり	27	秋	植物	朝顔	
6892	二三輪葬咲くや竹格子	27	秋	植物	朝顔	
6893	人もなし葬の垣根蔦の壁	27	秋	植物	朝顔	
6894	紅筆の朝顔風に咲きにけり	27	秋	植物	朝顔	
6895	曲り曲り突きあたる垣の葬ぞ	27	秋	植物	朝顔	
6896	曲り曲り突きあたる家の葬ぞ	27	秋	植物	朝顔	
6897	芋をうむや葬の花まばらなる	27	秋	植物	朝顔	
6898	葬に一夜とめたる車かな	28	秋	植物	朝顔	
6899	葬に餅あたゝかき茶店かな	28	秋	植物	朝顔	
6900	葬の蔦にとりつく山家哉	28	秋	植物	朝顔	
6901	葬の蒼うれしや酒の爛	28	秋	植物	朝顔	爛(かん<酉+間>)
6902	葬の花くふ鹿やいつく嶋	28	秋	植物	朝顔	
6903	葬や裏這ひまはる八軒家	28	秋	植物	朝顔	
6904	葬やきのふ死んだる小傾城	28	秋	植物	朝顔	
6905	葬やとても短き浮世なら	28	秋	植物	朝顔	
6906	葬や十日戻らぬ小商人	28	秋	植物	朝顔	
6907	葬や乗りおくれたる二番舟	28	秋	植物	朝顔	
6908	雨十日朝顔の花細りけり	28	秋	植物	朝顔	
6909	歸るか朝顔咲きし留守の垣	28	秋	植物	朝顔	
6910	歸るかあさかほさくや留守の垣	28	秋	植物	朝顔	
6911	きぬぎぬや葬いまだ綻びず	28	秋	植物	朝顔	

6912	きぬきぬや葬折りに参らする	28	秋	植物	朝顔	
6913	きのふ活けて今日葬の花もなし	28	秋	植物	朝顔	
6914	逆上の人葬に遊ぶべし	28	秋	植物	朝顔	
6915	小傾城葬の君と申しけり	28	秋	植物	朝顔	
6916	とりつきて葬上る柳哉	28	秋	植物	朝顔	
6917	朝顔に傾城だちの軒かな	29	秋	植物	朝顔	
6918	朝顔に吉原の夢はさめにけり	29	秋	植物	朝顔	
6919	朝顔の彩色薄き燈籠かな	29	秋	植物	朝顔	
6920	朝顔の澁色茶色なども咲きぬ	29	秋	植物	朝顔	
6921	葬の松にとりつく心かな	29	秋	植物	朝顔	
6922	朝顔やいろいろに咲いて皆萎む	29	秋	植物	朝顔	
6923	葬や枳殻のとげの中に咲く	29	秋	植物	朝顔	
6924	葬や新聞を讀みながら行く	29	秋	植物	朝顔	
6925	朝顔や寐ぼけた色を咲かせけり	29	秋	植物	朝顔	
6926	垣の外に朝顔咲くや上根岸	29	秋	植物	朝顔	
6927	かれかれになりて朝顔の花一つ	29	秋	植物	朝顔	
6928	きぬきぬを朝顔の花に見られけり	29	秋	植物	朝顔	
6929	三圓の葬何ともなかりけり	29	秋	植物	朝顔	
6930	瑠璃色の朝顔咲きぬ下厠	29	秋	植物	朝顔	
6931	瑠璃色の朝顔さくや松の枝	29	秋	植物	朝顔	
6932	葬に朝商ひす篠の雪	30	秋	植物	朝顔	
6933	朝顔の車立てたり裏御門	30	秋	植物	朝顔	
6934	朝顔のさまざま色を盡す哉	30	秋	植物	朝顔	
6935	朝顔の戸に掛けて去る牛の乳	30	秋	植物	朝顔	
6936	朝顔の鉢竝べたり萩の前	30	秋	植物	朝顔	
6937	朝顔の鉢に分限を見するかな	30	秋	植物	朝顔	
6938	竹垣に葬の咲く空家かな	30	秋	植物	朝顔	
6939	敲けども葬咲て明家なり	30	秋	植物	朝顔	
6940	晩酌に對す葬の花一つ	30	秋	植物	朝顔	
6941	古庭の葬さきぬ霧の中	30	秋	植物	朝顔	
6942	朝顔にあさつての蒼多き哉	31	秋	植物	朝顔	
6943	朝顔にからむ隣の瓢哉	31	秋	植物	朝顔	
6944	朝顔の淺黄は薄き夜明哉	31	秋	植物	朝顔	
6945	朝顔の垣に鴉のとまりけり	31	秋	植物	朝顔	
6946	朝顔の垣や上野の山かつら	31	秋	植物	朝顔	
6947	朝顔の白き蕾を尋ねけり	31	秋	植物	朝顔	
6948	朝顔の白きは画にもかゝぬなり	31	秋	植物	朝顔	
6949	朝顔の種を干す日や鴟の聲	31	秋	植物	朝顔	
6950	朝顔の鉢移したるうがひ哉	31	秋	植物	朝顔	
6951	朝顔の花木深しや松の中	31	秋	植物	朝顔	
6952	朝顔の花猶存す午の雨	31	秋	植物	朝顔	
6953	朝顔や新聞くばる鈴の音	31	秋	植物	朝顔	
6954	朝顔や團十郎の名を憎む	31	秋	植物	朝顔	
6955	朝顔や松の梢の花一つ	31	秋	植物	朝顔	
6956	朝顔や紫しほる朝の雨	31	秋	植物	朝顔	
6957	入谷から出る朝顔の車哉	31	秋	植物	朝顔	
6958	この頃の葬藍に定まりぬ	31	秋	植物	朝顔	
6959	實になりし鉢の朝顔花一つ	31	秋	植物	朝顔	
6960	山里の葬藍も紺もなし	31	秋	植物	朝顔	
6961	朝顔の花や上野の山かつら	32	秋	植物	朝顔	
6962	朝顔に傾城眠きさかり哉	32	秋	植物	朝顔	
6963	朝顔の垣根荒れたり小傾城	32	秋	植物	朝顔	
6964	葬のはじめて咲きし二輪哉	32	秋	植物	朝顔	
6965	咲て見れば團十郎でなかりけり	32	秋	植物	朝顔	

6966	おくればせに朝顔蒔きつまだ生えず	33	秋	植物	朝顔	
6967	薺ノ一輪ザシニ萎レケリ	34	秋	植物	朝顔	
6968	朝顔ノシボマヌ秋トナリニケリ	34	秋	植物	朝顔	
6969	朝顔ヤ九月ノ花ニ耻多キ	34	秋	植物	朝顔	
6970	朝顔ヤ繪ニカクウチニ萎レケリ	34	秋	植物	朝顔	
6971	朝顔ヤ繪ノ具ニジンデ繪ヲ成サズ	34	秋	植物	朝顔	
6972	朝顔や我に寫生の心あり	35	秋	植物	朝顔	
6973	川飛んたきほひあまりて女郎花	24	秋	植物	朝顔	
6974	つとのびてほちりとさくや女郎花	24	秋	植物	朝顔	
6975	足柄や花に雲おく女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6976	うき人にすねて見せけり女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6977	末枯や覺束なくも女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6978	かたまるを力にさくや女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6979	大名の庭に瘦せたり女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6980	月の中に一本高し女郎花	25	秋	植物	朝顔	
6981	女郎花生ひそふ小家の柱かな	25	秋	植物	朝顔	
6982	すよすよとのびて淋しや女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6983	ちよほちよほと花かたまつて女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6984	露あげる力もなくて女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6985	舟引きの背丈短し女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6986	又一つ墓のふゑけり女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6987	三日月は眉より細し女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6988	道ばたに誰がくねらせて女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6989	夕風のもつれそめけり女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6990	鎧着て行き臥す人や女郎花	26	秋	植物	朝顔	
6991	女郎花枝の出るこそわりなけれ	26	秋	植物	女郎花	
6992	女郎花關屋の厠やつれけり	26	秋	植物	女郎花	
6993	女郎花たゞはづかしき許り也	26	秋	植物	女郎花	
6994	女郎花汝朝顔を知るや知らずや	26	秋	植物	女郎花	
6995	女郎花昔の人のすがた也	26	秋	植物	女郎花	
6996	此邊を通ふ汽車あり女郎花	27	秋	植物	女郎花	
6997	小法師に心ゆるすな女郎花	27	秋	植物	女郎花	
6998	何戀ひて瘦するぞ小野の女郎花	27	秋	植物	女郎花	
6999	女郎花日毎にのびてあはれなり	27	秋	植物	女郎花	
7000	戀塚や男芒に女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7001	淋しさに堪へて廣野の女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7002	裾山や小松が中の女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7003	裾山や小松の上の女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7004	裾山や小松の中の女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7005	一もとは誰が塚古りて女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7006	堀わりや此頃はえし女郎花	28	秋	植物	女郎花	
7007	鶯昇の裸て寐たり女郎花	29	秋	植物	女郎花	
7008	十里来て旅僧暮れぬ女郎花	29	秋	植物	女郎花	
7009	吹かるゝや薄の中の女郎花	29	秋	植物	女郎花	
7010	女郎花宮守ならば物語れ	29	秋	植物	女郎花	
7011	女郎花宮守ならば物語る	29	秋	植物	女郎花	
7012	女郎花男郎花戀のはじめ也	29	秋	植物	女郎花	
7013	芒より一尺高し女郎花	30	秋	植物	女郎花	
7014	女郎花の宿を尾花に尋ねばや	30	秋	植物	女郎花	
7015	淋しさや芒の中の女郎花	31	秋	植物	女郎花	
7016	若君は鶯にめされつ女郎花	31	秋	植物	女郎花	
7017	女郎花刀のこじりさはりけり	31	秋	植物	女郎花	
7018	嵯峨野行く被衣姿や女郎花	32	秋	植物	女郎花	
7019	關越えて野道になりぬ女郎花	32	秋	植物	女郎花	

7020	雨ノ日や皆倒レタル女郎花	34	秋	植物	女郎花	
7021	女郎花女なからも一人前	35	秋	植物	女郎花	
7022	鶏頭はまだ下草よ女郎花	不詳	秋	植物	女郎花	
7023	名にばかりつよみを見せて男郎花	23	秋	植物	男郎花	
7024	淋しさをこらへて白し男郎花	25	秋	植物	男郎花	
7025	七草に入らぬあはれや男郎花	25	秋	植物	男郎花	
7026	手折るべき女もなくて男郎花	28	秋	植物	男郎花	
7027	男郎花女を待てる風情哉	28	秋	植物	男郎花	
7028	男郎花は男にばけし女かな	28	秋	植物	男郎花	
7029	一、二を生し二、三を生す我亦香	24	秋	植物	吾亦紅	
7030	春か秋か何とも見えぬ我亦香	24	秋	植物	吾亦紅	
7031	鶏頭や壁のやぶれた夕日影	24	秋	植物	鶏頭	
7032	鶏頭や壁のやぶれをもる夕日影	24	秋	植物	鶏頭	
7033	鶏頭や蜘蛛のとぢたるうり家札	24	秋	植物	鶏頭	
7034	鶏頭や馬子がきせるの雁首に	25	秋	植物	鶏頭	
7035	鶏頭や馬土が烟管の雁首で	25	秋	植物	鶏頭	
7036	何もかもかれて墓場の鶏頭花	25	秋	植物	鶏頭	
7037	裏町は鶏頭淋しーくるわ	26	秋	植物	鶏頭	
7038	鶏頭や賤が伏家の唐錦	26	秋	植物	鶏頭	
7039	鶏頭のうしろを通る荷汽車哉	27	秋	植物	鶏頭	
7040	鶏頭や油ぎつたる花の色	27	秋	植物	鶏頭	
7041	鶏頭や雨の夕日の壁を漏る	27	秋	植物	鶏頭	
7042	鶏頭やあれたきまゝの背戸畠	27	秋	植物	鶏頭	
7043	大木に竝んで高し鶏頭花	27	秋	植物	鶏頭	
7044	二三本鶏頭咲けり墓の間	27	秋	植物	鶏頭	
7045	墓原や小草も無しに鶏頭花	27	秋	植物	鶏頭	
7046	鶏頭の丈を揃へたる土堀哉	28	秋	植物	鶏頭	
7047	鶏頭的一本残る畠かな	28	秋	植物	鶏頭	
7048	藁葺の法華の寺や鶏頭花	28	秋	植物	鶏頭	
7049	秋盡きんとして鶏頭愚也けり	29	秋	植物	鶏頭	
7050	芋引かれ豆ひかれ鶏頭二三本	29	秋	植物	鶏頭	
7051	鶏頭高くのび蒞柿低く垂る	29	秋	植物	鶏頭	
7052	鶏頭の晝も過ぎたり念佛講	29	秋	植物	鶏頭	
7053	鶏頭の瘦せて枝多く花細し	29	秋	植物	鶏頭	
7054	鶏頭の夕影長き畠かな	29	秋	植物	鶏頭	
7055	鶏頭も松も植ゑたる小庭哉	29	秋	植物	鶏頭	
7056	鶏頭や遊行を拜む道の端	29	秋	植物	鶏頭	
7057	鶏頭を伐り倒したる夕日かな	29	秋	植物	鶏頭	
7058	村會のあと静かなり鶏頭花	29	秋	植物	鶏頭	
7059	筑波暮れて夕日の鶏頭五六本	29	秋	植物	鶏頭	
7060	芭蕉青く鶏頭赤き野寺かな	29	秋	植物	鶏頭	
7061	鶏頭の下にごみ焚く墓場哉	30	秋	植物	鶏頭	
7062	鶏頭の下にごみ焼く墓場哉	30	秋	植物	鶏頭	
7063	鶏頭に大砲ひゞく日午也	31	秋	植物	鶏頭	
7064	鶏頭の短き影や蟻の穴	31	秋	植物	鶏頭	
7065	佛壇に鶏頭枯るゝ日數哉	31	秋	植物	鶏頭	
7066	鶏頭活けて地藏を洗ふお願哉	32	秋	植物	鶏頭	
7067	鶏頭の十本ばかり百姓家	32	秋	植物	鶏頭	
7068	鶏頭に秋の夕の迫りけり	33	秋	植物	鶏頭	
7069	鶏頭に車引き入るゝごみ屋哉	33	秋	植物	鶏頭	
7070	鶏頭の傾く秋の名残哉	33	秋	植物	鶏頭	
7071	鶏頭の十四五本もありぬべし	33	秋	植物	鶏頭	
7072	鶏頭の花にとまりしばつた哉	33	秋	植物	鶏頭	
7073	鶏頭の花に涙を濺ぎけり	33	秋	植物	鶏頭	

7074	鶏頭の林に君を送る哉	33	秋	植物	鶏頭	
7075	鶏頭や二度の野分に恙なし	33	秋	植物	鶏頭	
7076	誰が植糸しともなき路次の鶏頭や	33	秋	植物	鶏頭	
7077	萩刈て鶏頭の庭となりにけり	33	秋	植物	鶏頭	
7078	鶏頭や今年ノ秋モタノモシキ	34	秋	植物	鶏頭	
7079	鶏頭や絲瓜や庵八貧ナラズ	34	秋	植物	鶏頭	
7080	ムラ雨ノ過ギテ鶏頭ノ夕日カナ	34	秋	植物	鶏頭	
7081	とりませた一木の色や葉鶏頭	25	秋	植物	葉鶏頭	
7082	とりませる一木の色や葉鶏頭	25	秋	植物	葉鶏頭	
7083	一家や富士を見越の雁來紅	25	秋	植物	葉鶏頭	
7084	百姓の秋はうつくし葉鶏頭	25	秋	植物	葉鶏頭	
7085	牛部屋の入口狭し葉鶏頭	26	秋	植物	葉鶏頭	
7086	葉鶏頭や老菜の家奇麗なり	26	秋	植物	葉鶏頭	
7087	うつくしき色見えそめぬ葉鶏頭	27	秋	植物	葉鶏頭	
7088	釣鐘の寄進につくや葉鶏頭	29	秋	植物	葉鶏頭	
7089	鶏頭や不折がくれし葉鶏頭	31	秋	植物	葉鶏頭	
7090	葉鶏頭晝照草を引きにけり	31	秋	植物	葉鶏頭	
7091	葉鶏頭の首を投げたる天氣哉	31	秋	植物	葉鶏頭	
7092	駕吊りし醫師か門や葉鶏頭	32	秋	植物	葉鶏頭	
7093	駕吊りし醫師か宿や葉鶏頭	32	秋	植物	葉鶏頭	
7094	朝顔の枯し垣根や葉鶏頭	33	秋	植物	葉鶏頭	
7095	葉鶏頭の三寸にして眞赤也	33	秋	植物	葉鶏頭	
7096	葉鶏頭の錦を照す夕日哉	33	秋	植物	葉鶏頭	
7097	鯊釣の日和になりぬ葉鶏頭	33	秋	植物	葉鶏頭	
7098	堀低き田舎の家や葉鶏頭	33	秋	植物	葉鶏頭	
7099	水引を草に覺ゆるこじきかな	25	秋	植物	水引草	
7100	牛鳴て水引草のさかり哉	26	秋	植物	水引草	
7101	かひなしや水引草の花ざかり	28	秋	植物	水引草	
7102	彼岸過水引草の花さきぬ	28	秋	植物	水引草	
7103	藤袴笠は何笠桔梗笠	25	秋	植物	藤袴	
7104	賤が家に花白粉の赤かりき	28	秋	植物	白粉花	
7105	一つ木におしろいの花の黄と赤と	29	秋	植物	白粉花	
7106	道端に白粉花咲ぬ須磨の里	30	秋	植物	白粉花	
7107	おしろいは妹のものよ俗な花	31	秋	植物	白粉花	
7108	一嵐おしろいの花倒れけり	31	秋	植物	白粉花	
7109	花ならば爪くれなゐやおしろいや	35	秋	植物	白粉花	
7110	一輪の天竺牡丹活けて秋	28	秋	植物	ダリア	
7111	後れ咲の天竺牡丹活けて秋	28	秋	植物	ダリア	
7112	川水は下をくゞるや蓼の花	24	秋	植物	蓼の花	
7113	城あとや石すえわれて蓼の花	24	秋	植物	蓼の花	
7114	葉を洗ふ川の濁りや蓼の花	24	秋	植物	蓼の花	
7115	ふみこんで片足ぬらすたでの花	24	秋	植物	蓼の花	
7116	犬蓼の花くふ馬や茶の煙	25	秋	植物	蓼の花	
7117	一ツ家の家根に蓼咲く山路かな	25	秋	植物	蓼の花	
7118	堀川の満干のあとや蓼の花	25	秋	植物	蓼の花	
7119	山里にすゝけて咲くや蓼の花	25	秋	植物	蓼の花	
7120	井戸堀や砂かぶせたる蓼の花	25	秋	植物	蓼の花	
7121	白水の行へや蓼の花盛り	26	秋	植物	蓼の花	
7122	石搭を橋にかけたり蓼の花	27	秋	植物	蓼の花	
7123	雪隠を埋めて蓼のさかりかな	27	秋	植物	蓼の花	
7124	水赤く泡流れけり蓼の花	27	秋	植物	蓼の花	
7125	森ぬけて川へ出づれば蓼の花	27	秋	植物	蓼の花	
7126	畦道の盡きて溝あり蓼の花	28	秋	植物	蓼の花	
7127	蓼の穂や裸子桶をさげて行く	28	秋	植物	蓼の花	

7128	溝川を埋めて蓼のさかりかな	28	秋	植物	蓼の花	
7129	水せきて穂蓼踏み込む野川哉	28	秋	植物	蓼の花	
7130	畦道の曲り曲りや蓼の花	29	秋	植物	蓼の花	
7131	門前に舟繋ぎけり蓼の花	29	秋	植物	蓼の花	
7132	蓼咲くや溜壺一つ寺の跡	31	秋	植物	蓼の花	
7133	蓼の穂や溜壺一つ寺の跡	31	秋	植物	蓼の花	
7134	葉も花にさいてや赤し曼珠沙花	24	秋	植物	曼珠沙華	
7135	葉も花になつてしまふか曼珠沙花	24	秋	植物	曼珠沙華	
7136	秋風に枝も葉もなし曼珠沙花	25	秋	植物	曼珠沙華	
7137	かたかたは花そば白し曼珠沙花	25	秋	植物	曼珠沙華	
7138	酒のんだ僧の後生やまんじゆ沙花	25	秋	植物	曼珠沙華	
7139	そのあたり似た草もなし曼珠沙花	25	秋	植物	曼珠沙華	
7140	露むすぶ處さへなし曼珠沙花	25	秋	植物	曼珠沙華	
7141	野ぜんちをさへて咲くや曼珠さけ	25	秋	植物	曼珠沙華	
7142	ひしひしと立つや墓場のまん珠さけ	25	秋	植物	曼珠沙華	
7143	餘の草にはなれて赤しまんじゆさけ	25	秋	植物	曼珠沙華	
7144	秣にもならぬあはれや曼珠沙花	26	秋	植物	曼珠沙華	
7145	葉もなしに何をあわてゝ曼珠沙花	27	秋	植物	曼珠沙華	
7146	古塚や誰が細工の曼珠沙花	27	秋	植物	曼珠沙華	
7147	陵や何と思ふて曼珠沙花	27	秋	植物	曼珠沙華	
7148	叢やきよろりとしたる曼珠沙花	28	秋	植物	曼珠沙華	
7149	草むらや土手ある限り曼珠沙花	28	秋	植物	曼珠沙華	
7150	四本五本はてはものうし曼珠沙華	28	秋	植物	曼珠沙華	
7151	ひよつと葉は牛が喰ふたか曼珠沙花	28	秋	植物	曼珠沙華	
7152	道ばたやきよろりとしたる曼珠沙花	28	秋	植物	曼珠沙華	
7153	道ばたや魂消たやうに曼珠沙花	28	秋	植物	曼珠沙華	
7154	曼珠沙花野暮な親父の墓の前	29	秋	植物	曼珠沙華	
7155	田の中の墓原いくつ曼珠沙華	31	秋	植物	曼珠沙華	
7156	日の落る野中の丘や曼珠沙華	31	秋	植物	曼珠沙華	
7157	曼珠沙花郷居の叔父を訪ふ日哉	31	秋	植物	曼珠沙華	
7158	曼珠沙花郷居の叔父を訪ふ道に	31	秋	植物	曼珠沙華	
7159	じゅずだまの小道盡きたり曼珠沙華	33	秋	植物	曼珠沙華	じゅずだま(漢字二文字:草冠+意、苳)
7160	二里足らぬ道に飽きけり曼珠沙華	33	秋	植物	曼珠沙華	
7161	蘭の香に一絃琴の音じめ哉	27	秋	植物	蘭	
7162	雨蕭々建蘭の花老いて黒し	28	秋	植物	蘭	
7163	雨蕭々蘭の花老いて黒し	28	秋	植物	蘭	
7164	十両を虻もすさめず蘭の花	28	秋	植物	蘭	
7165	百両を虻もすさめず蘭の花	28	秋	植物	蘭	
7166	蘭の香に来る人を待つ夕哉	28	秋	植物	蘭	
7167	蘭の香に琴ひく人の聲ねびたり	28	秋	植物	蘭	
7168	蘭の香や女詩うたふ詩は東坡	28	秋	植物	蘭	
7169	蘭の香ににび色の衣脱捨てし	29	秋	植物	蘭	
7170	蘭の香ににび色の下着脱きすてし	29	秋	植物	蘭	
7171	蘭の香や佳人髣髴として来る	29	秋	植物	蘭	
7172	蘭の香や旅の装束脱ぎたまふ	29	秋	植物	蘭	
7173	石摺を掛けて盆蘭の花黄なり	30	秋	植物	蘭	
7174	清貧の家に客あり蘭の花	30	秋	植物	蘭	
7175	蘭の如き君子桂の如き儒者	31	秋	植物	蘭	
7176	獵の犬蘭の葎に探りけり	31	秋	植物	蘭	
7177	雨しぶく書齋の椽や蘭の鉢	32	秋	植物	蘭	
7178	酒濁れり蘭の詩を書く琴の裏	32	秋	植物	蘭	
7179	潮州の碑の石摺や蘭の花	32	秋	植物	蘭	
7180	筆談の客と主や蘭の花	32	秋	植物	蘭	
7181	人賤しく蘭の價を論じけり	32	秋	植物	蘭	

7182	蘭咲くや大國香は墨の銘	32	秋	植物	蘭	
7183	蘭散て萬年青を愛す主哉	32	秋	植物	蘭	
7184	蘭の香に舞樂の面の古ひ哉	32	秋	植物	蘭	
7185	蘭の香や蘭の詩を書く琴の裏	32	秋	植物	蘭	
7186	蘭の主花咲く事を厭ひけり	32	秋	植物	蘭	
7187	蘭の花支那の言葉を話しけり	32	秋	植物	蘭	
7188	蘭の花文宣公の祭かな	32	秋	植物	蘭	
7189	蘭の花文宣公を祭りかな	32	秋	植物	蘭	
7190	蘭の花我に鄙吝の心あり	32	秋	植物	蘭	
7191	蘭を画て疊に墨のこぼれ哉	32	秋	植物	蘭	
7192	蘭を画て疊に透る墨の跡	32	秋	植物	蘭	
7193	鶴の羽の抜けて残りぬ力草	29	秋	植物	力草	
7194	四つばひにあるは根芹を力草	30	秋	植物	力草	
7195	檀特や何度聞いても忘れ草	27	秋	植物	檀特花	
7196	草むらに檀特花わつかに赤し	29	秋	植物	檀特花	
7197	草むらむら檀特花わつかに赤し	35	秋	植物	檀特花	
7198	行く秋のふらさかりけり烏瓜	24	秋	植物	烏瓜	
7199	竹藪に一つる重し烏瓜	25	秋	植物	烏瓜	
7200	螳螂の首くゝりけり烏瓜	26	秋	植物	烏瓜	
7201	只一つ高きところに烏瓜	28	秋	植物	烏瓜	
7202	水車場を圍む小藪や烏瓜	31	秋	植物	烏瓜	
7203	犬の塚狗子草など生えぬべし	29	秋	植物	狗尾草	
7204	露草や露の細道人もなし	27	秋	植物	露草	
7205	牛部屋に露草咲きぬ牛の留守	28	秋	植物	露草	
7206	露草や野川の鮒のさゝ濁り	28	秋	植物	露草	
7207	露草の中にたまたま野菊哉	31	秋	植物	露草	
7208	百両の萬年青引ぬくわらべ哉	26	秋	植物	万年青の実	
7209	百両の蘭百両の萬年青哉	30	秋	植物	万年青の実	
7210	七くさを見るや千くさの人心	21	秋	植物	秋の七草	
7211	花を折る程には酔はず秋の草	21	秋	植物	秋の七草	
7212	入口に七草植糸ぬ花屋敷	32	秋	植物	秋の七草	
7213	筆塚や何ともしれぬ草の花	23	秋	植物	草の花	
7214	知らぬ名の草花つむや足の豆	24	秋	植物	草の花	
7215	聞たより箱根はやさし草の花	25	秋	植物	草の花	
7216	草花や人力はしる秋田道	26	秋	植物	草の花	
7217	五文づゝに分けて淋しや草の花	26	秋	植物	草の花	
7218	新道や繩手はつれて草の花	26	秋	植物	草の花	
7219	にぎやかな手向淋しや草の花	26	秋	植物	草の花	
7220	にぎやかに手向けて淋し草の花	26	秋	植物	草の花	
7221	御佛の顔つゝきけり草の花	26	秋	植物	草の花	
7222	石垣や何を種とて草の花	27	秋	植物	草の花	
7223	垣の内に花見ゆあれは何の草	27	秋	植物	草の花	
7224	草の花人の死にしは昔なり	27	秋	植物	草の花	
7225	草花や名も無き小川水清し	27	秋	植物	草の花	
7226	草花や小川にそふて王子まで	27	秋	植物	草の花	
7227	草むらや名も知らぬ花の白き咲く	27	秋	植物	草の花	
7228	西洋の草花赤し明屋敷	27	秋	植物	草の花	
7229	蛇塚や何とも知れぬ草の花	27	秋	植物	草の花	
7230	山を負ふて草の花咲く庵かな	27	秋	植物	草の花	
7231	縁日や鉢に栽糸たる草の花	28	秋	植物	草の花	
7232	草の花少しありけば道後なり	28	秋	植物	草の花	
7233	草の花練兵場は荒れにけり	28	秋	植物	草の花	
7234	崩れかゝる土橋のふちを草の花	28	秋	植物	草の花	
7235	城門やいくさもなくて草の花	28	秋	植物	草の花	

7236	城跡や風ほそほと草の花	28	秋	植物	草の花	
7237	堂崩れて地藏残りぬ草の花	28	秋	植物	草の花	
7238	つくりしよ茶店の前の草の花	28	秋	植物	草の花	
7239	露もつや朝日斜めに草の花	28	秋	植物	草の花	
7240	何草そ屋根に花咲く奈良の宿	28	秋	植物	草の花	
7241	草の花水々車場へ分れ行く	29	秋	植物	草の花	
7242	草花の一筋道や湯元迄	29	秋	植物	草の花	
7243	塚もなしむくろも見えず艸の花	29	秋	植物	草の花	
7244	日もすかぬ森の下草花白し	29	秋	植物	草の花	
7245	日もすかぬ森の下道草の花	29	秋	植物	草の花	
7246	骨も見えずむくろも見えず草の花	29	秋	植物	草の花	
7247	山駕や榛名上れば草の花	29	秋	植物	草の花	
7248	草花に茶代を吝む鶯花園	30	秋	植物	草の花	
7249	ごてごてと草花植し小庭哉	30	秋	植物	草の花	
7250	物陰や百日草の今もさく	30	秋	植物	草の花	
7251	山深く草花咲いて色怪し	30	秋	植物	草の花	
7252	市に得し草花植る夜半哉	31	秋	植物	草の花	
7253	邪魔になる松を伐らば草の花	31	秋	植物	草の花	
7254	テーブルを庭に据ゑたり草の花	31	秋	植物	草の花	
7255	人は徒歩駕にくゝりし草の花	31	秋	植物	草の花	
7256	ひとり生えの草皆花となりけり	31	秋	植物	草の花	
7257	飛石に草花鉢や水を打つ	32	秋	植物	草の花	
7258	草花ノ鉢竝べタル床屋カナ	34	秋	植物	草の花	
7259	草の花つれなきものに思ひけり	35	秋	植物	草の花	
7260	草の實や笠がさはればほろほると	27	秋	植物	草の実	
7261	草の實や少し赤らむ茨の垣	29	秋	植物	草の実	
7262	夕日うつる草の實赤し藪の奥	29	秋	植物	草の実	
7263	草の實の赤くして馬もくはざりき	30	秋	植物	草の実	
7264	草の實のこぼるゝ谷やかけす鳴く	30	秋	植物	草の実	
7265	草の實や鎌倉古りて墓多き	30	秋	植物	草の実	
7266	草の實や谷を覗きて見れば家	30	秋	植物	草の実	
7267	草の實を摘まんとすれば木の實落つ	30	秋	植物	草の実	
7268	喰へさうな草の實見ゆる葎哉	30	秋	植物	草の実	
7269	湯治場へ草の實多き山を下る	30	秋	植物	草の実	
7270	蔓草を引けばしたゝかに實の落る	30	秋	植物	草の実	
7271	毒草のうつくしき實を結びけり	30	秋	植物	草の実	
7272	撫子の種つるしたり花もある	30	秋	植物	草の実	
7273	蓮の實のからなり飛んだとも見えず	29	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7274	蓮の實はから也飛んだとも見えず	29	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7275	蓮の實を飛ばせて殻はしなびける	29	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7276	紅蓮の實飛びぬ白蓮の實も飛ぶ	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7277	結伽こゝに蓮の實の飛ぶ音聞ん	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7278	結伽して蓮の實の飛ぶ音聞ん	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7279	極樂は蓮の實飛で月丸し	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7280	蓮の實曰く豊干饒舌と終に飛ぶ	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7281	蓮の實の天女五衰の夕飛ぶ	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7282	蓮の實の飛ばずにくさるものもあらん	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7283	蓮の實の飛ばで小僧に喰れたる	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7284	蓮の實の飛ばねど淋し本願寺	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7285	蓮の實の飛ぶや出離の一大事	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7286	蓮の實の皆西へ飛ぶ夕哉	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7287	蓮の實は飛びぬ馬見所は崩されぬ	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7288	花いけに蓮の實いけて飛ぶを見ん	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7289	笑つては飛び怒つては飛び蓮實無し	30	秋	植物	蓮の実を結ぶ	

7290	蓮の實の飛ばずに死し石もあり	31	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7291	盆栽の蓮の實いまだ飛ばずある	31	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7292	蓮ノ實ヤ飛ンデ小僧ノ口ニ入ル	34	秋	植物	蓮の実を結ぶ	
7293	蓮の實を探つて見れば坊主哉	25	秋	植物	蓮の実	
7294	蓮の實のこほれ盡して何もなし	26	秋	植物	蓮の実	
7295	未枯やあらはれそめし牛の糞	26	秋	植物	未枯	
7296	未枯や帆綱干したる須磨の里	26	秋	植物	未枯	
7297	古妻やうら枯時の洗ひ張	26	秋	植物	未枯	
7298	未枯れて夕日の野邊の地藏哉	27	秋	植物	未枯	
7299	未枯のはてや稻荷の赤鳥居	27	秋	植物	未枯	
7300	未枯や人力つゞく屋敷跡	27	秋	植物	未枯	
7301	人足のしげき野邊より未枯るゝ	27	秋	植物	未枯	
7302	未枯に人を恐れぬ狐かな	28	秋	植物	未枯	
7303	未枯の若草山となりにけり	28	秋	植物	未枯	
7304	鴉啼く屋根の小草も未枯るゝ	28	秋	植物	未枯	
7305	未枯るゝ杉の下道齒朶薊	29	秋	植物	未枯	
7306	未枯るゝ森の下道齒朶薊	29	秋	植物	未枯	
7307	未枯や殘日薄き節婦の碑	29	秋	植物	未枯	
7308	子歸らず未枯時のかくれんぼ	29	秋	植物	未枯	
7309	古沼の草未枯れて鷺白し	29	秋	植物	未枯	
7310	未枯や人の行手の野は淋し	30	秋	植物	未枯	
7311	未枯の中に花咲く薊哉	31	秋	植物	未枯	
7312	相生の松茸笠をまじへけり	25	秋	植物	松茸	
7313	松茸や京は牛煮る相手にも	25	秋	植物	松茸	
7314	松茸や小鍋に秋の煮る音	25	秋	植物	松茸	
7315	行秋や松茸の笠そりかへる	25	秋	植物	松茸	
7316	松茸の笠ひろげたる日和哉	26	秋	植物	松茸	
7317	松茸にまじりて青き松葉哉	28	秋	植物	松茸	
7318	松茸はにくし茶茸は可愛らし	28	秋	植物	松茸	
7319	家土産の松茸匂ふ夜汽車哉	30	秋	植物	松茸	
7320	大なる松茸に逢著す端山哉	30	秋	植物	松茸	
7321	虚子を待つ松茸鮓に酒二合	30	秋	植物	松茸	
7322	虚子を待つ松茸鮓や酒二合	30	秋	植物	松茸	
7323	つれの者の松茸取りし妬み哉	30	秋	植物	松茸	
7324	松茸は茶村がくれし小豆飯	30	秋	植物	松茸	
7325	松茸を得ずして歸る女哉	30	秋	植物	松茸	
7326	松茸の乏しくなりて柚味噌哉	32	秋	植物	松茸	
7327	秋もはや松茸飯のなごり哉	33	秋	植物	松茸	
7328	松茸や菊の膾の色に出つ	33	秋	植物	松茸	
7329	松茸や京の下宿の土瓶蒸	33	秋	植物	松茸	
7330	松茸や思ヒ出デタル古人ノ句	34	秋	植物	松茸	
7331	落葉かく子に茸の名を尋けり	24	秋	植物	茸	
7332	毒茸の下や誰が骨星が岡	25	秋	植物	茸	
7333	相生の松の陰より木の子哉	26	秋	植物	茸	
7334	平茸や兼好すみし家のあと	26	秋	植物	茸	
7335	人も來らず辻堂荒れて線香茸	27	秋	植物	茸	
7336	ものゝ香のきのこあるべく思ふかな	27	秋	植物	茸	
7337	ものゝ香の茸あるべくも思ふかな	27	秋	植物	茸	
7338	名も知らぬ茸や山のはいり口	28	秋	植物	茸	
7339	色黄にして穴の多きは毒茸ぞ	29	秋	植物	茸	
7340	色黄にして裏に穴あるは毒茸ぞ	29	秋	植物	茸	
7341	毒茸や赤きは眞赤黄は眞黄	29	秋	植物	茸	
7342	茶茸得て歸らんとすればしめぢ哉	30	秋	植物	茸	
7343	茶茸得て歸る小山のしめぢ哉	30	秋	植物	茸	

7344	松の下にいくち多く生えて古き庭	30	秋	植物	茸	
7345	淋しさや木の子にまじる雁もどき	31	秋	植物	茸	
7346	茸盡きて蓮根残る哀れ也	31	秋	植物	茸	
7347	井戸端や初茸洗ふ二三人	31	秋	植物	茸	
7348	初茸やきのふの雨のしめり道	33	秋	植物	茸	